YAO TOKUSHUKAI GENERAL HOSPITAL

病院年報

2022年



医療法人徳洲会

八尾徳洲会総合病院

Yao Tokushukai General Hospital

目次 Contents

理念・基本方針・患者様の権利	1
ご挨拶	2
概要・沿革	3
教育認定施設の指定状況・機関特定・高度医療機器設備	4
許可施設基準	5
八尾徳洲会総合病院 組織図	6
八尾徳洲会総合病院 委員会構成図	7
患 者 統 計	8
1.外　来	
1）外来患者統計	10
2）科別・月別外来患者数	10
3）1日平均外来患者数	11
4）1日平均外来新患者数	11
2.入　院	
1）入院患者統計	12
2）科別・月別1日平均入院患者数	12
3）病棟別・月別1日平均入院患者数	12
3.救　急	
1）月別救急搬送件数	13
2）救急搬送人数 年齢別・性別分布	14
3）救急搬送件数分布	15
病 歴 統 計	16
1）科別退院患者数	18
2）死亡退院患者統計	19
3）疾病分類＜大分類＞科別	20
4）疾病分類＜中分類＞	21
診 療 部	24
内　　科	26
循環器内科（カテーテル部門）	33
消化器内科	34
呼吸器内科	35
腫 瘍 内 科	36
血管透析科	38
腎 臓 内 科	42
糖尿病・代謝内科	43
脳神経内科	45
膠原病リウマチ内科	46
小　児　科	47
放 射 線 科（診療部）	49
救　急　科	50
外　　科	53
整 形 外 科	55
脳神経外科	58
心臓血管外科・心臓血管センター	60
形成外科・美容外科	63
呼吸器外科	65
小 児 外 科	66
歯科・歯科口腔外科	69
泌 尿 器 科	71
眼　　科	72
麻　酔　科	74
肝臓センター	76
皮　膚　科	80
婦　人　科	81
耳鼻咽喉科	84
病理診断科	86
副 診 療 部	88
薬　剤　部	90
放 射 線 科	93
臨床検査科	95
リハビリテーション科	98
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）	
臨床心理科	104
臨床工学科	106
栄　養　科	116
治験センター	119
医療福祉相談室（MSW 医療ソーシャルワーカー）	121
病診連携室	125
健診センター	136
情報システム管理室	138
保　育　室	140
がん相談支援センター	143
医療安全管理部	146
臨床腫瘍センター	151
院内感染対策委員会（ICT）	153
看 護 部	158
4階東　5階西	160
5階東　6階西　6階東	161
7階西　7階東	162
8階西　8階東	163
ＩＣＵ　ＨＣＵ	164
外来・ＥＲ	165
手術室　透析室	166
退院調整チーム　入退院支援　保健指導	167
委 員 会	174
呼吸ケアチーム（RST）	176
褥瘡対策委員会	177
研修管理委員会	178
栄養サポートチーム（NST）	181
緩和ケアチーム	183
がん緩和支援委員会	185
関 連 施 設	188
八尾徳洲会介護センター	190
よろこび訪問看護介護センター	194
よろこび訪問看護ステーション	195
介護老人保健施設 八尾徳洲苑	198
特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷	205
学 術 業 績	210
学会発表	212
学術論文	216

Yao
Tokushukai
General Hospital

理　　念

1. 生命を安心して預けられる病院
2. 健康と生活を守る病院

基本方針

1.『年中無休・24 時間オープン』で救急医療を提供します。
2. 患者様からの贈り物は一切受け取りません。
3. 医療技術・診療態度の向上に絶えず努力します。

患者様の権利

当院は次の項目について患者様の権利を尊重した医療を提供しています。

1. いつでも安全で良質な医療を受ける事が出来ます。
2. 医療についての説明を受け、医療行為を選択する権利があります。
3. 継続して一貫した医療を受ける事が出来ます。
4. プライバシーが守られ、個人の尊厳が保たれています。
5. 医療の情報について常に提供を受け健康教育や講演を受ける事が出来ます。
6. 生活の質と環境に配慮した医療の提供を受ける事が出来ます。

ご　挨　拶

八尾徳洲会総合病院　院長　原田　博雅

いつも当院の診療に御支援いただき深く感謝申し上げます。

この度、2022年八尾徳洲会総合病院年報を発刊することができました。

2022年も、新型コロナウイルス感染症の対応に追われる年となり、本感染症を最優先事項として病院を運営せざるを得ない状態でした。新型コロナウイルス感染症拡大に対し、2020年、2021年より引き続き発熱外来を運用、COVID－19専用病棟も維持し、軽症中等症のみならず、人工呼吸やECMOを用いる必要のある重症者も積極的に対応し、保健所や他医療機関と連携しながら対応してきました。ただ、特に1、2、7、8月付近では、当院の受け入れ可能人数よりはるかに多くの患者様が八尾とその周辺地域で発生し、入院や一般の救急の患者様も断らざるを得ない状況が発生し、多大な影響を地域医療に対して与えることとなりました。そういった正にコロナ禍と言える状況においても、当院は考えられる限りの、でき得る限りのコロナ対策を実施し、通常診療が行えるよう日々努めて参りました。手術関連についても、コロナ対応のため陰圧の手術室を作り手術室8室を運用すると同時に､ハイブリッド手術室も稼働､ダヴィンチ（手術支援ロボット）も導入することで、パンデミックの中でも、より安全で正確な手術を行える環境を整え、新型コロナウイルス感染症の影響を極力排除するよう努めました。

以上のことから、2022年は、2020年、2021年で培った新型コロナウイルス感染症への対応の経験を活かして乗り越えた年でもあると言え、正にコロナとの戦いの年であったと言えます。

本紙が発行される時期は、新型コロナウイルス感染症の分類が2類相当から5類への引き下げが決定し、マスクの着用が個人の判断になる等、コロナ禍が収束に向かいつつある観測が出ている状況ではありますが、当院では引き続き病院という特性上患者様にはマスクの着用をお願いし、油断無くコロナ対策を行って診療を行って参ります。

今後医師の働き方改革の期限が迫る中、その対応にも力を注がなければなりません。本紙を閲覧いただきました皆様方のさらなるご協力をお願い申し上げます。

Yao Tokushukai General Hospital

概要

創　　立	1978 年 7 月 1 日
病 院 長	原田　博雅
職 員 数	1,022 名（2022.12.31 現在）
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、腫瘍内科、内分泌内科、脳神経内科、心療内科、精神科、リウマチ科、血管透析内科、腎臓内科、皮膚科、小児科、救急科、放射線科、外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、肝臓外科、乳腺外科、小児外科、形成外科、美容外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、歯科・歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、婦人科、リハビリテーション科、病理診断科
関連施設	介護老人保健施設　八尾徳洲苑 八尾徳洲苑介護センター よろこび訪問看護ステーション よろこび訪問看護介護センター 八尾徳洲会介護センター（居宅介護支援事業所） 特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷 八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷
1 日平均外来患者数	994.5名（2022年）
1 日平均入院患者数	367.2名（2022年）

沿革

1978年 7 月	開院　　許可病床数　250床
1979年 7 月	三基準取得　看護・給食・寝具
1980年 10 月	西館増築　許可病床数　350床
1986年 4 月	東館・西館改修　許可病床数　335床
1989年 9 月	新館増築　許可病床数　415床
1992年 9 月	基準看護　特Ⅰ類取得
1994年 7 月	基準看護　特Ⅱ類取得
9 月	総合病院認可　心臓血管外科開設
1995年 7 月	新看護2.5：1（A）　10：1看護補助の承認
9 月	デイケア開設
1996年 5 月	病院管理棟増築
11 月	よろこび訪問看護ステーション開設
1998年 2 月	日帰り手術センター開設
3 月	歯科・歯科口腔外科開設
4 月	ER（救急総合診療部）開設　　臨床研修指定病院指定
12 月	老人保健施設　八尾徳洲苑（100床）開設
2000年 4 月	よろこび訪問看護介護センター開設
	八尾徳洲会介護センター開設
2001年 4 月	病児保育（八尾市委託）
12 月	ICU施設取得（6床）
2002年 4 月	心臓疾患リハビリテーション施設開設
2003年 1 月	日本医療機能評価機構取得
3 月	睡眠障害センター開設
10 月	2：1看護取得
	電子カルテ導入
2004年 3 月	駐車場増設
4 月	医療安全管理部設置
6 月	亜急性病床開設（12床）
2005年 3 月	新病院用土地の取得
2006年 6 月	DPC導入
10 月	健診センター開設
11 月	治験センター開設
2007年 6 月	プライバシーマーク制度（JISQ.15001.1999）取得
	新病院建設開始
12 月	日本医療機能評価機構Ver.5受審
2008年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.5取得
2009年 1 月	高規格救急車導入
8 月	新病院移転
11 月	エンゼル保育室新病院内移転
2010年 3 月	HCU施設基準取得（4：1）
4 月	大阪府がん診療拠点病院認可
2011年 4 月	大動脈センター・美容外科開設
2011年 8 月	肝臓センター開設
9 月	一般7：1入院基本料取得
10 月	小児外科開設
2012年 11 月	放射線治療開始
	日本医療機能評価機構Ver.6受審
2013年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.6取得
9 月	卒後臨床研修評価機構認定
2014年 9 月	特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷開設
2015年 5 月	創傷ケアセンター開設
2017年 4 月	八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷開設
2018年 2 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver1.1受審
2020年 11 月	JCI認証取得
2022年 2 月	ダヴィンチ（手術支援ロボット）導入
4 月	DPC特定病院群指定

教育認定施設の指定状況

厚生労働省基幹型臨床研修病院
日本内科学会認定医制度教育病院
日本呼吸器学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本消化器病学会認定医制度研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本神経内科学会認定准教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本肝臓学会認定関連施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本外科学会専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設
日本小児外科学会教育関連施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本乳癌学会関連施設認定
日本乳癌オンコプラススティックサージャリー学会インプラント実施施設認定
日本がん治療認定医機構認定研修施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本成人心臓血管外科手術データベース機構認定施設
日本ステントグラフト実施基準管理員会 腹部・胸部ステントグラフト実施施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会　浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本手外科学会研修施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度研修プログラム研修施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本形成外科学会認定施設
日本眼科学会専門医制度認定研修施設
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関（画像診断・IVR・核医学）
日本インターベンショナルラジオロギー学会専門医修練認定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
日本病理学会研修認定施設
日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
日本臨床栄養代謝学会認定教育施設
日本高血圧学会研修施設Ⅰ
日本臨床細胞学会教育研修施設
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士実地修練認定教育施設
日本医療薬学会教育研修施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設

機関特定

保険医療機関
救急告示病院
結核指定医療機関
被爆者一般疾病医療機関
母体保護法指定医療機関
生活保護法指定医療機関
労災保険指定医療機関
公害医療機関
指定自立支援医療機関
（更正医療、育保医療、精神通院医療）
身体障害者福祉法指定医（肢体不自由、視覚障害、じん臓機能障害、肝臓機能障害、心臓機能障害、呼吸器機能障害、膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害）
音声・言語機能障害、そしゃく機能障害
大阪府肝炎専門医療機関
大阪府がん診療拠点病院

高度医療機器設備

MRI（磁気共鳴画像装置）
64列CT
320列CT
DSA（デジタルサブトラクション血管撮影装置）
CAG（心血管撮影装置）
RI（核医学診断装置）
ESWL（体外衝撃波結石破砕装置）
各種内視鏡機器装置
マイクロサージャリー（顕微鏡下手術）
放射線治療装置（リニアック）
医療用ナビゲーションシステム
光干渉式眼軸長測定装置
光干渉断層計（OCT）
ハイブリッド手術室対応多軸透視・撮影装置
ダヴィンチ（手術支援ロボット）
マゾールX（脊椎手術支援ロボット）

許可施設基準

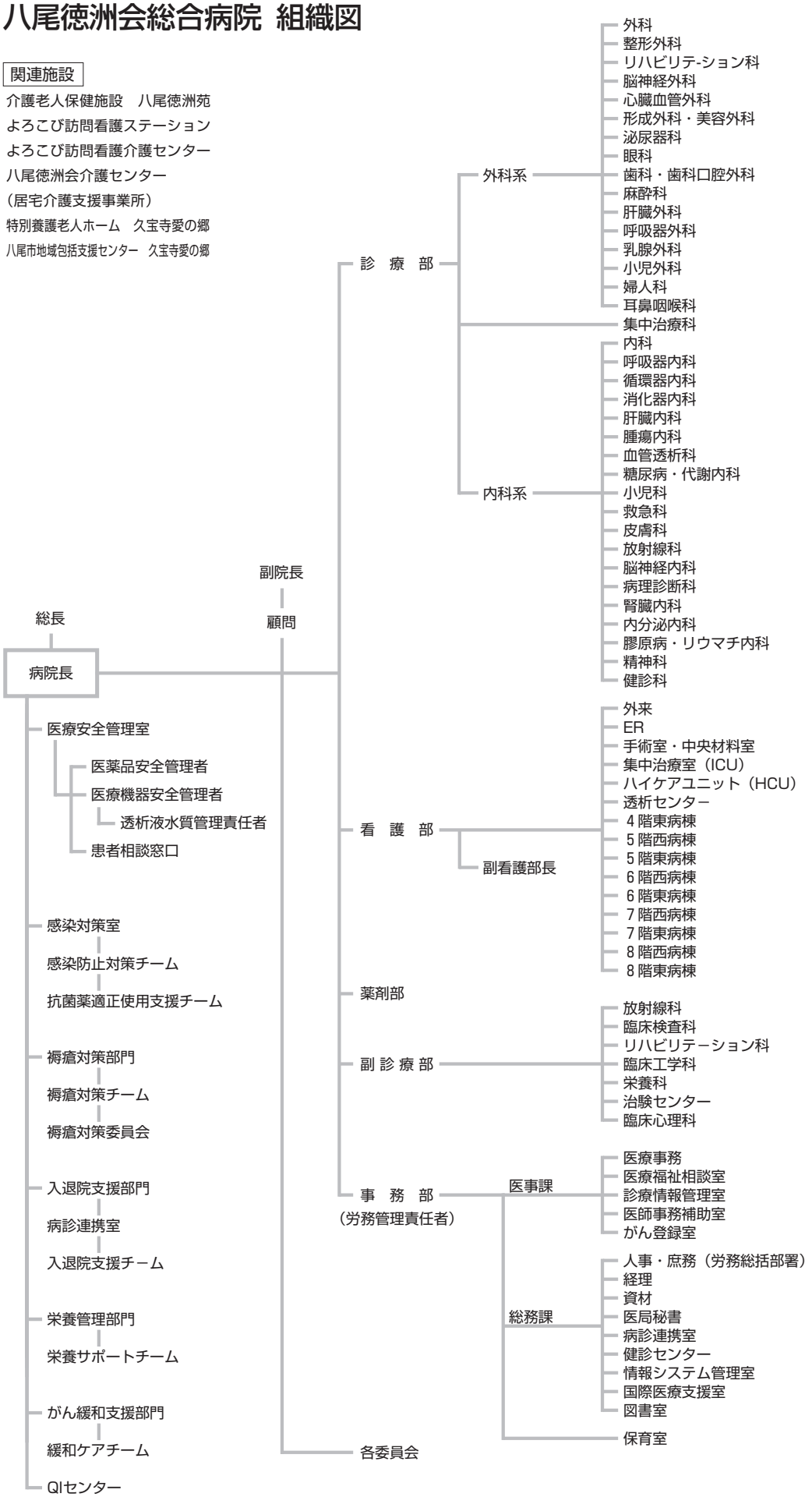
入院時食事療養/生活療養(I)
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算
一般病棟入院基本料(7対1)
臨床研修病院入院診療加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算(15対1)
急性期看護補助体制加算
療養環境加算
重傷者等療養環境特別加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
感染防止対策加算1
感染防止対策地域連携加算
入退院支援加算
救急搬送患者地域連携紹介加算
救急搬送患者地域連携受入加算
呼吸ケアチーム加算
病棟薬剤業務実施加算
データ提出加算2
特定集中治療室管理料1
ハイケアユニット入院医療管理料1
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ・ロ・ハ
糖尿病透析予防指導管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料
救急搬送看護体制加算1
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
地域連携診療計画管理料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
歯科治療総合医療管理料
在宅患者訪問看護・指導料3
同一建物居住者訪問看護・指導料3
検体検査管理加算(Ⅳ)
植込型心電図検査
時間内歩行試験
ヘッドアップティルト試験
神経学的検査
コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷検査
センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)
画像診断管理加算1
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
悪性腫瘍病理組織標本加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料(I)
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
運動器リハビリテーション料(I)
呼吸器リハビリテーション料(I)
がん患者リハビリテーション料
認知療法・認知行動療法
歯科口腔リハビリテーション料2
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
透析液水質確保加算2
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
経皮的冠動脈ステント留置術
心臓ペースメーカー指導管理料及び遠隔モニタリング加算
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
経皮的大動脈遮断術
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
ダメージコントロール手術
腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術
手術の休日加算1及び深夜加算1
輸血管理料I
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
麻酔管理料(I)
放射線治療専任加算
高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算
クラウン・ブリッジ維持管理料
後発医薬品使用体制加算1
精神疾患診療体制加算
認知症ケア加算2
地域医療体制確保加算
せん妄ハイリスク患者ケア加算
病理診断管理加算2/口腔病理診断管理加算2
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
在宅療養後方支援病院
在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
後縦靱帯骨化症手術 (前方進入によるもの)
人工腎臓/導入期加算1
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
連携充実加算
外来放射線照射診療料
歯根端切除術の注3
胸腔鏡下弁形成術/胸腔鏡下弁置換術
急性期充実体制加算
急性期看護補助体制加算
看護職員処遇改善評価料48
外来腫瘍化学療法診療料1
腹腔鏡下直腸切除・切除術(切除術、低位前方切除及び切断術に限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
周術期栄養管理実施加算
周術期薬剤管理加算
内視鏡的小腸ポリープ切除術
体外式膜型人工肺管理料
救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
顎関節人工関節全置換術 (歯科)
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
膀胱頚部形成術(膀胱頚部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
緑内障手術 緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
緑内障手術 濾過胞再建術 (needle法)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
生体腎移植術
下肢創傷処置管理料
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡的手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡的手術用支援機器を用いる場合)
緩和ケア診療加算

2023年1月1日 現在

八尾徳洲会総合病院 組織図

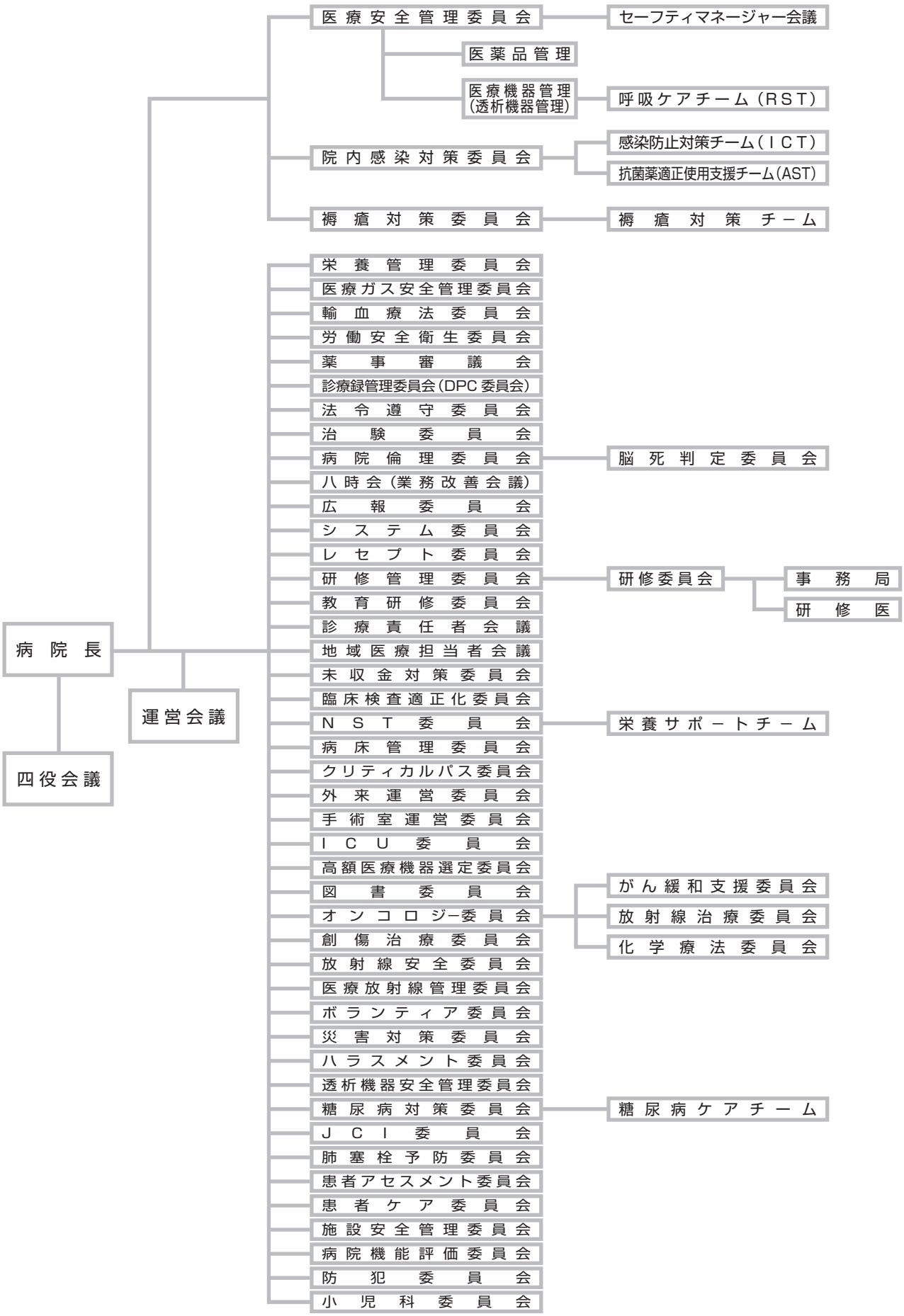
関連施設

介護老人保健施設　八尾徳洲苑
よろこび訪問看護ステーション
よろこび訪問看護介護センター
八尾徳洲会介護センター
（居宅介護支援事業所）
特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷
八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷



八尾徳洲会総合病院 委員会構成図

2023年1月1日 現在



患　者　統　計

―― 2022年 ――

1．外　来

1）外来患者統計　10
2）科別・月別外来患者数　10
3）1 日平均外来患者数　11
4）1 日平均外来新患者数　11

2．入　院

1）入院患者統計　12
2）科別・月別 1 日平均入院患者数　12
3）病棟別・月別 1 日平均入院患者数　12

3．救　急

1）月別救急搬送件数　13
2）救急搬送人数　年齢別・性別分布　14
3）救急搬送件数分布　15

1.外 来

1）外来患者統計

①1日平均患者数　②1ヶ月総患者数　③1日平均新患者数

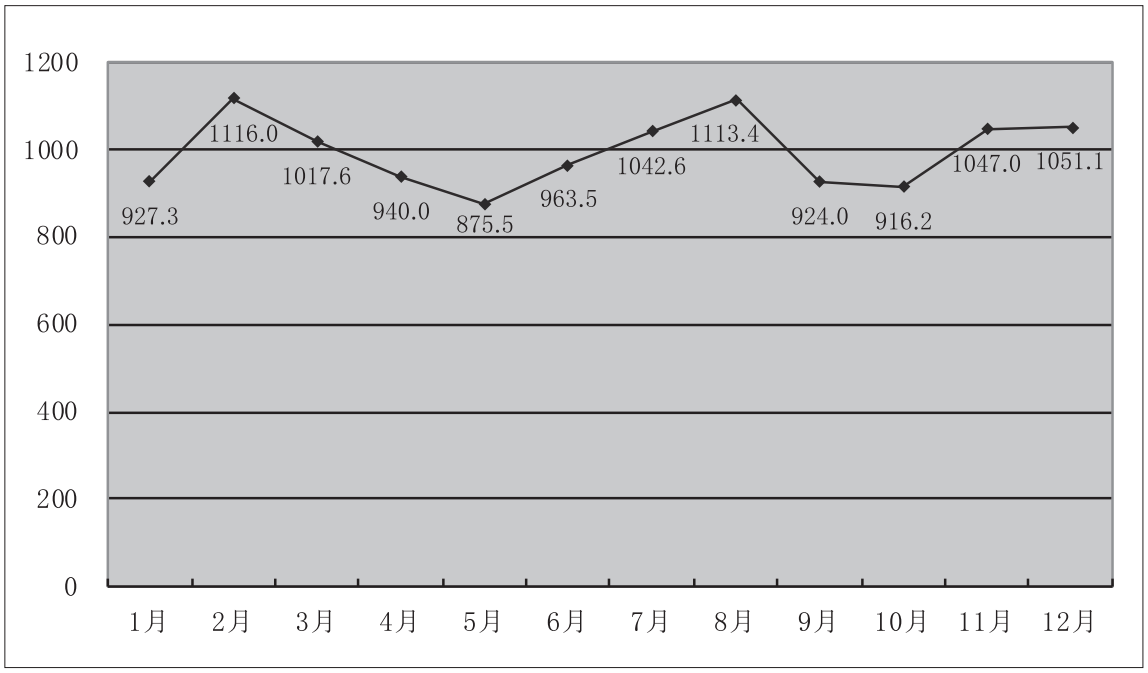
外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
①	927	1,116	1,018	940	876	964	1,043	1,113	924	916	1,047	1,051	11,934.2	994.5
②	28,807	31,290	31,586	28,263	27,206	28,984	32,403	34,597	27,780	28,464	31,472	32,656	363,508	30,292
③	59	76	43	47	44	36	62	69	38	34	34	42	583.8	48.7

2）科別・月別外来患者数

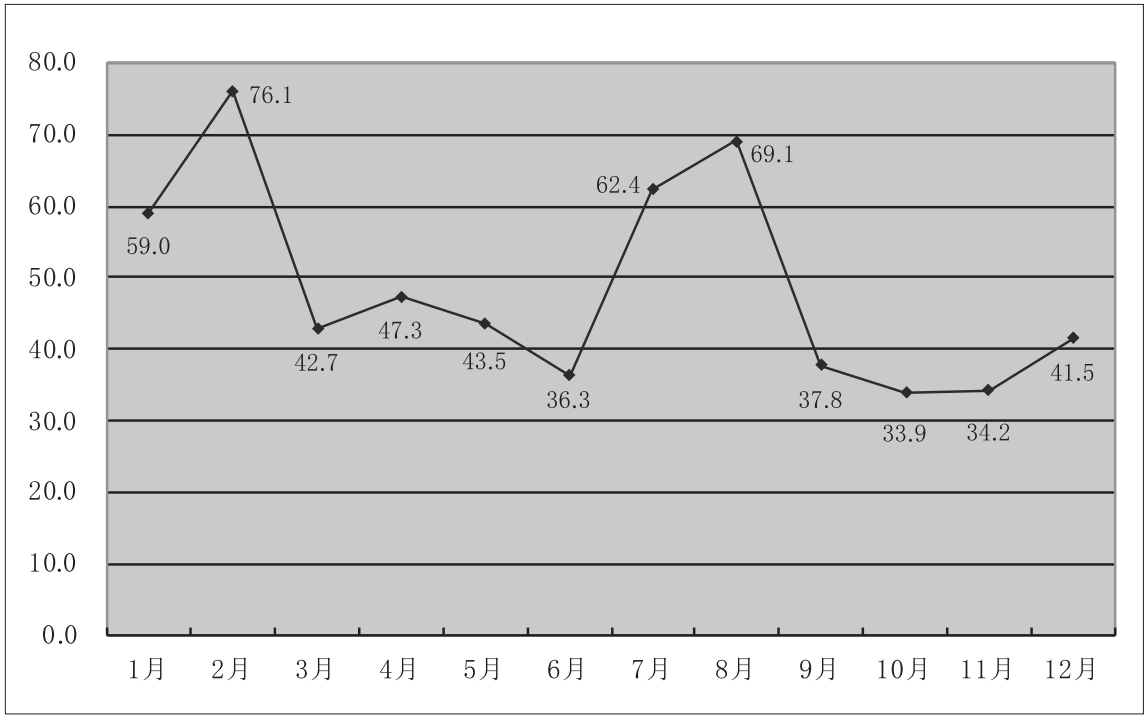
	内科	循環器科	外科	呼吸器外科	乳腺外科	小児外科	肝臓外科	肝臓内科	整形外科	心臓外科	眼科	脳神経外科	泌尿器科	形成外科	美容外科	放射線治療部	リハビリ外来
1月	10,065	1,498	1,350	181	101	75	612	1	2,684	342	964	1,037	1,311	533	0	275	81
2月	10,329	1,618	1,220	173	75	49	554	4	2,669	337	931	1,008	1,230	489	0	235	81
3月	9,052	1,764	1,399	205	83	91	653	4	3,017	422	1,108	1,202	1,510	611	0	270	95
4月	8,528	1,706	1,477	195	93	75	712	0	2,782	410	1,260	1,151	1,404	570	0	262	101
5月	8,267	1,611	1,407	234	92	71	681	1	2,778	409	1,110	1,098	1,351	561	1	273	105
6月	8,411	1,736	1,485	248	119	69	671	1	3,139	448	1,356	1,229	1,453	601	1	383	109
7月	10,874	1,513	1,324	214	122	80	668	2	3,086	416	1,265	1,049	1,383	571	1	253	80
8月	11,902	1,745	1,324	210	120	115	649	1	3,108	434	1,323	1,140	1,363	543	1	210	98
9月	8,943	1,428	1,337	222	111	84	653	0	2,752	422	1,310	1,094	1,448	506	1	272	114
10月	8,328	1,716	1,335	214	120	67	696	0	2,958	427	1,260	1,112	1,390	546	0	344	109
11月	8,962	1,552	1,430	221	129	68	650	2	3,034	412	1,264	1,118	1,336	589	1	347	95
12月	9,909	1,840	1,415	227	150	84	756	1	3,309	469	1,398	1,104	1,504	505	1	256	119
合計	113,570	19,727	16,503	2,544	1,315	928	7,955	17	35,316	4,948	14,549	13,342	16,683	6,625	7	3,380	1,187
平均	9,464.2	1,643.9	1,375.3	212.0	109.6	77.3	662.9	1.4	2,943.0	412.3	1,212.4	1,111.8	1,390.3	552.1	0.6	281.7	98.9

	人工透析	歯科口腔外科	皮膚科	小児科	婦人科	耳鼻咽喉科	検診	人間ドック	膠原病	訪問看護	創傷治療センター	ストーマ外来	腫瘍内科	心療内科	ｺﾛﾅﾜｸﾁﾝ患者数	合計
1月	931	1,046	412	799	293	303	401	1,177	288	62	128	3	321	0	1,533	28,807
2月	845	878	355	866	337	309	417	1,448	259	41	160	1	297	0	4,075	31,290
3月	954	1,195	449	816	410	376	431	1,177	331	43	147	15	346	0	3,406	31,582
4月	889	945	445	777	347	354	383	810	313	62	149	10	323	0	1,730	28,263
5月	902	1,014	429	818	394	357	411	862	276	68	165	10	315	0	1,135	27,206
6月	909	1,133	465	795	449	429	498	939	325	81	151	19	319	1	1,012	28,984
7月	890	1,017	388	1,158	373	350	473	1,196	362	84	136	8	308	0	2,759	32,403
8月	892	1,024	370	1,016	446	365	1,302	668	317	83	162	14	299	0	3,353	34,597
9月	935	999	396	879	390	338	877	677	338	62	144	12	323	0	713	27,780
10月	902	1,105	398	993	406	351	653	738	338	62	156	11	320	0	1,409	28,464
11月	899	1,114	379	1,036	390	299	1,700	679	342	63	153	24	313	0	2,871	31,472
12月	971	1,097	390	963	383	365	509	1,110	341	73	155	22	327	0	2,903	32,656
合計	10,919	12,567	4,876	10,916	4,618	4,196	8,055	11,481	3,830	784	1,806	149	3,811	1	26,899	337,819
平均	909.9	1,047.3	406.3	909.7	384.8	349.7	671.3	956.8	319.2	65.3	150.5	12.4	317.6	0.1	2,241.6	30,292.0

3）1日平均外来患者数



4）1日平均外来新患者数



2. 入　院

1）入院患者統計

①1日平均患者数　②1カ月総患者数　③平均在院日数　④病床稼動率

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①	375.2	378.5	381.5	369.8	363.2	339.6	364.8	364.6	358.5	358.2	371.2	380.8	4,406.0	367.2
②	11,631	10,599	11,827	11,094	11,260	10,189	11,308	11,301	10,754	11,105	11,136	11,806	134,010	11,168
③	12.80	13.37	12.77	11.83	12.25	10.69	11.82	12.0	12.50	11.59	12.61	11.79	146.02	12.17
④	97.1	98.0	99.1	96.9	94.5	89.6	95.3	95.0	93.4	93.8	96.4	103.1	1,152.3	96.0

2）科別・月別1日平均入院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
内科	136.10	134.50	131.55	119.27	116.52	113.87	135.61	151.19	154.57	134.55	129.67	142.81	1,600.21	133.35
循環器内科	36.10	36.86	30.00	26.60	28.23	30.03	30.42	21.06	25.73	25.97	28.77	32.03	351.80	29.32
外科	33.84	39.86	41.74	43.60	40.71	39.33	44.16	42.68	41.47	47.06	44.50	45.39	504.34	42.03
肝臓センター	15.58	16.68	20.45	17.97	16.61	17.00	14.94	19.32	9.37	16.10	20.87	22.39	207.28	17.27
整形外科	50.58	49.54	47.90	49.47	55.29	53.73	44.06	42.00	45.57	49.52	52.33	49.29	589.28	49.11
脳神経外科	38.48	45.25	46.68	46.03	46.10	32.20	37.06	34.00	30.17	30.06	35.87	30.48	452.38	37.70
泌尿器科	5.61	5.86	7.87	8.93	8.90	6.63	7.10	7.68	7.47	7.81	9.57	9.90	93.33	7.78
婦人科	2.29	1.39	2.32	3.10	3.29	2.30	3.00	2.06	2.03	2.94	2.37	3.52	30.61	2.55
小児科	0.00	0.39	0.00	0.13	0.23	0.57	0.74	0.68	0.80	0.13	0.17	0.39	4.23	0.35
眼科	2.23	2.64	1.97	6.07	6.45	9.33	6.35	6.84	6.30	5.19	5.23	6.42	65.02	5.42
形成外科	15.65	17.86	18.81	19.70	14.00	11.10	15.19	12.16	9.10	9.29	7.87	7.55	158.28	13.19
心臓外科	22.06	16.11	19.81	21.03	15.81	12.70	13.81	12.39	13.10	13.45	20.67	19.52	200.46	16.71
耳鼻咽喉科	0.42	0.61	0.65	0.57	0.71	1.27	0.26	0.35	0.47	0.77	0.70	0.29	7.07	0.59
皮膚科	0.35	0.57	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.92	0.08
口腔外科	3.65	3.29	4.74	3.90	5.35	4.07	5.00	3.45	3.43	4.77	3.30	3.94	48.89	4.07
腎臓内科	12.26	7.14	7.03	3.43	5.03	5.50	7.06	8.68	8.90	10.61	9.33	6.94	91.91	7.66
合計	375.2	378.5	381.5	369.8	363.2	339.6	364.8	364.6	358.5	358.2	371.2	380.8	4,406.0	367.2

3）病棟別・月別1日平均入院患者数

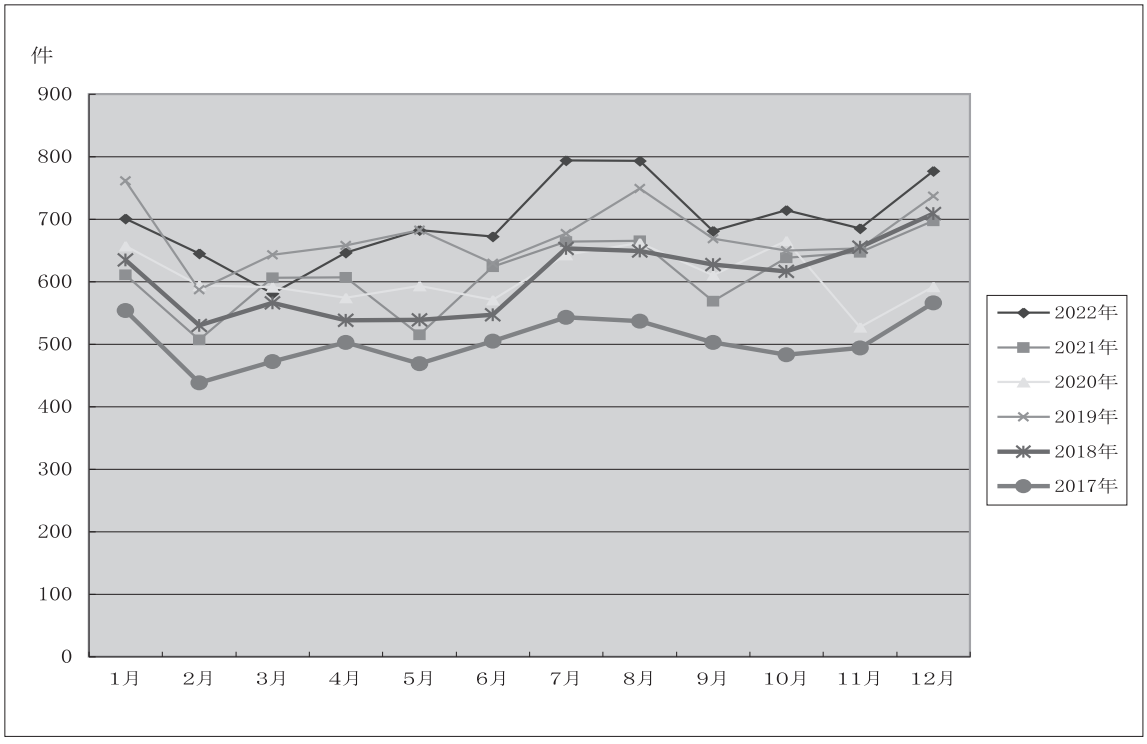
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
ICU	5.90	6.46	5.84	4.87	5.39	4.83	4.32	4.16	3.40	4.10	4.87	5.23	59.37	4.95
HCU	14.39	13.82	14.77	14.57	15.58	14.40	15.48	14.13	11.77	12.61	15.70	16.45	173.67	14.47
4東	43.06	44.32	44.23	43.33	43.23	38.83	39.68	41.03	41.83	40.10	42.43	43.68	505.75	42.15
5東	43.32	43.21	43.19	41.87	40.65	38.73	41.32	40.39	39.53	38.52	42.93	43.71	497.37	41.45
5西	39.10	38.89	39.00	38.50	38.45	18.80	38.35	37.77	38.20	36.42	38.63	39.19	441.30	36.78
6東	41.03	40.00	43.16	42.73	40.45	37.83	41.48	40.77	40.63	40.42	42.23	42.32	493.05	41.09
6西	44.81	44.82	44.61	44.90	44.65	44.20	42.58	39.65	42.87	44.32	42.20	44.84	524.45	43.70
7東	42.81	42.46	44.48	42.47	41.23	40.17	41.68	42.87	40.10	40.55	42.23	41.97	503.02	41.92
7西	44.42	43.68	44.32	43.17	41.16	41.83	38.48	43.42	43.07	41.94	43.13	43.58	512.20	42.68
8東	37.39	37.00	38.19	38.03	37.45	38.33	38.03	38.45	38.47	36.68	35.47	37.71	451.20	37.60
8西	18.97	23.86	19.71	15.37	15.00	21.67	23.35	21.90	18.60	22.58	21.37	22.16	244.54	20.38
総計	375.2	378.5	381.5	369.8	363.2	339.6	364.8	364.6	358.5	358.2	371.2	380.8	4,406.0	367.2

3. 救　急

1）月別救急搬送件数

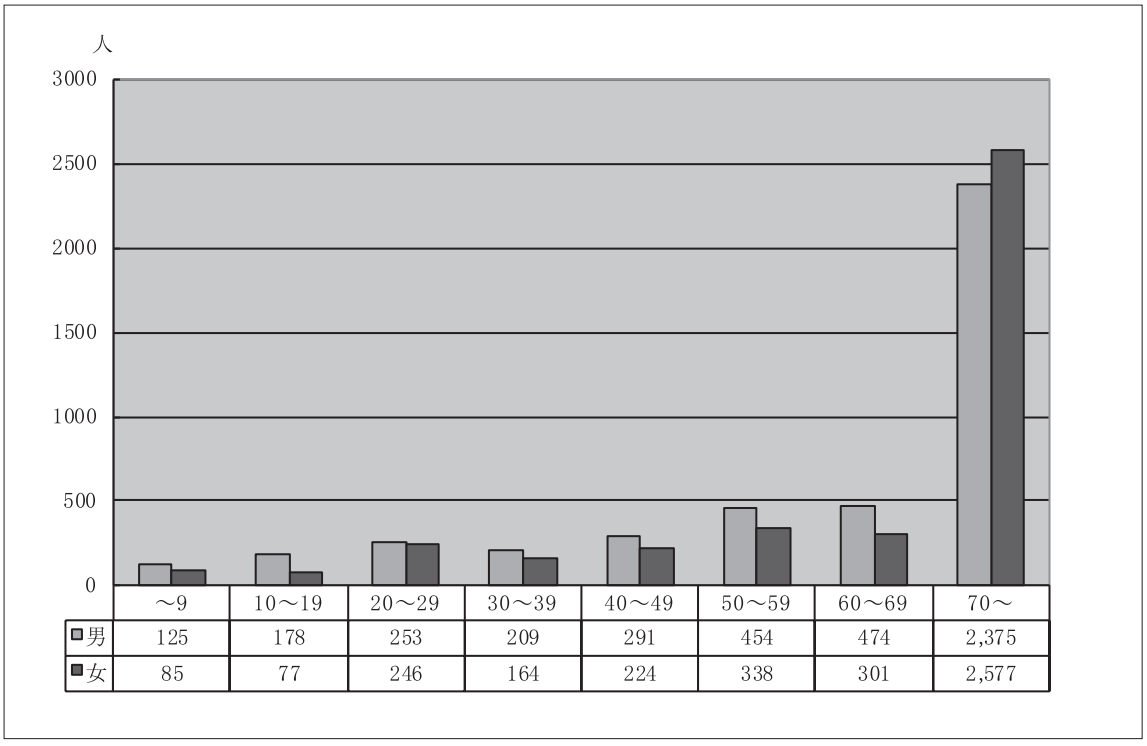
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2022年	701	645	581	646	682	672	794	793	681	714	685	777	8,371	697.6
2021年	611	507	606	607	515	624	664	665	569	638	647	697	7,350	612.5
2020年	657	594	591	574	593	571	643	662	610	665	527	592	7,279	606.6
2019年	761	587	643	658	682	629	677	749	669	650	653	737	8,095	674.6
2018年	635	530	566	538	539	547	653	649	627	616	655	709	7,264	605.3
2017年	554	438	472	503	469	505	543	537	503	483	494	566	6,067	505.6

《救急搬送件数》



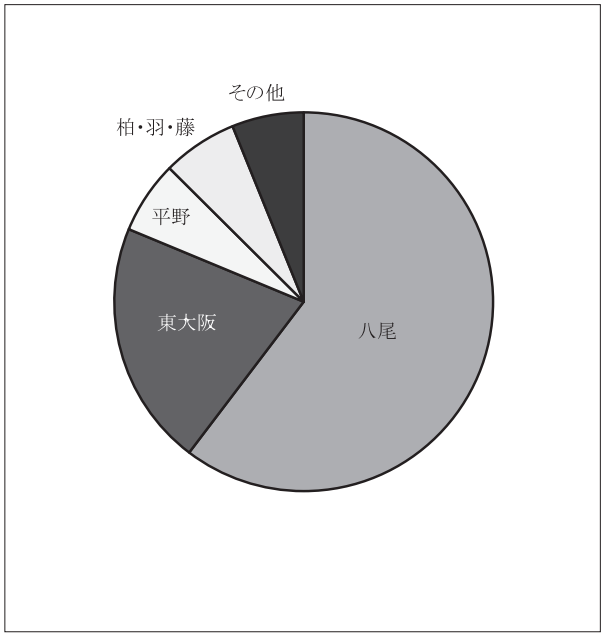
2）救急搬送人数　年齢別・性別分布

年齢	性別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	総合計
0～9歳	男	8	11	6	15	12	9	10	10	11	17	9	7	125	210
	女	5	5	3	6	7	10	6	12	7	9	7	8	85	
10～19歳	男	9	9	16	16	11	17	25	14	15	14	12	20	178	235
	女	4	6	3	4	8	12	18	7	1	4	5	5	77	
20～29歳	男	20	13	19	20	21	15	23	41	14	19	27	21	253	499
	女	18	14	15	18	20	17	37	37	15	17	19	19	246	
30～39歳	男	18	15	11	21	17	16	32	19	17	9	16	18	209	373
	女	4	10	8	15	16	14	21	21	13	9	18	15	164	
40～49歳	男	26	7	23	26	27	21	25	33	26	29	27	21	291	515
	女	16	15	16	19	21	20	23	23	15	20	16	20	224	
50～59歳	男	44	29	28	45	41	45	40	36	31	36	31	48	454	792
	女	26	28	26	20	21	26	34	27	36	28	27	39	338	
60～69歳	男	38	47	29	33	42	48	41	37	44	32	38	45	474	775
	女	18	38	29	21	25	20	25	21	34	22	21	27	301	
70歳以上	男	205	206	190	167	170	172	230	221	198	204	201	211	2,375	4,952
	女	242	192	159	200	223	210	204	234	204	245	211	253	2,577	
合計	男	368	337	322	343	341	343	426	411	356	360	361	391	4,359	8,371
	女	333	308	259	303	341	329	368	382	325	354	324	386	4,012	



3）救急搬送件数分布

	八尾市	東大阪市	大阪市		柏原･羽曳野･藤井寺	その他	合計
			平野	その他			
1月	431	138	34	27	53	18	701
2月	379	144	30	38	39	15	645
3月	344	121	37	20	43	16	581
4月	415	131	35	19	36	10	646
5月	441	126	48	22	30	15	682
6月	428	131	50	17	38	8	672
7月	495	154	58	32	43	12	794
8月	458	171	49	47	43	25	793
9月	392	153	47	25	49	15	681
10月	462	126	41	17	53	15	714
11月	393	170	46	23	43	10	685
12月	413	186	44	43	67	24	777
合計	5,051	1,751	519	330	537	183	8,371



	件数	%
八尾	5,051	60.3%
東大阪	1751	20.9%
大阪市（平野）	519	6.2%
柏原･羽曳野･藤井寺	537	6.4%
その他	513	6.1%
合計	8,371	100.0%

単位：件

病　歴　統　計

―― 2022年 ――

1．科別退院患者数　18

2．死亡退院患者統計　19

3．疾病分類＜大分類＞科別　20

4．疾病分類＜中分類＞　21

1. 科別退院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	197	153	169	185	168	181	179	183	189	205	159	225	2,193	182.8
男	105	80	82	106	96	91	100	100	94	110	86	122	1,172	97.7
女	92	73	87	79	72	90	79	83	95	95	73	103	1,021	85.1
循環器科	122	123	148	130	125	146	128	104	101	106	104	117	1,454	121.2
男	88	90	100	94	91	103	98	77	71	74	72	81	1,039	86.6
女	34	33	48	36	34	43	30	27	30	32	32	36	415	34.6
外　科	78	72	93	99	96	93	88	95	93	112	106	103	1,128	94.0
男	38	42	53	57	58	51	53	63	59	64	58	60	656	54.7
女	40	30	40	42	38	42	35	32	34	48	48	43	472	39.3
心臓外科	30	26	32	43	27	25	26	23	17	22	27	28	326	27.2
男	22	19	21	33	22	13	18	14	7	15	17	20	221	18.4
女	8	7	11	10	5	12	8	9	10	7	10	8	105	8.8
脳神経外科	70	67	80	70	96	83	60	75	61	59	66	62	849	70.8
男	46	34	46	48	60	45	38	37	36	41	37	40	508	42.3
女	24	33	34	22	36	38	22	38	25	18	29	22	341	28.4
整形外科	90	76	86	90	85	85	91	67	74	88	82	86	1,000	83.3
男	27	28	38	41	31	40	44	25	29	45	33	29	410	34.2
女	63	48	48	49	54	45	47	42	45	43	49	57	590	49.2
泌尿器科	38	38	47	41	47	43	44	51	40	40	38	57	524	43.7
男	33	29	36	35	38	35	31	44	33	33	35	46	428	35.7
女	5	9	11	6	9	8	13	7	7	7	3	11	96	8.0
形成外科	15	16	25	20	16	18	17	24	12	12	6	21	202	16.8
男	10	11	14	12	9	12	9	11	9	6	1	12	116	9.7
女	5	5	11	8	7	6	8	13	3	6	5	9	86	7.2
小児科	0	3	0	0	3	1	8	5	7	2	2	1	32	2.7
男	0	0	0	0	0	0	2	3	2	1	1	0	9	0.8
女	0	3	0	0	3	1	6	2	5	1	1	1	23	1.9
眼　科	31	38	32	67	62	96	86	73	69	66	73	96	789	65.8
男	9	21	11	31	32	41	41	38	37	25	33	38	357	29.8
女	22	17	21	36	30	55	45	35	32	41	40	58	432	36.0
耳鼻咽喉科	3	2	4	5	4	4	1	2	3	4	3	2	37	3.1
男	2	0	2	4	3	3	1	1	1	4	2	2	25	2.1
女	1	2	2	1	1	1	0	1	2	0	1	0	12	1.0
乳腺外科	1	1	1	2	0	0	3	4	3	2	1	4	22	1.8
男	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.1
女	1	1	1	2	0	0	3	3	3	2	1	4	21	1.8
腎臓内科	18	17	11	10	14	9	15	12	11	14	17	17	165	13.8
男	13	12	7	4	7	5	12	10	6	9	9	9	103	8.6
女	5	5	4	6	7	4	3	2	5	5	8	8	62	5.2
口腔外科	38	24	30	32	33	32	37	29	23	38	31	31	378	31.5
男	18	11	18	11	14	9	16	15	14	19	15	9	169	14.1
女	20	13	12	21	19	23	21	14	9	19	16	22	209	17.4
肝臓外科	38	37	48	59	44	51	45	39	46	51	41	54	553	46.1
男	20	23	28	37	22	31	26	19	29	29	27	36	327	27.3
女	18	14	20	22	22	20	19	20	17	22	14	18	226	18.8
肝臓内科	3	1	1	3	2	3	3	3	1	1	4	2	27	2.3
男	3	0	1	2	2	2	3	2	1	0	3	1	20	1.7
女	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	7	0.6
小児外科	3	2	7	8	6	3	6	16	8	6	9	7	81	6.8
男	1	2	4	5	6	1	3	11	6	3	7	5	54	4.5
女	2	0	3	3	0	2	3	5	2	3	2	2	27	2.3
呼吸器外科	18	18	12	25	11	18	25	14	18	26	20	23	228	19.0
男	12	11	8	19	7	14	19	11	14	17	14	17	163	13.6
女	6	7	4	6	4	4	6	3	4	9	6	6	65	5.4
呼吸器内科	31	25	28	23	10	9	26	25	34	31	25	35	302	25.2
男	20	16	19	11	6	7	12	12	22	20	11	16	172	14.3
女	11	9	9	12	4	2	14	13	12	11	14	19	130	10.8
腫瘍内科	16	23	27	29	16	23	30	30	29	33	22	26	304	25.3
男	11	18	20	19	11	17	19	18	22	25	16	15	211	17.6
女	5	5	7	10	5	6	11	12	7	8	6	11	93	7.8
集中治療科	13	17	28	11	11	19	17	31	22	18	19	25	231	19.3
男	8	13	18	7	10	15	11	21	12	13	12	15	155	12.9
女	5	4	10	4	1	4	6	10	10	5	7	10	76	6.3
婦人科	11	13	16	20	18	21	17	21	14	24	13	12	200	16.7
合　計	864	792	925	972	894	963	952	926	875	960	868	1,034	11,025	918.8
男	486	460	526	576	525	535	556	533	504	553	489	573	6,316	526.3
女	378	332	399	396	369	428	396	393	371	407	379	461	4,709	392.4

2. 死亡退院患者統計

《科別》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	48	35	29	25	23	24	28	23	25	33	12	30	335	27.9
男	31	23	18	14	13	12	19	11	13	22	7	14	197	16.4
女	17	12	11	11	10	12	9	12	12	11	5	16	138	11.5
集中治療科	3	5	9	1	2	7	2	6	0	3	1	4	43	3.6
男	2	5	5	0	1	5	2	5	0	2	0	3	30	2.5
女	1	0	4	1	1	2	0	1	0	1	1	1	13	1.1
外　科	5	4	5	3	4	3	7	4	3	6	10	3	57	4.8
男	2	1	3	1	3	2	4	2	2	6	5	1	32	2.7
女	3	3	2	2	1	1	3	2	1	0	5	2	25	2.1
心臓外科	2	2	3	1	3	2	2	2	1	1	1	2	22	1.8
男	2	0	1	1	2	0	2	2	0	1	1	1	13	1.1
女	0	2	2	0	1	2	0	0	1	0	0	1	9	0.8
脳神経外科	0	1	2	3	3	3	4	6	4	7	3	0	36	3.0
男	0	0	0	1	2	3	1	5	1	4	2	0	19	1.6
女	0	1	2	2	1	0	3	1	3	3	1	0	17	1.4
整形外科	1	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	6	0.5
男	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0.3
女	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0.3
泌尿器科	1	0	2	1	0	1	2	0	0	0	1	0	8	0.7
男	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	5	0.4
女	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0.3
形成外科	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3	0.3
男	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3	0.3
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
肝臓外科	4	2	4	4	2	4	7	3	3	5	6	4	48	4.0
男	3	1	3	4	1	3	5	1	3	3	6	3	36	3.0
女	1	1	1	0	1	1	2	2	0	2	0	1	12	1.0
腎臓内科	4	2	1	2	1	1	1	1	1	2	0	1	17	1.4
男	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	13	1.1
女	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	4	0.3
合　計	68	52	56	40	39	45	53	47	40	56	34	45	575	47.9
男	46	31	33	23	24	27	34	29	21	39	22	22	351	29.3
女	22	21	23	17	15	18	19	18	19	17	12	23	224	18.7

《疾病別》

悪性腫瘍	肺	36	直腸	6	前立腺	3		
	膵臓	15	悪性リンパ腫	5	膀胱	3		
	大腸	13	胆管	5	悪性中皮腫	2		
	肝臓	12	転移癌	5	原発不明	2		
	胃	9	乳	5	その他	17	合　計	138
呼吸器系	誤嚥性肺炎	48	COVID-19	16	膿胸	2		
	急性肺炎	33	細菌性肺炎	5	肺水腫	2		
	間質性肺炎	25	慢性閉塞性肺疾患	4	肺膿瘍	2		
	呼吸不全	22	気管支肺炎	2	難治性気胸	1	合　計	162
循環器系	心不全	46	くも膜下出血	5	胸部大動脈瘤破裂	2		
	脳梗塞	15	心停止	3	腹部大動脈瘤破裂	2		
	脳出血	13	急性大動脈解離	2	完全房室ブロック	1		
	急性心筋梗塞	8	大動脈弁狭窄症	2	その他	4	合　計	103
消化器系	肝硬変	15	腸穿孔	3	イレウス	1		
	腸壊死	6	胃穿孔	2	肝不全	1		
	急性腹膜炎	3	虚血性腸炎	2	その他	10	合　計	43
その他の疾患	敗血症	43	多臓器不全	6	播種性血管内凝固	2		
	腎不全	25	急性循環不全	4	リンパ管腫症	1		
	老衰	9	急性硬膜下血腫	3	壊死性腸炎	1		
	菌血症	7	急性腎盂腎炎	2	窒息	1		
	低酸素性脳症	7	出血性ショック	2	その他	16	合　計	129

3. 疾病分類＜大分類＞科別

疾病分類＼科別	内科	循環器科	外科	心臓外科	脳神経外科	整形外科	泌尿器科	形成外科	小児科	眼科	耳鼻咽喉科	集中治療科	腎臓内科	口腔外科	肝臓外科	肝臓内科	小児外科	呼吸器外科	呼吸器内科	腫瘍内科	婦人科	合計
感染症及び寄生虫症（A00～B99）	111	1	19	1	0	0	0	12	3	0	0	20	2	2	12	4	1	2	2	4	1	197
新生物<腫瘍>（C00～D48）	238	1	351	2	24	6	291	35	0	3	0	0	0	45	222	7	1	97	3	232	161	1,719
血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害（D50～D89）	39	0	2	4	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0	0	0	5	0	56
内分泌・栄養及び代謝疾患（E00～E90）	149	2	10	0	1	0	0	13	5	6	0	8	1	0	1	0	0	0	1	1	0	198
精神及び行動の障害（F00～F99）	10	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
神経系の疾患（G00～G99）	53	0	0	0	58	10	0	3	0	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	131
眼及び付属器の疾患（H00～H59）	0	0	0	0	0	0	0	4	0	766	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	770
耳及び乳様突起の疾患（H60～H95）	12	0	1	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	23
循環器系の疾患（I00～I99）	293	1,433	6	299	573	0	0	18	2	0	0	20	8	0	10	2	0	2	7	3	0	2,676
呼吸器系の疾患（J00～J99）	484	3	13	5	0	1	0	0	13	0	9	75	5	1	2	0	1	97	91	34	0	834
消化器系の疾患（K00～K93）	331	0	690	1	0	2	0	0	1	0	0	6	1	291	276	10	57	0	2	6	0	1,674
皮膚及び皮下組織の疾患（L00～L99）	36	0	3	0	0	1	0	52	0	0	1	1	0	5	2	0	0	0	0	0	0	101
筋骨格系及び結合組織の疾患（M00～M99）	33	0	1	0	39	248	0	26	1	0	0	5	1	0	2	0	0	1	1	1	0	359
腎尿路生殖器系の疾患（N00～N99）	222	2	13	7	1	1	221	10	2	0	3	13	141	0	5	1	13	0	1	6	37	699
妊娠、分娩及び産じょく<褥>（O00～O99）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
先天性奇形・変形及び染色体異常（Q00～Q99）	0	0	4	0	21	3	0	4	0	0	0	0	4	4	2	0	8	0	0	0	1	51
症状・徴候及び異常臨床所見・異常臨床所見で他に分類されないもの（R00～R99）	18	0	7	0	9	0	5	1	0	1	10	1	0	0	5	2	0	1	0	4	0	64
損傷・中毒及びその他の外因の影響（S00～T98）	47	12	26	6	122	728	6	23	0	13	0	7	1	30	9	1	0	27	0	1	0	1,059
特殊目的用コード（U00～U99）	117	0	3	1	1	0	0	1	4	0	0	72	1	0	1	0	0	1	193	7	0	402
合　計	2,193	1,454	1,150	326	849	1,000	524	202	32	789	37	231	165	378	553	27	81	228	302	304	200	1,1025

4. 疾病分類〈中分類〉

第1章	感染症および寄生虫症	197	第5章	精神および行動の障害	12
A00-09	腸管感染症	62	F00-09	症状性を含む器質性精神障害	4
A15-19	結核	8	F10-19	精神作用物質使用による精神および行動の障害	2
A20-28	人蓄共通細菌性疾患	0	F20-29	統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害	1
A30-49	その他の細菌性疾患	84	F30-39	気分〔感情〕障害	1
A50-64	主として性的伝播様式をとる感染症	0	F40-48	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	2
A65-69	その他のスピロヘータ疾患	1			
A70-74	クラミジアによるその他の疾患	0	F50-59	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	2
A75-79	リッチケア症	0	F60-69	成人の人格および行動の障害	0
A80-89	中枢神経系のウイルス感染症	10	F70-79	知的障害＜精神遅滞＞	0
A90-99	節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス出血熱	0	F80-89	心理的発達の障害	0
B00-09	皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	4	F90-98	小児＜児童＞期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	0
B15-19	ウイルス肝炎	18			
B20-24	ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	0	F99	詳細不明の精神障害	0
B25-34	その他のウイルス疾患	3	第6章	神経系の疾患	131
B35-49	真菌症	1	G00-09	中枢神経系の炎症性疾患	6
B50-64	原虫疾患	3	G10-13	主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	4
B65-83	ぜん＜蠕＞虫症	3	G20-26	錐体外路障害および異常運動	13
B85-89	シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生症	0	G30-32	神経系のその他の変性疾患	3
B90-94	感染症および寄生虫症の続発・後遺症	0	G35-37	中枢神経系の脱髄疾患	2
B95-97	細菌、ウイルスおよびその他の病原体	0	G40-47	挿間性および発作性障害	50
B99	その他の感染症	0	G50-59	神経、神経根および神経そう＜叢＞の障害	18
第2章	新生物＜腫瘍＞	1,719	G60-64	多発(性)ニューロパチ＜シ＞ーおよびその他の末梢神経系の障害	4
C00-14	口唇、口腔および咽頭	2			
C15-26	消化器	603	G70-73	神経筋接合部および筋の疾患	1
C30-39	呼吸器および胸腔内臓器	273	G80-83	脳性麻痺およびその他の麻痺性症候群	0
C40-41	骨および関節軟骨	1	G90-99	神経系のその他の障害	30
C43-44	皮膚	6	第7章	眼および付属器の疾患	770
C45-49	中皮および軟部組織	19	H00-06	眼瞼、涙器および眼窩の障害	7
C50	乳房	37	H10-13	結膜の障害	0
C51-58	女性生殖器	130	H15-22	強膜、角膜、虹彩および毛様体の障害	0
C60-63	男性生殖器	141	H25-28	水晶体の障害	465
C64-68	尿路	133	H30-36	脈絡膜および網膜の障害	226
C69-72	眼、脳および中枢神経系のその他の部位	6	H40-42	緑内障	19
C73-75	甲状腺およびその他の内分泌腺	2	H43-45	硝子体および眼球の障害	50
C76-80	部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物	64	H46-48	視神経および視(覚)路の障害	0
C81-96	原発と記載されたまたは推定されたリンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物	77	H49-52	眼筋、眼球運動、調節および屈折の障害	0
			H53-54	視機能障害および盲＜失明＞	0
C97	独立した(原発性)多部位の悪性新生物	0	H55-59	眼および付属器のその他の障害	3
D00-09	上皮内新生物	3	第8章	耳および乳様突起の疾患	23
D10-36	良性新生物	70	H60-62	外耳疾患	2
D37-48	性状不詳または不明の新生物	152	H65-75	中耳および乳様突起の疾患	1
第3章	血液および造血器の疾患並びに免疫機構の障害	56	H80-83	内耳疾患	14
D50-53	栄養性貧血	10	H90-95	耳のその他の障害	6
D55-59	溶血性貧血	1	第9章	循環器系の疾患	2,676
D60-64	無形成性貧血およびその他の貧血	30	I00-02	急性リウマチ熱	0
D65-69	凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態	5	I05-09	慢性リウマチ性心疾患	2
D70-77	血液および造血器のその他の疾患	9	I10-15	高血圧性疾患	3
D80-89	免疫機構の障害	1	I20-25	虚血性心疾患	1074
第4章	内分泌、栄養および代謝疾患	198	I26-28	肺性心疾患および肺循環疾患	14
E00-07	甲状腺障害	3	I30-52	その他の型の心疾患	495
E10-14	糖尿病	89	I60-69	脳血管疾患	580
E15-16	その他のグルコース調節および膵内分泌障害	13	I70-79	動脈、細動脈および毛細血管の疾患	474
E20-35	その他の内分泌腺障害	2	I80-89	静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患、他に分類されないもの	32
E40-46	栄養失調(症)	6			
E50-64	その他の栄養欠乏症	7	I95-99	循環器系のその他および詳細不明の障害	2
E65-68	肥満(症)およびその他の過栄養＜過剰摂食＞	0			
E70-90	代謝障害	78			

4. 疾病分類〈中分類〉

第10章　呼吸器系の疾患	834	第15章　妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	0
J00-06　急性上気道感染症	11	O00-08　流産に終わった妊娠	0
J10-18　インフルエンザおよび肺炎	213	O10-16　妊娠、分娩および産じょく＜褥＞における浮腫、たんぱく＜蛋白＞尿および高血圧性障害	0
J20-22　その他の急性下気道感染症	10		
J30-39　上気道のその他の疾患	4	O20-29　主として妊娠に関連するその他の母体障害	0
J40-47　慢性下気道疾患	78	O30-48　胎児および羊膜腔に関連する母体ケアならびに予想される分娩の諸問題	0
J60-70　外的因子による肺疾患	290		
J80-84　主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	89	O60-75　分娩の合併症	0
J85-86　下気道の化膿性およびえ＜壊＞死性病態	45	O80-84　分娩	0
J90-94　胸膜のその他の疾患	74	O85-92　主として産じょく＜褥＞に関連する合併症	0
J95-99　呼吸器系のその他の疾患	20	O95-99　その他の産科的病態、他に分類されないもの	0
第11章　消化器系の疾患	1,674	第16章　周産期に発生した病態	0
K00-14　口腔、唾液腺および顎の疾患	293	P00-04　母体側要因ならびに妊娠および分娩の合併症により影響を受けた胎児および新生児	0
K20-31　食道、胃および十二指腸の疾患	117		
K35-38　虫垂の疾患	117	P05-08　妊娠期間および胎児発育に関連する障害	0
K40-46　ヘルニア	216	P10-15　出産外傷	0
K50-52　非感染性腸炎および非感染性大腸炎	8	P20-29　周産期に特異的な呼吸障害および心血管障害	0
K55-64　腸のその他の疾患	320	P35-39　周産期に特異的な感染症	0
K65-67　腹膜の疾患	16	P50-61　胎児および新生児の出血性障害および血液障害	0
K70-77　肝疾患	107	P70-74　胎児および新生児に特異的な一過性の内分泌障害および代謝障害	0
K80-87　胆のう＜嚢＞、胆管および膵の障害	463		
K90-93　消化管系のその他の疾患	17	P75-78　胎児および新生児の消化器系障害	0
第12章　皮膚および皮下組織の疾患	101	P80-83　胎児および新生児の外皮および体温調節に関連する病態	0
L00-08　皮膚および皮下組織の感染症	55		
L10-14　水疱症	0	P90-96　周産期に発生したその他の障害	0
L20-30　皮膚炎および湿疹	1	第17章　先天奇形、変形および染色体異常	51
L40-45　丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害	0	Q00-07　神経系の先天性奇形	0
L50-54　じんま＜蕁麻＞疹および紅斑	2	Q10-18　眼、耳、顔面および頚部の先天性奇形	5
L55-59　皮膚および皮下組織の放射線(非電離および電離)に関する障害	0	Q20-28　循環器系の先天性奇形	20
		Q30-34　呼吸器系の先天性奇形	0
L60-75　皮膚付属器の障害	2	Q35-37　唇裂および口蓋裂	0
L80-99　皮膚および皮下組織のその他の障害	41	Q38-45　消化器系のその他の先天奇形	8
第13章　筋骨格系および結合組織の疾患	359	Q50-56　性器の先天奇形	3
M00-03　感染性関節障害	7	Q60-64　尿路系の先天奇形	7
M05-14　炎症性多発性関節障害	20	Q65-79　筋骨格系の先天奇形および変形	7
M15-19　関節症	63	Q80-89　その他の先天奇形	1
M20-25　その他の関節障害	4	Q90-99　染色体異常、他に分類されないもの	0
M30-36　全身性結合組織障害	12	第18章　症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	64
M40-43　変形性脊柱障害	10		
M45-49　脊椎障害	129	R00-09　循環器系および呼吸器系に関する症状および徴候	11
M50-54　その他の脊柱障害	34	R10-19　消化器系および腹部に関する症状および徴候	5
M60-63　筋障害	4	R20-23　皮膚および皮下組織に関する症状および徴候	1
M65-68　滑膜および腱の障害	5	R25-29　神経系および筋骨格系に関する症状および徴候	0
M70-79　その他の軟部組織障害	18	R30-39　腎尿路系に関する症状および徴候	5
M80-85　骨の密度および構造の障害	15	R40-46　認識、知覚、情緒状態および行動に関する症状および徴候	11
M86-90　その他の骨障害	28		
M91-94　軟骨障害	2	R47-49　言語および音声に関する症状および徴候	0
M95-99　筋骨格系および結合組織のその他の障害	8	R50-69　全身症状および徴候	29
第14章　腎尿路生殖器系の疾患	699	R70-79　血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの	1
N00-08　糸球体疾患	21	R80-82　尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N10-16　腎尿細管間質性疾患	150	R83-89　その他の体液、検体＜材料＞および組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N17-19　腎不全	186		
N20-23　尿路結石症	147	R90-94　画像診断および機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの	1
N25-29　腎および尿管のその他の障害	10		
N30-39　尿路系のその他の疾患	114	R95-99　診断名不明確および原因不明の死亡	0
N40-51　男性生殖器の疾患	31		
N60-64　乳房の障害	0		
N70-77　女性骨盤臓器の炎症性疾患	5		
N80-98　女性性器の非炎症性障害	34		
N99　腎尿路生殖器系のその他の障害	1		

4. 疾病分類〈中分類〉

第19章	損傷、中毒およびその他の外因の影響	1,059
S00-09	頭部損傷	156
S10-19	頚部損傷	20
S20-29	胸部＜郭＞損傷	74
S30-39	腹部、下背部、腰椎および骨盤部の損傷	90
S40-49	肩および上腕の損傷	98
S50-59	肘および前腕の損傷	103
S60-69	手首および手の損傷	28
S70-79	股関節部および大腿の損傷	279
S80-89	膝および下腿の損傷	94
S90-99	足首および足の損傷	14
T00-07	多部位の損傷	2
T08-14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷	5
T15-19	自然開口部からの異物侵入の作用	3
T20-32	熱傷および腐食	2
T33-35	凍傷	0
T36-50	薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒	2
T51-65	薬用を主としない物質の毒作用	1
T66-78	外因のその他および詳細不明の作用	29
T79	外傷の早期合併症	1
T80-88	外科的および内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	57
T90-98	損傷、中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症	1
第20章	傷病および死亡の外因	0
V01-99	交通事故	0
W00-X59	不慮の損傷のその他の外因	0
X60-84	故意の自傷および自殺	0
X85-Y09	加害にもとづく傷害および死亡	0
Y10-34	不慮か故意か決定されない事件	0
Y35-36	法的介入および戦争行為	0
Y40-84	内科的および外科的ケアの合併症	0
Y85-89	傷病および死亡の外因の続発・後遺症	0
Y90-98	他に分類される傷病および死亡の原因に関係する補助的因子	0
第21章	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	0
Z00-13	検査および診査のための保健サービスの利用者	0
Z20-29	伝染病に関連する健康傷害をきたす恐れのある者	0
Z30-39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者	0
Z40-54	特定の処置および保健ケアのための保健サービスの利用者	0
Z55-65	社会経済的環境および社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0
Z70-76	その他の環境下での保健サービスの利用者	0
Z80-99	家族歴、既往歴および健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0
第22章	特殊目的用コード	402
U07	COVID-19	402

診　療　部

―― 2022年 ――

1 ）内　　科　26
2 ）循環器内科（カテーテル部門）　33
3 ）消化器内科　34
4 ）呼吸器内科　35
5 ）腫 瘍 内 科　36
6 ）血管透析科　38
7 ）腎 臓 内 科　42
8 ）糖尿病・代謝内科　43
9 ）脳神経内科　45
10）膠原病リウマチ内科　46
11）小　児　科　47
12）放 射 線 科（診療部）　49
13）救　急　科　50
14）外　　科　53
15）整 形 外 科　55
16）脳神経外科　58
17）心臓血管外科・心臓血管センター　60
18）形成外科・美容外科　63
19）呼吸器外科　65
20）小 児 外 科　66
21）歯科・歯科口腔外科　69
22）泌 尿 器 科　71
23）眼　　科　72
24）麻　酔　科　74
25）肝臓センター　76
26）皮　膚　科　80
27）婦　人　科　81
28）耳鼻咽喉科　84
29）病理診断科　86

1）内　科

病院長　原田　博雅

1. 概要

2022 年も新型コロナウイルス感染症が内科診療に大きな影響を与えた年でした

少ない内科医師でやって行かざるを得ず、外来は多くの非常勤医師に診療を助けてもらいました。その中で、研修医教育のために、昨年 4 月より、ブランチ先生が湘南鎌倉総合病院より、当院に転勤され、初期研修医を中心に教育を担当していただいています。八尾だけではなく、関西を中心に全国の徳洲会病院の初期研修医の教育も行なっていただいています。

初期研修医の内科研修は 2 年目研修医、植田圭祐・熊田博斗・田邊俊介・高山彩果先生、1 年目研修医、足立麻衣子・今井雄仁・清水元就・藤本浩之、下東樹生先生がそれぞれ研修を終了されました。

2. メンバー構成

循環器	福田貢（総長）、松尾浩志（部長）、綾田健士（非常勤）
呼吸器	原田博雅（院長）、石原英樹（副院長）、濱口眞成（医長）
消化器	浅野耕吉（部長）、杉田博二（医長）中島ひろみ（医長）
糖尿病・代謝	石橋里江子（部長）、植田秀樹
腫瘍	瓜生恭章（部長）
脳神経内科	辰己新水（部長）
腎臓	森ちさこ（医長）
総合内科	髙原良典（医長）

3. 実績

《退院患者数》

◎内　科

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
397	358	411	388	344	387	395	385	386	407	346	445	4,649

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

1.感染症および寄生虫症（A00-B99）

疾　　病	件	疾　　病	件
敗血症	43	ウイルス性髄膜炎	10
（グラム陰性菌）	(2)	急性肝炎	5
（G群連鎖球菌）	(1)	（B型）	(2)
（MRSA）	(1)	帯状疱疹	4
胃腸炎	33	肺結核	4
（感染性）	(8)	ニューモシスチス症	3
（ウイルス性）	(1)	レジオネラ肺炎	2
細菌感染症	17	結核性髄膜炎	2
（連鎖球菌）	(5)	C型肝硬変	1
（MSSA菌）	(3)	ウイルス性感染症	1
細菌性腸炎	12	結核性胸膜炎	1
（カンピロバクター）	(3)	伝染性単核症	1
（サルモネラ）	(3)	肺非結核性抗酸菌症	1
（偽膜性）	(2)	合　計	140

2.新生物（C00-C97）※術後・再発・化学療法を含む

疾　　病	件	疾　　病	件
肺	189	食道	6
悪性リンパ腫	52	悪性胸腺腫	5
胃	51	悪性中皮腫	5
結腸	22	多発性骨髄腫	5
転移癌	18	膵臓	5
（骨）	(5)	神経内分泌細胞	4
（肺）	(5)	前立腺	4
（脳）	(4)	膀胱	3
（肝）	(1)	リンパ性白血病	2
急性骨髄性白血病	14	原発不明	2
直腸	11	脂肪肉腫	2
子宮	9	胆のう	2
胆管	8	悪性黒色腫	1
肝臓	7	その他	3
乳房	7	合　計	437

◎上皮内・良性・性状不詳または不明の新生物（D00-D48）

〈良性腫瘍〉　　〈性状不詳・不明〉

疾　　病	件	疾　　病	件
結腸腺腫	11	骨髄異形成症候群	8
胃腺腫	4	食道腫瘍	2
十二指腸腺腫	3	肺腫瘍	2
頚部リンパ節腫	1	胸膜腫瘍	1
盲腸腺腫	1	膵腫瘍	1
		その他	3
合　計	20	合　計	17

3.血液および造血器の疾患、免疫障害（D50-D89）※輸血目的の再入院を含む

疾　　病	件	疾　　病	件
貧血症	30	クリオグロブリン血症	1
（再生不良性）	(12)	トルソー症候群	1
（鉄欠乏性）	(5)	血球貪食症候群	1
（急性失血性）	(1)	血小板減少症	1
（自己免疫性溶血性）	(1)	播種性血管内凝固	1
汎血球減少症	5	脾梗塞	1
好中球減少症	4	合　計	45

4.内分泌、栄養および代謝疾患（E00-E90）

疾　　病	件	疾　　病	件
Ⅰ型糖尿病	7	低カリウム血症	12
（ケトアシドーシス）	(2)	栄養失調	4
（腎合併症）	(1)	高カリウム血症	4
Ⅱ型糖尿病	63	電解質異常	4
（合併症なし）	(22)	アシドーシス	2
（その他の合併症）	(11)	ウェルニッケ脳症	2
（ケトアシドーシス）	(9)	高ナトリウム血症	2
（多発合併症）	(8)	水中毒	2
（高血糖高浸透圧症候群）	(5)	低アルブミン血症	2
（神経学的合併症）	(3)	甲状腺機能低下症	1
（昏睡）	(2)	高アンモニア血症	1
脱水症	23	高カルシウム血症	1
低ナトリウム血症	18	低カルシウム血症	1
低血糖	13		
（昏睡）	(4)	合　計	162

5.精神および行動の障害（F00-F99）

疾　　病	件	疾　　病	件
認知症	3	心因性多飲症	1
うつ病	1	統合失調症	1
急性アルコール中毒	1	その他	2
拒食症	1	合　計	10

6.神経系の疾患（G00-G99）

疾　　病	件	疾　　病	件
低酸素性脳症	11	神経核内封入体病	3
てんかん	8	レビー小体型認知症	2
（重積状態）	(3)	下肢静止不能症候群	2
パーキンソン病	5	視神経脊髄炎	2
筋萎縮性側索硬化症	4	トロサ・ハント症候群	1
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	4	悪性症候群	1
髄膜炎	3	その他	9
（細菌性）	(1)	合　計	55

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

7.耳および乳様突起の疾患(H60-H95)

疾　　病	件	疾　　病	件
末梢性めまい症	10	急性乳様突起炎	1
(良性発作性頭位)	(2)	耳介蜂巣炎	1
耳介軟骨膜炎	1	合　計	13

8.循環器系の疾患(I00-I99)※検査入院を含む

◎心血管

疾　　病	件	疾　　病	件
冠状動脈硬化症	536	肺塞栓症	10
狭心症	392	洞不全症候群	7
(不安定)	(59)	冠状動脈狭窄症	5
(労作性)	(33)	たこつぼ型心筋症	4
(3枝病変)	(21)	蘇生に成功した心停止	3
心不全	360	不整脈	2
(うっ血性)	(348)	肺高血圧症	2
(慢性)	(9)	心室期外収縮	2
(急性)	(3)	急性心筋炎	2
急性心筋梗塞	85	発作性上室頻拍	1
(下壁)	(34)	大動脈弁閉鎖不全症	1
(前壁)	(29)	高血圧症	1
(側壁)	(10)	虚血性心疾患	1
房室ブロック	16	急性冠症候群	1
陳旧性心筋梗塞	16	その他	5
心房細動	13	合　計	1,465

◎脳血管

疾　　病	件	疾　　病	件
脳梗塞	17	慢性硬膜下血腫	1
高血圧性脳症	2	その他	2
脳出血	2	合　計	24

◎その他の血管

疾　　病	件	疾　　病	件
下肢閉塞性動脈硬化症	231	毛細血管拡張症	4
深部静脈血栓症	8	リンパ節炎	2
食道静脈瘤	7	下肢血栓性静脈炎	2
(破裂)	(1)	門脈血栓症	2
下肢動脈閉塞症	6	その他	9
上肢動脈閉塞症	4	合　計	275

9.呼吸器系の疾患（J00-J99）

疾　　病	件	疾　　病	件
誤嚥性肺炎	269	胸水貯留	8
肺炎・病原体不詳	188	気管支拡張症	5
（気管支）	(39)	好酸球性肺炎	5
（閉塞性）	(5)	膿胸	5
間質性肺炎	80	過敏性肺炎	4
（薬剤性）	(5)	自然気胸	4
慢性閉塞性肺疾患	29	急性気管支炎	3
気管支喘息	27	急性扁桃炎	2
（発作）	(11)	放射線性肺線維症	2
細菌性肺炎	18	扁桃周囲膿瘍	2
（MRSA）	(1)	急性呼吸窮迫症候群	1
（緑膿菌）	(1)	肺うっ血	1
呼吸不全	14	肺水腫	1
肺気腫	11	その他	4
肺膿瘍	9	合　計	692

10.消化器系の疾患（K00-K93）

◎食道、胃、十二指腸

疾　　病	件	疾　　病	件
食道炎	13	胃潰瘍	26
（逆流性）	(10)	（出血性）	(22)
マロリ・ワイス症候群	1	（急性）	(2)
食道狭窄	1	胃ポリープ	7
食道潰瘍	1	胃炎	5
十二指腸潰瘍	15	胃前庭部毛細血管拡張症	3
（出血性）	(10)	胃食道逆流症	2
（急性）	(3)	その他	4
十二指腸炎	3	合　計	81

◎その他の腸疾患

疾　　病	件	疾　　病	件
腸憩室疾患	39	直腸潰瘍	3
大腸ポリープ	19	イレウス	2
虚血性腸炎	13	腸腰筋膿瘍	2
消化管出血	5	結腸閉塞	2
非感染性大腸炎	5	上腸間膜動脈症候群	1
痔核	3	腸穿孔	1
直腸ポリープ	3	その他	8
潰瘍性大腸炎	3	合　計	109

◎肝疾患

疾　　病	件	疾　　病	件
アルコール性肝疾患	33	肝性脳症	3
（肝硬変）	(23)	肝膿瘍	1
（肝炎）	(8)	肝不全	1
肝硬変症	15		
肝機能障害	4		
（薬物性）	(2)	合　計	57

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

◎胆嚢、胆管、膵

疾　　病	件	疾　　病	件
急性胆管炎	31	急性膵炎	16
総胆管結石	22	（アルコール性）	(3)
（胆管炎を伴う）	(5)	（胆石を伴う）	(2)
急性胆のう炎	8	慢性膵炎	15
胆のう結石	3	（アルコール性）	(5)
胆管閉塞	2		
膵のう胞	2	合　計	99

11.皮膚および皮下組織の疾患（L00-L99）

疾　　病	件	疾　　病	件
蜂窩織炎	30	頚部リンパ節炎	1
褥瘡	4	薬物性じんま疹	1
スティーブンス・ジョンソン症候群	1	合　計	37

12.筋骨格系および結合祖組織の疾患（M00-M99）

疾　　病	件	疾　　病	件
リウマチ性多発筋痛	4	クラウンデンス症候群	2
化膿性脊椎炎	4	横紋筋融解	2
壊死性筋膜炎	3	成人スチル病	2
関節リウマチ	3	ANCA関連血管炎	1
皮膚（多発）筋炎	3	ベーチェット病	1
偽痛風	3	その他	10
関節炎	3	合　計	41

13.腎尿路生殖器系の疾患（N00-N99）

疾　　病	件	疾　　病	件
急性腎盂腎炎	95	急性腎障害	3
尿路感染症	92	水腎症	3
末期腎不全	64	IgA腎症	2
慢性腎不全	61	急性膀胱炎	2
急性腎不全	27	腎のう胞	2
慢性腎臓病	12	尿管結石症	2
ネフローゼ症候群	10	その他	5
結石性腎盂腎炎	5	合　計	385

14.先天性奇形、変形および染色体異常（Q00-Q99）

疾　　病	件
常染色体優性多発性のう胞腎	4
合　計	4

15.症状、徴候および以上臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの（R00-R99）

疾　　病	件	疾　　病	件
不明熱	5	気管支出血	1
CO2ナルコーシス	4	出血性ショック	1
食欲不振	3	徐脈	1
老衰	2	その他	5
意識消失発作	1	合　計	23

16.損傷、中毒およびその他の外因の影響（S00-T98）

疾　　病	件	疾　　病	件
ペースメーカー電池消耗	15	急性薬物中毒	2
アナフィラキシー	14	透析シャント閉塞	2
熱中症	8	異物誤飲	1
腰椎・骨盤骨折	5	外傷性くも膜下出血	1
胸椎・肋骨骨折	4	気管支異物	1
低体温	4	洗剤中毒	1
大腿骨骨折	3	その他	5
びまん性脳損傷	2	合　計	68

17.特殊目的用コード（U00-U99）

疾　　病	件
COVID-19	390
合　計	390

4. 今後の目標

今後も引き続き内科医の数と質の充実を図っていきたいと思います。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

2）循環器内科（カテーテル部門）

循環器内科部長　松尾　浩志

1. 概要

循環器内科は常に救急医療においても重要な役割を担っています。24 時間 365 日救急対応可能にするためオンコール体制を整えております。

当院の特徴としては、昨今若手のみで治療が増えてきていますが当院は常に上級医による治療の体制となっており治療の質を高く維持しております。治療時間も短時間となっております。カテーテル件数は全国でも上位に位置づけられております。

また、昨今増加している下肢閉塞性動脈硬化症に対しても積極的に診療治療を施行しております。下肢壊疽や潰瘍といった重症虚血肢に対しては当院には形成外科による創傷治療センターがあり協力しながら診療にあたっております。

当院は冠動脈に対する治療だけでなく下肢動脈に対する治療に関しても全国有数の施設になっております。他府県からの治療困難病例の紹介も多数受けております。そして高度石灰化症例に対する特殊な治療器具（Rotablator や Diamondback）を用いた治療に関しては、全国でも 3 本の指に入っております。今後、更に治療成績を上げるため、新たな治療器具も導入されています。より幅の広い治療が可能となっております。

部長の松尾に関しては海外での治療、指導の依頼も多数あり国際交流もある診療科です。

2. メンバー構成

福田貢（総長）・松尾浩志（循環器内科部長）・綾田健士（非常勤）

迫田慎一郎（非常勤）

3. 実績

	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
総合カテ件数	1,199	1,728	1,626	1,594	1,653
PCI	458	662	704	713	776
末梢血管 EVT	192	307	279	277	237
ペースメーカー	117	187	289	231	314
ロータブレーター	88	171	119	119	215

4. 今後の目標

若手を集め、より地域医療に貢献出来るようにしていきたいと考えております。常に質の高い医療を提供できるように努めて参ります。全国有数の施設へと成長出来る様、努めて参ります。

3）消化器内科

消化器内科部長　浅野　耕吉

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

1. 概要

当院内視鏡室では、消化管内視鏡検査・治療を施行しております。内視鏡適応症例に関しましては、ESD をはじめとして食道拡張術、食道・胃静脈瘤に対する硬化療法など様々な治療を積極的に行っています。

又、消化管出血などの緊急性を有する処置に関しても止血術、異物除去をはじめとして、様々な治療を行っております。

下部消化器内視鏡検査では、ポリペクトミーや内視鏡的粘膜切除術（EMR）を日帰りで行っています。一括切除できない病変もしくは、出血リスクがあるポリープに対しては、入院治療を行っています。

胆膵領域では、閉塞性黄疸や化膿性胆管炎、癌の胆管狭窄・閉塞に対し内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）を行っております。

超音波内視鏡（EUS）、FNA 関連手技（EUS － FNA）を行っています。

日本消化器内視鏡学会の推奨する日本消化器内視鏡データベースプロジェクト（JED：他施設共同研究事業）にも参加しています。

その他内視鏡室では、安全な検査・治療を行うためにスコープ・処置具の洗浄消毒への取り組みに力を入れています。

2. メンバー構成

学会認定

部長　浅野　耕吉

医長　杉田　博二　　日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医
　　日本消化器内視鏡学会専門医

　　中島　ひろみ　日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医
　　日本消化器内視鏡学会専門医、日本超音波医学会専門医
　　日本ヘリコバクター学会感染症認定医

3. 実績

上部消化管内視鏡検査	5,941 件
下部消化管内視鏡検査	2,721 件
ESD（上・下部含む）	86 件
ポリペク・EMR	583 件
硬化療法（EVL/EIS）	27 件
ERCP	275 件
止血術	227 件
超音波内視鏡 /EUS-FNA	119 件 /26 件

4. 今後の目標

患者様に対し、より苦痛の少ない検査、質の高い検査・治療を目指していきたいと考えております。

4）呼吸器内科

副院長　石原　英樹

1. 概要

当院にはこれまでも呼吸器内科常勤医は常に在籍状態にあったのですが、呼吸器内科として正式に標榜するようになったのは 2016 年 4 月からとなります。肺癌に関しては腫瘍内科が診療の中心になるので、当科では主に肺癌以外の呼吸器疾患（COPD、間質性肺炎など）を診療しています。それに加えて、呼吸リハビリテーションチームとして、院内の呼吸管理のコンサルト業務もおこなっています。2018 年 4 月からは濱口眞成医師が加わり、マンパワー的にも充実しつつあります。

また、呼吸器内科・人工呼吸領域での学会活動も積極的におこなっています。

2021 年も新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、当科と集中治療部を中心に中等症・重症患者の診療を担っています。特に ICU では、人工呼吸管理だけではなく ECMO 管理も含めた集学的治療を行っています。

2. メンバー構成

院長　　原田院長　日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器専門医
　　日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器学会指導医・専門医
副院長　石原英樹　日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医

3. 実績

《外来診療患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
433	480	583	529	455	542	533	306	600	447	544	499	5,951

4. 今後の目標

現在中河内地区で呼吸器内科を標榜している病院がほとんどないのが現状です。今後これらの地域を含めた呼吸器診療の一助になれるよう努力していく所存です。

5）腫瘍内科

腫瘍内科部長　瓜生　恭章

1. 概要

・腫瘍内科は昨年同様常勤医１名、非常勤医１名による体勢が継続しています。
・血液腫瘍の診療は少ないが非常勤医師の洪先生に診ていただいています。
・腫瘍内科本来の臓器横断的な薬物療法ができていない現状は継続しています。
・消化器・呼吸器外科、肝臓センター、泌尿器科の先生方に協力を得て固形癌に対する化学療法ができています。
・当院には抗がん剤に精通したがん専門薬剤師が３名、及びがん化学療法認定看護師１名が在籍しており、質の高いがん薬物療法を行っています。
・看護部の協力もあり、化学療法がより安全確実に行える体勢が整っております。
・がん薬物療法看護師の育成にも力を入れています。
・臨床腫瘍センターでの看護業務の中で認定看護師として必要な知識の習得を目指し、積極的に認定看護師教育機関への入学支援を行っています。
・呼吸器腫瘍に関しては、全国の徳洲会呼吸器部会で行っているカンファレンスを通じて、治療介入が難しい症例の治療方針についての相談を行っており、適正な標準治療が行えるように、腫瘍内科、呼吸器外科と協力し治療を行っています。

2. メンバー構成

部長

瓜生　恭章　　資格／日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医
日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医
専門分野／各種固形がん（肺がん、乳がん、胃がん、膵臓がんなど）

非常勤医師

洪　鉉寿　　資格／日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医
日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医
日本血液学会専門医
専門分野／各種固形がん（肺がん、大腸がん、胃がん、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など）

副部長（薬剤部兼任、臨床腫瘍センター専任副部長）

南野　智志　　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

副薬局長（薬剤部兼任）

草薙　みか　　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

副主任（薬剤部兼任）

山本　倫数　　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

薬剤師

青山　瑛里子　専門分野／臨床薬理学

薬剤師

濱田　達志　　資格／臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師

専門分野／臨床薬理学

副主任（看護部兼任）

苗代　啓子　　資格／がん化学療法看護認定看護師

専門分野／がん看護

上田　晴香　専門分野／がん看護（現在がん化学療法看護認定看護師取得のため就学中）

香川　真由　専門分野／がん看護

3. 実績

《がん化学療法施行件数（外来 2022 年）》

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
2020 年	182	164	190	178	154	196	209	225	240	248	232	204	2,422
2021 年	210	211	268	264	237	279	253	247	265	248	236	270	2,988
2022 年	236	251	279	250	247	255	267	292	273	245	281	270	3,146

4. 今後の目標

市中病院でも標準治療を行えるように今後も努力していきます。

がん薬物療法を受ける患者様が安心して加療をできる環境を維持していきます。

6）血管透析科

透析センター長　申　勝

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管心臓血セ　60
形成外科美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

1. 概要

2022 年は､常勤医師 2 名･非常勤医師 5 名 の診療体制となっています。また､看護師(11 名)、薬剤師 (兼任 3 名)、臨床工学技士 (兼任 4 名)、管理栄養士 (兼任 3 名)、医事課の透析スタッフが、入院と通院を合わせて約 110 名の透析患者様の対応をさせて頂いています。

センター関連の総入院患者数は継続して増加の方向にあり、昨年のべ 1058 例の内訳は 男：女＝ 2.34：1, 平均年齢; 71.7 歳 , 糖尿病有病率; 61.5% , 年間救急搬送率; 35.2% (372 件) でした。特に 75 歳以上の後期高齢者は、総入院患者数の 48.2% と約半数を占め、救急搬送率 ; 41.6% と高値を示しました。内科系 : 外科系 = 2.1 : 1 と、内科系入院が全体の 68% を占めています。2019 年末から世界的流行の 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対しては、他施設や行政との緊密な連携の上で、地域の診療体制継続と感染拡大防護に多職種で徹底して取り組んでいます。

2012 年 4 月より当院においても CAPD 外来が開設され、2022 年 12 月末までに 59 名の方が腹膜透析を開始されました。12 月末時点で PD 終了者と他施設の通院患者を除く 7 名が、当院を通院し腹膜透析を継続されています。腎移植については、専門外来の開設準備として腎移植委員会を 2021 年 10 月に立ち上げました。経過については定期的に報告して参ります。

経年的集計より透析センター関連での入院患者数と緊急透析数の増加を認めており、重症度に適合した対応をしています。2016 年より風水害対策としての地域防災連携協議会を当院でも開き、臨床工学技士を中心に多職種チームとして活動しています。万一の災害時には、迅速に広域的に展開していく方針です。

2. メンバー構成：透析センター診療担当医師

血液透析主担当：申勝(血管･透析内科)
腹膜透析主担当：森ちさこ(腎臓･免疫内科)
糖尿病診療担当：植田秀樹(糖尿病内科)
移植外来主担当：松岡伸英(移植外科)
循環器診療担当：福田貢(循環器内科)
集中治療室担当：石原英樹(呼吸器内科)
透析室支援担当：寺川知良(泌尿器科非常勤)
病棟管理主担当：玉城裕史(透析･膠原病科)

3. 実績

《透析センター月別患者数》（2022 年）

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
透析患者数（月平均）	102.5	94.1	86.1	88.9	83.7	81.7	82.7	81.8	84.7	87.5	88.5	89.6	1,051.8	87.7
新入院数	106	76	106	81	83	110	84	77	75	76	79	105	1,058	88.2
新規導入数	5	0	3	2	1	2	1	4	4	7	6	7	42	3.5
CAPD開始数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0.2
シャント手術数	8	5	3	3	2	5	3	3	8	4	5	6	55	4.6
PDカテ留置数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0.2
死亡者数	6	9	5	1	5	3	1	3	2	5	1	3	44	3.7

注 1：透析患者数には、当院への通院患者を含みます。 新規導入数には、PD 患者も含みます。
注 2：新入院数は透析センターに紹介された患者の総数であり、腎不全患者なども含みます。
注 3：死亡者数は、腎代替療法を行い透析患者登録されたことのある患者の総死亡数です。

《診療科別入院透析患者数（のべ人数）》（2022 年）

内科系	総合	呼吸器	循環器	消化器	肝臓	腎臓(CAPD)	膠原病リウマチ	糖尿病代謝	血管(その他)	合計
科別人数	78	110	327	30	0	158	0	8	5	716

外科系	脳神経	呼吸器	心臓血管	消化器	肝臓	泌尿器	整形(リウマチ)	眼・耳・歯	形成(末梢)	合計
科別人数	39	9	59	56	32	27	45	24	51	342

注 4：複数科にまたがる場合は、入院時の主診療科にて登録しました。

《年齢別入院分類表》

令和4年度(2022年) 八尾徳洲会総合病院 透析センター	20歳～65歳未満の 入院患者様 （～19歳の入院なし） 272名(25.7%)	65歳～75歳未満の 入院患者様 （前期高齢者） 276名(26.1%)	75歳以上～の 入院患者様 （後期高齢者） 510名(48.2%)	透析センターに 紹介された全ての 入院患者様を対象 （外来 or 紹介） 1,058名(100.0%)
男女比(男:女)	2.6：1	2.8：1	2.0：1	2.3：1
平均年齢	53.4歳	70.4歳	82.1歳	71.7歳
救急搬送率	26.5%	29.4%	41.6%	35.2%
糖尿病の有病率	63.2%	67.0%	57.5%	61.5%
ICU の入室率	11.0%	17.4%	11.4%	12.9%
緊急透析の有無	5.2%	7.3%	5.5%	5.9%
入院中 手術あり	28.7%	30.8%	20.4%	25.2%
入院中 カテあり	37.1%	35.2%	26.9%	31.7%
死亡率 入院時から一週間(168時間)	1.5%	2.5%	6.1%	4.0%

《年齢血液浄化表》

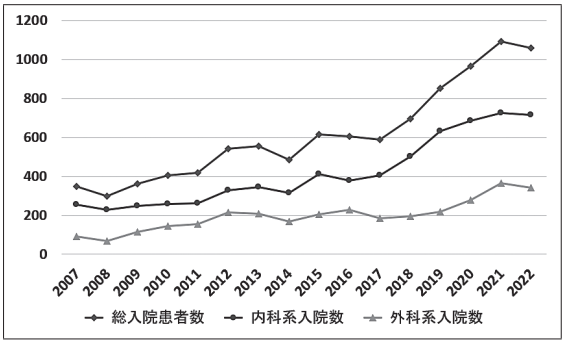
令和4年度(2022年) 八尾徳洲会総合病院 透析センター	20歳～65歳未満の 入院患者様 (～19歳の入院なし) 272名	65 歳～75 歳未満の 入院患者様 (前期高齢者) 276名	75 歳以上の 入院患者様 (後期高齢者) 510名	透析センターに 紹介された 入院患者様(全体)を 対象(外来 or 紹介) 合計1,058名
緊急HD(初回時)	9	14	13	計36件
緊急CHDF(初回時)	5	6	15	計26件
CHDFの年間全件数 (緊急/ICU/術後etc.)	17	25	28	計70件(のべ505回)
エンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP)	1	1	0	計2件(のべ2回)
血漿交換(PE)	2	2	1	計5件(のべ29回)
ビリルビン吸着療法	0	0	0	計0件(のべ0回)
LDLアフェレーシス	1	0	2	計3件(のべ43回)
血球吸着療法 (LCAP、GCAP)	0	1	0	計1件(のべ3回)

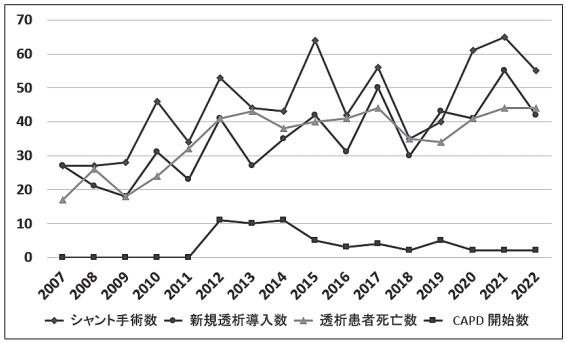
《病院全体での比較》

令和4年度(2022年) 八尾徳洲会総合病院 透析センター	病院全体での 年間入院患者様 (医事課の集計より) 11,053名(100%)	病院全体の年間 救急搬送後入院 (病院全体の28.7%) 3,176名(100%)	透析センター関連の 年間入院患者様 (病院全体の9.6%) 1,058名(100%)	透析センター関連の 年間救急搬送後入院 (病院全体の3.4%) 372名(100%)
男女比 (男 : 女)	1.33 : 1	1.25 : 1	2.34 : 1	1.67 : 1
平均年齢 (歳)	70.0歳	75.3歳	71.7歳	73.7歳
内科系入院数	6,128名 (55.4%)	1,722名 (54.2%)	716名 (67.7%)	252名 (67.7%)
外科系入院数	4,925名 (44.6%)	1,454名 (45.8%)	342名 (32.3%)	120名 (32.3%)

【病院救急搬送数】 年間 8,371 件 (月平均 698 件)

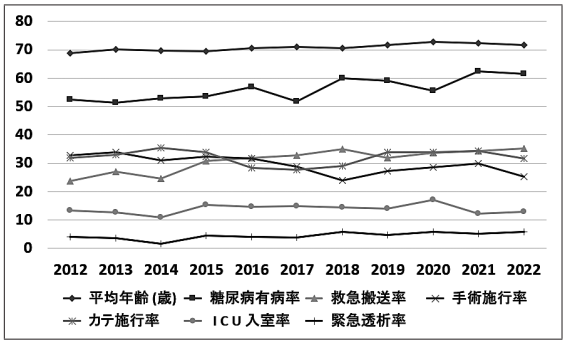
《透析年報グラフ》

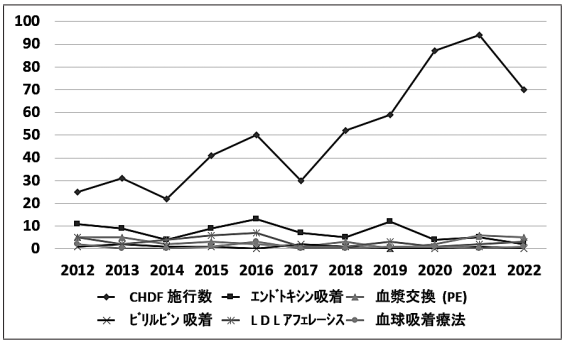




内 科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 42
糖尿病 代謝内科 43
脳神経内 45
膠原リウ 46
小児科 47
放射診科 49
救急科 50
外 科 53
整形外科 55
脳神経外 58
心臓血管 心臓血セ 60
形成外科 美容外科 63
呼吸器外 65
小児外科 66
歯 科 歯科口腔 69
泌尿器科 71
眼 科 72
麻酔科 74
肝臓セン 76
皮膚科 80
婦人科 81
耳鼻咽喉 84
病理診断 86

《入院 - 浄化 - グラフ》





《週間当番表》

透析室 待機表	月	火	水	木	金	土
午前	申	森	申	寺川	申	寺川
午後	申	申	申	森	申	申
休日	申 （松岡）	申 （石原）	申 （福田）	寺川 （石原）	申 （福田）	申 （寺川）

4. 今後の目標

近隣の先生方の御指導のもと、他施設および他診療科と協力して、より高度な集学的治療および看護を提供できるように更に整備して参ります。また､地域の腎不全患者の 新規透析導入･入院加療・災害対策 の総合施設としての役割を担えるよう、スタッフ一同協力し引き続き努力していく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。（申　勝）

本邦では諸外国と比較し、腎代替療法のうち腎移植の割合が非常に低く、より多くの腎不全患者さんへの腎移植が望まれています。そのような状況下、我々は八尾徳洲会総合病院での腎移植実施に向け、西日本随一の実績を誇る日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、および同グループの湘南鎌倉総合病院と連携し、2021 年 - 秋 - から準備を開始致しました。八尾市周辺の腎不全患者にとって、腎移植という選択肢が特別にならない日を早期に実現したいと考えております。どうかご支援の程宜しくお願い申し上げます。（松岡　伸英）

2023 年 - 春 - から内科医が 1 名増員となり、腎不全の診療が充実する見込みです。若い人から高齢者までの幅広い年齢の患者様に、腎移植と腹膜透析を含めた適切な治療選択を提供して参りたいと考えています。腎不全治療の 3 本柱（移植･血液透析･腹膜透析）を基礎とし､グループ病院の特性を生かし、今後の高齢化・独居の患者様にも対応したいと思います。今後とも宜しくお願い申し上げます。（森　ちさこ）

7）腎臓内科

腎臓内科医長　森 ちさこ

1. 概要

2017 年 4 月から常勤医として働いています。2017 年 11 月より、前任の今田聰雄先生の患者様も引き継ぎ診させていただいています。腎炎、糖尿病性腎症などの腎不全を診ています。最大の特色は腹膜透析の導入・施行をしていることです。透析に至らないことが目標ですが、残念ながら腎不全に至った場合でも当院では療法選択をすることができます。

2. メンバー構成

森ちさこ　日本内科学会認定医・日本透析学会専門医

外来診察日　火曜（午前）・木曜（午後）・金曜（午前）

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
192	184	233	136	207	246	243	216	252	242	201	244	2,596

単位：人

4. 今後の目標

近年の傾向として、糖尿病性腎症を主とした腎不全、腎硬化症の患者様が増えています。腎不全に至った場合でも、腹膜透析・血液透析・移植と 3 つの治療法を提案していきたいと思います。

また多発性のう胞腎を積極的に診察しています。難病申請により医療費の軽減、進行抑制できるトルバプタンの認定医であり、入院での導入が可能です。開業医の先生方には、疑わしい症例がありましたら、また腎機能障害の方がいらっしゃれば御紹介頂けると幸いです。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

8）糖尿病・代謝内科

糖尿病・代謝内科部長　石橋　里江子

1. 概要

2022 年も安全な糖尿病診療を目指し、チーム内で情報を共有しながら方針を議論してきました。病棟では主に教育入院、外科系診療科における周術期の血糖マネジメント、重症低血糖や糖尿病性ケトアシドーシスなど急性合併症に対応しています。高齢化、社会的孤立などの要因で療養が難しいケースも増え、退院後のサポート構築を含めて地域との連携が一層重要となっています。

糖尿病教室は引き続き公開医療講座として毎月 2 講演ずつ行いました。感染対策を講じながら対面での講演も再開し、ハイブリッド形式に移行しました。院内イベントである『世界糖尿病デー in YAOTOKU』はコロナ禍前の形式に戻して実施することができました。情報の錯綜する時代にあって今後も皆様のお役に立てる啓発活動を続けていきたいと考えています。

2. 糖尿病ケアチーム構成メンバー　（★日本糖尿病学会専門医　○糖尿病療養指導士）

【常勤医師】　★石橋里江子（部長）髙原良典（総合内科部長）★植田秀樹　吉田圭佑
【保健師】　○酒井菜穂子○藤井安希子○西村千恵　大谷康仁　牧田美奈　竹株緋那
【薬剤師】　○坂野千賀○森田亜記　○栗野大輔　中田将基　福村 真須美　吉澤典成
【理学療法士】　○服部玄徳　船津和幸
【管理栄養士】　佐藤友亮　八木楓子　坂本美紀子
【臨床検査技師】　○高津美乃里○古賀奈実　大前裕也　戸野川始　水本俊　足立健一郎　宮原知里
【臨床心理士】　宮坂なつ花　髙橋恭子
【看護師】　西田愛希　中嶋美也子
【医事課】　冨安里奈

3. 実績

1）糖尿病外来延べ件数　11,980 件 / 年

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
719	602	743	672	628	715	721	660	691	667	649	725	8,192

2）糖尿病入院担当件数　489 件 / 年　（主科 175 件含む）

3）『世界糖尿病デー　in YAOTOKU』　2022 年 11 月 17 日（木）　延べ参加者 137 名
場所：八尾徳洲会総合病院 1 階　エントランスホール
・血糖測定、血管年齢測定
・専門医師による相談コーナー
・フットケア
・個別栄養相談

・InBody、個別運動相談

・糖尿病川柳

・ポスター展示、クイズラリー

4）糖尿病教室 （公開医療講座）

場所：八尾徳洲会総合病院３階　第１・２会議室　ハイブリッド開催

月	テーマ	担当	講師	参加人数
1	糖尿病と歯周病	歯科医師	占部一彦	21
	糖尿病性腎症の食事療法	管理栄養士	佐藤友亮	20
3	血糖値測ってみよう、考えてみよう	薬剤師	坂野千賀	19
	糖尿病における社会資源の活用方法	医療ソーシャルワーカー	三谷勇一	18
4	糖尿病の基礎と最近の話題	糖尿病内科医師	石橋里江子	30
	糖尿病の食事療法～基礎編～	管理栄養士	竹中美紀子	30
5	新しい糖尿病の治療薬について	薬剤師	栗野大輔	22
	運動療法の基本	理学療法士	奥村葵	22
6	いびきは無呼吸の一歩手前 ～糖尿病との関連性～	臨床検査技師	戸野川始	26
	糖尿病と健康寿命	保健師	大谷康仁	32
7	糖尿病と感染症	糖尿病内科医師	植田秀樹	28
	ストレスと糖尿病	臨床心理士	髙橋恭子	26
9	糖尿病の食事療法～応用編～	管理栄養士	佐藤友亮	22
	運動療法　実践編 －有酸素運動について－	理学療法士	服部玄徳	25
10	糖尿病の薬について　～注射編～	薬剤師	森田亜記	26
	糖尿病とフットケア ～いつまでも自分の足で歩くために～	保健師	酒井菜穂子	25
11	災害への備え	総合内科医師	髙原良典	24
	糖尿病合併症について	臨床検査技師	足立健一郎	24
12	ストレスと糖尿病	臨床心理士	宮坂なつ花	30
	運動療法 実践編 ～レジスタンス運動について～	理学療法士	船津和幸	33
			合計	503

4. 今後の目標

1）チーム連携により個別に最適な医療を提供する

2）紹介、逆紹介、講演会を通じて病診連携を推進する

3）チーム医療に精通した後進を育成する

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

9）脳神経内科

脳神経内科部長　辰己　新水

1. 概要

脳神経内科疾患全般を扱っております。

2. メンバー構成

常　勤：辰己　新水
非常勤：岡本　光佑
　　渡辺　徹也

3. 実績

主要な疾患は、下記の通りです。（辰己医師、2022 年 1 月～ 2022 年 12 月の期間の新規登録患者）

疾患カテゴリー	症例数	疾患カテゴリー	症例数
神経変性疾患	33	筋疾患	7
感染性神経疾患	21	神経筋接合部疾患	5
代謝・中毒性神経障害	21	末梢神経障害 （脳神経障害を含む）	15
てんかん・けいれん	31		

4. 今後の目標

常勤医一人の体制でご迷惑をおかけするかもしれません。今後ともどうかよろしくお願いいたします。

10）膠原病リウマチ内科

膠原病リウマチ内科　吉崎　和幸

1. 概要

当診療科は2008年5月に発足した診療科で、15年が経過しました。内科疾患の中で、特に関節リウマチと全身性エリテマトーデスなど膠原病・リウマチ疾患を中心に診療しています。その他、血管炎症症候群やベーチェット病、免疫不全症、キャッスルマン病、更に不明熱も診療しています。診断が困難な患者様もご紹介下さい。

2. メンバー構成

本診療科は医師のみならず、薬剤師や看護師、理学療法士、そして医師事務作業補助者のチーム連携によって緻密な治療を包括的に行っています。患者様に「安心して生命をまかせられる医療」を提供できるよう日々精進しています。このため患者様は当診療科を安心し、信頼して頂いた上でご受診下さっていると考えております。

診療担当医と外来診療日

吉崎和幸（非常勤）　:水曜日（午前9：00 － 12：00）

八木田正人（非常勤）:水曜日、金曜日（午前9：00 － 12：00）

3. 実績

年月を経るごとに患者数が増加し、周辺医療機関にもその存在が定着しています（表1）。膠原病リウマチ内科は、生物学的製剤治療を含めた先端医療を行っております。その結果、より高度で有効な治療を推進し、著しい治療効果が認められています。患者の満足度は高く、安全性にも十分配慮しているので、患者様のほぼ全員が安心して本院での治療を継続しています。

現在、膠原病・リウマチ診療においては、東大阪、八尾、柏原地域の中心的診療病院として活動しております。このため、大阪市内の病院あるいは大学病院に通院していた患者様が当院に受診するようになっております。

4. 今後の目標

「免疫介入治療センター（仮称）」は原田病院長の援助のもと八尾徳洲会総合病院をはじめ、吹田徳洲会病院にも分室を設立し、徳洲会病院組織の共通治療センターとして展開できるよう努めております。新規治療薬も積極的に導入しております。また、共通医療が出来る体制の構築を予定しており、より患者様にとって安全安心の医療をご提供できるよう努めていきます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

11）小児科

小児科部長　石垣　早知子

1. 概要

今年も常勤医１人体制で継続診療中です。小児科としては多職種連携と情報交換の為に月１回院内小児科委員会を開催し、種々の問題に対応し、最新の小児科情報を共有しています。また大阪府発達障がい対応登録施設に登録しています。アレルギー学会準教育施設登録施設としてもアレルギーの勉強のできる対応を心がけております。

2. メンバー構成

一般外来の他、発達とアレルギー、心身症について石垣は月曜から土曜まで外来を行い併存疾患への対応も心がけています。アレルギー学会専門医や子どもの心の相談医、ICD（感染対策）等の資格を取得し、多岐にわたる患者の診療を続け、入院患者も受け入れています。また大阪医科大学より診療の援助を頂いています。月曜は松村先生（一般小児と小児腎外来と午後予防接種も担当)、木曜は新田先生、金曜は清水先生（毎週午前一般小児と小児循環器を主に第１、３金曜午後)、土曜は小武内先生 (女性医師)、小児神経も土曜ほぼ毎週七里先生が担当しています。神原先生は火水の午後、木曜の夕診に主に心身症と発達心理等の予約診療を行っています。予防接種は月曜日午後と木曜夕診に行っています。金曜午後に乳児健診も行っています。小児関連では他科との交流も盛んで、特に虫垂炎疑いなどの小児外科疾患については互いに連携しています。石垣は成人アレルギー疾患についても舌下免疫療法やアレルギー相談を中心として診療を行っています。

3. 実績

コロナウイルス感染症対策が必要とされる現状に対しては、外来レイアウトの他、感染対策に留意し、通常外来運営を維持できるよう努力しています。

入院の受け入れは肺炎など一般疾患が中心ですが、時には心身症などの疾患も入院して加療を行っています。起立性調節障害では現在点滴療法の検討が盛んに行われています。当科でもマニュアルとまでは行きませんがある程度対応しています。また引き続き医療だけでなく各種ケアも行っています。小児の言語発達遅滞など発達障害に対して言語聴覚士（ST）が評価および訓練を行っており、また小児心療内科として、臨床心理士３名（朴先生、高橋先生、宮坂先生）がカウンセリングや心理治療を行っています。大阪府発達障がい支援施設の登録施設になったためもあり以前より成人の発達に対応しているリハビリ科とも連携しています。

小児科外来横には八尾市の委託事業でもあるもこもこ病児保育室があり、保育師とともに外来看護師が、看病できない保護者にかわって子どもたち（病児）のケアを例年コロナ前は年間1000 人以上受け入れています。今年度は、コロナウイルス対策に留意し感染対策と受け入れ体制に工夫をしながら、できるだけ安全安心の病児保育受け入れをできるよう努力されています。そのため以前ほどは受け入れられないのですが、職員で誠心誠意対応しています。院内の看護師、医師、コメディカルの就業支援にも役立っていますが、広く開放し育児支援の役割も担っています。参加している全国病児保育協議会は広く病児のために啓蒙活動しています。

ほかに石垣は奈良リハビリテーション専門学校、小阪看護専門学校に小児科関連の講義に求めに応じて出張したりなど地域の小児科関連での活動援助を行っています。

大阪健康安全基盤研究所（旧大阪公衆衛生研究所）と府、国の感染対策の連携も取り、感染症の定点報告機関としての役割を果たしています。中河内地区として、八尾市のみならず東大阪市や柏原市とも連携しています。環境感染学会など感染症関連学会にも所属し、ICD としても感染対策室とでコロナ対応、新型インフルエンザ訓練などの院内外の感染対策に寄与しています。他に院内外の講習会で講演を行っています。徳洲会病院としても小児科部会として全国で交流し症例報告や外部からの講演会も行われています。

《外来患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
799	866	816	777	818	795	1,158	1,016	879	993	1,036	963	10,916	909.7

4. 今後の目標

今後も小児の心身の健康と成長に必要な小児診療を発展させ、新しい情報を保護者様たちの為にも役立てたいと考えています。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 42
糖尿病 代謝内科 43
脳神経内 45
膠原リウ 46
小児科 47
放射診科 49
救急科 50
外　科 53
整形外科 55
脳神経外 58
心臓血管 心臓血セ 60
形成外科 美容外科 63
呼吸器外 65
小児外科 66
歯　科 歯科口腔 69
泌尿器科 71
眼　科 72
麻酔科 74
肝臓セン 76
皮膚科 80
婦人科 81
耳鼻咽喉 84
病理診断 86

12）放射線科（診療部）

放射線科部長　津島　寿一

1. 概要

放射線科ではCT，MRI，RI，消化管造影、マンモグラフィーと一部の単純写真の読影、一部の消化管造影の施行、腹部四肢の血管造影とIVR、放射線治療を主に担当しています。各診療科や近隣の病院、診療所と連携し、各種画像診断、IVRや放射線治療を迅速かつ適切・正確に実施することに努めています。

2. メンバー構成

画像診断・IVR部門：常勤医3名（岩崎聖　津島寿一　兵頭公一）　非常勤医16名
放射線治療部門　　：常勤医1名（梶谷千香枝）、非常勤医2名
上記のうち、診断専門医10名、IVR専門医2名、治療専門医3名、検診マンモグラフィー読影認定医4名（従事2名）

3. 実績

① CT,MR,RI,GIの読影件数　約50,350件/年
② IVR件数　78件/年
③放射線治療（新患人数）143人/年

4. 今後の目標

画像診断･IVR部門では、現状の常勤医師のみでは不足で、非常勤医師とタッグしています。2021年1月に16列CTがキャノン320列に更新され、検査数がアップし、さらに今年にもう1台のCTも更新され、検査数が増加しています。

放射線治療部門では、2014年1月から常勤の放射線治療専門医1名体制で行っていますが、引き続き大学からの応援と遠隔システムを利用し、安全で有効な放射線治療を各診療科と協力して遂行していきます。

日本医学放射線学会専門医修練機関に認定されており、研修医の教育にも力を入れていきたいと考えています。

13）救急科

救急センター長　村尾　佳則

1. 概要

当院は、415 床の急性期病院として、年間 7000 ～ 8000 件の主に中河内地区を中心とした救急搬送を受け入れており、年々件数は増加している。当院方針である「断らない医療の実践」のため、24 時間を通して対応できる体制をとっている。近隣施設より病診連携室経由で急性期疾患を紹介いただき救急搬送される場合は当科を窓口に受け入れ、積極的に初期対応を行っている。また、新型コロナウイルス感染症による度重なる緊急事態宣言や発熱患者の増多に対し、発熱対応エリアを作成し通常疾患患者とエリア分けして初期対応にあたっている。

救急科専門医養成基幹施設に登録：八尾徳洲会総合病院は中河内地区の 2 次医療機関であるが、約 8,000 例の救急搬送件数を受け入れていることもあり、2023 年度よりの救急科専門医の専攻医募集を始めた。プログラムの特徴は、3 次医療機関である岸和田徳洲会病院、湘南鎌倉総合病院、宇治徳洲会病院、2 次医療機関として野崎徳洲会病院を含む徳洲会グループの施設に加えて 3 次医療機関の基幹施設として奈良県立医科大学高度救命救急センター、近畿大学病院救命救急センター、さらに国立病院機構大阪南医療センター、共愛会病院、名瀬徳洲会病院、徳之島徳洲会病院を連携、関連施設としている。

2. メンバー構成

村尾　佳則　救急センター長

救急科専門医・指導医、外科専門医・指導医、熱傷専門医、外傷専門医、社会医学系専門医・指導医、日本救急医学会功労会員、日本外傷学会名誉会員、第 32 回日本外傷学会会長（2018 年）、日本熱傷学会名誉会員、第 46 回日本熱傷学会会長（2020 年）、日本腹部救急医学会特別会員、日本臨床外科学会評議員、日本臨床救急医学会評議員・副編集委員長、日本 Acute Care Surgery 学会評議員、日本ショック学会理事・評議員、日本災害医学会評議員、近畿外科学会特別会員、臨床研修指導者、救急科専門医プログラム統括責任者、日本 DMAT 隊員、日本 DMAT 統括

海外：ISS/SIC,IATSIC member, American Association for the Surgery of Trauma（AAST）, Shock Society（米国）member

阿部　祐子　救急総合診療部医長

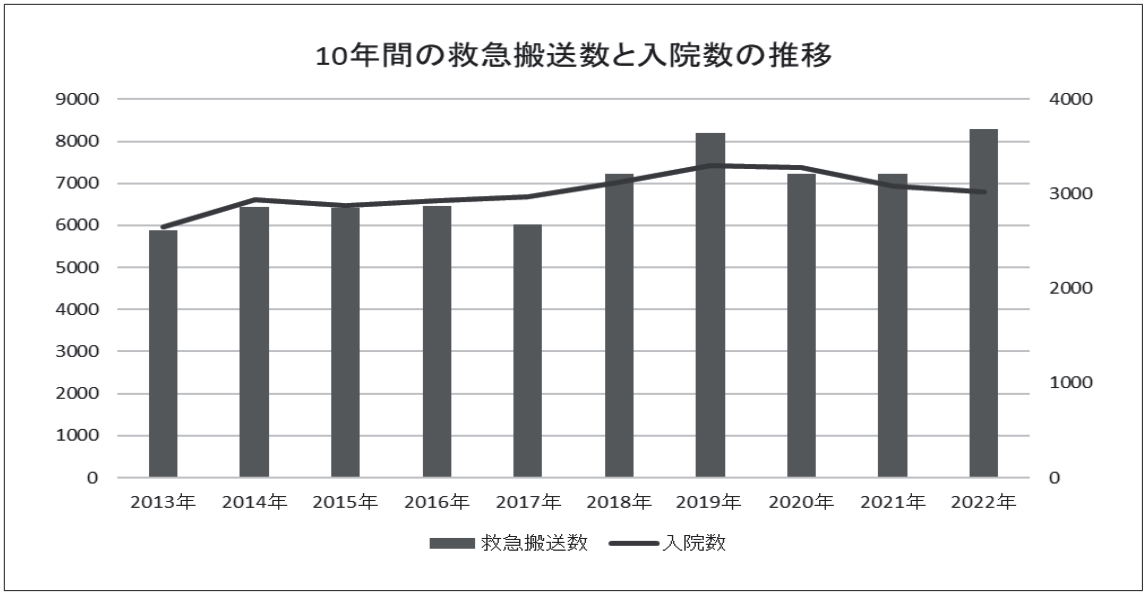
ICLS インストラクター、ABLS インストラクター

日本 DMAT 登録隊員、日本医師会認定産業医

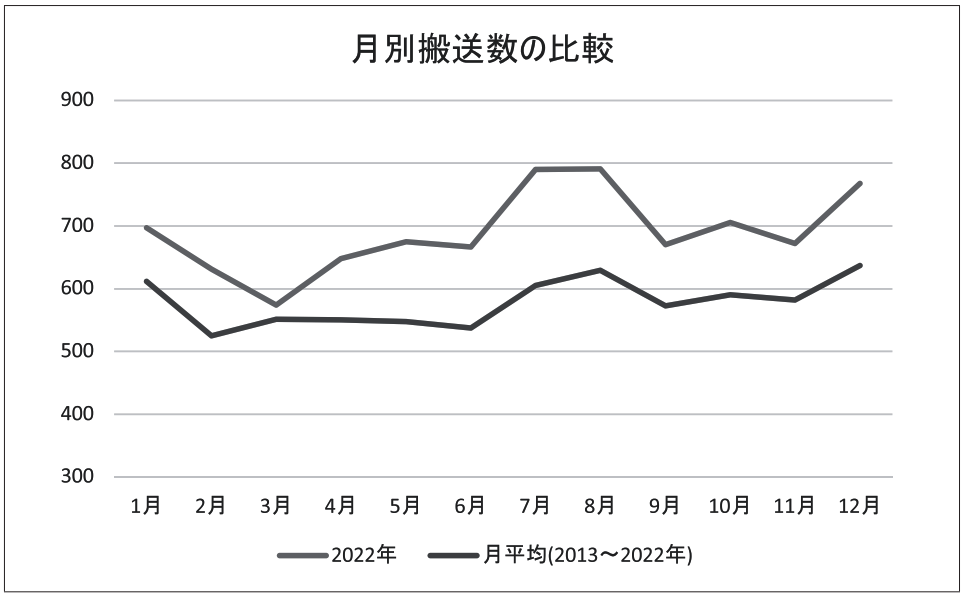
内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

3. 実績

救急搬送数は今年も新型コロナウイルス感染症の影響があったにもかかわらず、昨年より増加した。コロナ病床による制限などもあり入院率は昨年よりやや減少した。



また月別搬送数において、年々増加傾向にあり、やはり年末の搬送数が増加した。過去 10 年間の月平均数よりも大幅に増加している。



なお、ここでいう救急搬送数は、当院2階救急外来で受け入れし診察した件数である。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
搬送数	697	631	574	648	675	667	790	791	670	706	672	768	8,289
外傷搬送	156	156	143	203	210	202	182	161	178	217	210	227	2,248
紹介搬送	57	57	49	51	61	72	72	62	44	52	66	84	722
CPA搬送数	27	27	20	18	12	12	12	23	19	8	21	24	218

上記のように毎月約10%以上、病診連携を通して他病院から各科への紹介救急搬送の初期対応を救急外来で行っている。

心肺停止症例は毎月約10例搬送されており、蘇生後低酸素脳症に対し、積極的に脳低温療法を取り入れるようにしている。

4. 今後の目標

本年も昨年同様、「断らない医療の実践」を目標に、医療ガイドラインに沿った安全、安心の医療を提供するとともに、初期研修病院として研修医、救急科専攻医の育成さらに地域のメディカルコントロール体制を充実することにより中河内地区の救急災害医療の充実に努めたい。

また年々救急搬送件数が増加傾向にあり、お断り件数を減少させるために60床の増床を計画しておりICU、HCU、感染症病棟を増設する予定である。また、救急医募集中である。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 42
糖尿病 代謝内科 43
脳神経内 45
膠原リウ 46
小児科 47
放射診科 49
救急科 50
外　科 53
整形外科 55
脳神経外 58
心臓血管 心臓血セ 60
形成外科 美容外科 63
呼吸器外 65
小児外科 66
歯　科 歯科口腔 69
泌尿器科 71
眼　科 72
麻酔科 74
肝臓セン 76
皮膚科 80
婦人科 81
耳鼻咽喉 84
病理診断 86

14）外　科

外科部長　村上　修

1. 概要

コロナ禍の中で消化管を中心に乳腺甲状腺ヘルニア、緊急手術などが多く鏡視下手術を積極的に行ってきました。高齢化社会の中で基礎疾患のあるリスクの高い悪性腫瘍の患者が増加してきている印象でした。低侵襲治療として経肛門内視鏡手術の導入、手術合併症対策、緩和ケア、化学療法等含めた個別化医療をすすめてきました。地域中核病院として社会への貢献、手術件数はやや増加傾向となっております。女性医師が2人加わり、厚みのある外科診療ができるようになってきました。常勤医が不在であった徳之島徳洲会病院外科の応援を、2019年より当病院で継続しております。外科系他科とも連携して、教育にも力を入れ個人とチームの更なるレベルアップを進めていきたいと思います。今年度末よりようやくロボット手術（大腸・直腸）を初めました。

2. メンバー構成

村上　修　（部長）／日本外科学会専門医
遠藤　幸丈（部長）／日本外科学会専門医
豊田　亮　（医長）／日本外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定
垣本　佳士（医長）／日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医療機構認定医
大田　修平（医長）／日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本がん治療認定医療機構認定医、ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定、ACLS・BLSプロバイダー、Diploma in Tropical Medicine
松岡　信子（医長）／日本外科学会専門医、日本救急医学会専門医、JATECインストラクター、JPTECプロバイダー、ITLSプロバイダー、MCLSプロバイダー
堤　綾乃　／日本外科学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本がん治療認定医療機構認定医
服部　彬　／日本外科学会専門医
小池　廣人　／日本外科学会専門医、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定
八田 康佑　（専攻医）
森本 大樹　（専攻医）

3. 実績

《外科手術件数》

	2020年	2021年	2022年
食道	6	9	2
胃切除・胃全摘（腹腔鏡下）	20	65	61
胃切除・胃全摘（開腹）	20	9	18
腹腔鏡下胆摘（四孔式）	93	213	191
腹腔鏡下胆摘（単孔式）	0	0	0
膵頭十二指腸切除	0	12	9
膵体尾部切除	1	4	11
肝切除	0	37	33
虫垂切除（腹腔鏡下）	66	89	95
虫垂切除（開腹）	4	2	0
結腸切除（腹腔鏡下）	82	78	80
結腸切除（開腹）	24	9	12
直腸切除・切断（腹腔鏡下）	24	31	32
直腸切除・切断（開腹）	1	4	1
鼠径部ヘルニア修復（腹腔鏡下）	85	110	125
鼠径部ヘルニア修復（鼠径部切開）	34	15	35
肛門疾患（内痔核硬化療法等）	29	34	28
乳房腫瘤・乳がん	21	27	29
その他	249	406	354
呼吸器外科	0	124	127
ロボット支援			1
手術件数	759	1,278	1,244

4. 今後の目標

患者の利益のため QOL 向上のために正しい手術、周術期管理を丁寧に行っていきます。そして、救急疾患をはじめ癌の包括的な治療まで地域医療の充実のために外科医としての責務を果たしていきます。

また、個々に成長することも目標とし、学会活動も積極的に行っていきます。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 42
糖尿病 代謝内科 43
脳神経内 45
膠原リウ 46
小児科 47
放射診科 49
救急科 50
外　科 53
整形外科 55
脳神経外 58
心臓血管 心臓血セ 60
形成外科 美容外科 63
呼吸器外 65
小児外科 66
歯　科 歯科口腔 69
泌尿器科 71
眼　科 72
麻酔科 74
肝臓セン 76
皮膚科 80
婦人科 81
耳鼻咽喉 84
病理診断 86

15）整形外科

整形外科部長　當麻　俊彦

1. 概要

スタッフ 4 名で日々の整形外科診療にあたっております。外来は午前診が毎日、夕診は週 2 日（火・木）の 2 診体制で行っております。整形外科当直を行い、救急診療科と連携して 365 日 24 時間体制で整形外科救急疾患の受け入れを、また、麻酔科の協力を得て緊急手術の受け入れ態勢を整えております。入院されました患者様は 44 床の整形外科病棟（6 階西）で治療にあたっております。

スタッフ人員減にともないパワーダウンは否めませんが、手術件数は 2022 年は年間 1110 件でした。骨折・外傷疾患の手術が多く、中でも高齢者の骨折手術が多くみられ、合併症を持つ患者様もできるだけ受傷前の状態に回復できるように院内他科、および近隣の回復期リハビリ病院様の協力も得て手術治療を行っております。また、人工関節手術は年間 61 例（股関節 24 例、膝関節 37 例）、脊椎外科手術は 169 例の手術をこなし、手外科症例は 284 例と安定した成績をあげております。

また､患者様のニーズに応えるべく専門外来も開設しております。長谷川が骨粗鬆症外来（毎週木曜日 10:00 ～ 12:00）を、當麻は脊椎外来（毎週木曜日 10:00 ～ 12:00、予約制）を、土肥は手の外科・四肢外傷外来（毎週月曜日 14:00 ～ 16:00、予約制）を担当しております。

2. メンバー構成

顧問	長谷川　潔	専門：人工関節外科、骨粗鬆症
診療部長	當麻　俊彦	専門：脊椎外科、災害医療
医長	土肥　義浩	専門：手外科
医長	三木　秀賢	専門：人工関節外科

3. 実績

《手術件数》

分野	各手術	コメント	件数
脊椎 1	頚椎後方	形成術、除圧術、ヘルニア摘出術	13
		固定	4
	頚椎前方	除圧	1
		固定	9
	胸腰椎後方	形成術、除圧術、ヘルニア摘出術	71
		固定（椎体間固定、後側方固定）	61
	胸腰椎前方	除圧	0
		固定	2
	胸腰椎（前方＋後方）	前方+後方同時手術	0
	脊椎腫瘍手術		0
	脊椎外傷手術		0
	抜鋼術		2
	その他の手術	BKP、感染など	6
合計			169

分野	各手術	コメント	件数
骨盤 2	1 骨盤骨折観血的整復固定術		1
	2 抜鋼術		1
	3 その他の手術		0
合計			2
股関節，大腿骨 3	1 大腿骨頸部骨折　観血的整復固定術	内側骨折・転子間骨折など	48
	2 大腿骨頸部骨折　人工骨頭置換術	人工骨頭	98
	3 大腿骨骨幹部骨折観血的整復固定術		117
	4 人工股関節置換術（初回 THA）	初回例です	24
	5 人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	1
	6 人工股関節置換術（再置換術）	再置換例です	0
	7 臼蓋形成術（Shelf, Chiari, RAO など）		0
	8		0
	9 小児股関節脱臼手術		0
	10 抜鋼術		6
	11 その他の手術		5
合計			299
膝関節，下腿骨 4	1 膝関節周辺骨折（膝蓋骨も含む）	膝蓋骨骨折	21
	2 下腿骨骨折観血的手術		16
	3 人工膝関節置換術（初回 TKA）	初回例です	37
	4 人工膝関節置換術（再置換術）	再置換例です	0
	5 人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	3
	6 関節鏡（簡単なもの）	検査を主体とするもの	2
	7 関節鏡（複雑なもの）	半月板・滑膜切除など	3
	8 靭帯再建術（鏡下も含む）	陳旧例に対する再建術	0
	9 高位脛骨骨切り術		0
	10 抜鋼術		21
	11 その他の手術		4
合計			107
足関節，足部 5	1 足関節周辺骨折観血的整復固定術	踵骨骨折も含む	28
	2 足趾骨折観血的整復固定術		8
	3 人工足関節置換術		0
	4 足関節固定術		0
	5 足関節滑膜切除術		0
	6 アキレス腱縫合術		5
	7 足関節周辺靱帯縫合 , 再建術		0
	8 外反母趾手術		0
	9 足趾関節形成術	（外反母趾を除く）	0
	10 先天奇形手術		1
	11 内反足手術		1
	12 抜鋼術		15
	13 その他の手術		1
合計			59
鎖骨，肩関節 6 上腕	1 鎖骨・肩鎖関節周辺外傷に関する手術	骨折と靱帯損傷の修復手術	38
	2 上腕骨頚部骨折観血的整復固定術	骨接合術	17
	3 上腕骨骨折観血的整復固定術	頚部骨折以外の症例	25
	4 人工肩関節置換術		0
	5 肩板断裂手術		0
	6 反復性脱臼手術		0
	7 抜鋼術		22
	8 その他の手術		2
合計			104
肘関節，前腕 7	1 肘関節周辺骨折観血的整復固定術	Montegia 骨折を含む	15
	2 前腕骨骨折観血的整復固定術		3

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

分野	各手術	コメント	件数
	3 肘関節滑膜切除術 , 関節形成術		0
	4 人工肘関節置換術		0
	5 抜鋼術		9
	6 その他の手術		1
合計			28
手関節，手 8	1 手関節周辺の観血的整復固定術	コーレス骨折，手根骨骨折を含む	68
	2 手指の骨折・靱帯損傷手術	骨折・靱帯手術	73
	3 手関節滑膜切除術 , 関節受動・形成術	手根骨部分固定も含む	10
	4 指関節滑膜切除術 , 関節受動・形成術		5
	5 腱鞘切開術	バネ指，デケルバンなど	47
	6 腱縫合術・移植・移行・腱剥離術	腱の手術	16
	7 重度外傷手術	再接着含む	0
	8 抜鋼術		53
	9 その他の手術		12
合計			284
神経の手術 9	1 尺骨神経剥離術（前方移行 ,King 等）		4
	2 手根管解放術（正中神経剥離術）		25
	3 梨状筋症候群手術		0
	4 その他 剥離 , 縫合 , 移植（上肢）		0
	5 その他 剥離 , 縫合 , 移植（下肢）		0
合計			29
腫瘍の手術 10	1 骨腫瘍　良性　　四肢		1
	2 骨腫瘍　悪性　　四肢		0
	3 骨腫瘍　良性　　脊椎・骨盤・躯幹		0
	4 骨腫瘍　悪性　　脊椎・骨盤・躯幹		0
	5 骨腫瘍生検術		4
	6 軟部腫瘍　良性　　四肢		15
	7 軟部腫瘍　悪性　　四肢		0
	8 軟部腫瘍　良性　　脊髄		2
	9 軟部腫瘍　悪性　　脊髄		0
	10 軟部腫瘍生検術		0
合計			22
筋性斜頸 11	1 腱切り術		0
植皮，移植 12	1 複合組織移植 , 遊離皮弁		0
	2 有茎皮弁		4
	3 遊離植皮		0
四肢切断術 13	1 上肢	手指を除く	0
	2 手指		0
	3 下肢	足趾を除く	0
	4 足趾		0
	5 その他の部位		0
その他の手術 14	1 上記に分類されない手術		3
total　手術件数			1,110

4. 今後の目標

地域の基幹病院として外傷のほかに変性疾患等への対応に力を入れるだけでなく、研修会開催等にて近隣整形外科病院・クリニックの先生方との交流を深める機会を設けて病診連携機能の強化を図って参ります。また、公開医療講座、健康祭等にて整形外科疾患の治療・予防に関する情報を地域の方々に発信していきます。

16）脳神経外科

脳神経外科部長　吉村　政樹

1. 概要

われわれ脳神経外科は脳および脊髄神経を守ることを目的としています。突然の麻痺や呂律障害で発症する脳卒中の方の救急対応をはじめ、顔や手足の痛み・しびれ感や、ふらつきなどの症状がおありの方に対して、脳から脊椎脊髄疾患を想定した診断と治療を提供します。

脳卒中では、ホットライン対応により、急性期脳卒中の受け入れを 24 時間体制で行なっています。一次脳卒中センターとして、超急性期血行再開通療法（t-PA 静注療法および血栓回収療法）を積極的に行なっています。脳動脈瘤や血管狭窄症に対しては、外科治療と血管内治療の適応を適切に判断し治療に当っています。

脊椎疾患においては､顕微鏡手術による神経への愛護的手技を行うと共に､筋組織へのダメージが少ない低侵襲手術により、神経機能回復と筋運動機能温存の両立を目指しています。2018 年からは最小侵襲手技である内視鏡下腰椎椎間板手術を開始し、痛みの少ない治療を提供しています。

高難度な頭蓋底腫瘍手術や下垂体腺腫など、当院としては希少な疾患の手術では、大阪公立大学脳神経外科と連携し、共同で対応できるよう体制を整えています。

2. メンバー構成

吉村　政樹（部長）	日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脊椎脊髄外科専門医、日本脊髄外科学会認定医、日本脳卒中学会専門医、日本脳卒中の外科学会技術認定医、日本神経内視鏡学会技術認定医、がん治療認定医
中西　勇太（医員）	日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医
小林　和貴（医員）	日本脳神経外科学会専修医（2022 年 10 月～）

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 42
糖尿病 代謝内科 43
脳神経内 45
膠原リウ 46
小児科 47
放射診科 49
救急科 50
外　科 53
整形外科 55
脳神経外 58
心臓血管 心臓血セ 60
形成外科 美容外科 63
呼吸器外 65
小児外科 66
歯　科 歯科口腔 69
泌尿器科 71
眼　科 72
麻酔科 74
肝臓セン 76
皮膚科 80
婦人科 81
耳鼻咽喉 84
病理診断 86

3. 実績

《入院患者数》 853 例（2022 年）

《手術件数》 2022 年 1 月～ 12 月

術式	件数	術式	件数
頭部疾患関連外科手術	163	脊椎疾患手術（合計）	44
動脈瘤開頭手術	5	頸椎前方除圧術	6
開頭脳内血腫除去術	13	頸椎後方除圧術・固定術	18
脳動静脈奇形的手術	3	胸椎・腰椎後方除圧術	9
脳血管バイパス手術	8	全内視鏡下手術（FESS）	5
脳腫瘍摘出手術	12	経皮的椎体形成術	3
脳腫瘍生検術	4	脊椎・脊髄・末梢神経腫瘍摘出	3
頭部外傷　開頭術	13	血管内手術（合計）	105
慢性硬膜下血腫穿頭ドレナージ術	63	急性期再開通療法	35
水頭症手術	20	脳動脈瘤塞栓術	29
		頸部血管形成術（CAS）	29
その他	22	動脈塞栓術	12
		合計	312

4. 今後の目標

適切な診断と、適切な治療適応の判断を徹底し、それぞれの患者様に最も適したやさしい治療をモットーに診療します。当院の最大の特徴である急性期脳卒中治療に関しては、血管内治療環境や CT 装置の更新による診断能力向上などハード面の充実とともに、ER や放射線科、ME スタッフのご協力の下、安定した治療サービスの提供が行えるようになっております。今後は院内全スタッフへの啓蒙を行うことで、盲点になりがちな院内発症の脳卒中診療のスピードアップを図りたいと思います。 脳卒中を疑えば､脳卒中ホットラインと共に院内脳外科ホットライン（PHS3151）を活用ください。

脊椎脊髄疾患については、脳神経疾患との鑑別を含めた診断、脊椎アライメントを重視した姿勢管理、筋組織へのダメージを最小限に抑えた低侵襲手術（全内視鏡下手術を含む）を軸に診療を行って参ります。

17）心臓血管外科・心臓血管センター

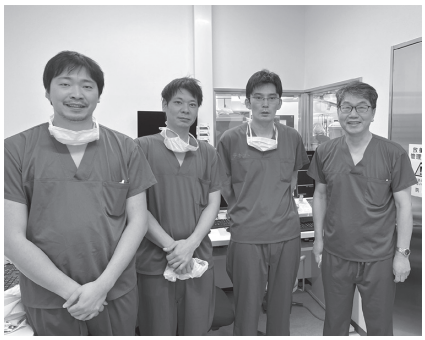
心臓血管外科　主任部長・心臓血管センター長　内田　直里

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

1. 概要

今の体制になり 4 年、また心臓血管センター開設から 2 年目になりました。メンバーは 4 月に岸和田徳洲会から春日医師を新たに迎え、4 人体制となりました。日頃から循環器科と密な関係を維持し、また手術部をはじめ集中治療部および ER ／ ICU ／ HCU・病棟・リハビリ・薬剤部とも良好な連携を図り、循環器系の地域医療に貢献することができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。より一層の連携を深め、さらに地域医療に微力ながら貢献し続けたと考えています。

2022 年の手術件数は、ステントグラフト手術 76 例、開心術 112 例、手術件数計 359 件と、昨年とほぼ同数を維持しました。



施設認定

・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
・日本ステントグラフト実施基準管理委員会　腹部・胸部ステントグラフト実施施設
・日本脈管学会認定研修指定施設
・IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
・下肢静脈瘤血管内治療実施委員会認定実施施設

2. メンバー構成

主任部長：内田直里　1988 年広島大学卒業
外科専門医・指導医、心臓血管外科学会専門医・修練指導医、
胸部ステントグラフト指導医、下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医
血管外科学会評議員、脈管学会評議員、臨床外科学会評議員、関西胸部外科学会評議員
European Association Cardiothoracic Surgery; Assistant Editor

部　　長：薦岡成年　2003 年防衛医科大学卒業
外科専門医、心臓血管外科専門医、循環器専門医、脈管専門医、
ステントグラフト指導医、TAVI 指導医

医　　長：小島三郎　2012 年広島大学卒業
外科専門医

医　　員：春日健介 2016 年滋賀医科大学卒業
外科専門医（2022 年取得）、心臓血管外科専門医（2022 年取得）

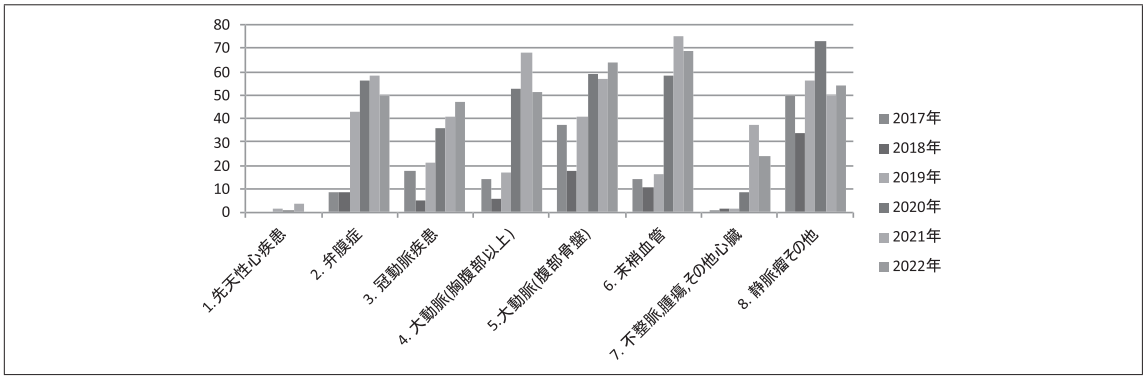
3. 実績

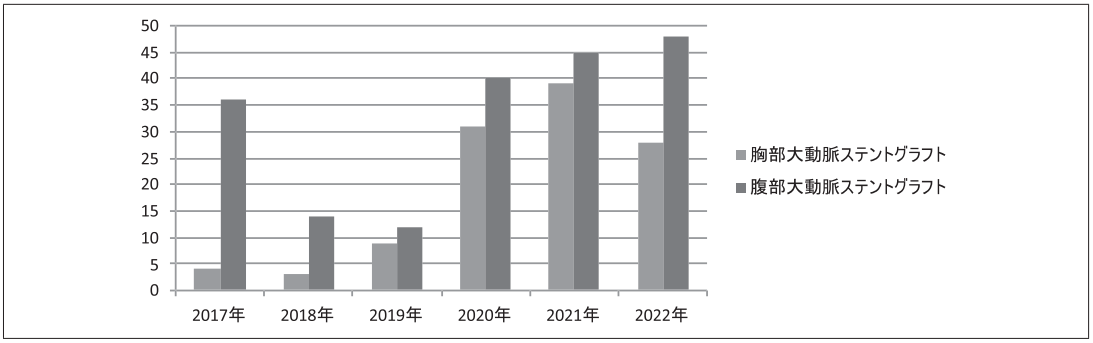
手術件数

年	腹部ステントグラフト	胸部ステントグラフト	計
2010	22	8	30
2011	43	31	74
2012	24	12	36
2013	40	7	47
2014	23	10	33
2015	31	5	36
2016	26	7	33
2017	36	4	40
2018	14	3	17
2019	12	9	21
2020	40	31	71
2021	45	39	84
2022	48	28	76
合計	404	194	598

全心臓血管手術（重複例あり）	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
1. 先天性心疾患			2	1	4	
2. 弁膜症	9	9	43	56	58	50
3. 冠動脈疾患	18	5	21	36	41	47
4. 大動脈（胸腹部以上）	14	6	17	53	68	51
5. 大動脈（腹部骨盤）	37	18	41	59	57	64
6. 末梢血管	14	11	16	58	75	69
7. 不整脈 , 腫瘍 , その他心臓	1	2	2	9	37	24
8. 静脈瘤その他	50	34	56	73	50	54
合計件数	143	85	198	345	390	359
		2019 年 9 月から新体制				
主要心臓大動脈手術（重複例あり）	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
1. 先天性心疾患			2	1	4	
2. 弁膜症	9	9	43	56	58	50
3. 冠動脈疾患	18	5	21	37	41	47
4. 大動脈（胸腹部以上）	14	6	17	53	68	51
5. 不整脈、腫瘍、その他心臓		2	2	9	37	24
合計件数	41	22	85	156	208	172

ステントグラフト手術	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
胸部大動脈ステントグラフト	4	3	9	31	39	28
腹部大動脈ステントグラフト	36	14	12	40	45	48
経カテーテル的大動脈弁置換術	0	0	0	0	0	0
合計件数	40	17	21	71	84	76





・弁膜症手術：目標であったTAVI認定施設の取得は残念ながら達成できなかった。そのため、高齢者の大動脈弁膜症カテーテル治療は、薦岡医師が岸和田徳洲会病院に出張手術する形を継続した。2022年の当院での弁膜症手術数は若干の減少となった。ただ若手医師の執刀件数を増やす目標は達成でき、単弁置換術の多数と標準的な僧帽弁形成術の数例を若手医師が執刀した。
・冠動脈バイパス術：毎年微増している。主たる要因は、循環器科のPCI件数の増加だと考えているが、他院の循環器科からの紹介も数例あり、さらに増加する様に努力したい。また多くの症例で若手医師が執刀した。
・急性A型大動脈解離：心臓血管センターの開設に伴い、急性大動脈解離の院外紹介が緩やかではあるが増加している。手術は、ほぼ全例に若手医師が執刀し、良好な成績を残せたことは、満足できる点であった。ただコロナの影響で、ERでの対応不可や手術室満室などの理由で、緊急を断る件数もあったことが課題として残った。
・ステントグラフト：suture deviceを用いた経皮的ステントグラフト手術を標準術式にすることで、全く切開しない穿刺のみによる動脈瘤手術を完遂することができ、負担の少ない動脈瘤治療が達成できた点は大きな進歩であった。また以前から薦岡部長が主導で行っている、解離性動脈瘤に対する血管内治療は良好な治療成績を維持している。その結果をヨーロッパ最高峰のEACTS（胸部心臓血管外科学会）で発表する機会を得ることができた。また単純なステント-グラフト手術の多くは若手医師が執刀した。
・末梢動脈：ほぼ全例若手医師が執刀した。また下肢静脈瘤の血管内治療を再開した。

4. 今後の目標

心臓血管外科スタッフ４名（うち心臓血管外科専門医３名、外科専門医４名）となり、本年度はTAVI（カテーテルによる大動脈弁置換術）の認定施設を取得したいと考えています。また循環器科、コメディカルと共同し、病診連携にさらに力を注ぎ、中河内地区の循環器系での地域医療に貢献したいと考えていますので、本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管心臓血セ　60
形成外科美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

18）形成外科・美容外科

形成外科・美容外科部長　綾部　忍

1. 概要

当科は、常勤 5 名で診療しています。2008 年より日本形成外科学会認定施設、現在は大阪公立大学形成外科の専門研修連携施設となっています。

当科の特徴としては「下肢救済治療」が挙げられます。

2009 年に米国足病医と連携し下肢切断を防ぐことを目的とした「創傷ケアセンター」を開設し、現在では日本で最も治療件数の多い施設となりました。閉塞性動脈硬化症に伴う下肢創傷の治療に力を入れており、distal bypass 術（足首付近までのバイパス術）を含めた血行再建も形成外科で積極的に行っています。血管内治療（カテーテル治療）は循環器内科で行っており、最近では足首より末梢まで血管を拡張できるようになりました。術後の潰瘍や創傷治療には積極的に陰圧閉鎖療法（NPWT）や赤外線療法を取り入れることで、より早期の離床・退院を可能にしています。

当科では装具療法にも力を入れています。他院で数回にわたる手術を受けたにもかかわらず治癒しない潰瘍でも適切なフットウェアを装着することで治癒に至る場合もあります。糖尿病や透析をされている患者様では複数の施設で連携して治療を行うのが一般的ですが、当院では関連他科の協力の結果すべての治療を行うことができ、このような施設は全国的にもほとんど見られません。

2015 年から、日本であまり行われていない「糖尿病足変形（シャルコー足など）に対する Surgical Offloading」を開始しました。足の変形に対して装具療法を行いますが、それにもかかわらず潰瘍形成を繰り返してしまう患者様に変形を矯正する手術を行うことで良好な結果を得ています。

読売新聞社より発売された「病院の実力 2014」では、血流の回復と組み合わせて傷の治療を行った患者数が全国 3 位となっており、最近では大阪府外（滋賀・三重・奈良・兵庫・和歌山）からもご紹介いただけるようになりました。糖尿病・透析患者様も多数受診され、他院で足を切断するように言われた方も歩いて帰っていただけるようチーム一丸となり治療しています。

顔面の皮膚癌、特に基底細胞癌の治療では「modified dermis graft 法」で皮膚欠損部の再建を行っています。2014 年に当院が初めて報告した方法で、周囲に新たな瘢痕を残さないことが特徴で整容的に優れており、自身で論文を検索し関東からも来院されるようになりました。

眼窩底骨折の手術では皮膚に傷を残さない「経結膜切開法」を採用しています。

2011 年より「美容外科」も開設しました。しみ・しわ・たるみ・脱毛のレーザー治療を行っています（自費診療）。

手術件数は大学病院などと比較すると多くはありませんが、患者様一人一人に対し丁寧で質の高い治療を行うよう心掛けています。

また当院は、大阪公立大学付属病院の関連病院として運営しているため、大学病院及び大学関連病院と連携をはかり、患者様にとって最良の医療を提供することが可能となっています。

2. メンバー構成

綾部忍・森川周至・松井千明・中桐由貴・打越大登の 5 名で診療を行っています。

3. 実績

2022 年度　形成外科　年間の疾患大分類別手術手技数

集計期間　2022 年 1 月 1 日～ 2022 年 12 月 31 日

形成外科　新患者数　1,304 名

形成外科　入院患者数　204 名

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	13	0	14	0	2	103	132
先天異常	2	0	3	0	0	4	9
腫瘍	40	0	8	2	3	414	467
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	2	0	0	0	0	16	18
難治性潰瘍	47	60	55	0	2	5	169
炎症・変性疾患	13	0	5	0	5	35	58
美容（手術）	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	52	0	0	74	127
Extra レーザー治療	0	0	0	0	0	0	0
計	118	60	137	2	12	651	980

4. 今後の目標

一般形成外科治療に加え、当科の特徴である下肢救済治療の分野でより高い専門性を目指し、地域貢献できればと考えています。引き続き学会発表や誌上発表も積極的に行っていきます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管心臓血セ　60
形成外科美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

19）呼吸器外科

呼吸器外科部長　市橋　良夫

1. 概要

原発性肺癌、転移性肺癌、縦隔腫瘍、気胸、膿胸などの外科的治療を基本として治療を行っている。胸腔鏡を用いて安全で低侵襲な手術を行い、患者様に寄り添う治療を心がけている。

2. メンバー構成

市橋　良夫（常勤）　日本外科学会専門医
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医

花岡　伸治（非常勤）　大阪医科大学附属病院　特任教授　呼吸器外科科長
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医・指導医・代議員
日本肺癌学会評議員

佐藤　澄（非常勤）　大阪医科大学附属病院　講師
日本外科学会専門医・指導医
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医

豊原　功侍（非常勤）　大阪医科大学附属病院　レジデント

進藤　友喜（非常勤）　大阪医科大学附属病院　レジデント

3. 実績

2022 年の呼吸器外科全身麻酔手術症例は 127 例（肺葉切除　51 例、ロボット手術 6 例）

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
181	173	205	195	234	248	214	210	222	214	221	227	2,544

4. 今後の目標

外科的治療適応の拡大を目指し、新規医療技術にも積極的に携わっていく。

昨年より手術支援ロボット（da-Vinci）の当科での導入開始、単孔式解剖学的肺葉切除術の件数拡大を目指す。

20）小児外科

小児外科部長　木村　拓也

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

1. 概要

2022 年は当院で小児外科開設後、12 年目となりました。年間の手術数から考えると、これまで約 1,100 名程度が小児の全身麻酔、手術を施行したこととなります。この 12 年間を振り返りますと、様々な症例を経験し、また無事に治療ができて、大きな合併症なく、過ごせたことに病院関係者、小児外科スタッフ、コメディカルに感謝し、また近隣の開業医からも信頼を失うことなく、患児を紹介していただけたことに深謝いたします。

当院は 6 年前より日本小児外科学会の教育関連施設（大阪大学小児成育外科学教室が母体）として認定され、若手の外科医が専門医取得を目指せる環境となっています。当院外科は新たな専門医制度のもと、基幹施設として認定されています。それに伴い、若い人材も増えて、指導体制を整えております。また当科では、3 年前より 3 人体制となり、小児外科領域の救急症例も引き続き積極的に受け入れていきます。

昨年も新型コロナの影響下にありましたが、幸い年間の全身麻酔手術症例数はコロナ前に戻りつつあります。今後も新型コロナウイルス感染症と共存していく社会を見据え、地域の「こども」たちに傷が目立たない鏡視下手術を導入し、最新で低侵襲な治療を安全に提供できるよう頑張りたいと思います。

また小児医療を担う次世代が育つように、それに伴い病棟には子供たちの笑顔があふれるように、安全に標準医療が提供できるように頑張っていきたいと思います。

2. メンバー構成

部長：木村拓也（平成 7 年）

資格：日本外科学会認定医、専門医、指導医、日本小児外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、指導医、日本総合診療医学会認定医、日本臨床栄養代謝学会認定医、日本肝臓学会認定肝臓専門医、指導医、日本移植学会認定医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員、日本臨床栄養代謝学会評議員、近畿外科学会評議員、近畿小児外科学会評議員、ICT ドクター（ICD）、外科系プログラム責任者、NST 委員長、JCI 委員長、臨床研修指導者、臨床研修プログラム責任者

医長：山中宏晃（平成 14 年）

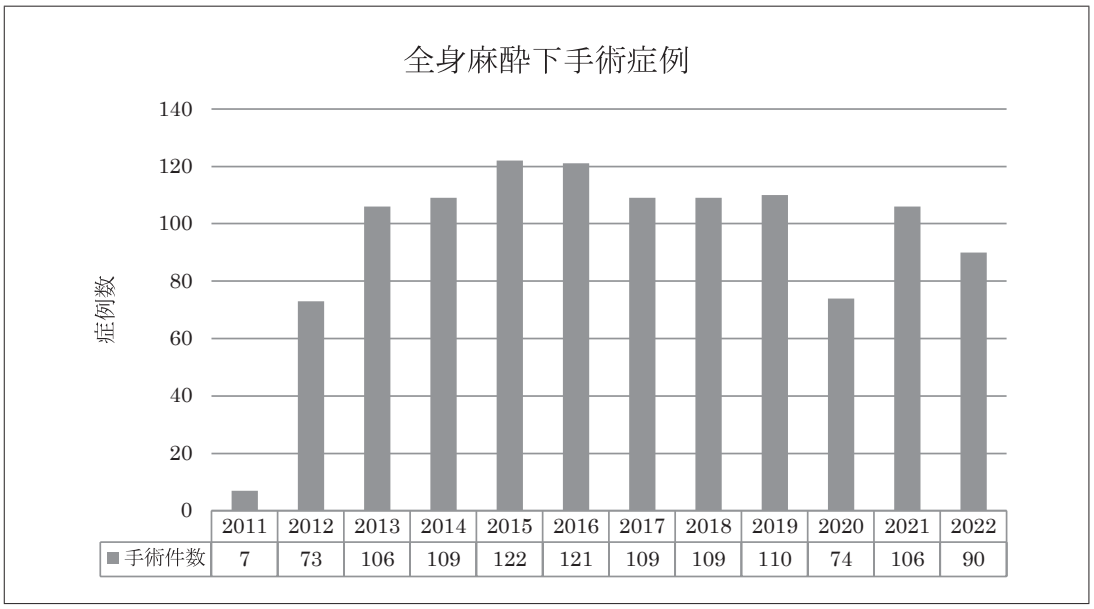
資格：日本外科学会専門医

医員：河島茉澄（平成 20 年）

資格：日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医

3. 実績

手術数の推移（2022 年度：90 例）



2022 年の手術に関する主な内容：合計 90 例

・体表疾患（10 例）

舌小帯：3 例

口腔内腫瘍：2 例

正中頸嚢胞：1 例

皮下腫瘤：1 例

副耳：1 例

外傷：2 例

・胸部疾患（2 例）

Nuss（漏斗胸）：1 例

胸郭形成：1 例

・腹部疾患（67 例）

鼠径ヘルニア

高位結紮：16 例

単孔式腹腔鏡手術（LPEC）：22 例

急性虫垂炎：11 例（全例単孔式腹腔鏡手術）

臍ヘルニア：12 例

肥厚性幽門狭窄症：2 例

小腸イレウス：2 例

重複肛門：1 例（経肛門的摘出術）

審査腹腔鏡：1 例

・―生殖器、泌尿器科疾患（11 例）

停留精巣：4 例

陰唇癒合：4 例

陰茎腫瘤：1 例

真性包茎：1 例

尿膜管遺残：1 例

4. 今年の目標

2023 年も 3 人体制を維持し、地域に根ざし、地域の子供たちを守るだけではなく、広域で子供たちの治療を安全に継続可能な体制を作ります。新型コロナウイルス感染症と共存していく社会で、新たな様式を模索しながら、小児外科特有の救急疾患に関しても可能な限り対応していきます。こどもの治療で悩んだら、とにかく御相談ください！

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 42
糖尿病 代謝内科 43
脳神経内 45
膠原リウ 46
小児科 47
放射診科 49
救急科 50
外　科 53
整形外科 55
脳神経外 58
心臓血管 心臓血セ 60
形成外科 美容外科 63
呼吸器外 65
小児外科 66
歯　科 歯科口腔 69
泌尿器科 71
眼　科 72
麻酔科 74
肝臓セン 76
皮膚科 80
婦人科 81
耳鼻咽喉 84
病理診断 86

21）歯科・歯科口腔外科

歯科・歯科口腔外科部長　占部　一彦

1. 概要

歯科口腔外科は、部長:占部一彦（2006 年 4 月赴任)、医員:中川記世子（2019 年 7 月赴任)、笠原　駿（2022 年 4 月赴任）の 3 名体制で診療にあたっています。八尾市・東大阪市・大阪市平野区・柏原市内の医院・歯科医院との病診連携をおこなっており、紹介率 40％以上を維持しています。

2008 年度より地域歯科支援病院の認定をうけ地域医療に貢献できますように体制づくりをすすめています。

診療内容としては、親知らずの抜歯・腫瘍・粘膜疾患・顎変形症・顎顔面外傷などの手術を中心に、顎関節症などの治療および他科入院患者様の周術期口腔機能管理を行っています。

当院は、大阪大学歯学部第一口腔外科の関連病院として運営しており、当科で加療が困難な疾患に関しては、大阪大学および他の大学関連病院と連携をはかり対応しています。また日本口腔外科学会の準関連研修施設認定もうけています。診療特徴としては、下記の内容が挙げられます。

1）抗凝固剤服用中の患者様への対応

抜歯などの小手術は、基本的にワーファリン等の抗凝固薬・抗血小板薬の服用は休薬なしで行っています。

抗凝固薬　：基本的に休薬なし（場合によって減量）で 1（～ 2）泊の入院下で処置・止血管理をおこないます。

抗血小板薬：基本的に休薬なしで外来処置室にて小手術をおこないます。

2）入院下での埋伏智歯抜歯

埋伏智歯抜歯術は、歯肉切開や骨削除を行って抜歯するのですが、かなり腫脹をともなう処置になります。それが数本ある患者様の場合には、腫脹がその都度伴うことになります。そこで入院管理下で全身麻酔下にて抜歯を行うことで 1 本抜歯に対する時間が短くすみ、数本まとめて抜歯することができます。また術後点滴と、疼痛コントロール・感染予防を行うことで 1 回の腫脹ですませることができます。

3）コロナウイルス感染症は、今後季節性インフルエンザと同等の扱いになっていく政府の方針ではありますが、病院という特性や当科では口腔内の診察・手術を行うことが中心ですので、日常生活と同じ扱いにはまだまだならないのが現状です。今後も感染対策に変更はなく対応していく方針です。

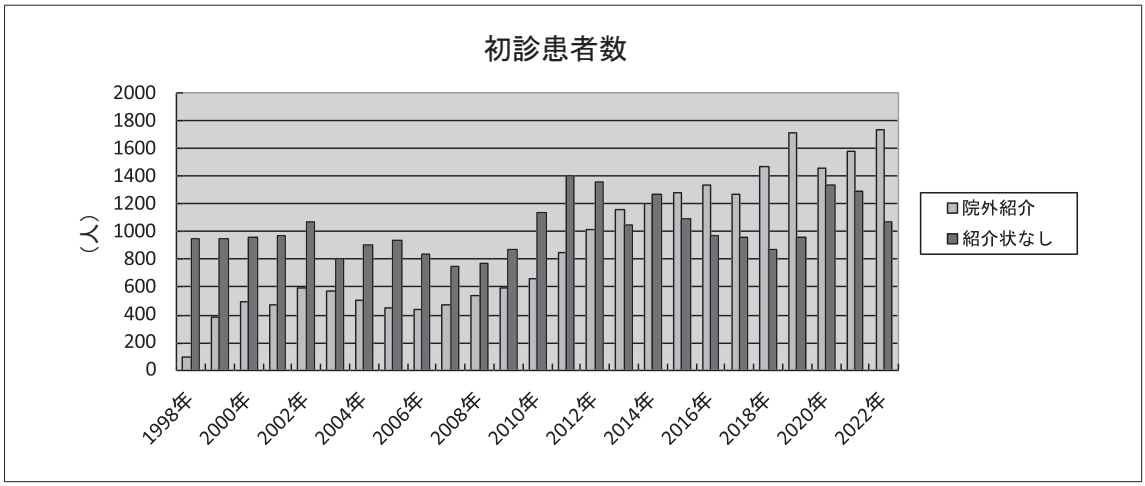
2. メンバー構成

部長：占部一彦（歯学博士）　　日本口腔外科学会専門医
医長：中川記世子（歯学博士）　日本口腔外科学会専門医
医員：笠原駿（歯学博士）　　日本口腔外科学会認定医

3. 実績

《初診患者数推移》

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
院外紹介	95	386	493	472	590	576	506	453	443	467	538	590	662	846	1,017	1,160	1,205	1,276	1,341	1,266	1,468	1,716	1,456	1,584	1,733
紹介状なし	945	945	961	970	1,070	809	900	932	834	752	775	866	1,134	1,406	1,355	1,051	1,264	1,088	973	959	871	955	1,333	1,287	1,070



《外来手術例》

手術名	件数
骨性埋伏智歯抜歯	765
難抜歯	396
単純抜歯	704
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	106
口腔内・外消炎処置	40
腐骨除去術	3
口腔内外創傷処置	30
舌腫瘍摘出術	3
顎関節脱臼非観血的整復術	12
歯肉腫瘍摘出術	5
粘液嚢胞摘出術	24
顎骨腫瘍摘出術	11
その他	78
合計	2,177

《入院手術例》

手術名	件数
埋伏歯抜歯	189
抜歯（止血異常）	37
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	23
顎骨腫瘍摘出術	32
口腔内・外消炎手術	5
上･下顎骨･頬骨骨折観血的整復術	17
腐骨除去術	11
抜釘術	15
舌腫瘍摘出	2
顎変形症手術	23
骨隆起形成術	4
その他	18
合計	376

4. 今後の目標

救急病院の特徴として、炎症性疾患や外傷性疾患の救急対応が多いため、より迅速に対応できるように体制を構築し、地域医療に貢献できるよう力をいれています。

また医科歯科連携にて周術期口腔機能管理を行っており、患者様の入院期間の短縮に貢献していきたいと思います。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 42
糖尿病 代謝内科 43
脳神経内 45
膠原リウ 46
小児科 47
放射診科 49
救急科 50
外　科 53
整形外科 55
脳神経外 58
心臓血管 心臓血セ 60
形成外科 美容外科 63
呼吸器外 65
小児外科 66
歯　科 歯科口腔 69
泌尿器科 71
眼　科 72
麻酔科 74
肝臓セン 76
皮膚科 80
婦人科 81
耳鼻咽喉 84
病理診断 86

22）泌尿器科

泌尿器科部長　金丸　知寛

1. 概要

2022 年は 9 月より香山先生に変わり、榮井先生が赴任し、昨年に引き続き 3 人体制で、私が泌尿器科部長を務めております。

2022 年 2 月より、当院にもダヴィンチ Xi が導入され、当科でもロボット補助下前立腺全摘術からロボット手術を開始いたしました。2022 年はロボット補助下前立腺全摘術が 24 例、ロボット補助下腎摘除・腎尿管全摘除術が 2 例、ロボット補助下腎部分切除術が 2 例という結果でした。2022 年より腎摘除、腎尿管摘除にもロボットの保険適応が承認され、来年度は、さらにロボット手術の症例数を増やしていくことが目標です。

2. メンバー構成

顧問　飯盛宏記　日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医
部長　金丸知寛　日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本泌尿器内視鏡学会・技術認定医
　　日本透析医学会専門医
医員　榮井広嗣　日本泌尿器科学会専門医

3. 実績

ロボット補助下前立腺全摘除術　24 例
ロボット補助下腎摘除・腎尿管全摘除術　2 例
ロボット補助下腎部分切除術　2 例

4. 今後の目標

上記手術のさらなる症例数の増加、また、膀胱全摘に関してはまだ施設認定基準に達しないため腹腔鏡で行っている現状ですが、症例数を増やしてそれも施設認定を取れるようにするのが目標です。

23）眼科

眼科部長　奥田　吉隆

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

1. 概要

現在３名の常勤医師、非常勤医師数名により外来診療および手術を行っております。午前診察は初診および予約診療を行っております。午後はレーザー等の処置や時間のかかる検査が必要な患者様の予約診療を主として行っております。

当院で行っている手術は、網膜硝子体手術、白内障手術（多焦点眼内レンズ含む）、緑内障手術、外眼部手術が中心です。

網膜硝子体手術は、硝子体手術用機械（コンステレーション アルコン社製）、硝子体手術用広角観察システム（リサイト カールツァイス社製）および眼科手術用顕微鏡（Lumera700　カールツァイス社製）を使用しており、小切開硝子体手術を行っております。また４月からは3Dビジュアルシステム（NGENUITY）での手術を行っております。本年度、疾患としては、硝子体出血、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑上膜、水晶体･眼内レンズ脱臼、外傷性眼疾患などを行っております。近医の開業医さんからのご紹介は基本的に 24 時間対応可能です。

白内障手術は、日帰りもしくは入院で行っております。当院での白内障手術の特徴は褐色白内障、過熟白内障といった進行した白内障手術が多いことです。眼内レンズ強膜内固定術や眼内レンズ縫着術等の眼内レンズ関連手術も積極的に行っております。また、角膜乱視の矯正の為に、トーリック眼内レンズを使用した白内障手術も行っております。

また最近では多焦点眼内レンズも導入し幅広い白内障手術を施行し、患者様の満足度の高い手術を心がけております。

外眼部手術に関しては、眼瞼下垂症、内反症などに対する眼形成手術や、翼状片手術、脂肪ヘルニアに対する手術、霰粒腫切開術、眼瞼皮膚腫瘍切除術、涙道疾患に対する手術などを行っております。

加齢黄斑変性症や網膜静脈閉塞症に合併した黄斑浮腫に対しては、抗 VEGF 薬の硝子体内注射を通院にて行っております。また、糖尿病網膜症に対する汎網膜光凝固術や急性緑内障発作に対するレーザー虹彩切開術、後発白内障に対する YAG レーザーなど、各種レーザー治療も行っております。

八尾市、柏原市、東大阪市、松原市、大阪市平野区、羽曳野市の先生方に於かれましては、いつも貴重な患者様をご紹介頂きまして誠にありがとうございます。今後とも病診連携を通じて地域医療に貢献させていただければ幸いです。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

2. メンバー構成

（常勤医師）

奥田　吉隆　（医員）　日本眼科学会専門医　PDT 認定医　ボトックス認定

滝　功一郎　（医員）　日本眼科学会専門医　ボトックス認定

宮木　俊哉　（医員）

（非常勤医師）

照林　優也　緑内障専門医

高鍬　広章　眼形成専門医
布谷　健太郎
大学応援医師

3. 実績

≪外来患者数≫ 2022 年 1 月 1 日～ 2022 年 12 月 31 日

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
964	931	1,108	1,260	1,110	1,356	1,265	1,323	1,310	1,260	1,264	1,398	14,549

≪手術件数≫　2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日
計 2,124 件（うち白内障手術 1,267 件　硝子体手術 395 件　緑内障手術 53 件
眼形成 85 件　硝子体注射 313 件　その他 11 件）

4. 目標

地域の患者様からより一層頼りにされるような病院を目指し、地域医療に貢献して参ります。2022 年よりまた近隣の開業医様や病院様より沢山のご紹介頂けるようになり、本当に感謝しております。今後も緊急疾患含めどのような疾患に対しても紳士に向き合い患者様が満足して頂けるよう精一杯治療していきたいと思っております。このような手術件数ができるのも日頃より大事な患者様をご紹介して頂いている近隣の先生方のおかげでございますので、その思いを裏切らないよう馬車馬のより働いていく所存でございます。引き続きご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

24）麻酔科

麻酔科部長　谷　仁介

1. 概要

当院麻酔科は、日本麻酔科学会の麻酔科認定病院に指定され、5 名の常勤麻酔科医師と複数の非常勤麻酔科医師で運営しています。常勤麻酔科医師は、全員が厚生労働省認定の麻酔科標榜医資格を有し、また日本麻酔科学会認定の麻酔科指導医もしくは麻酔科専門医資格も有し、24 時間 365 日の麻酔業務に取り組んでいます。当科の方針として、手術を受ける患者様の安全を第一に考え、本邦における標準的な全身麻酔を実践することを掲げています。2021 年に手術室が増室され、同時にハイブリッド手術室が稼働し始め、さらに 2022 年にはダビンチによるロボット手術が泌尿器科から開始され、呼吸器外科、外科へと対象診療科が拡大しています。今後、脊椎外科における脊椎固定術用のロボットを導入予定で、今まで以上に安全な脊椎手術が行えるようになります。また、コロナウイルス感染症に対しては、手術室内できめ細かい感染対策をし、患者様が安心して手術、麻酔を受けていただけるようにしています。手術を受ける際には多大な不安があると思いますが、当院での手術・麻酔に関しては我々にお任せ下さい。

2. メンバー構成

部長　谷　仁介　　（日本麻酔科学会指導医・専門医）
部長　池下　和敏　（日本麻酔科学会指導医・専門医、医学博士）
医員　仲村　光世　（日本麻酔科学会専門医）
医員　濱崎　亜弓　（日本麻酔科学会専門医）
医員　金沢　晋弥　（日本麻酔科学会専門医）

3. 実績

2022 年の麻酔科管理手術件数は 3,036 件でした。

《麻酔方法》

全身麻酔	TIVA	全身麻酔+硬､伝麻	脊髄くも膜下麻酔	鎮静
2,756 件	13 件	143 件	121 件	3 件

＜手術部位別＞（検査およびその他：14 件）

開頭・頸動脈	開胸	心臓・大血管	開胸＋開腹	胸腹壁
83 件	134 件	240 件	4 件	271 件

上腹部	下腹部	頭頸部	脊椎	股関節・四肢
416 件	583 件	401 件	187 件	703 件

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

《年齢別》

0 － 5 歳	6 － 20 歳	19 － 65 歳	66 － 85 歳	86 歳以上
48 件	148 件	1,039 件	1,477 件	327 件

4. 今後の目標

コロナウイルスを始めとする感染症に対し、可能な限りの感染対策を取り、術前、術中、術後が問題無く経過することを目標とし、24 時間 365 日、いつでも患者様を受け入れ、常に安全な手術麻酔を提供させていただきます。また、最先端の手術に柔軟に対応し、患者様がいつでも安心して手術を受けられる麻酔科・手術室を目指します。

25）肝臓センター

肝胆膵外科部長　木村　拓也

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管心臓血セ　60
形成外科美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

1. 概要

2022 年は新型コロナが継続し、収まる気配どころか、第 7 波、第 8 波の濁流にのまれ、感染者もかなり増えて、大変な 1 年でした。ただし当院では早期より、新型コロナ患者を受け入れ、院内のあらゆるところで、日常の診療に対する影響を考慮した対策を施してきました。その結果、肝胆膵領域の検査、治療、手術の受け入れも比較的スムーズにできたと思います。手術症例も例年と同等の症例で推移できました。

肝臓センターでは肝胆膵領域の悪性疾患を中心に、その他急性肝炎、慢性肝炎、ウィルス性肝炎、アルコール性肝炎、膵炎などを中心に治療を行っており、中河内地区に根差し、10 年目の節目を迎えました。主には、近隣施設より閉塞性黄疸、急性肝炎、慢性肝炎、肝胆膵領域の悪性疾患を紹介され、積極的に治療を行っています。

診断には、積極的に最新技術を導入し、EUS、ERCP、造影エコーなど多数行っている。また治療は血管合併切除などの超拡大手術から腹腔鏡手術などの低侵襲治療を行っており、ガイドラインを参考に患者に優しい、患者の目線に立った治療を常に考慮している。

スタッフは残念ながら一人、退職しましたが、一人新任も決まって、現在 5 人体制で診療に従事しており、センターとして診断、治療内容に広がりを持たせることが可能となっています。また外科系診療科で一致団結し、当院は最初から新専門医制度に対応し、当院は外科の基幹施設として認定され、後期研修医の研修が継続できており、徳洲会グループとして、各拠点病院にも研修可能な体制づくりを目指しています。

以下、肝臓センターとしての活動内容を中心に記載する。

肝臓センターの肝胆膵外科部門は、感染対策部門とリンクし、外科（肝胆膵外科、消化器外科、小児外科など）の感染対策、特に創部感染に対する対策を推進し、手術部位感染（SSI）は減少しています。また栄養状態不良患者は、手術に対するリスクとなるため、NST とリンクし、栄養管理を推進しながら外科治療を導入し、成績向上に寄与しています。

昨年、JCI（アメリカの病院評価機能）を取得したため、外科系すべての手術に関する同意書、説明書、術前術後管理の統一（クリニカルパスの導入率向上）を新たに一新し、導入できたので、多くの項目で標準化しております。

2. メンバー構成

・松田康雄：肝臓センター長／顧問

資　　格：日本外科学会専門医、指導医、消化器外科学会専門医、指導医、超音波学会専門医、指導医、医療安全委員長

・木村拓也（平成7年）：副院長／肝胆膵外科部長

資　　格：日本外科学会認定医、専門医、指導医、日本小児外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、指導医、日本総合診療医学会認定医、日本臨床栄養代謝学会認定医、肝臓学会認定肝臓専門医、指導医、日本移植学会認定医、日本肝胆膵外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員、日本臨床栄養代謝学会評議員、近畿外科学会評議員、近畿小児外科学会評議員、感染制御医師（ICT）、外科系プログラム責任者、NST 委員長、TNT 講習、PEACE プロジェクト緩和ケア講習、臨床研修医指導者講習、臨床研修プログラム責任者講習、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定、ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定

・井上雅文（平成11年）：医長

資　　格：日本外科学会認定医、専門医、指導医、日本消化器外科学会専門医、指導医、日本肝臓学会認定肝臓専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、近畿外科学会評議員、PEACE プロジェクト緩和ケア講習、臨床研修医指導者講習

・藤井貴子（平成13年）：医員

資　　格：日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医・指導医、日本移植学会認定医、日本化学療法学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、医療情報学会医療情報技師、日本肝臓学会西部会評議員、臨床研修医指導者講習、日本感染症学会インフェクションコントロールドクター（ICD）、医療安全管理者、がん診療にかかわる医師に対する緩和ケア研修会、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼の実施基準による実施医、ダヴィンチサージカルシステム助手資格認定

3. 実績

1）肝臓外科

肝臓外科にて 2022 年に実施した手術は計 322 件で、コロナ禍の中、昨年と同程度の症例数を確保している。2012 年より導入した腹腔鏡下肝臓手術も安定し、在院期間も短く安全に施行できている。2018 年より、肝臓の葉切除、すなわち右葉切除や左葉切除に対しても、日本肝胆膵外科学会、日本内視鏡外科学会の前向き症例登録に参加し、倫理委員会を介して開始した。肝臓手術全体では 29 例と例年と同じ程度だが、C 型肝炎の内科治療普及により、今後肝細胞癌は減少していくと予想される。

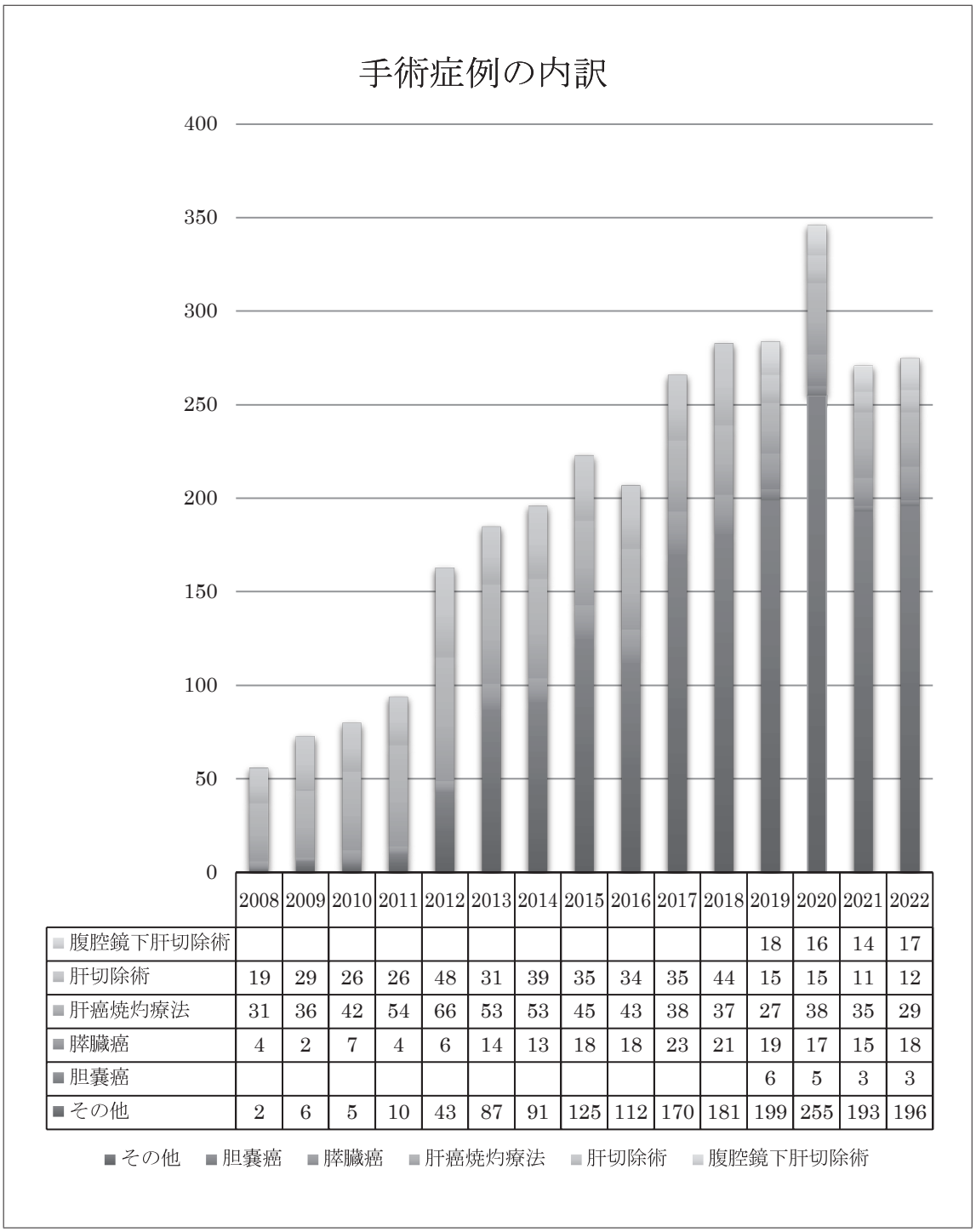
肝細胞癌に対する焼灼療法は 29 例と横ばいで、ラジオ波より短時間で焼灼可能な、マイクロ波による焼灼療法が増加してきた。マイクロ波による焼灼療法は少し広めの焼灼が可能で、また短時間で終了するため、患者の負担も軽減可能である。

膵癌、中下部胆管癌に対する膵頭十二指腸切除例や膵体尾部切除は 18 件で、やや微増である。今年も血行再建を多数行っているが、血管系の合併症はなく安全に施行できている。ま

た術前化学療法を導入し、中長期成績の改善が望まれる。

2013 年より腹腔鏡下膵体尾部切除を導入し、悪性疾患以外に適応し、安全に導入している。

図に過去の肝臓外科（肝胆道外科）手術実績の推移を示した。年々手術件数は増加しているが、2022 年も例年と同等の多数の手術を行った。



	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
■腹腔鏡下肝切除術												18	16	14	17
■肝切除術	19	29	26	26	48	31	39	35	34	35	44	15	15	11	12
■肝癌焼灼療法	31	36	42	54	66	53	53	45	43	38	37	27	38	35	29
■膵臓癌	4	2	7	4	6	14	13	18	18	23	21	19	17	15	18
■胆嚢癌												6	5	3	3
■その他	2	6	5	10	43	87	91	125	112	170	181	199	255	193	196

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

2）肝臓内科

・慢性肝炎

・慢性 B 型肝炎

抗ウイルス薬である核酸アナログ製剤（エンテカビル、テノホビル）による治療を行っている。その他、院内で抗がん剤投与前には、De novo 肝炎のモニタリングも行っている。

・慢性 C 型肝炎、代償性肝硬変　非代償性肝硬変

ゲノタイプ 1 型 2 型に対する IFN フリー内服治療（DAA：Direct Acting Antivirals）をパンジェノタイプの DAA 治療を継続しており、重篤な合併症もなく、全例ウイルス陰性化率を達成した。また徳洲会グループとして、C 型肝炎サーベイランスを開始し、C 型肝炎患者の拾い上げを行っている。

・肝細胞癌

治療の中心は、抗 PD―L1 抗体であるアテゾリマブと分子標的薬であるババシズマブが担っており、TACE による治療は激減している。1 例著名な甲状腺機能低下症を認めたが、その他重篤な副作用は経験していない。その特性より、自己免疫疾患や、間質性肺炎など、副作用のモニタリングに中止しながら、さらに症例を増やす予定である。

・肝硬変

肝硬変の難治性腹水に対して新規利尿薬であるサムスカ使用を積極的に行い、腹水減少による症状改善症例を認めている。また耐用性がある症例では､外科とタイアップし､デンバーシャントも積極的に導入している。

肝性脳症の治療は合成二糖類、BCAA 製剤、カルニチンなどなどあるが難治性の脳症も散見される。腸内でのアンモニア産生菌に作用しアンモニア産生抑制する難吸収性リファマイシン系抗菌薬の治療を使用し肝性脳症発症は減少している。

4. 今後の目標

本年も昨年同様、手術症例を確保し、安全、安心の医療を提供していきたい。

肝胆膵領域に腹腔鏡手術による低侵襲治療を導入し、安全にできている。今後は適応を広げたくさんの患者さんが安心して当院で治療を受けられる体制を維持し、医療ガイドラインに沿った治療を実践しながら、術後成績の向上ならびに、手術症例の増加を維持したい。

2023 年より、いよいよダビンチによるロボット支援下手術の普及が始まります。より、安全安心な、医療を提供したいと考えております。

また新専門医制度導入に伴う、施設認定の維持に努め、後期研修医の確保を目指していきたい。

26）皮膚科

皮膚科医長　梶本　敦子

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

1. 概要

当科では、薬疹、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、尋常性乾癬、水疱症、天疱瘡、掌蹠膿疱症、円形脱毛症などの各疾患、白癬症、ヘルペス感染症、尋常性疣贅、尋常性ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、感染性粉瘤、尖圭コンジローマ・梅毒（STD）などの皮膚感染症、および皮膚腫瘍、皮膚潰瘍、熱傷（保存的治療可能な 、主に SDB まで）、男性型脱毛症（自費診療）などを診療しております。

検査としましては、金属パッチテスト、皮膚生検による病理検査、RAST 測定によるアレルギー検査等を行っております。

また、内科疾患に伴う結節性紅斑や血管炎に対する皮膚生検も行っておりますのでお申し付けください。

日光角化症、基底細胞癌、表皮内有棘細胞癌に関しましては、ダーモスコピーによる視診のうえ疑わしいものは部分生検を行い、確定診断のついた場合は当院形成外科に手術をお願いしております。

一方で、浸潤癌および悪性黒色腫（メラノーマ）、乳房外パジェット病や、尋常性乾癬に対する生物学的製剤による治療を必要あるいはご希望される症例や患者様に対しましては大阪公立大学へ紹介しております。

※尋常性白斑、尋常性乾癬、いずれの疾患にも紫外線療法は施行しておりません。

2. メンバー構成

常　勤　梶本敦子

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
412	355	449	445	429	465	388	370	396	398	379	390	4,876

4. 今後の目標

症例として､皮膚疾患は慢性的に経過するものが多い傾向にあります。また､良性疾患であっても完治には副作用のつよい治療しか無いケースもあるので、一方的に治療を勧めるのでは無く、各々の患者様のライフスタイルに合わせた治療をモットーにしております。したがいまして、初診には時間をかけてお話をお伺いし、満足のいくコミュニケーションを取った上での診察を心掛けております。又、病院の特性として、多様な診療科がありますので、連携して治療にあたることが可能です。今年も何卒よろしくお願いいたします。

27）婦人科

婦人科部長　田村　明彦

1. 概要

一般的な産婦人科診療に加えて、悪性腫瘍に対して集学的治療を実施しています。

＜主な診療対象疾患＞

①婦人科悪性腫瘍

②婦人科良性腫瘍

③不妊・内分泌疾患

④女性の性器の形態異常

⑤女性の加齢に伴う疾患

⑥妊娠初期健診、妊婦健診および羊水染色体検査

等、婦人科全領域および分娩を除く一部の産科領域について診療を実施しています。

＊当院では分娩についての取扱いは行っておりませんが、妊娠初期検査から妊娠中（分娩前）の妊婦健診等の一部の周産期管理、ならびに流産手術･人工妊娠中絶手術を実施しています。

＜診療方針＞

《婦人科良性腫瘍や骨盤臓器脱などの器質性疾患に対して》

1）患者さんの生活の質向上を十分に配慮すること。

2）求められている症状の改善程度を十分に考慮すること。

3）場合によって（悪性を否定するために）病理組織学的な精査が必要な場合に手術療法を実施しています。

手術方法についてはその目的を確実に遂行するために、患者さんの希望に沿って、年齢、病態や全身状態を考慮した上で開腹術・腹腔鏡下手術を選択し実施しています。

＊なお、特に卵巣腫瘍等については手術時に全例、術中迅速病理組織学的検査を実施しています。

この検査の目的は、手術中に摘出標本の数カ所を迅速に病理組織診断することにより、悪性と診断された場合には、そのまま拡大手術に移行することができることにあります。

ただし、その正診率は 85% 以上と言われています。

《婦人科悪性腫瘍に対して》

手術を中心とした集学的治療を実施しています。

＊集学的治療とは手術療法・化学療法・放射線療法を併用して根治を目指す治療の事です。

（子宮頸部高度扁平上皮内病変）

子宮頸部の組織診検査結果により、高度扁平上皮内病変と診断された場合は、子宮頸部円錐切除術を実施し、さらなる病変の拡がりや深度を検索し精査・治療を実施します。

（子宮頸癌）

子宮頸癌については、進行癌であれば病期によって手術もしくは放射線治療を行います。

子宮の摘出方法は単純子宮全摘術や広汎子宮全摘術で、患者さんの年齢、妊孕性の有無、全

身状態や長時間手術に対するリスクの大小を考慮し、両側付属器切除、骨盤リンパ節郭清および傍大動脈リンパ節生検を実施します。

術後の病理組織学的検査の結果によっては、さらに術後補助化学療法や化学放射線同時療法が必要な場合もあります。

術後補助化学療法を実施する場合は、実施に3日間の短期入院が必要となります。

（子宮体癌）

子宮体癌に対しては、子宮摘出、両側付属器（卵巣・卵管）切除および骨盤リンパ節郭清等が一般術式ですが、病期、年齢や全身状態によって低侵襲への手術変更もあります。

また、術後補助化学療法を実施する場合は、実施に3日間の短期入院が必要となります。

（卵巣癌）

卵巣癌の治療では、病期によって手術と抗癌剤による化学療法が必要となります。

手術の術式は子宮体癌と同様で、さらに大網切除を実施します。

術後の病理組織学的検査の結果により術後補助化学療法を実施する場合もあります。

手術前に抗癌剤で治療を先行する場合や、腫瘍塊が大きい場合には腫瘍塊を出来るだけ小さくすることによって、その後の化学療法の効果を上げる目的の手術をする場合もあります。

抗癌剤による化学療法の実施には3日間の短期入院が必要となります。

2. メンバー構成

田村明彦（常勤）　日本産科婦人科専門医

松岡達也（非常勤）　日本産科婦人科専門医

3. 手術実績（2022年01月～12月）

開腹術）　51症例

悪性腫瘍）子宮頸癌：6症例

子宮体癌：9症例

卵巣癌：7症例

再発腫瘍：3症例

良性腫瘍）子宮腫瘍：11症例

卵巣・卵管：15症例

その他経腹術）1症例

腹腔鏡下手術）8症例

良性腫瘍）卵巣嚢胞性腫瘍：8症例

経膣的）　69症例

子宮頸部円錐切除：15症例

子宮内膜部位別掻爬術：30症例

子宮脱・膀胱下垂等：19症例

その他の経膣手術：5例

人工妊娠中絶術：0症例

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

4. 今後の目標

診療対象疾患は上記記載どおりです。

＊不妊に対しては、一般的な検査等はすでに実施しています。

体外受精・胚移植法等の生殖補助医療については実施設備等の基準・申請が必要であり、実施する準備が整い次第（体外受精・胚移植法等）生殖補助技術を実施する予定です。

＊周産期医療については初期から中期・後期にわたる妊婦健診を実施していますが分娩は実施しておりません。

今後は特に高リスク妊娠・分娩・新生児対応が可能になるように考慮していきます。

＊ダヴィンチ手術の実施について

腹腔鏡下手術をロボット支援下に実施するものですが、通常の手術より繊細・精密な手術が実施できるために、患者さんにとって傷や痛みが小さく、出血量の減少や早期の術後回などの利点があります。

婦人科では、子宮筋腫・子宮腺筋症などの子宮良性疾患に対する子宮全摘術、子宮脱を含む骨盤臓器脱に対する仙骨膣固定術や早期子宮体癌に対する子宮悪性腫瘍手術が対象です。

2023 年 4 月以降に実施予定です。

以上、当科では総合的な産婦人科医療に対して、高度で安心・安全な医療の実践を心がけております。

28）耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長　森　彰之

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

1. 概要

2022 年は新型コロナウイルスだけではなく、インフルエンザの流行もみられました。引き続き感染対策を行い院内感染を起こさぬよう心がけてまいりました。新型コロナウイルスのオミクロン株およびインフルエンザは初発の症状の主なものが鼻汁、くしゃみ、咽頭痛、頭痛、発熱と通常の感冒と同じ上気道症状が中心のため耳鼻咽喉科で疑い症例を診察する機会が増加しております。また今年のスギ花粉症は 10 年に 1 度と言われる飛散量で、例年の平均の 2-3 倍の飛散量と予測されております。ですから発熱のない鼻汁、くしゃみの症状では花粉症と紛らわしい場合もあります。当院では引き続き感冒症状の患者様は、まず新型コロナウイルス、インフルエンザ抗原検査をさせていただくことで､安心して診察にお越しいただけるよう対応･対策をしております。また入院や手術も適応・重症度を検討し治療にあたっています。

一般診療では以下の疾患を主に診察しております。

・鼻：鼻腔異物、アレルギー性鼻炎、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、鼻出血など
・耳：耳垢栓塞、外耳炎、外耳道異物、急性中耳炎、慢性中耳炎、突発性難聴、老人性難聴、顔面神経麻痺、ハント症候群、メニエール病・前庭神経炎等の内耳性めまいなど
・のど：咽頭異物、急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、急性咽頭炎、急性喉頭蓋炎、声帯ポリープなど

耳鳴りおよび補聴器については特殊外来で対応しています。
成人のスギ、ダニに対する舌下免疫療法も開始いたしました。
外来、入院患者様の嚥下機能検査およびリハビリテーションも対応しております。
甲状腺疾患は当科では診察を行っておらず、専門機関に紹介しております。

入院は急性炎症や突発性難聴・顔面神経麻痺などのステロイド治療、めまい症など。
手術は就学児童以上を対象としております。
副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内手術、鼻閉改善手術、扁桃摘出術、アデノイド切除術、声帯ポリープ切除術、鼓膜チュービング術などを症例の重症度を検討し行っております。
中耳、内耳手術や唾液腺手術、悪性腫瘍に関しては高次施設に紹介いたします。

2. メンバー構成

森　彰之（常勤）

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
303	309	379	354	357	429	350	365	338	351	299	365	4,199	349.9

4. 今後の目標

耳鼻咽喉科医が常勤している施設は八尾市では八尾市立病院だけでしたが、今後は当院も入院・手術での対応を行っていき地域医療に貢献していきたいと思います。

29）病理診断科

病理診断科部長　中塚　伸一

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　42
糖尿病 代謝内科　43
脳神経内　45
膠原リウ　46
小児科　47
放射診科　49
救急科　50
外　科　53
整形外科　55
脳神経外　58
心臓血管 心臓血セ　60
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　72
麻酔科　74
肝臓セン　76
皮膚科　80
婦人科　81
耳鼻咽喉　84
病理診断　86

1. 概要

2022 年 12 月現在、医師 9 名（常勤 4 名、非常勤 5 名）、病理専任の臨床検査技師 8 名（うち細胞検査士 5 名）、医療事務 1 名が業務に携わっています。4 月から南部医師、9 月から病理部会副部会長の寺田医師が常勤医師に加わっています。

当科では、院内の組織診断、細胞診断、病理解剖を行うほか、徳洲会大阪病理診断研究センターとして、大阪および近隣府県のグループ病院 9 病院の病理診断を請け負ってきました。8 月に名古屋徳洲会病院から細胞診断の受託を新たに開始したほか、新井クリニック、恵生会病院といった近隣の一般医療施設からの病理診断も新たに受け入れ、積極的に地域医療への貢献に努めています。2021 年より開始した神戸徳洲会病院との間の遠隔術中迅速病理診断についても引き続き実績を積み重ねています。結果として、病理診断の総件数は組織診断 9670 件、細胞診断 16033 件と前年より増加しました。また、病理解剖についても、2022 年から松原徳洲会病院、愛染橋病院、森之宮病院と提携し、受け入れを始めました。2022 年は院内外で 12 件の病理解剖を行い、9 回の臨床病理検討会（CPC）を行いました。初期研修医は病理解剖に実際に立ち会い、CPC での発表を通して、全身の臓器の状態を把握し、病態を理解する訓練を積んでいます。2 月には松原徳洲会病院から初期研修医を 1 名受け入れ、病理学的な素養習得を支援し、指導を行いました。

2. メンバー構成

医師

中塚伸一（部長、センター長）	日本専門医機構病理専門医、日本病理学会分子病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
寺田信行（副部会長）	日本専門医機構病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
久保勇記	日本専門医機構病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
南部尚子	日本専門医機構病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
青笹克之（最高顧問）	日本専門医機構病理専門医
山下憲一（非常勤）	日本専門医機構病理専門医
関川進（非常勤）	日本専門医機構病理専門医
北村昌紀（非常勤）	日本専門医機構病理専門医、日本病理学会分子病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
皆見勇人（非常勤）	日本専門医機構病理専門医

臨床検査技師

岩﨑由恵（細胞検査士）、西川裕子（細胞検査士）、室木魁人（細胞検査士）、松尾優希（細胞検査士）
櫻井愛梨（細胞検査士）、吉川つかさ、溝邉栞、平井翔也

3. 実績

《組織診断、細胞診断件数》

	組織診断	術中迅速診断	細胞診断
当院	4,468	202	10,025
生駒市立病院	1,314	0	1,803
松原徳洲会病院	1,641	18	0
高砂西部病院	383	0	0
神戸徳洲会病院	613	20*	1,130
近江草津徳洲会病院	860	0	2,018
全南病院	28	0	0
東大阪徳洲会病院	52	0	0
東佐野病院	44	0	16
松原中央病院	43	0	0
名古屋徳洲会病院	0	0	1,022
一般医療施設	224	0	19
合計	9,670	240	16,033

＊遠隔病理診断（テレパソロジー）による

《剖検一覧》

剖検番号	剖検日	出所	年齢	性別	臨床診断
717	2022.01.11	内科	84	男	うっ血性心不全
718	2022.02.10	内科	50	男	MRSA敗血症、心不全、慢性腎不全、糖尿病
719	2022.02.17	腎臓内科	53	女	心不全、腎不全、糖尿病
720	2022.03.05	脳神経外科	84	女	脳梗塞、肺塞栓
722	2022.09.07	腫瘍内科	67	女	肺癌
723	2022.09.19	松原徳洲会病院・外科	68	男	敗血症、急性胆管炎、肝膿瘍
724	2022.09.27	腫瘍内科	81	女	原発不明癌
725	2022.10.21	内科	80	男	COPD、肺気腫
726	2022.10.21	内科	64	男	肺癌、脳梗塞
727	2022.10.28	内科	78	男	肺癌
728	2022.07.27	大正病院・内科	61	男	脳性麻痺、右半結腸切除術後、胸腹水貯留、回腸人工肛門造設状態
729	2022.12.30	内科	98	女	気管支肺炎

計 12 例

《担当カンファレンス》

消化器カンファレンス（水曜午前、毎週）

乳腺カンファレンス　（水曜午後、月に約 2 回）

呼吸器カンファレンス（木曜午後、毎週）

4. 今後の目標

引き続き、正確で迅速な病理診断に努めてまいります。大阪病理診断研究センターの活動として、さらに近隣の医療施設との提携を拡大し、質の高い病理診断で地域医療に貢献できるよう努めます。2023 年は、がん遺伝子検査（AmoyDx 肺癌マルチ遺伝子 PCR パネル）の導入も視野に入れ、臨床のニーズに応える幅を少しずつ広げていきたいと考えています。引き続き、適正な品質の病理検体の確保や病理診断報告の伝達もれ防止などについて院内で啓発活動を行い、部内の業務効率化にも取り組みます。

副　診　療　部

―― 2022年 ――

30）薬　剤　部　90
31）放 射 線 科　93
32）臨床検査科　95
33）リハビリテーション科　98
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）
34）臨床心理科　104
35）臨床工学科　106
36）栄　養　科　116
37）治験センター　119
38）医療福祉相談室　121
（医療ソーシャルワーカー）
39）病診連携室　125
40）健診センター　136
41）情報システム管理室　138
42）保　育　室　140
43）がん相談支援センター　143
44）医療安全管理部　146
45）臨床腫瘍センター　151
46）院内感染対策委員会（ICT）　153

30）薬剤部

薬剤部部長　大里　恭章

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

1. 概要

2022 年も 2021 年から引き続き、病院の方針に基づき新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対する薬剤師としての責務に努めた一年でした。

2021 年 3 月から始まった新型コロナワクチンの接種事業については、接種業務を安全にかつ効率的に行うため、昨年から引き続き薬剤師がキャビネット内でワクチンの希釈と分注作業を行い、ワクチン接種人数の増減による無駄が発生しないように努め、さらにはこの経験を活かし職員インフルエンザワクチンの接種事業も集団接種で行なうことで、薬剤師による分注作業を担い他部署の業務負担の軽減、薬液採取を無駄なく行ない経費の節約に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症に対する治療薬である「ベクルリー点滴静注用（レムデシビル）」の処方が感染拡大のピーク時には非常に多くなり、月間購入金額が医薬品の中で一番多くなる月もありました。高額である医薬品でもあり、適正な在庫数管理と医事課と協力のもと保険請求の漏れがないよう努め、医事請求上の問題もありませんでした。

服薬指導件数などの業務量も昨年とほぼ同水準の件数でしたが、指導可能件数の 92% でした。今後、残りの 8% の原因を精査し、病棟業務活動のさらなる充実をはかりたいと考えています。

2023 年 2 月には 2009 年の移転当初に導入した注射剤自動払出装置の更新、調剤システムのバージョンアップさらには散薬自動分包機の導入が控えています。これまで以上に薬剤師が調剤業務にかかる時間を短縮し、薬剤師として臨床現場で何ができるのかを考え、責務を果たせるよう努めていきたいと思います。

2. メンバー構成

・薬剤師37名　（非常勤1名）　【産前産後休暇 2名】【応援 2名】

助手 4 名

・有資格者

日本医療薬学会	医療薬学指導薬剤師	大里恭章
	医療薬学専門薬剤師	大里恭章、草薙みか
	がん専門薬剤師	草薙みか、南野智志、山本倫数、
	薬物療法専門薬剤師	草薙みか
日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師	横山法靖
	認定指導薬剤師	大里恭章、草薙みか
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	横山法靖
日本臨床栄養代謝学会	NST専門薬剤師	大里恭章、草薙みか、南野智志、
		森田亜記、岩政かおり、山本倫数
日本糖尿病療法指導士認定機構	糖尿病指導療法士	坂野千賀、森田亜記、栗野大輔
日本アンチドピング機構	スポーツファーマシスト	山本倫数、森下夏伎
日本薬剤師研修センター	漢方薬・生薬認定薬剤師	草薙みか、門間智恵
	小児薬物療法認定薬剤師	坂野千賀
	認定実務実習指導薬剤師	大里恭章、草薙みか、坂野千賀、
		横山法靖、前田晃佑、青山瑛里子
日本麻酔科学会	手術期管理チーム薬剤師	大里恭章、前田晃佑
日本臨床救急医学会	救急認定薬剤師	山本浩二郎
日本臨床腫瘍薬学会	外来がん化学療法認定薬剤師	濱田達志

3. 実績

学生実習受け入れ【2022年度：2022年5月～2023年2月：12名】

・2期　4名（大阪医科薬科大学 1名、近畿大学　1名、摂南大学 1名、大阪大谷大学 1名）

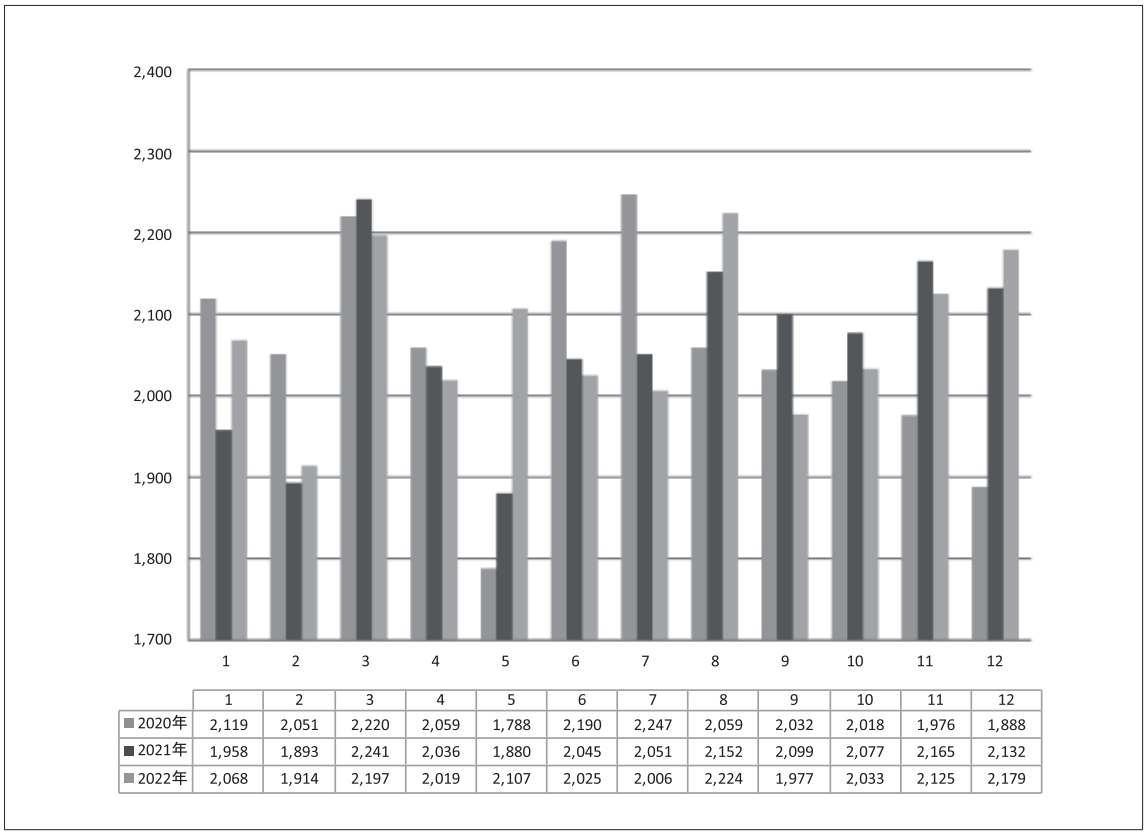
・3期　4名（京都薬科大学　2名、大阪医科薬科大学 1名、近畿大学 1名）

・4期　4名（大阪医科薬科大学　1名、近畿大学　3名）

《業務量》2022年

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
処方箋枚数(外来)	1,836	1,727	1,678	1,665	1,674	1,580	1,914	1,824	1,526	1,588	1,649	1,876	20,537	1,711.4	104.8%
調剤数(外来)	3,925	3,788	3,846	3,814	3,686	3,628	4,081	4,057	3,574	3,612	3,986	4,354	46,351	3,862.6	104.9%
処方箋枚数(入院)	7,078	6,922	8,079	7,607	7,187	7,407	7,418	7,611	7,274	7,124	7,532	8,060	89,299	7,441.6	102.7%
調剤数(入院)	15,004	14,136	16,564	15,563	14,935	15,907	15,747	15,599	15,254	15,242	15,583	17,302	186,836	15,569.7	101.2%
注射本数	32,675	30,185	33,173	29,833	30,274	28,218	30,897	30,211	26,894	30,403	31,136	32,823	366,722	30,560.2	91.4%
無菌製剤処理2件数(入院)	167	101	116	111	176	207	142	139	110	102	110	113	1,594	132.8	88.4%
無菌製剤処理1件数(悪性腫瘍)	268	285	317	274	277	290	308	335	309	287	316	309	3,575	297.9	107.4%
外来腫瘍化学療法診療料 1-イ	228	243	266	238	236	236	255	264	253	229	258	256	2,962	246.8	103.5%
外来化学療法加算　1	48	50	68	60	49	57	63	60	52	53	75	56	691	57.6	114.6%
薬剤情報提供件数	1,630	1,496	1,402	1,441	1,470	1,379	1,686	1,607	1,324	1,371	1,411	1,556	17,773	1,481.1	104.2%
退院時薬剤情報指導件数	269	248	270	255	233	184	167	158	158	135	151	148	2,376	198.0	41.2%
薬剤管理指導件数(Ⅰ)	1,258	1,214	1,396	1,246	1,276	1,240	1,182	1,361	1,244	1,194	1,271	1,329	15,211	1,267.6	101.7%
薬剤管理指導件数(Ⅱ)	810	700	801	773	831	785	824	863	733	839	854	850	9,663	805.3	98.9%
薬剤管理指導件数(合計)	2,068	1,914	2,197	2,019	2,107	2,025	2,006	2,224	1,977	2,033	2,125	2,179	24,874	2,072.8	100.6%

《薬剤管理指導件数の推移》



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2020年	2,119	2,051	2,220	2,059	1,788	2,190	2,247	2,059	2,032	2,018	1,976	1,888
2021年	1,958	1,893	2,241	2,036	1,880	2,045	2,051	2,152	2,099	2,077	2,165	2,132
2022年	2,068	1,914	2,197	2,019	2,107	2,025	2,006	2,224	1,977	2,033	2,125	2,179

4. 今後の目標

①臨床業務活動のさらなる充実をめざす

②学会発表、論文発表を積極的に行い、リサーチマインドを追求する

③スタッフの育成ともに資格取得ができる環境の構築する

④医療制度改革に対応できるように組織の変革を常に継続する

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

31）放射線科

放射線科技師長　平野　泰弘

1. 概要

2022 年は診療放射線技師 4 名の新入職と 3 名の退職があり、現在は診療放射線技師 32 名、事務員 1 名の体制となっております。今年度も放射線部会と緊密に連携し、徳洲会グループの超規模病院としての責務を全うして参ります。検査実績としましては、昨年度と同様に近隣のクリニックや診療所より年間約 3000 件の検査依頼を頂きました。

今期は 2022 年 2 月に 2 階 1.5TMR 装置をバージョンアップし、2022 年 10 月に 1 階 3TMR 装置をバージョンアップで更新しました。他の既存の装置をフル活用する事で検査待ち日数を短縮し、緊急検査にもスムーズに対応できるよう努めました。

また、昨年同様に循環器科と脳外科の協力により、緊急カテーテルの件数も増加し、脳卒中の患者様に対しても緊急 CT・MRI 検査、緊急の血栓除去術や血管塞栓術の治療も行う等、救急の面においても貢献できたと考えております。

学術面では、今後も個人能力向上と放射線科全体のレベルアップを目指し、学会等への積極的な参加を続けていきます。

治療、検査体制の充実を図り、安全に配慮しながら迅速に対応できるよう、また、地域に信頼される病院になれるように努力して参ります。

2. メンバー構成

診療放射線技師 32 名、事務員 1 名

有資格取得者

第 1 種放射線取扱主任者	伊吹剛、井上竜太、齋藤里沙、宮本夏実
マンモグラフィ検診認定技師	村尾信義、川野友也、疋田直子、齋藤里沙、安川莉愛、金岡愛実、宮本夏実
胃がん検診認定技師	琉秀光、近藤浩司、上甲実
肺がん CT 認定技師	近藤浩司、伊吹剛
救急撮影認定技師	平野泰弘、小川宏明、有吉真志
Ai 認定技師	橋詰智
医療情報技師	村尾信義
X 線 CT 認定技師	伊吹剛、瀬川裕一
MRI 認定技師	久保省太

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

3. 実績

《月別放射線科統計》

2022年	単純透視	CT	MR	RI	CAG	DSA	放射線治療	紹介件数	総件数
1月	6,619	2,931	871	101	113	68	315	195	11,213
2月	6,728	2,757	847	80	117	59	344	184	11,116
3月	7,042	3,110	916	103	130	61	354	236	11,952
4月	7,602	3,000	953	89	113	74	313	271	12,415
5月	7,629	2,927	985	90	106	53	259	301	12,350
6月	6,569	2,926	1,003	117	134	62	361	317	11,489
7月	7,553	2,855	946	97	123	43	225	281	12,123
8月	7,838	2,937	881	110	99	55	177	211	12,308
9月	7,263	2,831	852	87	100	36	208	255	11,632
10月	7,470	2,874	908	113	105	34	273	264	12,041
11月	7,187	2,897	926	98	102	50	401	268	11,929
12月	6,881	3,018	924	115	105	51	293	253	11,640
合計	86,381	35,063	11,012	1,200	1,347	646	3,523	3,036	142,208
平均	7,198	2,922	918	100	112	54	294	253	11,851

実習生受け入れ

清恵会第二医療専門学院　　3 名

大阪ハイテクノロジー専門学校　5 名

4. 今後の目標

2 階 CT（64 列）、治療装置（治療計画 CT 装置）を更新予定です。CT 線量管理による画像の質の向上や被曝量の低減等を含め、診断精度及び治療成績の向上に努め、引き続き予防医療や地域貢献を目指します。

また、科内の労働環境改善を目指すと共に、勉強会への積極的な参加や資格の取得励行など、個人能力の向上に努めて参ります。

32）臨床検査科

技師長　松田　治恵子

1. 概要

2022 年は、八尾に隣接する柏原市の全南病院バックアップを実行するため 5 月から応援を開始した。検査部会としては離島僻地病院への人員確保のために全国を 3 グループに分け、年間を通して毎月応援を提供する体制を開始した。当院は 4 月に沖縄中部、9 月に屋久島、11 月に喜界島へ 1 ヶ月応援者を出した。また、細菌検査室を自前で開始予定の大垣徳洲会病院から 4 ヶ月間の研修者を受入れた。

前年目標に掲げていた測定項目見直し（分析装置変更･効率化）を積極的に実施（該当項目：PCT・CPR・IL6・NH3・μ TP）した。継続した目標である採血待ち時間に関しては、現状出来ることから実施（採血ブース・受付増設、早出人員見直し）した。新規項目として、尿沈渣機器更新に関連して BACT-Info. 項目を追加した。検査各部門では検体検査は過去最高の件数・点数であった。細菌検査が変動して下がっているように見えるが、新型コロナウイルスのグループ内での集計方法や保険点数の変更による変動であり、実質の業務量としては例年と変化なく微増している。生理検査では、超音波検査に大きな変化はないが、その他の循環器系検査（心電図・ABI・トレッドミル・負荷心筋シンチ・エルゴメーター）の増加により過去最高の検査数となった。

学術発表においては、1 題の論文と 5 演題の学会発表を行なうことができた。また、大臨技主催糖尿病療養指導部会の定例勉強会の講師として、“当院の糖尿病外来における糖尿病合併症パスの運用について”の講演を検査科主任が行った。学生実習に関しては､大学 1 校（2 名）、専門学校 2 校（4 名）の受け入れを実施した。

2. メンバー構成

・臨床検査技師　　45 名（＊他、採血コーナー常勤看護師 1 名、非常勤看護師 2 名）
・視能訓練士　　5 名　　合計：53 名

3. 実績

1）資格試験合格者
・緊急臨床検査士　　坂田技師

2）実習生受け入れ
・日本医療学院専門学校　2名（4ヶ月）
・大阪医療技術学園専門学校　2名（4ヵ月）
・関西医療大学　2名（3ヶ月）

3）機器更新・新設
・オートクレーブ
・ルミパルスG1200（2台目）
・血液培養BACT/ALERT VIRTUO
・尿定性AX-4061、尿沈渣UF-5000

・超音波検査装置LOGIQ S8　2台
・デイメンションEXL200Refresh
・バイオメデイカルフリーザーMDF-U443-PJ
・リアルタイムPCR測定機器　QuantStudio5（2台目）
・血液ガス管理システム　AQUA

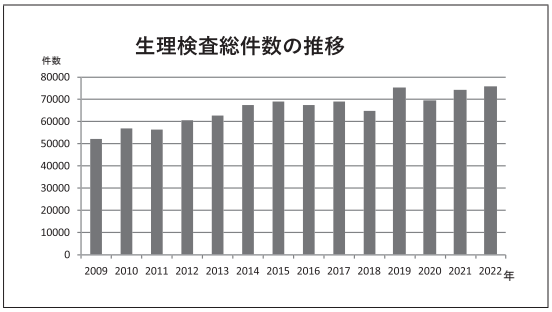
4）検査統計

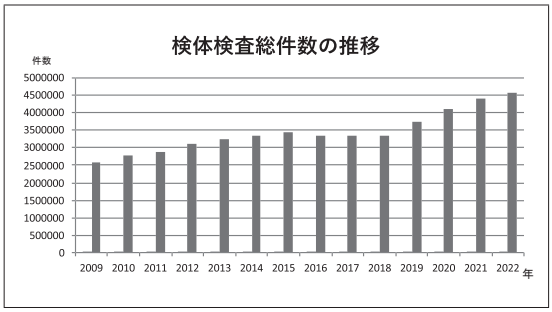
（件数）

項目／月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般	44,019	40,544	47,850	45,000	44,772	46,673	45,553	46,402	46,451	46,738	43,117	47,900	545,019	45418.3
血液	79,128	73,605	84,517	81,615	84,019	79,811	81,515	86,670	79,163	81,017	78,537	85,398	974,995	81249.6
微生物	8,284	7,685	9,025	7,190	7,296	7,665	8,269	8,743	7,604	7,952	7,996	9,256	96,965	8080.4
免疫	28,976	25,569	25,328	25,544	25,838	24,954	31,287	31,888	25,299	26,424	27,192	30,375	328,674	27389.5
生化学	168,348	155,621	178,569	172,881	177,323	172,424	174,705	182,243	170,659	175,772	170,605	186,234	2,085,384	173782.0
病理	757	723	915	888	1,017	1,077	1,139	1,004	1,014	1,184	1,142	1,148	12,008	1000.7
細胞診	1,775	1,695	2,045	2,110	2,201	2,437	2,310	2,638	2,667	2,829	2,747	3,030	28,484	2373.7
外注合計	5,099	4,298	4,922	6,226	4,905	5,209	5,356	5,090	5,181	5,220	4,580	5,279	61,365	5113.8
検体合計	371,722	343,911	390,267	377,597	381,952	376,557	388,005	404,928	373,597	383,159	370,847	406,881	4,569,423	380785.3
外注比率	1.4	1.2	1.3	1.6	1.3	1.4	1.4	1.3	1.4	1.4	1.2	1.3	16	1.3
腹部エコー	711	696	822	740	759	857	779	771	807	797	877	849	9,465	788.8
心エコー	770	714	807	724	713	725	718	723	665	715	678	803	8,755	729.6
他エコー	840	766	927	870	881	837	850	816	767	863	805	847	10,069	839.1
生理合計	6,061	5,647	6,792	6,272	6,361	6,520	6,562	6,469	5,988	6,331	6,239	6,698	75,940	6328.3
月間検査合計	377,783	349,558	397,059	383,869	388,313	383,077	394,567	411,397	379,585	389,490	377,086	413,579	4,645,363	387113.6

（点数）

項目／月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般	293,511	280,837	314,587	291,058	321,019	315,602	311,598	321,756	313,286	317,812	289,315	316,155	3,686,536	307211.3
血液	1,099,102	1,033,981	1,182,228	1,104,287	1,112,805	1,102,291	1,113,070	1,185,877	1,071,491	1,112,492	1,060,433	1,170,090	13,348,147	1112345.6
微生物	1,868,532	2,184,675	2,845,834	1,729,025	1,953,560	1,876,934	2,212,210	2,366,870	1,818,894	1,816,226	2,096,113	2,479,311	25,248,184	2104015.3
免疫	5,188,070	4,712,271	2,564,799	3,719,679	3,754,833	3,315,025	6,151,870	6,341,784	3,691,785	3,561,743	4,311,454	4,867,156	52,180,469	4348372.4
生化学	2,282,447	2,073,568	2,346,656	2,222,785	2,279,568	2,279,609	2,236,028	2,299,748	2,226,803	2,307,194	2,234,779	2,464,831	27,254,016	2271168.0
病理	665,760	636,130	807,620	762,350	888,810	933,840	998,090	868,970	889,330	1,025,390	989,950	1,009,280	10,475,520	872960.0
細胞診	243,741	221,339	264,525	265,734	269,252	289,991	278,536	318,728	318,951	343,883	330,090	369,882	3,514,652	292887.7
外注合計	1,086,634	931,452	1,118,999	1,469,319	1,145,147	1,158,359	1,187,289	1,195,040	1,270,817	1,192,665	1,099,775	1,176,292	14,031,788	1169315.7
検体合計	13,922,377	13,238,153	12,634,078	12,685,537	12,828,924	12,384,581	15,727,551	16,198,533	12,729,407	12,823,965	13,518,779	15,091,247	163,783,132	13648594.3
外注比率	7.8	7.0	8.9	11.6	8.9	9.4	7.5	7.4	10.0	9.3	8.1	7.8	104	8.6
腹部エコー	391,430	381,760	448,200	407,490	416,990	467,960	430,640	421,590	443,380	436,620	482,070	465,950	5,194,080	432840.0
心エコー	683,180	638,240	719,460	647,040	633,020	645,440	638,040	639,960	589,540	634,160	604,700	715,320	7,788,100	649008.3
他エコー	494,000	447,900	529,550	490,400	491,850	464,850	477,200	461,600	430,250	481,350	447,950	471,950	5,688,850	474070.8
生理合計	2,180,220	2,047,440	2,393,700	2,220,780	2,205,630	2,273,495	2,235,385	2,193,570	2,079,705	2,210,550	2,177,360	2,286,850	26,504,685	2208723.8
院内検査合計	16,102,597	15,285,593	15,027,778	14,906,317	15,034,554	14,658,076	17,962,936	18,392,103	14,809,112	15,034,515	15,696,139	17,378,097	190,287,817	15857318.1





薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

4. 今後の目標

1）検査技師の質の向上

①各専門技士育成

細胞検査士、輸血専従技師、微生物検査技師、生理検査技師（超音波・各種機能検査）

②各種資格試験の受験

細胞検査士、認定臨床微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師、
認定輸血検査技師、認定血液検査技師

③各種学会発表・論文執筆の推進

2）業務改善・改革

①各部門人員配置の見直し・増員

②採血待ち時間短縮・結果返却における TAT の改善

③業務負担（残業時間）の分散

33）リハビリテーション科（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）

理学療法室室長　理学療法士　野村　日呂美

薬剤部　90
放射線科　93
臨床検査　95
リハビリ　98
臨床心理　104
臨床工学　106
栄養科　116
治験セン　119
医療福祉　121
病診連携　125
健診セン　136
情報シス　138
保育室　140
がん相談　143
医療安全　146
臨床腫瘍　151
院内感染　153

1. 概要

2022 年はコロナクラスターで他院のリハビリ室が閉鎖をしている現状を目の当たりにして病棟担当制を敷いた。これにより療法士が多病棟に感染を広げない対策を行った。また各脳外・整形・心肺・訪問のチームリーダーが各スタッフの患者代行を行うことを導入したことにより業務量の一定化と若手のスタッフの質の管理を行うことに取り組んだ。

5 月から全南病院の転院促進目的に理学療法士 1 名の出張応援を 2 ヶ月交替で 1 名配置することとした。

コロナ感染症により実習中止となる学校も多い状況の中、急性期病院での臨床現場を伝えていく事と、就職斡旋と最新情報交換の観点から学校との強い協力体制を築く目的で実習生　19 名（理学 11 名、作業 5 名　言語 3 名）の受け入れと、教師の定期的応援により若手スタッフの教育・学会発表等の支援に関わってもらっている。

チーム・委員会に関しては、心肺・DM・整形・脳外・訪問・リウマチ・手の外科、NST、緩和ケア、創傷外来など、チーム内で療法士の専門性を活かした活動を継続し、その中で患者治療の成績分析を行い、各チーム・委員会内での発表を行った。近隣の病院との連携強化として理学療法士協会への活動を通して会議・交流会・勉強会等、地域の中核病院としての役割を果たす努力も継続して行っている。

2. メンバー構成（次項参照）

3. 実績（次項参照）

4. 今後の目標

2022 年は 2 年連続の新人退職があり新人指導に悩む年であった。2023 年はチームごとに若いスタッフの教育体制の強化と労働環境調整を図る予定である。

【理学療法】

①メンバー構成

在籍人数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
22	22	22	25	25	25	25	25	25	25	25	25

全南病院応援：週に 1 回の午後→ 5 月より 1 名応援

発熱外来、ワクチン接種受付にてスタッフ応援

大阪医療福祉専門学校 PT 教員 2 名交代で 1/W　AM 指導応援中（8 月以降コロナ拡大で中止中）

大阪公立大学助教授　1/2W 学術的指導応援中

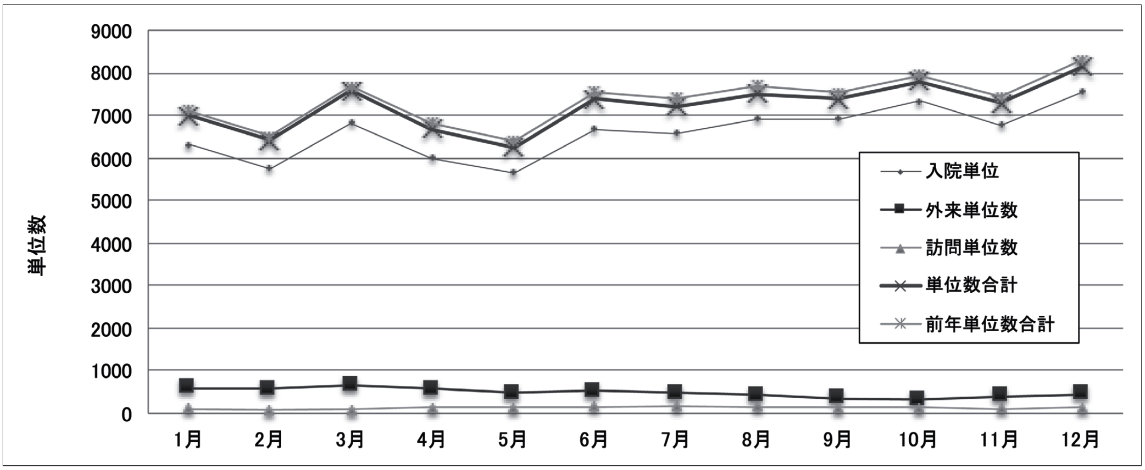
1 名育児休暇中であったが 9/21 より復帰

2 名訪問在籍

1 名 ICU・HCU　加算　算定要員

②実績

2022年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計単位数	平均
入院単位	6,301	5,749	6,831	5,995	5,643	6,684	6,575	6,914	6,916	7,342	6,762	7,545	79,257	6,604.8
外来単位数	590	579	656	568	461	533	470	436	351	323	400	450	5,817	484.8
訪問単位数	100	82	84	122	135	160	167	165	123	123	118	144	1,523	126.9
単位数合計	6,991	6,410	7,571	6,685	6,239	7,377	7,212	7,515	7,390	7,788	7,280	8,139	86,597	7,216.4
スタッフ数（実働数）	18	18	18	21	20	20	20	20	20	21	21	21		19.9
前年単位数合計	7,109	6,510	7,673	6,828	6,394	7,557	7,399	7,700	7,533	7,932	7,419	8,304	88,120	7,363.2
前年スタッフ数	19	19	18	15	22	22	22	21	21	21	21	21		20.1
延べ入院件数	4,329	3,866	4,697	4,299	3,906	4,369	4,520	4,638	4,579	4,846	4,548	5,070	53,667	4,472.3
延べ外来件数	474	469	538	461	396	456	400	370	288	270	326	365	4813	401.1
訪問患者数	51	41	43	61	68	81	84	83	62	62	60	73	769	64.1



薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

②実習生受け入れ

＜見学実習＞	期間	学年	
大阪医専	11/7 ～ 11/12	1年	1名
大阪府立大学	1/24 ～ 1/28	2年	1名
大和大学	9/5 ～ 9/9	2年	1名
大阪府立大学	9/12 ～ 9/16	2年	1名
＜検査測定実習＞			
関西福祉科学大学	1/17 ～ 2/12	3年	1名
大阪保健医療大学	2/14 ～ 2/16	3年	1名
行岡医療大学	2/7 ～ 2/25	3年	1名
＜臨床実習＞			
大阪医療福祉専門学校	5/30 ～ 7/23	3年	1名
四條畷学園大学	8/10 ～ 9/28	4年	1名
＜地域実習＞			
大阪府立大学	9/1 ～ 9/7	2年	2名

《地域連携》

服部　玄徳	大阪府理学療法士協会　八尾柏原ブロック　学術部部員
服部　玄徳	理学療法診療ガイドライン作成委員会　脊髄障害SR班　班員
小阪　葵	大阪府理学療法士協会　八尾柏原ブロック　学術部部員
久松　寛	大阪府理学療法士協会　八尾柏原ブロック　学術部部員

《学術発表・論文投稿》

久松　寛	○第3回東大阪支部新人賞例発表会 演題：「右TKA後に膝蓋腱断裂を生じた両側膝OAの1例～膝蓋骨のマルアライメントに着目して～」
久松　寛	○第34回大阪府理学療法学術大会 演題：「右TKA後に膝蓋腱断裂を生じた両側膝OAの1例～膝蓋骨のマルアライメントに着目して～」
麻野　智幹	○第61回近畿理学療法学術大会 演題：「動作時筋緊張異常によるtoe dragに対して装具療法にて歩容が改善した急性期脳卒中患者の一例」 ○第65回日本糖尿病学会　年次学術集会　演題発表 演題:「中年期の肥満2型糖尿病患者における身体活動量と下肢骨格筋量の関連」
服部　玄徳	○第31回八尾地区糖尿病連携会　演題発表 演題：世界糖尿病デーにおける当院の啓発活動―アンケートによる現状と課題の分析―」
服部　玄徳	○八尾柏原市理学療法士会主催研修会　司会・進行

演題：【医師の視点からみた心臓リハビリテーション」、「心臓リハビリテーションに必要な知識と進め方」

＜雑誌投稿＞

服部　玄徳　○理学療法ガイドライン第2版　第2章 脊髄損傷理学療法ガイドラインSR班員　2022年出版

＜共著論文＞

○「Fall prevention program using home floor plans in acute-care hospital: a preliminary randomized controlled trial」

著者：Tetsuya Ueda

雑誌：International Journal of Environmental Research and Public Health(ISSN 1660-4601)2022,19,11062 (accept on 30 August 2022)

【作業療法】

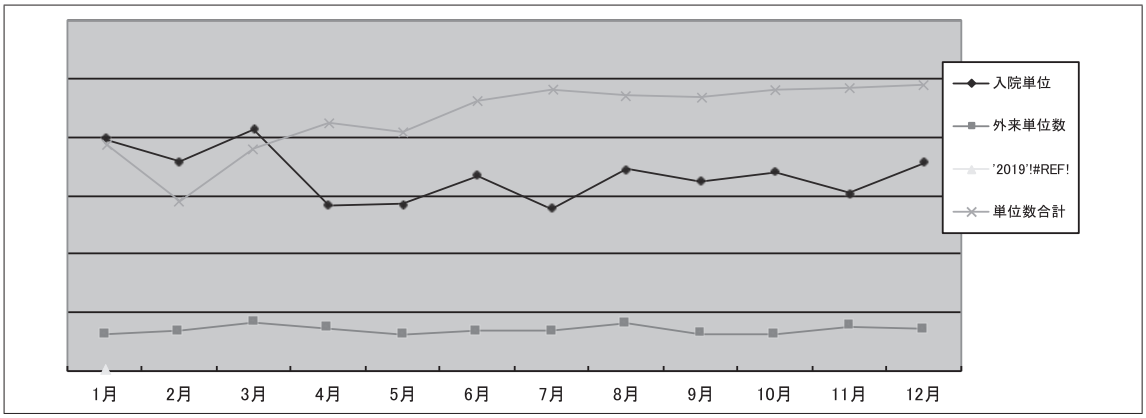
①メンバー構成

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スタッフ実働人数	7	7	7	6	6	7	7	7	7	7	7	7

②実績

〈作業療法単位数〉

2022年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計単位数	平均
入院単位	1,986	1,788	2,066	1,422	1,429	1,671	1,386	1,729	1,623	1,707	1,520	1,779	20,106	1,675.5
外来単位数	315	343	415	366	312	342	345	405	316	315	384	356	4,214	351.2
単位数合計	2,301	2,131	2,481	1,788	1,741	2,013	1,731	2,134	1,939	2,022	1,904	2,135	24,320	2,026.7
スタッフ実働人数	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6		
入院患者数	1,046	932	1,114	753	782	878	742	938	864	938	837	973	10,797	899.8
外来患者数	223	233	268	277	244	258	266	313	241	237	285	280	3,125	260.4
前年度単位合計	1,949	1,453	1,911	2,127	2,044	2,314	2,411	2,359	2,342	2,400	2,424	2,449	26,183	2,181.9
2022スタッフ人数	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7		



薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

③実習生受け入れ

＜見学実習＞	期間	学年
大阪医専	8/22 ～ 8/29	1年　1名
＜検査測定、評価実習＞		
四條畷学園大学	4/4 ～ 5/27	4年　1名
奈良学園大学	8/22 ～ 8/29	1年　1名
大阪医療福祉専門学校	1/24 ～ 1/27	3年　1名
＜臨床実習＞		
大阪医療福祉専門学校	8/22 ～ 10/29	4年　1名

【言語療法】

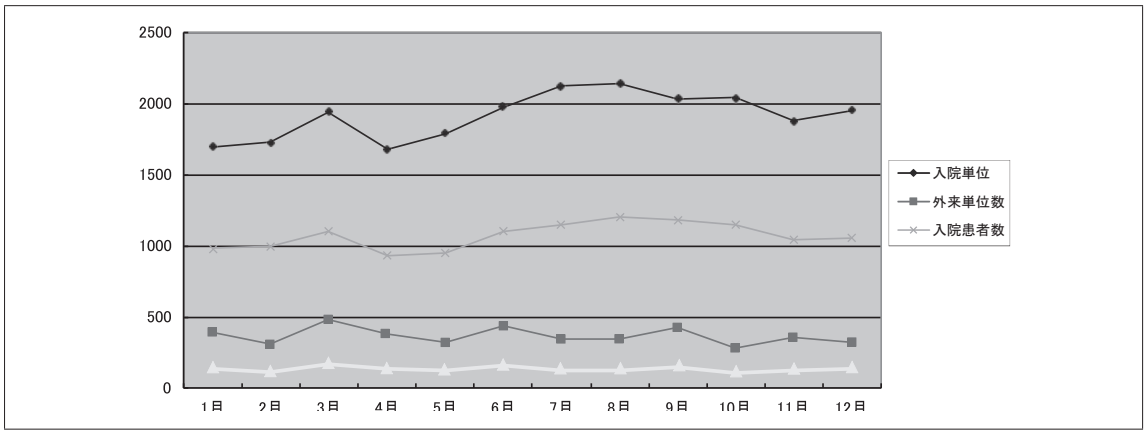
①メンバー構成

在籍人数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
6	6	6	8	8	8	8	8	8	7	7	7

②実績

2022年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 単位数	平均
入院単位	1,699	1,724	1,942	1,679	1,789	1,978	2,122	2,141	2,036	2,043	1,876	1,954	22,983	1,915.3
外来単位数	389	307	481	377	324	433	346	348	424	280	351	316	4,376	364.7
入院患者数	982	993	1,102	930	955	1,098	1,148	1,203	1,179	1,153	1,041	1,057	12,841	1,070.1
外来患者数	140	111	167	131	118	157	124	124	151	105	128	130	1,586	132.2
スタッフ 実働数	6	6	6	6	6.8	7.3	6.78	8	8	7	7	7		6.8



③実習生受け入れ

2022年5月23日～ 7月15日	大阪医療技術学園専門学校（昼間部）	臨床実習	1名
2022年8月29日～ 9月16日	神戸医療福祉専門学校　三田校	見学実習	1名
2022年10月3日～ 11月30日	大阪医療技術学園専門学校（昼夜間部）	臨床実習	1名

【心臓リハビリテーション】

①概要

全体的な業務量は昨年と同程度であった。高齢の心不全入院の患者様が増加傾向であり、さらに再入院を繰り返す患者様も多い。一日に複数回リハビリ介入を行うことで早期離床、廃用症候群予防を図り、患者様への疾病教育を行うことで再入院予防に努めた。

外来患者数の増加には至らず今後の課題である。

②メンバー構成

循環器内科医師：　福田貢、松尾浩志

心臓血管外科医師：内田直里、薦岡成年、小島三郎、春日健介

理学療法士；　片田理恵、長谷川静、奥村葵、上西希

臨床検査技師；　戸野川始、西岡徹、桐原恵利佳

③実績

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	792	671	788	697	560	687	763	668	649	696	826	1,000	733.1
単位数	1,105	983	1,165	1,013	819	1,029	1,090	989	1,021	1,027	1,213	1,531	1,082.1

外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	10	9	16	22	22	35	31	11	3	3	16	6	15.3
単位数	10	11	27	28	25	37	34	14	4	5	28	9	19.3

入外合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均	合計
患者数	802	680	804	719	582	722	794	679	652	699	842	1,006	748.4	8,981
単位数	1,115	994	1,192	1,041	844	1,066	1,124	1,003	1,025	1,032	1,241	1,540	1,101.4	13,217

④今後の目標

・術後リハビリテーションの充実、外来運動療法の積極的な実施

・外来患者の個別面談の実施

・他院からの外来心臓リハビリ患者の積極的な受け入れ

34）臨床心理科

臨床心理士　朴　祐希

薬剤部　90
放射線科　93
臨床検査　95
リハビリ　98
臨床心理　104
臨床工学　106
栄養科　116
治験セン　119
医療福祉　121
病診連携　125
健診セン　136
情報シス　138
保育室　140
がん相談　143
医療安全　146
臨床腫瘍　151
院内感染　153

1. 概要

当院における心理士の役割は、治療に来られる患者様の心に寄り添い、支えることです。人が病気やけがを患うと不安や混乱、苦しみや痛みなどさまざまな感情・感覚が生じ、それらが治療の妨げになることも少なくありません。それらを少しでも軽減し、患者様が心身ともに穏やかに過ごせるようサポートすることを私たちは目指しています。

世間ではCOVID-19に伴う制限が少しずつ緩和されてきておりますが、療養生活の中では依然と制限が多いために孤独感を抱える状況が続いています。人とつながる機会を奪われることは、療養中の方々には不安やストレスを増大させることになりかねません。誰もが孤立することなく、人とのつながりを感じられるようなサポートができればと思っております。

当科では、4月から新たな心理士を1名迎えることになり、これまでの業務内容を再検討しました。より専門的な支援を行えるよう精神科心理士との連携を強め、治療方針、経過などを共有し、患者様により質の高いサポートを提供できるよう努めております。今後も協力・協働しながら患者様のケアを行って行ければと考えています。

2. メンバー構成

片上徹也　（精神保健指定医・臨床心理科部長）
朴祐希　　（臨床心理士・公認心理師）
宮坂なつ花（臨床心理士・公認心理師）
髙橋恭子　（臨床心理士・公認心理師）

3. 実績

【外来業務】

・心理外来（小児科・その他の診療科）

小児科領域ではおもに心身症や発達障害などの患者さんを対象に、医師の指示のもと心理検査やカウンセリング、プレイセラピーなどの心理治療を行っています。他の診療科においても身体疾患に伴う心理的な不調をきたしている患者様に対応しています。

・糖尿病外来

糖尿病ケアチームのスタッフとともに患者様の血糖管理や治療を支えるための精神的なサポートを行っています。4月からは、希望する方には心理面談を実施し、糖尿病を抱える負担や不安、日々のストレスへの対処について話し合うなど、その人に合わせた支援ができるような体制を構築しました。

【入院業務】

・診療科は問わず入院患者様やそのご家族に対して、カウンセリングなどの心理的ケアを実施しています。

・緩和ケアチーム・糖尿病ケアチーム・精神科リエゾンチームに所属し、医師や看護師をはじめとする他職種と連携･協力しながら、患者様をサポートするチーム医療を実践しています。

緩和ケアチームには11月から片上医師が加わり、がん患者さんとそのご家族により専門的な心理的サポートが行えるようになりました。

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	小児科	102	98	118	89	95	96	73	87	101	97	90	111	1,157
	糖尿病外来	42	45	36	3	0	4	1	6	3	3	3	1	147
	その他	5	6	5	10	10	11	4	5	6	5	1	3	71
	合計	149	149	159	102	105	111	78	98	110	105	94	115	1,375
入院	内科系	35	20	31	17	8	3	8	16	16	13	5	2	174
	外科系	20	12	6	10	21	26	12	18	16	5	2	9	157
	糖尿病	5	8	2	5	6	4	5	3	3	4	3	5	53
	緩和ケア	17	17	25	20	4	10	12	0	11	6	2	8	132
	リエゾンフォロー	19	35	45	25	26	11	11	7	12	14	15	11	231
	小児	0	0	5	0	0	0	0	0	6	0	1	4	16
	合計	96	92	114	77	65	54	48	44	64	42	28	39	763

4. 今後の目標

私たちは、生活の中で困難さを抱え相談に来られた方１人１人と丁寧に向き合い、一緒に悩むことで、皆さんが日々を少しでも過ごしやすくなることを目標にしています。

今年度はメンバー構成の変更もあり業務内容を再検討しましたが、今後も業務内容の見直しを行い、現状に応じた柔軟な対応ができる体制を整えていきたいと思っております。そして、患者様だけでなく、病院で働く職員、心理士自身のメンタルヘスの向上に取り組んでいきたいと思います。

35）臨床工学科

臨床工学科技士長　藤田　和睦

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

1. 概要

〈人工透析業務〉

A）2021 年との件数比較

・昨年と比較して総透析件数は、11846 件（i-HDF は 4224、on-line HDF は 281 件）と 1354 件減少、病棟透析（ICU、HCU、8 西）が 204 件。特殊血液浄化は、持続血液透析（CRRT）が 569 件（211 件減少）、PMX が 2 件（3 件減少）であった。
腹水濃縮濾過が 8 件（7 件減少）となった。レオカーナは 43 件（前年 LDL 吸着 26 件から 17 件増加）であった。昨年と比べ重症 covid-19 が減少し、ICU 領域での急性血液浄化の件数が減少した。

B）2022 年実施した取り組み

・透析装置の保守点検、透析室での配置を 4 ～ 5 名体制を維持し他カテゴリー（covid-19 対応含む）への業務支援を行い、他業務の教育・指導、業務効率の充実を図った。又、新たに RO 室内の機器の更新（多人数用透析液供給装置､A 末溶解装置､B 末溶解装置）、多人数用透析監視装置（NCV-3）を 10 台購入し i-HDF、on-line HDF の導入を行った。INBODY を測定し筋肉量の測定を行った。透析液の水質管理（生物学的汚染物質、化学的汚染物質）を継続的に安定して行うことができた。

C）課題、目標について

・I-HDF や on-line HDF が始まり、更なる継続的な透析液（超純粋透析液）水質管理を行う事。課題としては､DIACOM（透析支援システム）の導入､超純粋透析液使用のため、ET 測定頻度が増加し、ET 測定器の購入が必要。エコーを用いてのシャント評価や穿刺（動脈表在化）が必要となってくる。又、JCI を取得し継続的な環境整備を行っていきたい。

〈DSA 業務〉

・昨年に引き続き DSA 治療中心に業務を行っている。脳アンギオ治療 98 件、シャント PTA38 件対応した。今後の課題として、緊急症例も含め幅広く対応できるように研鑽していきたいと思う。

〈人工心肺業務〉

A）2021 年との件数比較

・人工心肺使用症例（開胸）	109件	（前年比-2件）
・人工心肺不使用症例（開胸）	6件	（前年比+5件）
・人工血管置換術（開腹）	24件	（前年比+9件）
・自己血回収	139件	（前年比-10件）
・TEVAR	29件	（前年比-11件）
・EVAR	48件	（前年比+4件）
・TAVI	0件	（前年比0件）

B）2022 年実施した取り組み

・2022 年人工心肺症例は 109 件と 100 件を超え、さらなる体制強化および緊急手術に対応した。なお、2022 年の緊急人工心肺症例は 27 件であった。業務体制は 3 名を常時確保し安全と教育に努めた。人工心肺業務に従事する臨床工学技士には、より専門的な知識を有した体外循環技術認定士が携わり、今年は 1 名追加となり資格取得者は 4 名在籍している。また MICS 下での人工心肺操作を始め、小切開かつ低侵襲な重症心臓外科手術に対応している。

C）課題、目標について

・2023 年は更なる人工心肺使用症例数の増加、緊急手術、重症症例の増加や低侵襲手術の導入など心臓血管外科手術の増加が予想される。また 2023 年は TAVI も開始となる予定である。安全で安定した医療を提供できるよう強化を図りたい。

〈手術室業務〉

A）2021 年との件数比較

・鏡視下手術　　924件（前年比-1件）
・MEP　　113件（前年比-4件）
・ナビゲーション　82件（前年比+27件）
・ダビンチ　　37件（前年比+37件）
・RFA　　24件（前年比+3件）

B）2022 年実施した取り組み

・2022 年も継続して、手術室および救急、DSA に設置している麻酔器の日常点検、例年計画している保守点検も 11 月に実施することにより故障トラブルの早期発見に務めた。

・電気手術メスを始めとする高周波エネルギーデバイスの保守点検も当科で実施した。MEP 術中モニタリングおよびナビゲーション支援においては整形外科領域だけでなく、脳神経外科領域においても取り組んでおり、症例数増加にも対応している。

・今年度より内視鏡手術支援ロボット daVinci の使用が始まり泌尿器外科、呼吸器外科消化器外科と多岐に亘っている。また、手術室に携わっている臨床工学技士 2 名が周術期管理チーム認定制度の認定資格を取得し、業務に従事している。

C）課題や目標について（まとめ）

・2023 年も更に件数増加や新しい医療機器が導入されることが予想される。特に内視鏡手術支援ロボット daVinci には積極的な取り組みをしていく。また医療機器の安全使用や装置異常やトラブル早期発見に対し、臨床工学技士として迅速な対応を図りたい。

〈心臓カテーテル業務〉

A）2021 年との件数比較

・総カテ 1653 件数件（昨年 1702 件）

・PCI 件数 776 件（昨年 772 件）

・EVT 件数 237 件（昨年 292 件）

・ペースメーカー植え込み件数 39 件（昨年 56 件）

・緊急カテーテル件数は 118 件（昨年 146 件）と少し減少傾向ではあるが、来年度より医師の増員により治療数の増加が見込まれる。また、高度な手技を要される Rotablator の件数が 215 件（昨年 258 件）、Diamond Back が 34 件（昨年 28 件）。
更に昨年度より導入されたエキシマレーザーに関しては 57 件施行した。

・ペースメーカー外来 314 件。（昨年度 254 件）遠隔モニタリングには引き続き力を入れており、導入数が増加。896 件（昨年 741 件）の実施となった。遠隔管理システム（オリフィス）の導入も検討されている。

B）2022 年実施した取り組み

・カテーテル分野ではエキシマレーザーを導入。緊急問わず適した病態の患者様には積極的に使用していっている。全国 2 位の実績となった。

・ペースメーカー分野ではリードレスペースメーカを導入し 2 件の手術を行った。
高齢な患者様に対しては有用であるため、今後積極的に取り組んでいく。

C）課題や目標について

・来年度より医師が 4 人増員と大幅に体制が変わることにより、治療件数も増えると予想される。それに伴い循環器ホットラインが始まり、より一層迅速な対応と人員の増加を図らなければならない。新人スタッフの教育に力を入れ、科内全員が対応出来るよう、スタッフ育成が課題である。

〈呼吸器・機器管理〉

1）2021 年との件数比較

・NPPV の件数は 2205 件で、2021 年（2857 件）より減少した。（1 日 1 件としてカウント）
例年どおり NPPV をレンタルすることが多かった。

・ベンチレータの件数は 4,484 件で 2021 年（5927 件）より減少した。

・ネーザルハイフローの件数は 2785 件で 2021 年（2731 件）より増加した。

・搬送用人工呼吸器（Para PAC・モナール）使用件数は 161 件で 2021 年（353 件）より減少した。

・呼吸リハビリ業務
呼吸ケアチーム（RST）への安定した業務参加（月～日）を行えた。
ICU 専任 CE が土日の呼吸リハビリに対応することで、毎日業務参加できた。

2）2022 年実施した取り組み

・1 月より、ICU 専任業務開始（CE1 名常駐）した。

・2022 年も継続して人工呼吸器に使用前点検ならび定期的な回路交換・人工呼吸器の計画的な保守点検を行った。

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

・除細動器、TPM および高周波焼灼装置の定期点検を計画的に行うことが出来た。
・QI 目標として医療機器の迅速な故障対応を掲げ、一定の成果がみられた。

3）課題や目標について

・ICU 業務の拡充。（CV 介助等）
・物品の適切な在庫管理。
・2022 年も新しい医療機器が導入されることが容易に予想される。迅速に対応できるように臨床工学科として取り組んでいきたい。

〈内視鏡〉

A）2021 年との件数比較

・上部消化管検査は、昨年と比較し、362 件増加した。下部消化管検査は、111 件増加した。ERCP は 48 件減少した。治療件数は、ポリペクトミー・EMR が 18 件減少、ESD は、1 件の増加であった。
・EUS の件数は、増減なし。FNA は、39 件の減少となった。
・気管支鏡分野では、28 件増加した。
・引き続いての新型コロナ発生による件数の影響はあったと思われるが、昨年より、検査治療件数は増加している傾向にある。
・スタッフが感染対策をしっかり行ってくれた結果、感染者、濃厚接触者を出さないことでマンパワーによる影響がほぼ無かった事が非常に大きい。
・件数については一覧参照。

B）2022 年実施した取り組み

a）内視鏡治療介助者の育成。
b）内視鏡機器の修理金額の削減。
c）内視鏡スコープ清浄度調査 ATP 測定
d）学会発表
e）動画教育資料の作成・運用

取り組み結果

a）介助者の育成は各個人のモチベーションを保つことが出来､効率的な成果が得られた。その一方で医師へのサポートがより必要となってきている。
b）先端保護チューブの導入により故障程度の軽減、修理金額の減少が出来た。顕著な質の向上が見られた。
c）内視鏡スコープ清浄度調査（ATP）を積極的に行った。教育にも取り込んだ為、根拠をある質の高い教育が出来た｡当施設での測定方法･運用方法を元に関西大阪ブロックの内視鏡スコープ清浄度調査（ATP 測定）を行う事が出来た。
d）日本臨床工学技士学術大会に 2 演題､近畿臨床工学技士学術大会に 1 演題を発表した。日本消化器内視鏡技師学術大会に 2 演題発表、近畿内視鏡技師学術大会で座談会演者を務めた。その他、座談会コメンテーター、メーカーウェビナー演者、養成校への授業依頼など多岐にわたり外部発信する機会を得ることができた。結果、徳洲会グループおよび八尾徳洲会病院の存在をアピールできたと思う。又、臨床工学技士が内視鏡業務に携わることで修理費用の削減や内視鏡室の感染管理、内視鏡治療介助業務に深く関わっている事を外部に発信する事が出来た。

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

e）動画資料の作成については、作成したものを部会内視鏡WGで活用することが出来た。手技介助なども含め目に見える教育をテーマとして作成・運用していきたい。

C）課題や目標について

・継続的な目標として新型コロナ対応含め、検査・治療件数の確保を行っていく。多種多様な手技に対応する技術の習得が引き続き必要不可欠となる。

・スコープの培養体制の確立が急務であり、臨床工学部会を通じ、グループ内で高精度かつ簡易的に行える様に研鑽していきたい。

・当施設は臨床工学部会、内視鏡WG長が在籍する施設となる為、通常業務だけでは無く業務の標準化、手技の質向上を確立し内視鏡WGに提案、グループ内施設に発信を行う事が求められている。

・すでに修理費用削減案件ではスコープ先端保護チューブのグループ内導入、コスト削減案件では光源装置に使用するランプの別製品使用で実績を上げている。

・2023年は、内視鏡業務におけるタスクシフト・シェアが実行されるように日本臨床工学技士会や日本消化器内視鏡技師会への活動を積極的に行ない、内視鏡治療介助業務に携わるメディカルスタッフがグレーゾーンで行っている業務を安心して業務に望める環境を構築していきたい。

〈救急車〉

A）2021年との件数比較

・2021年の救急車搬送（一般患者転院搬送）件数は9（人工呼吸器使用（スタンバイ含む）8件、その他1件）件で、ドクターカー搬送件数は8件（人工呼吸器使用1件、IABP使用1件）で臨床工学技士が救急車に同乗する機会は合計14件に対し、2022年の救急車搬送（一般患者転院搬送）件数は40（人工呼吸器使用（スタンバイ含む）5件、その他2件）件でドクターカー搬送件数は4件（人工呼吸器使用1件、VA ECMO使用1件、Impella使用1件）で臨床工学技士が救急車に同乗する機会は合計11件であった。

B）2022年実施した取り組み

・昨年同様、ドクターカー搬送に向けて上半期は八尾市救急隊より救急車勉強会を臨床工学技士やその他医療従事者向けに実施した。今年は、ストレッチャーの動作に加えて、補助循環や人工呼吸器などの医療機器を装着した患者搬送を想定した研修を行った。今後もこの研修は、臨床工学技士を中心として半年ごとに継続して行っていく予定である。

・ドクターカー搬送については昨年同様に当院の救急車で、医師、臨床工学技士(1～2人)、医事課（運転手）で当院からの搬送や搬送依頼のあった病院に向かい、当院に搬送することを目的として行っている。搬送中に臨床工学技士は救急車が出発するまでに車内周辺機器の準備を行い、救急車走行中は助手席に座り、運転手のサポート（走行時安全確認、ナビゲート、サイレンの操作）を行なう。また、一般患者転院搬送同様に人工呼吸器の操作・管理に加えて、補助循環装置の操作・管理も行う。搬送中の人工呼吸器管理は2021年よりモナール（搬送用人工呼吸器）が運用開始となり、この装置によって、2022年も人工呼吸器使用患者の搬送を簡便に行えている。

・救急車の点検については、毎日、医事課の方による点検が行われており、車内にある消

火器についても使用期限などを確認し、更新・半年点検を実施した。搬送時の医療機器は毎日、臨床工学技士によって外観・充電状態を確認し、車内物品についても、搬送後に物品が揃っているかの確認を行っている。また、車内の細かな物品配置やバックカメラ、カーナビゲーションの更新を行い、車内環境の更新を時折図っている。

C）課題や目標について

・2022 年は 2021 年と同様に、多くの救急車搬送を経験できた。ドクターカー搬送に関しては、補助循環、人工呼吸器装着患者にも対応しており、経験を踏まえつつ体制を整えて柔軟かつ安全に努めて対応していきたい。又、臨床工学技士が同乗する一般患者転院搬送については、呼吸器疾患患者搬送が多いため、人工呼吸器を管理・操作できる臨床工学技士がしっかりサポートし、八尾徳洲会総合病院の安全な救急車搬送に尽力かつ貢献していきたい。

2. メンバー構成

・藤田技士長をはじめとして 27 名で構成。役職者構成は以下の通り

・藤田技士長

・中西副技士長

・藤村係長

・杉本主任　杉山主任

・向井副主任　玉城副主任　長谷川副主任

告示研修受講者数

・14 名受講済み。13 名の告示研修受講を進めていく。

3. 実績

2022年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
心臓カテーテル	CAG	45	49	65	58	49	56	36	38	44	29	47	40	556
	PCI	66	72	66	54	58	72	89	61	53	72	52	68	783
	ロータブレーダー	20	19	21	11	11	26	24	11	14	24	12	22	215
	エキシマレーザー	0	0	0	3	4	6	11	7	10	8	1	7	57
	PTA	26	23	19	26	23	22	17	17	12	11	18	23	237
	T-PM	1	2	2	1	5	4	8	2	8	4	2	6	45
	P-PM	2	3	3	2	2	4	3	2	5	3	3	5	37
	PMチェック	18	21	23	22	23	27	37	16	32	42	35	18	314
	遠隔モニタリング	35	59	66	84	82	56	107	77	74	86	72	98	896
心臓血管外科	人工心肺使用症例(開胸)	7	8	13	12	9	7	9	5	5	9	11	14	109
	人工心肺不使用症例(開胸)	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	6
	人工血管置換手術(開腹等)	2	2	4	3	3	3	0	0	3	2	1	1	24
	自己血回収装置	11	11	18	15	12	10	9	6	8	12	11	16	139
	TEVER	2	2	5	4	4	2	2	2	0	5	1	0	29
	EVAR	4	4	8	3	3	2	6	6	2	0	7	3	48
手術室	MEP・SEP	7	9	14	7	12	12	8	9	6	12	11	6	113
	ナビゲーション	3	6	8	5	9	8	5	6	6	9	9	8	82
	ダビンチ	0	2	3	4	3	4	3	4	3	5	4	2	37
	鏡視下手術	77	46	68	87	77	77	74	93	86	79	73	87	924
	ラジオ波焼却術	1	1	0	0	4	3	3	1	4	3	2	2	24
DSA	脳アンギオ	9	6	8	15	7	7	15	9	6	5	6	5	98
	腹部アンギオ	0	0	3	1	0	0	0	1	0	1	0	1	7
	下肢アンギオ	9	9	15	15	9	10	6	8	6	8	10	11	116
	シャント造影	6	3	3	0	3	3	0	4	4	4	4	4	38
人工透析	HD(外来)	729	655	709	693	672	645	645	673	667	647	682	713	8130
	HD(入院)	446	316	330	287	260	266	295	295	299	316	288	318	3716
	on-line HDF	0	0	0	0	0	2	4	14	62	55	65	79	281
	i-HDF	344	315	363	351	352	368	374	396	354	335	335	337	4224
	CRRT	51	54	41	30	86	90	25	48	11	64	30	39	569
	PMX	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	腹水濃縮	1	1	0	0	0	1	1	2	1	0	1	0	8
	血漿交換・吸着	15	0	4	1	7	0	0	0	0	3	0	0	30
	レオカーナ	0	0	0	0	0	0	8	5	7	17	6	0	43
内視鏡	GS	394	405	479	469	450	472	428	437	432	464	456	479	5365
	CS	189	190	247	224	228	250	214	176	216	212	235	236	2617
	EUS(消化器・気管支鏡含)	17	9	10	23	11	10	11	10	7	17	17	13	155
	EUS－FNA(消化器・気管支鏡含)	1	3	6	6	1	4	1	2	5	5	3	5	42
	内視鏡的止血術	8	16	10	9	14	5	6	11	6	12	11	10	118
	拡張術	1	0	2	1	2	2	0	3	1	1	1	2	16
	ポリペクトミー・EMR	47	43	60	76	69	66	56	44	61	58	65	46	691
	ESD	7	7	8	6	13	7	10	4	5	9	12	7	95
	上部・下部ステント、イレウス管挿入	2	11	10	6	10	4	7	8	3	6	5	9	81
	食道・胃静脈瘤硬化療法	5	2	3	4	3	4	0	1	2	0	0	3	27
	ERCP	14	26	26	29	24	17	26	35	25	31	32	38	323
	EST	10	8	6	5	8	2	7	8	10	10	11	18	103
	胆膵ステント挿入	11	24	22	25	17	14	19	32	23	24	30	35	276
	バスケット採石・砕石	6	17	15	18	10	8	12	25	16	17	22	27	193
	PEG	1	3	3	6	2	3	5	2	2	6	1	2	36
	BF(吸痰含)	10	8	8	15	9	12	12	13	6	16	11	9	129
呼吸管理	人工呼吸器	397	547	405	494	459	426	271	311	230	326	225	393	4484
	NPPV	365	209	209	141	149	229	149	141	108	126	118	261	2205
	NHF	295	262	358	222	170	156	223	239	128	246	201	285	2785
	搬送用呼吸器(パラパック、モナール)	22	8	31	9	8	11	5	24	17	9	5	12	161
	RST	175	124	164	165	146	181	126	154	94	108	122	134	1693
補助循環	ECMO(PCPS)	4	8	17	35	37	27	6	2	7	12	0	8	163
	IABP	6	3	13	17	7	7	7	13	12	24	6	9	124
	IMPELLA	0	0	5	0	0	0	0	2	1	3	0	0	11
メンテナンス	輸液ポンプ	496	528	660	526	595	491	493	526	469	528	509	513	6334
	シリンジポンプ	261	284	342	252	263	285	220	241	223	229	190	326	3116
	除細動器	726	681	748	722	765	757	795	849	817	844	801	788	9293
	持続吸引器	69	69	69	96	58	67	83	56	46	71	76	65	825
	人工呼吸器	661	572	582	577	540	569	398	430	319	454	311	600	6013
	生体情報モニター	4989	4747	5328	4872	4838	4353	5252	5079	4570	4843	4898	5266	59035
	血液浄化装置	1496	1261	1403	1534	1322	1345	1290	1318	1290	1382	1289	1401	16331
	内視鏡機器	1614	1593	1868	1879	1807	1958	1778	1709	1663	1839	1869	1975	21552
その他	救急車搬送同乗	1	0	0	0	0	1	0	3	2	0	0	2	9

4. 活動状況

認定士取得状況

・体外循環認定士　　藤田技士長　杉本主任　長谷川副主任

・呼吸療法認定士　　藤田技士長　藤村係長　杉山副主任　長谷川副主任

・血液浄化技術認定士　　藤田技士長　杉山主任　長谷川副主任　玉城副主任

・消化器内視鏡技師　　中西副技士長　杉山主任-

・周術期管理チーム　　長谷川副主任、岡本技士

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

委員会活動

・運営委員会	藤田技士長	・医療安全委員会	藤田技士長
・院内感染対策委員会	藤村係長	・JCI委員会	藤田技士長
・高額医療機器選定委員会	藤田技士長	・広報委員会	藤田技士長
・治験委員会	藤田技士長	・医療ガス安全管理委員会	藤田技士長
・治験委員会	藤田技士長	・手術室運営委員会	藤田技士長
・病院倫理委員会	藤田技士長		
・医療放射線管理委員会	中西副技士長	・診療録管理委員会	藤村係長
・院内感染対策チーム	藤村係長	・ICU・HCU運営会議	杉本主任
・システム委員会	杉山主任	・図書委員会	向井副主任
・肺塞栓予防委員会	長谷川副主任	・災害対策委員会	三原技士
・SM会議	矢野技士	・教育研修委員会	野間技士、藤田技士
・広報委員会	藤田技士長、藤村係長、杉本主任		
・透析機器管理委員会	藤村係長、三原技士、藤田技士長		

技士会活動

・日本臨床工学技士会	内視鏡業務検討小委員会委員	中西副技士長
・大阪府臨床工学技士会	選挙管理委員	藤田技士長
・大阪府臨床工学技士会代議員	中西副技士長、野間技士、藤田技士	

学術大会・外部発表

・第32回日本臨床工学技士学術大会　5/14、15　中西副技士長
演題『気管支鏡検査時に起きたガイドシース通過不良における内視鏡鉗子口内観察用スコープを用いた観察の有用事例について』

・第89回日本消化器内視鏡技師学術大会　10/29　中西副技士長
演題『スコープチャンネル内観察用スコープを用いた教育資料作成の有用性』
演題『手技介助動画を用いた手技介助者の育成をおこなって』

・第28回近畿臨床工学技士学術大会　10/9　中西副技士長
演題『スコープ鉗子口チャンネルな観察用スコープを使用するスコープ内部観察』

・第79回近畿消化器内視鏡技師会　8/7　中西副技士長
座談テーマ『ERCPの準備と介助の心得』

・大阪大学心臓血管外科関連施設定例会　12/18　（現地参加）藤田技士長、今堀技士、市場技士、木元技士
（WEB）　杉本主任、長谷川副主任、岡本技士、西村技士

演題発表者・内容　　今堀技士
『全弓部大動脈置換術において左右の橈骨動脈圧モニタリングが左鎖骨下動脈偽腔吻合の発見に有用であった症例』

部会関連（グループ内臨床工学部会）

ワーキンググループ（以下 WG）

・内視鏡WG長　　中西副技士長

・JCI施設WG ブロック担当者　　藤田技士長
・カテ・アンギオWGブロック担当者　　向井副主任
・システムWGブロック担当者　　野間技士
・関西大阪ブロック内視鏡WGリーダー　中西副技士長

部会活動関連出席（グループ内臨床工学部会）

・全国責任者会議（湘南鎌倉総合病院） 11/19、20　中西副技士長
・執行部会議　中西副技士長（内視鏡WG長）
　WEB会議　2/7、4/11、6/6、8/1
　集合会議　10/15、16（仙台徳洲会病院）
・関西大阪ブロック責任者会議
　WEB会議1/12、2/9、3/9、4/13、5/11、6/8、7/13、8/10、10/12、11/9、12/14
　9/18 （野崎徳洲会病院） 中西副技士長
・JCI・設備WG会議
　1/17　藤田技士長
・全国内視鏡WG会議
　1/6、3/8、5/16、8/27、11/30　中西副技士長
・システムWG会議
　4/22、12/23　野間技士
・カテWG全国担当者会議、
　1/15　石頭主任、向井副主任、玉城副主任、皮技士、本間技士、吉村技士
・カテ・アンギオWG症例検討会
　12/3、12/4　藤田技士長、向井副主任、矢野技士、本間技士、皮技士、前田技士
・カテ・アンギオWG会議
　9/7、11/19　向井副主任
・手術WG会議
　4/2、6/4、7/3、8/7、9/11、10/2　杉本主任
・関西大阪ブロック管理職研修
　第1回ハラスメント研修　8/29　　藤田技士長
　第2回ハラスメント研修　9/17、18　藤田技士長、中西副技士長
　管理職研修　　12/10　　中西副技士長、藤村係長
・関西大阪内視鏡WG会議
　3/25、6/29、12/20　中西副技士長
・関西大阪ブロックCEセミナー （岸和田徳洲会）
　10/23　中西副技士長（WEB）、野間技士、西村技士、藤田技士、木元技士、尾崎技士、
　　中之技士、市場技士
・関西大阪ブロック新人セミナー （岸和田徳洲会）
　5/7　中西副技士長、野間技士、木元技士、尾崎技士、中之技士
・関西大阪ブロックCEセミナー会議
　5/26、7/7、10/4、10/18、12/6　野間技士、西村技士

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

・関西大阪ブロック医療機器WG会議

2/21、4/6、6/21、10/5、12/7　杉本主任、杉山主任

・学生施設見学会

1/21、2/4、2/25　大阪医専6名（各日）

・学生実習

大阪ハイテクノロジー専門学校	(1/11 ～ 2/22)	2名
	(5/16 ～ 6/24)	2名
	(10/31 ～ 12/13)	2名
大阪医専	(2/7 ～ 3/4)	2名
日本メディカル専門学校	(10/11 ～ 11/18)	2名
藍野大学	(6/6 ～ 7/20)	1名

5. 今後の目標

・スタッフの教育推進

・質の高い医療機器の提供

・QI 活動強化

・グループ内活動の積極的参加

・学会発表やパネリスト等外部活動への積極的参加

36）栄養科

栄養科室長　小山　洋史

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

1. 概要

2022 年は診療報酬改定で管理栄養士の専門性が求められる領域が広がり、実績を求められる 1 年であった。その 1 つとして ICU、HCU での早期栄養介入を行い可能な限り、腸管を使用し、栄養管理を行い治療効果を高める早期栄養介入加算もその一つである。

その他では化学療法室での栄養指導、緩和ケアでの個別食事提供加算、栄養サポートチームなど専従、専任要件が求められ各加算への人員配置に難渋した 1 年であった。

調理では、今まで行ってきた患者食の形態などを見直し、安全に美味しい食事を提供できるよう考慮した献立を目指して、食事提供を行った。

2. メンバー構成

2022 年 1 月 1 日～ 2022 年 12 月 31 日
管理栄養士　9 名（栄養サポートチーム専従内 1 名）
調理師　　12 名
調理補助　20 名

3. 実績

≪実習生受け入れ≫

・武庫川女子大学	2022年 3 月 7 日～ 3 月11日	3名
	2022年 3 月14日～ 3 月18日	2名
	2022年 3 月22日～ 3 月26日	3名
	2022年 6 月 6 日～ 6 月24日	2名
	2022年 6 月27日～ 7 月 8 日	4名
	2022年 9 月19日～ 9 月30日	3名
	2022年10月 3 日～10月21日	2名
	2022年10月24日～11月 4 日	3名
・大阪松蔭女子大学	2022年 8 月15日～ 8 月19日	4名
	2022年 8 月22日～ 8 月26日	4名
	2022年 8 月29日～ 9 月 2 日	4名
	2022年 9 月 5 日～ 9 月 9 日	4名
	2022年 9 月12日～ 9 月16日	4名

≪食数≫　　2022年1月1日～12月31日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般食	11,846	10,731	11,604	11,927	12,023	11,281	13,349	13,267	13,912	12,407	13,002	13,521	148,870	12,406
経管栄養	1,830	2,124	2,667	2,461	2,383	1,741	1,565	1,742	1,544	2,239	2,073	2,227	24,596	2,050
特別食	13,016	12,057	13,533	11,986	11,857	10,258	11,552	11,248	10,788	11,304	11,195	12,083	140,877	11,740
特別食非加算	2,095	1,527	2,109	1,917	1,354	1,939	1,731	1,897	1,455	1,607	1,727	1,622	20,980	1,748
職員食	6,654	6,538	7,460	7,527	6,937	7,836	7,391	7,446	7,339	7,451	7,332	7,884	87,795	7,316
保育所	561	494	713	476	332	342	356	515	329	456	461	608	5,643	470
病児後保育	37	48	37	46	62	63	84	55	52	58	70	53	665	55
付き添い食	29	43	16	5	16	21	59	51	34	6	23	21	324	27
合計	36,068	33,562	38,139	36,345	34,964	33,481	36,087	36,221	35,453	35,528	35,883	38,019	429,750	35,813

≪病院食内訳≫　　2022年1月1日～12月31日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
常食	4,963	4,336	4,326	5,210	5,450	5,342	5,494	5,671	5,281	4,714	4,620	5,471	60,878	5,073
軟菜食	2,829	3,291	4,001	3,360	3,027	2,756	3,720	3,391	3,704	3,394	4,005	3,332	40,810	3,401
極軟菜食	1,498	1,029	886	952	1,035	1,053	1,316	1,358	1,702	1,675	1,525	1,484	15,513	1,293
ペースト食	871	758	485	627	717	509	666	751	901	562	879	740	8,466	706
流動食	55	30	99	80	65	75	94	99	76	144	84	140	1,041	87
学童食	17	31	48	37	75	73	36	72	28	50	71	78	616	51
幼児食	3	9	10	19	18	10	70	42	43	16	14	23	277	23
離乳食	9	15	6	0	0	3	0	4	7	0	7	0	51	4
糖尿食	3,391	3,383	3,807	3,663	3,553	2,575	3,087	3,047	2,864	2,862	2,972	3,190	38,394	3,200
心臓食	3,581	3,284	3,530	2,821	2,590	2,400	3,012	2,564	2,696	3,084	2,928	2,910	35,400	2,950
高血圧食	2,095	1,527	2,109	1,917	1,354	1,939	1,731	1,895	1,455	1,607	1,727	1,662	21,018	1,752
腎臓食	1,315	1,081	1,542	1,134	1,213	917	926	1,072	1,102	1,280	1,104	1,394	14,080	1,173
透析食	1,542	1,062	870	685	859	786	1,059	796	1,033	1,368	1,078	1,242	12,380	1,032
糖尿透析食	918	722	767	851	544	551	847	758	621	358	292	444	7,673	639
高脂血症食	155	4	1	55	76	0	41	61	46	28	42	13	522	44
低脂肪食	266	546	601	909	564	705	716	843	709	513	589	918	7,879	657
肝臓食	413	295	412	255	255	268	378	371	134	265	200	256	3,502	292
肝不全食	214	54	77	133	182	251	245	107	297	323	225	120	2,228	186
貧血食	57	55	0	0	0	0	26	0	0	34	0	12	184	15
低残渣食	765	1,052	1,154	895	1,103	995	761	1,120	983	981	933	1,127	11,869	989
潰瘍食	257	408	420	342	591	630	345	308	349	184	307	417	4,558	380
胃切後食	144	91	294	163	194	129	195	216	189	106	133	221	2,075	173
クローン病食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カテ食	0	1	15	9	0	0	11	1	3	4	16	98	158	13
ケモ食	182	67	186	57	27	37	53	256	217	317	174	198	1,771	148
COPD食	109	0	0	13	13	4	6	4	73	154	7	23	406	34
注腸検査食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
顎間固定食	0	49	66	72	147	86	52	43	59	48	22	76	720	60
訓練食	178	164	210	187	147	181	236	198	222	195	217	218	2,353	196
濃厚流動食	1,583	2,177	2,924	2,980	2,674	1,959	1,476	2,096	1,671	1,980	2,110	2,419	26,049	2,171
その他(単品食等)	1,310	1,116	1,491	1,500	1,449	1,333	1,842	1,576	1,821	1,333	1,594	1,956	18,321	1,527
合計	28,720	26,637	30,337	28,926	27,922	25,567	28,441	28,720	28,286	27,579	27,875	30,182	339,192	28,266

≪栄養指導件数≫　　2022年1月1日～12月31日

栄養指導件数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院初回	246	196	229	156	152	147	178	163	153	182	176	192	2,170	181
入院2回目	56	43	51	23	37	24	25	29	23	35	63	59	468	39
外来初回	20	35	30	8	18	25	21	18	22	15	20	20	252	21
外来2回目	180	159	195	144	151	147	162	140	162	142	159	182	1,923	160
集団	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	4	0
外来化学療法	11	10	8	8	4	5	4	6	5	8	9	6	84	7
合計	513	443	513	340	362	348	390	356	366	382	428	460	4,901	408

≪その他の業務≫　　2022年1月1日～12月31日

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
早期栄養介入加算(ICU)	128	99	130	126	86	63	77	86	80	84	44	85	1,088	91
早期栄養介入加算(HCU)				527	372	311	388	344	303	319	411	352	3,327	370
栄養情報提供加算	10	6	8	3	33	14	4	11	13	23	13	20	158	13
栄養管理計画書	1,830	1,600	1,866	1,885	1,838	1,908	1,922	1,886	1,722	1,917	1,765	2,003	22,142	1,845

4. 今後の目標

2023年は約20年使用した給食システムを新版にヴァージョンアップするため食材や献立等のマスタの整備を行い、多忙化する栄養科の業務の効率化を図る計画がある。

また今までの献立もブラッシュアップし、多様化する患者様のニーズに答え、治療の一助になるような栄養管理、食事提供を目指していきます。

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

37）治験センター

治験センター　大里　恭章

1. 概要

2022 年も昨年同様に新型コロナウイルス感染症の流行拡大により、多くの製薬会社で全世界的に医薬品開発の進展が難しい状況でした。

そのような中で、数少ない新規案件を 2023 年以降に繋げていくため、できる限り医局の先生方に対し臨床研究及び治験の重要性を呼びかけていきました。

さらに、臨床検査技師、看護師の資格を活かし、発熱外来での検体採取業務にも参加し、院内の新型コロナウイルス感染症へのサポートに従事しました。

これらの経験を前向きに生かし、新型コロナウイルス感染症の拡がりが収まり次第、受託案件数を増やし、スタッフ個々の能力が十分に発揮でき、かつ、施設スタッフとの連携もより強化し、質の高い治験業務を進めていきたいと思います。

2. メンバー構成

治験センター長	大里　恭章（薬剤師：薬剤部長兼任）
治験副センター長	元田　健太郎（臨床検査技師）
専任CRC	加藤　美和（看護師）
	都志　百花（看護師）
治験事務局	長谷川　京子（臨床検査技師）
	加世田　胡桃（事務員）

3. 実績（2022 年）

【治験】

①中等度から重度の慢性閉塞性肺疾患（サノフィ）
②慢性腎臓病（アストラゼネカ）
③高カリウム血症（ゼリア）
④動脈硬化性心血管疾患、慢性腎臓病、全身性炎症（ノボ ノルディスク）
⑤皮膚欠損創（三洋化成工業）
⑥心房細動（バイエル薬品）
⑦心血管疾患の既往を有する肥満症（ノボ ノルディスク）
⑧肥満症（ノボ ノルディスク）

【研修会・学会・参加】

① CRC 全国 web 会議（元田副センター長）
② CRC と臨床試験のあり方を考える会議

4. 今後の目標

臨床試験部会から推奨されている各種手順書の修正や作成をすすめ、全てのスタッフがCRC 業務に取り組みやすい体制を引き続き構築する。

また、CRC は、受託治験の早期組み入れ、契約数達成率アップ、契約数追加などが出来るように、積極的な活動を心掛けるとともに、GCP に基づいた品質の高い実施内容が実践できるよう努力を重ねる。

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

38）医療福祉相談室（医療ソーシャルワーカー）

認定医療ソーシャルワーカー　三谷　勇一

1. 概要

地域に根差した急性期病院としての使命を果たすために、当院では、MSW（医療ソーシャルワーカー）が配置されています。MSW とは、コンプライアンス（法令遵守）に乗っ取りながらも、社会的な理由による入院を減少させることが、役割のひとつとなります。そのため、限られた社会資源としての病床を適切に配分する為､早期の退院をお願いすることがあります。その背景には､「共通価値の創造：CSV（Creating Shared Value)」という考え方が注目されています。

患者様は、医療的な困りごとに限らず、心理的、社会的な困りごとを感じていることも多くあります。CSV とは、企業活動として社会課題に取り組み、社会的価値と企業的価値を創造していこうとする経営戦略のことです。医療のような公共性が高い分野においても、医療の質の向上のために、市場原理に基づく経営が求められています。この医療の質の向上は、患者様の満足度の向上に寄与するのみならず、病院職員の働きがいの向上にも役立ちます。そして、民間の医療法人として、一病院の利益のみならず、地域の利益、さらには、国民の利益にまで、マクロな視点での介入が求められます。

当院では、国際的医療機能評価機関（JCI）の認証をうける過程において、さまざまな質の向上を目指してきました。特に、入退院支援加算、入院時支援加算については、多くの課題は残されておりますが、システムの構築に至りました。これらの取組みは、学会発表 7 演題（優秀演題賞 1 演題を含む)、論文等 1 本となりました。

2. メンバー構成

病棟専任社会福祉士 11 名、(算定加算：入退院支援加算 1、入院時支援加算 1)
三谷勇一（ICU・HCU、がん相談)、井本裕美（4 東)、伊藤貴代（5 西）
木村千恵（5 東)、古山有希（6 西)、五十嵐健太（7 東)、門田翔太（7 西）
岩尾涼（6 東・8 西)、影山雄紀（8 東)、中納浩子（4 東)、蔵元裕恵（5 西）

退院支援専従看護師　　：加藤和代
入院時支援専任看護師　　：上田あゆみ、辻井千穂、西村なおみ

委員会活動等

患者ケア委員会	三谷	患者アセスメント委員会	三谷	業務改善委員会	門田
QI会議	三谷	運営会議・広報委員会	門田	放射線治療委員会	三谷
QI会議	門田	がん緩和支援委員会	三谷	オンコロジー委員会	三谷
未収金委員会	伊藤	地域医療担当者会議	蔵元	病床管理委員会	影山

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

認定資格等

認定社会福祉士（医療分野）	三谷	認定スーパーバイザー	三谷
認定医療ソーシャルワーカー	三谷	救急認定ソーシャルワーカー	三谷
認定がん専門相談員	三谷	入院時重症患者対応メディエーター	三谷
公認心理師	三谷・門田		
精神保健福祉士	蔵元・伊藤	職場適応援助者	三谷
社会福祉士実習指導者	三谷・門田	障害者職業生活相談員	三谷
地域緩和ケア連携調整員	三谷・門田	介護福祉士	井本
認知症サポーター	三谷・門田		

3. 実績

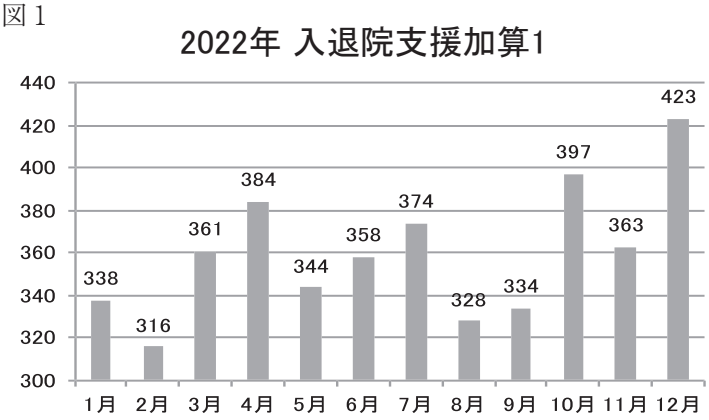
1）退院支援実績

2022 年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1. 他施設へ		170	135	163	168	173	164	143	143	174	165	146	192	1,936
内、グループ内施設へ		13	15	10	11	16	25	23	23	19	23	20	28	226
内訳	① 医療機関	116	85	110	111	106	115	90	86	113	107	86	119	1,244
	内、グループ内施設へ	7	9	3	9	7	12	9	11	10	10	11	18	116
	② 老健施設	11	9	10	8	12	15	18	16	12	16	14	14	155
	内、グループ内施設へ	6	6	5	2	7	9	14	11	8	12	9	10	99
	③ 老人ホーム等	40	37	40	46	54	33	33	39	48	42	46	57	515
	内、グループ内施設へ	0	0	2	0	2	4	0	1	1	1	0	0	11
	④ その他	3	4	3	3	1	1	2	2	1	0	0	2	22
	内、グループ内施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 在宅診療へ		40	39	46	47	35	44	48	37	35	46	35	61	513
内訳	グループ内事業所	12	13	6	10	10	12	16	12	8	11	13	14	137
	（再掲）内、新規登録	8	2	4	8	8	3	6	1	10	8	9	5	72
	グループ外事業所	28	26	40	37	25	32	32	25	27	35	22	47	376
3. 死亡		65	52	55	41	38	44	53	47	42	56	34	45	572
4. その他（軽快退院を含む）		589	566	661	716	648	711	708	699	624	693	653	736	8,004
1、2、3、4 の合計		864	792	925	972	894	963	952	926	875	960	868	1034	1,1025

2）入退院支援加算 1（退院支援計画書）算定実績

昨年の 4,522 件から減少し、4,315 件となりました。また、入院時支援加算は、昨年の 429 件から減少し、年間 279 件でした。

図 1



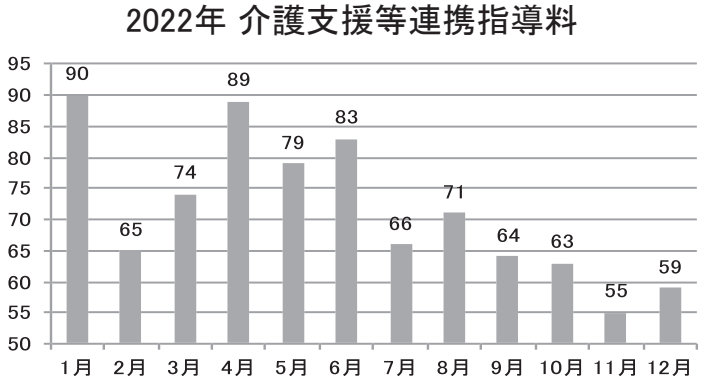
3）介護指導等連携指導料など

施設基準として年間 63 件以上の算定が必要となります。

2022 年は 858 件で有意に条件を満たしましたが昨年の 1,054 件を下回っています。

退院時共同指導料 2 は、233 件と昨年の 221 件より上回りました。地域連携診療計画加算は、211 件と昨年の 221 件より下回りました。。

図 2



4）相談援助実習（指導者：三谷、門田）合計 6 名

大阪国際福祉専門学校（3 名）

期間：2022 年 1 月 5 日～ 2 月 7 日

期間：2022 年 1 月 11 日～ 2 月 9 日

期間：2022 年 4 月 18 日～ 5 月 24 日

関西福祉科学大学（2 名）

期間：2022 年 8 月 22 日～ 9 月 16

期間：2022 年 8 月 23 日～ 10 月 7 日

日本総合研究所（1 名）

期間：2022 年 10 月 11 日～ 12 月 1 日

5）研修・部会参加

6/25・26　日本医療ソーシャルワーカー協会、日本医療社会事業学会（WEB）

4. 今後の課題と目標

国際的医療機能評価機関（JCI）の認証をうける過程において、MSW の介入のフローを可視化し、新人でも円滑に介入が出来る取組みを開発しました。来年は、JCI における取組みを見直し､再評価の年となります。介入の質向上を意識した専門職としての取組みを目指します。また、IoT 化にむけた退院支援方法を模索しています。手探りの介入ではありますが、目に見える成果にとらわれず、長い目で効果測定を試みる予定です。

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

39）病診連携室

病診連携室　課長補佐　児島　和人

1. 概要

患者様が安心して安全に医療を受けられるよう中河内地区の急性期医療の中核施設として、また大阪府のがん拠点病院として、その役割を果たすべく、地域の医療機関と紹介・逆紹介の連携を活発且つ密接におこなっております。

本年も昨年と同様に、新型コロナウィルス肺炎感染症の流行を鑑み、発熱外来の開設、COVID-19 専用病棟設置、同症例の紹介を積極的に受け入れしてまいりました。

当院へ積極的に紹介いただけるよう常に迅速且つ正確に対応させていただくことを心がけております。

地域の皆様にも幅広く医療をご理解していただき、積極的に予防医療へも関心を持っていただけるよう定期的にオンライン医療講座を開講し、またがん教育の一環として、八尾市および中河内医療圏の小中学校で児童・生徒さん向けの医療講演もおこない、予防医療の啓蒙活動にも努めております。

また地域医療支援病院として、地域に根ざした医療機関として貢献できるよう職員一同切磋琢磨していく所存です。

2. メンバー構成

病診連携室長：木村拓也　副院長・肝臓センター長（肝臓外科・小児外科）

事務：児島和人・中道睦代・立川陽子・出口やよい・山中隆史

3. 実績

・「中河内医療連携の会」（病診連携の会）

地域の連携医、連携施設との勉強会・情報交換会を定期的に開催

2022 年 2 月 19 日（土）「中河内医療連携の会」の予定でしたが、
新型コロナ肺炎感染症の流行を鑑み、中止と致しました。

《当院主催の主な公開医療講座》

職種	対象者	講師	演題	開催日	開催場所
医師	一般	医学博士　小児科部長　石垣　早知子	花粉症やアレルギー その他様々な情報をお届けします	2月21日	オンライン講座
		腎臓内科　医長　森　ちさこ	腎機能が悪いと言われたら・・・	3月25日	オンライン講座
		医学博士　小児科部長　石垣　早知子	花粉症やアレルギー その他様々な情報をお届けします	3月28日	オンライン講座
		医学博士　小児科部長　石垣　早知子	花粉症やアレルギー その他様々な情報をお届けします	4月26日	オンライン講座
		腎臓内科　医長　森　ちさこ	透析治療について	5月27日	オンライン講座
		医学博士　小児科部長　石垣　早知子	花粉症やアレルギー その他様々な情報をお届けします	5月31日	オンライン講座
		外科・肝臓外科・乳腺外科・小児外科 医学博士　河島　茉澄	がんってどんな病気なの？ 知っておくべき予防と治療	6月22日	オンライン講座
		腎臓内科　医長　森　ちさこ	腎機能が悪いと言われたら・・・	7月22日	オンライン講座
		医学博士　小児科部長　石垣　早知子	花粉症やアレルギー その他様々な情報をお届けします	8月30日	オンライン講座
		外科・肝臓外科・乳腺外科・小児外科 医学博士　河島　茉澄	がんってどんな病気なの？ 知っておくべき予防と治療	9月21日	オンライン講座
		医学博士　小児科部長　石垣　早知子	花粉症やアレルギー その他様々な情報をお届けします	10月25日	オンライン講座
		腎臓内科　医長　森　ちさこ	透析治療について	10月31日	オンライン講座
		医学博士　小児科部長　石垣　早知子	花粉症やアレルギー その他様々な情報をお届けします	11月22日	オンライン講座
		医学博士　小児科部長　石垣　早知子	花粉症やアレルギー その他様々な情報をお届けします	12月26日	オンライン講座
看護師	一般	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	残された時間をお家で過ごすために ～自宅での看取りへ～	1月19日	オンライン講座
		摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	最近よくむせているって言われませんか？ ～誤嚥性肺炎の前兆かもしれません～	1月20日	オンライン講座
		化学療法認定看護師　苗代 啓子	がんと免疫は関係あるの？	1月20日	オンライン講座
		摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	低栄養になるとどうなるの？ フレイルとサルコペニアのお話し	2月17日	オンライン講座
		がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	セカンドオピニオンについて	2月21日	オンライン講座
		化学療法認定看護師　苗代 啓子	抗がん剤の皮膚障害、なぜ起こるの？	2月24日	オンライン講座
		皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	抗がん剤による皮膚障害	2月25日	オンライン講座
		がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	人生会議をしよう	3月16日	オンライン講座
		皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	ストーマケア	3月29日	オンライン講座
		摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	最近よくむせているって言われませんか？ ～誤嚥性肺炎の前兆かもしれません～	3月31日	オンライン講座
		化学療法認定看護師　苗代 啓子	抗がん剤はなぜ効くの？	4月25日	オンライン講座

薬剤部　90
放射線科　93
臨床検査　95
リハビリ　98
臨床心理　104
臨床工学　106
栄養科　116
治験センター　119
医療福祉　121
病診連携　125
健診センター　136
情報システム　138
保育室　140
がん相談　143
医療安全　146
臨床腫瘍　151
院内感染　153

職種	対象者	講　師	演　題	開催日	開催場所
看護師	一般	摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	最近よくむせているって言われませんか？ ～誤嚥性肺炎の前兆かもしれません～	5月12日	オンライン講座
		クリティカルケア認定看護師 主任　鹿山　美穂	感染対策と熱中症	5月16日	オンライン講座
		がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	抗がん剤はなぜ効くの？	5月27日	オンライン講座
		がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	放射線治療について。 放射線は怖いもの？	6月24日	オンライン講座
		皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	スキンケア 「かゆみに悩んでいませんか？」	6月27日	オンライン講座
		摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	低栄養になるとどうなるの？ フレイルとサルコペニアのお話し	6月30日	オンライン講座
		がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	抗がん剤による皮膚障害 ～なぜ起きるのか？～	7月20日	オンライン講座
		皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	抗がん剤による皮膚障害 ～予防ケア方法～	7月20日	オンライン講座
		摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	最近よくむせているって言われませんか？ ～誤嚥性肺炎の前兆かもしれません～	7月21日	オンライン講座
		クリティカルケア認定看護師 主任　鹿山　美穂	熱中症対策	7月27日	オンライン講座
		よろこび訪問看護ステーション管理者 須賀　明美	訪問看護の役割 「自宅で、その人らしく生活が送れるように支える」	7月29日	オンライン講座
		摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	低栄養になるとどうなるの？ フレイルとサルコペニアのお話し	8月25日	オンライン講座
		がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	放射線治療について	8月25日	オンライン講座
		よろこび訪問看護ステーション管理者 須賀　明美	自分らしい生活を送るには ～在宅サービスの取り組みについて～	8月31日	オンライン講座
		緩和ケア認定看護師　西山　由希子	他人事ではないがんの話 がんと共に生きるために知っておいてほしいこと	9月13日	オンライン講座
		がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	抗がん剤ができるまで	9月14日	オンライン講座
		よろこび訪問看護ステーション 副主任　理学療法士　松本 龍也	訪問リハビリテーションについて	9月27日	オンライン講座
		摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	最近よくむせているって言われませんか? ～誤嚥性肺炎の前兆かもしれません～	9月29日	オンライン講座
		皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	ストーマケア ～困り事を解決します～	9月29日	オンライン講座
		摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	低栄養になるとどうなるの？ フレイルとサルコペニアのお話し	10月20日	オンライン講座
		がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	がんと免疫は関係あるの？	10月20日	オンライン講座
		クリティカルケア認定看護師 主任　鹿山　美穂	心臓発作はなぜおきる	10月25日	オンライン講座
		皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	スキンケア ～かゆみに悩んでいませんか？～	11月14日	オンライン講座
		摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	低栄養になるとどうなるの？ フレイルとサルコペニアのお話し	11月17日	オンライン講座
		クリティカルケア認定看護師 藤原　麻友美	はじめよう、人生会議 ～もしものときのために～	11月28日	オンライン講座

職種	対象者	講　師	演　題	開催日	開催場所
看護師	一般	摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	低栄養になるとどうなるの？ フレイルとサルコペニアのお話し	12月15日	オンライン講座
		がん化学療法看護認定看護師 苗代 啓子	がん治療の歴史	12月23日	オンライン講座
		クリティカルケア認定看護師 鴨木　沙織	脳卒中のサインと対処	12月27日	オンライン講座
臨床検査技師	一般	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	水・・飲みすぎてませんか？ 心不全予防～日常生活のポイント～	1月21日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	夜間頻尿	1月31日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか?～	2月17日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れｻｲﾝを見逃すな～	2月28日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	睡眠障害	3月14日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	水・・飲みすぎてませんか？ 心不全予防～日常生活のポイント～	3月29日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	夜間頻尿	4月12日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	良い睡眠、悪い睡眠	4月26日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか?～	5月11日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れｻｲﾝを見逃すな～	5月25日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	睡眠障害	6月24日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	水・・飲みすぎてませんか？ 心不全予防～日常生活のポイント～	7月12日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	夜間頻尿	7月22日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	8月15日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	良い睡眠、悪い睡眠	8月30日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	睡眠障害	9月13日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか?～	9月26日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	夜間頻尿	10月12日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	水・・飲みすぎてませんか？ 心不全予防～日常生活のポイント～	10月31日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	11月8日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	良い睡眠、悪い睡眠	11月25日	オンライン講座
		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	睡眠障害	12月13日	オンライン講座

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験センター 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診センター 136
情報システム 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

職種	対象者	講　師	演　題	開催日	開催場所
臨床検査技師	一般	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	耳鳴り ～鼻すすりは耳に悪いって知っていますか?～	12月23日	オンライン講座
ソーシャルワーカー	一般	認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	自律神経の乱れによる体調不良を防ぐ方法 アクセプタンス＆コミットメントセラピー	1月17日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	介護保険の基礎	1月28日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	五感対話法： スピリチュアルケアとしてのコミュニケーション	2月18日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	障害者サービスと障害者手帳	2月25日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	イライラを整理しよう！ ～認知再構成法と思考記録法～	3月25日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	がん相談支援センターの取り組み	4月22日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	こころを落ち着ける！ マインドフルネス	4月25日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	医療保険と病床の種類	5月19日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	救急を支える専門職 入院時重症患者対応メディエーター	5月30日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	生活保護の仕組み	6月14日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	療養と就労を支える専門職 「両立支援コーディネーター」	6月20日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	相続 と 遺言	7月21日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	瞑想：最先端の動向	8月23日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	年金の仕組みと、iDeCo	8月24日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	資産を守ろう！新NISA	9月15日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	改正　産休・育休 産後パパ育休制度のゆくえ	9月27日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	セカンドオピニオン	10月11日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	癒やされたい！けど、自分の感情と向き合いたい！弁証法的行動療法	10月17日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	社会保険と民間保険	11月14日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	中河内合同がんサロンの歴史	11月17日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	ストレスチェック制度	12月15日	オンライン講座
		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	体験！スキーマ療法 ～自分で自分を癒やしたい～	12月26日	オンライン講座
保健師	一般	保健師　主任　酒井　菜穂子	健康体重を維持する生活習慣	2月28日	オンライン講座
		保健師　藤井　安希子	口の健康を考える	3月22日	オンライン講座

職種	対象者	講　師	演　題	開催日	開催場所
保健師	一般	保健師　酒井菜穂子	今日からはじめる高血圧予防	4月20日	オンライン講座
		保健師　西村　千恵	脂質異常症とは何か？	8月24日	オンライン講座
		保健師　大谷　康仁	心不全を予防しよう	12月14日	オンライン講座
理学療法士	一般	理学療法士　服部　玄徳	骨折予防 ～家で転倒しないコツ！～	1月11日	オンライン講座
		理学療法士　服部　玄徳	今日から実践!! 腰痛予防体操	2月22日	オンライン講座
		理学療法士　服部　玄徳	骨折予防 ～家で転倒しないコツ！～	3月22日	オンライン講座
		理学療法士　服部　玄徳	今日から実践!! 腰痛予防体操	4月12日	オンライン講座
		理学療法士　服部　玄徳	骨折予防 ～家で転倒しないコツ！～	5月24日	オンライン講座
		理学療法士　服部　玄徳	今日から実践!! 腰痛予防体操	6月14日	オンライン講座
		理学療法士　服部　玄徳	骨折予防 ～家で転倒しないコツ！～	7月12日	オンライン講座
		理学療法士　服部　玄徳	今日から実践!! 腰痛予防体操	8月30日	オンライン講座
		理学療法士　服部　玄徳	骨折予防 ～家で転倒しないコツ！～	10月11日	オンライン講座
		理学療法士　服部　玄徳	今日から実践!! 腰痛予防体操	11月22日	オンライン講座
		理学療法士　服部　玄徳	骨折予防 ～家で転倒しないコツ！～	12月13日	オンライン講座
臨床心理士	一般	臨床心理士　宮坂　なつ花	自分で出来る！ ストレスマネジメント	1月12日	オンライン講座
		臨床心理士　八島　麻美子	こころをメンテナンス	2月24日	オンライン講座
		臨床心理士　宮坂　なつ花	怒りとうまく付き合うために	3月23日	オンライン講座
		臨床心理士　朴　祐希	こころと体のつながり	4月19日	オンライン講座
		臨床心理士　宮坂　なつ花	怒りとうまく付き合うために	6月14日	オンライン講座
		臨床心理士　宮坂　なつ花	自分でできる！ ストレスマネジメント	8月23日	オンライン講座
		臨床心理士　朴　祐希	こころと体のつながり	11月16日	オンライン講座

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験センター 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診センター 136
情報システム 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

《医療従事者向けオンライン医療講演》

職種	対象者	講　師	演　題	開催日	開催場所
栄養士	糖尿病教室	栄養科　管理栄養士 主任　佐藤　友亮	糖尿病性腎症の食事療法	1月18日	オンライン講座
医師		歯科口腔外科　部長　占部　一彦	糖尿病と歯周病 （普段金曜日ですが火曜で間違いありません）	1月18日	オンライン講座
ソーシャルワーカー		認定医療ソーシャルワーカー・ 公認心理師　三谷　勇一	糖尿病における社会資源の活用方法	3月18日	オンライン講座
薬剤師		薬剤師　坂野　千賀	血糖値　測ってみよう、考えてみよう	3月18日	オンライン講座
医師		糖尿病代謝内科部長　石橋　里江子	糖尿病の基礎と最近の話題	4月15日	オンライン講座
栄養士		管理栄養士　竹中　美紀子	糖尿病の食事療法～基礎編～	4月15日	オンライン講座
薬剤師		薬剤師　栗野　大輔	新しい糖尿病の治療薬について	5月20日	オンライン講座
理学療法士		理学療法士　奥村　葵	運動療法の基本	5月20日	オンライン講座
臨床検査技師		検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	いびきは無呼吸の一歩手前 ～糖尿病との関連性～	6月17日	オンライン講座＋院内開催
保健師		保健師　大谷　康仁	糖尿病と健康寿命	6月17日	オンライン講座＋院内開催
医師		糖尿病代謝内科 医師　植田　秀樹	糖尿病と感染症	7月15日	オンライン講座＋院内開催
臨床心理士		臨床心理士　髙橋　恭子	ストレスと糖尿病	7月15日	オンライン講座＋院内開催
栄養士		管理栄養士　佐藤　友亮	糖尿病の食事療法～応用編～	9月16日	オンライン講座＋院内開催
理学療法士		理学療法士　服部　玄徳	運動療法　実践編 －有酸素運動について－	9月16日	オンライン講座＋院内開催
薬剤師		薬剤師　主任　森田　亜記	糖尿病の薬について ～注射編～	10月21日	オンライン講座＋院内開催
保健師		保健師　主任　酒井　菜穂子	糖尿病とフットケア ～いつまでも自分の足で歩くために～	10月21日	オンライン講座＋院内開催
医師		総合診療部長 研修委員長　高原　良典	災害への備え	11月18日	オンライン講座＋院内開催
臨床検査技師		臨床検査技師　足立　健一郎	糖尿病合併症について	11月18日	オンライン講座＋院内開催
理学療法士		理学療法士　船津　和幸	運動療法　実践編 ～レジスタンス運動について～	12月16日	オンライン講座＋院内開催
臨床心理士		臨床心理士　宮坂　なつ花	ストレスと糖尿病	12月16日	オンライン講座＋院内開催

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

《医療従事者向けオンライン医療講演》

職種	対象者	講師	演題	開催日	開催場所
医師	医療従事者向け	医学博士 小児科部長　石垣　早知子	小児科について	7月8日	オンライン講座
医師		腎臓内科　医長　森　ちさこ	腎臓病について	12月9日	オンライン講座
栄養士		栄養科　室長　小山　洋史	医療現場における管理栄養士の役割 ～食事療法・チーム医療について～	11月11日	オンライン講座
看護師		副看護部長・感染対策室長 渋谷　豊克	COVID-19 ～ステルスオミクロン株の最新情報について～	3月29日	オンライン講座
看護師		皮膚・排泄ケア認定看護師 河畑　美香	褥瘡　なぜポケット形成が起きるのか?	4月8日	オンライン講座
看護師		摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	健康に食べ続けるために今できること	10月14日	オンライン講座
臨床検査技師		検査部　岩崎　由恵	徳洲会病理について	5月13日	オンライン講座
放射線技師		放射線科　技師長　平野　泰弘	放射線治療について	8月12日	オンライン講座
薬剤師		薬剤部　部長　大里　恭章	電解質輸液について	9月9日	オンライン講座
理学療法士		リハビリテーション科 室長　野村　日呂美	腰痛の保存的治療	6月10日	オンライン講座
臨床心理士		臨床心理士　朴　祐希	こころと体のつながり	2月22日	オンライン講座

《依頼講演(特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷)》

職種	対象者	講師	演題	開催日	開催場所
事務	一般	特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷 副施設長　木口　良章	新型コロナ肺炎についての正しい理解	7月20日	久宝寺コミュニティセンター
理学療法士		臨床心理士　朴　祐希	こころと体のつながり	10月21日	久宝寺コミュニティセンター

《依頼講演（八尾市立学校)》

職種	対象者	講師	演題	開催日	開催場所
医師	がん教育	外科・肝臓外科・乳腺外科・小児外科医学博士　河島　茉澄	がん教育 八尾市立高安小中学校	5月17日	八尾市立高安小中学校6年生
医師 看護師	がん教育	肝臓外科　松岡　伸英　医師 緩和ケア認定看護師　西山　由希子	がん教育 八尾市立高美中学校　依頼講演	11月11日	八尾市立高美中学校
医師	がん教育	肝臓外科　木村　拓也　医師	がん教育 八尾市立上之島中学校　依頼講演	11月18日	八尾市立上之島中学校
保健師	性教育	保健師　主任　酒井　菜穂子	性教育 大正中学校　依頼講演	12月16日	八尾市立大正中学校

《世界糖尿病デー》

職種	対象者	講師	演題	開催日	開催場所
医療スタッフ	世界糖尿病デー	【イベント内容】糖尿病専門医による個別相談／各専門職による個別相談／血糖測定／血管年齢測定／InBody（体成分分析）／フットケア／糖尿病川柳／クイズラリーなど	世界糖尿病デー　in YAOTOKU	11月17日	1階　エントランス

《各科紹介件数（内入院数）》

紹介件数(上段) 内入院数(下段)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	189	283	203	217	205	194	197	177	205	185	209	234	2,498
	85	64	68	71	81	83	85	67	77	77	75	103	936
歯科・口腔外科	170	132	196	176	180	173	165	179	177	201	204	188	2,141
	35	24	30	25	31	28	33	31	25	32	31	28	353
循環器科	126	133	169	153	155	147	118	107	119	137	141	153	1,658
	56	61	66	63	65	79	63	46	58	52	57	68	734
外科	70	74	90	107	98	89	80	77	66	91	91	83	1,016
	41	42	43	44	42	47	46	37	36	52	46	50	526
呼吸器内科	56	45	71	71	55	65	86	55	63	72	79	66	784
	16	13	15	13	19	21	32	28	25	22	30	35	269
整形外科	115	123	144	141	146	136	94	126	107	133	130	116	1,511
	38	41	31	33	37	34	27	33	22	33	34	37	400
眼科	77	55	81	129	135	166	125	135	141	152	159	153	1,508
	31	22	18	43	59	71	61	56	44	55	58	76	594
脳神経外科	76	86	90	81	96	82	63	77	61	67	80	89	948
	31	22	31	19	29	23	17	18	13	13	17	23	256
形成外科	75	65	93	89	68	78	67	54	54	76	76	65	860
	17	13	19	15	6	12	10	5	6	8	4	10	125
創傷治療センター	1		1	3		3	1		2	3		1	15
													0
泌尿器科	59	51	57	56	65	62	61	60	61	73	50	72	727
	14	15	21	18	15	14	19	12	16	21	10	22	197
肝臓外科	52	39	60	76	51	53	51	50	42	66	47	69	656
	28	19	27	33	25	26	19	27	16	27	19	26	292
小児外科	10	10	17	12	11	22	25	24	18	12	13	15	189
	4	1	6	4	4	1	9	10	6	3	5	4	57
小児科	70	69	20	30	19	21	25	19	23	6	13	15	330
		1					1		4	2	1	1	10
皮膚科	19	19	15	10	16	21	18	22	10	24	14	22	210
								1					1
心臓血管外科	29	19	35	25	30	31	38	35	26	23	26	35	352
	12	7	18	9	12	15	11	15	7	8	11	12	137
耳鼻咽喉科	8	5	15	7	12	17	7	5	7	12	9	13	117
	1		2			1		1		2			7
婦人科	14	8	14	14	13	19	9	15	10	18	13	18	165
	4	2	4	3	3	7	2	5	1	5	6	3	45
肝臓内科													0
													0
糖尿病内科	11	9	19	12	21	14	14	12	19	16	12	12	171
	2	3	4	2	1	5	2	2	3	3	1	6	34
腎臓内科	25	20	32	19	17	23	17	18	18	21	22	25	257
	11	7	10	5	4	4	9	8	6	7	9	9	89
脳神経内科	15	11	22	16	16	14	15	22	8	25	19	16	199
													0
理学診療科	11	7	24	21	8	16	24	9	15	8	10	13	166
													0
内分泌内科	5	3	3	1		1		1	1	9	6	5	35
													0
呼吸器外科	6	11	10	16	14	12	10	12	6	15	13	9	134
	4	8	5	9	7	7	7	5	5	12	11	8	88
膠原病リウマチ外来	2	1	2	3	1	5	8	2	5	8	6	2	45
													0
乳腺外科	9	2	2	5	3	3		6	4	3	5	7	49
	2		1			1		1			2	3	10
いびき外来													0
													0
人工透析			1							2			3
			1										1
腫瘍内科	14	3	5	4	2	12	8	11	4	6	6	5	80
	10	3	1	2	2	7	6	7	3	4	5	4	54
放射線治療部	3	7	16	3	2		4	1	2	2	3	4	47
	1	2	2				2				1	1	9
胃瘻外来	5	5	8	8	5	6	6	2	8	3	6	7	69
													0
リハビリ科(心理外来)	1				2	1		1	1	2	3	3	14
													0
救急集中治療科	18	11	19	11	11	14	17	21	8	19	27	31	207
	11	9	11	9	6	13	14	21	4	12	16	25	151
ペイン外来				3	1	2	1		1	1	1		10
													0
放射線科	221	200	234	289	321	348	307	243	269	268	284	273	3,257
内視鏡検査	32	30	42	38	35	59	48	33	46	49	41	48	501
生理検査	176	111	101	68	52	56	77	94	74	58	69	54	990
その他													0
紹介件数合計	1,770	1,647	1,911	1,914	1,866	1,965	1,786	1,705	1,681	1,866	1,887	1,921	21,919
内入院数合計	454	379	434	420	448	499	475	436	377	450	449	554	5,375

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験センター 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診センター 136
情報システム 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

《各診療科紹介件数内訳（全体件数・内入院数）》



科 / 項目	内科	歯科・口腔外科	循環器科	整形外科	眼科	外科	脳神経外科	形成外科	呼吸器内科	泌尿器科	肝臓外科	心臓血管外科	小児科	腎臓内科	皮膚科	集中治療科	脳神経内科	小児外科	理学療法科	糖尿病内科
紹介件数	2,498	2,141	1,658	1,511	1,508	1,016	948	875	784	727	656	352	330	257	210	207	199	189	166	171
内入院数	936	353	734	400	594	526	256	125	269	197	292	137	10	89	1	151	0	57	0	34

科 / 項目	婦人科	呼吸器外科	耳鼻咽喉科	腫瘍内科	胃瘻外来	乳腺外科	放射線治療部	膠原病・リウマチ科	内分泌内科	心理療法	ペイン外来	人工透析	肝臓内科	いびき外来	放射線科	生理検査	内視鏡検査	その他	合計
紹介件数	165	134	117	80	69	49	47	45	35	14	10	3	0	0	3,257	990	501		21,919
内入院数	45	88	7	54	0	10	9	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		5,375

※創傷治療センターは形成外科に、いびき外来の検査入院は内科に含まれます。

《検査紹介件数》

	放射線科	内視鏡	生理検査	合計
1月	221	32	176	429
2月	200	30	111	341
3月	234	42	101	377
4月	289	38	68	395
5月	321	35	52	408
6月	348	59	56	463
7月	307	48	77	432
8月	243	33	94	370
9月	269	46	74	389
10月	268	49	58	375
11月	284	41	69	394
12月	273	48	54	375
合計	3,257	501	990	4,748

主な検査項目

・放射線科

MRI	CT	DSA
RI	インプラントCT	CT（冠動脈）
単純撮影	マンモグラフィー	骨密度

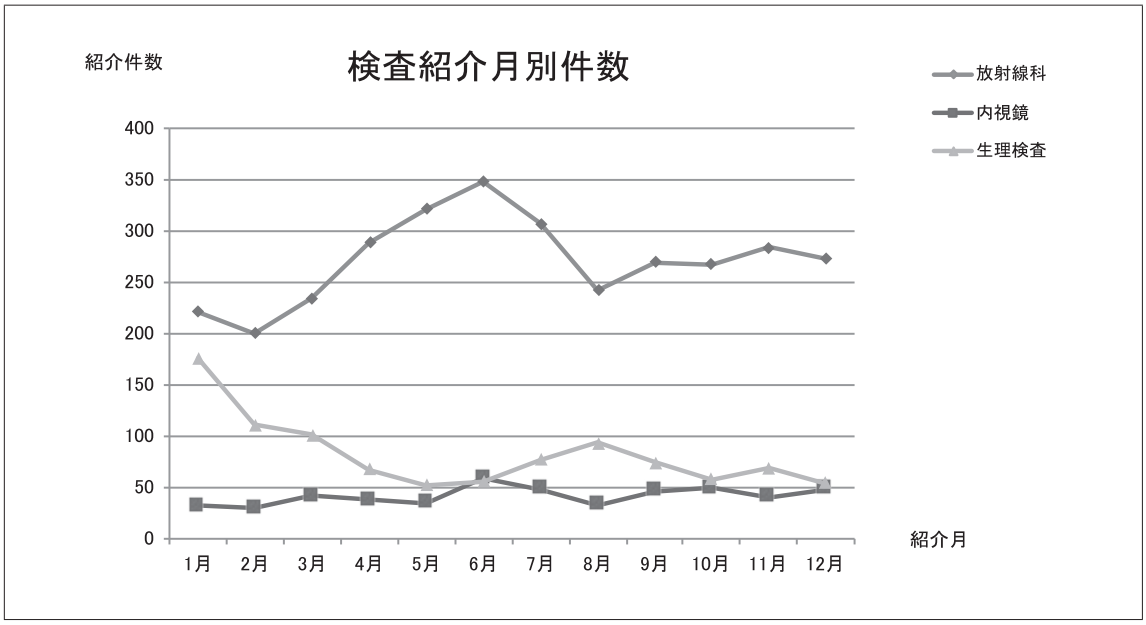
・内視鏡

GIF	CF

・生理検査

腹部エコー	心エコー	末梢血管エコー
甲状腺エコー	頚動脈エコー	乳腺エコー
トレッドミル	心電図	ホルター心電図
呼吸機能	脳波	肺機能
COVID-19 検査		

《検査紹介月別件数》



4. 今後の目標

中河内地区の医療を担うべく、地域の登録医の先生方をはじめ広域の医療機関まで広範囲にわたり、検査・外来・救急・入院に至るまで、あらゆる医療ニーズに迅速かつ円滑に対応し、患者様が安全かつ安心に継続性のある適切な医療を受けられるよう信頼される医療機関として努力してまいります。

さらに地域の皆様へ様々な情報の発信をおこない、公開医療講座や地域の団体や自治会等からの依頼講演も積極的に開催し、幅広く医療を理解いただき、予防医療の啓蒙活動もすすめてまいります。

また地域医療支援病院として、連携医の先生方の開放病床の積極的な共同利用の促進や定期的に医療連携の会を開催し、勉強会や情報交換会を通じて連携の強化をはかってまいります。

40）健診センター

健診センター長　上野　靖

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

1. 概要

当院健診センターは、2020年4月9日から5月31日まで非常事態宣言発出により健診業務を停止した以外はコロナ禍の中でも業務をする事ができました。

受診者様には来院時間を細かく設定させて頂き、出来るだけ密を避けるためのご協力や検温や問診、内視鏡検査のためのコロナ抗原検査にもご協力頂き感染防止に努めて参りました。受診者様のご協力のもと、これまで感染が拡大せず健診業務を続行できた事に感謝申し上げます。まだまだこのような状態が続きますが、ご協力をお願いしたいと思います。

当院健診センターは、八尾市では唯一胸部X線と胃透視の住民健診を施行できる認定施設となり、大腸がん、子宮がん、乳がんと合わせて八尾市が推奨している全てのがん検診を行えるようになっております。

健診センター内での腹部超音波検査や女性技師による乳腺超音波検査もおこなっており、時間短縮と快適さを提供できる環境が少しずつ整備されました。今後もサービス向上を目指して行きます。

腹部超音波検査で要精密検査と判定された受診者様のための専門医師によるドック精査外来や、総合病院に併設されている健診センターの強みを生かした疾患の早期発見・早期治療のバックアップ体制にも力を入れて参ります。

予約業務に関しては、例年と同様に、毎年受診して頂いている企業様への事前予約を行い、個人受診者様にもスムーズにご予約頂けるように試みています。しかしながら、人間ドックコースで胃内視鏡検査を希望される受診者様の予約枠が、予約開始から数ヶ月後には埋まり、受診者様には大変ご迷惑をおかけしてしまいました。検査枠を増やして参りましたが、まだまだ受診者様のご希望に添えるようではありませんので、更なる業務改善をしていきたいと思います。

2. メンバー構成

常勤医師1名、常勤看護師4名、常勤放射線技師1名、常勤事務員7名、非常勤医師3名、非常勤看護師3名、非常勤検査技師1名

3. 実績

2022 年	ドック	企業	バス健診	合計
1 月	470	1,185		1,655
2 月	511	1,448		1,959
3 月	547	1,186		1,733
4 月	549	824		1,373
5 月	532	890	1,175	2,597
6 月	679	918		1,597
7 月	588	1,197	52	1,837
8 月	594	1,493		2,087
9 月	598	1,060	61	1,719
10 月	688	841	58	1,587
11 月	618	1,945		2,563
12 月	642	1,118		1,760
合計	7,016	14,105	1,346	22,467
平均	585	1,175	337	2,097

4. 今後の目標

どこまで現在の状況（コロナ禍）が続くか分かりませんが、できるだけ受診者様の負担を減らし、安心安全な健診センターを目指します。また、健診センター内で多くの検査ができるように医療機器の整備やスタッフの教育、検査体制の構築を行っていきます。健診検査を少しでも早く終え、迅速な検査結果の返却に努めて参ります。

次年度は受診者様のニーズに応えられるような検査枠の拡充やオプションを充実させていきたいと思います。

また、総合病院の利点を生かして呼吸器疾患や消化器疾患、婦人科疾患など、専門医師と連携し、速やかに精密検査できる体制を作り、早期治療に努めます。

41）情報システム管理室

システム管理室　野口　翼

薬剤部　90
放射線科　93
臨床検査　95
リハビリ　98
臨床心理　104
臨床工学　106
栄養科　116
治験セン　119
医療福祉　121
病診連携　125
健診セン　136
情報シス　138
保育室　140
がん相談　143
医療安全　146
臨床腫瘍　151
院内感染　153

1. 概要

A）人員について

入退職が相次ぎ人員が安定しなかったが、現在は 3 名体制 (野口・久保・松本) となり日々各種案件に取り組んでいる。

B）院内電子カルテ端末の経年劣化による故障の頻発

電子カルテ端末で利用している、端末の中でも特に古いものについては 10 年以上経過しており端末自体のスペックの低さから、電子カルテ利用時に遅延等が散見された。また経年劣化に伴う故障が頻発し端末の修理、入れ替えを行った。

2022 年	2021 年	2020 年	2019 年	2018 年
188 台	138 台	70 台	28 台	82 台

C）データ・マニュアルの不足

これまでのシステム管理室の情報はデータやマニュアル等で整備されておらず、トラブル発生時には 1 から対応する必要があることが多かったため、対応改善に時間を要す場面が発生した。現在はトラブル発生時のマニュアル作成やデータの保存先を明確にし、同様の事象に対しては即応出来るよう、常に改善を重ねている。

D）課題について

情報システム管理室としての業務は電子カルテ保守・運用やベンダーコントロール、院内の PC 操作に対してのヘルプデスク業務などが含まれるが、情報発信や電子カルテシステムの改善なども重要な業務であると感じている。日々の業務に追われ自ら発信することが出来ていないため、更に各科との連携を高め、利便性を高めたシステムの運用を目指していきたい。

2. メンバー構成

システム管理者 : 久保　準人・野口　翼
システム委員　: 20 名（医局、看護部、臨床工学科、栄養科、放射線科、薬剤部、理学療法室、検査室、総務部、医事課、医局秘書）

3. 実績

・案件数（システム作業依頼件数）

1 月分	2 月分	3 月分	4 月分	5 月分	6 月分
109 件	118 件	93 件	87 件	82 件	127 件
7 月分	8 月分	9 月分	10 月分	11 月分	12 月分
90 件	82 件	68 件	99 件	105 件	101 件
年間合計					1,161 件

・主な内訳

・電子カルテクライアント機器メンテナンス対応（PC、プリンター、ネットワーク）

・電子カルテサーバー保守・運用 （メンテナンス対応）

・病院関連システムメンテナンス（データ更新、保守作業、修理対応）

・ベンダーコントロール業務（各部門システムベンダーとの折衝業務）

・PC 関連　院内ヘルプデスク対応

・電子カルテ操作教育

・部門検査機器導入　関連システム接続対応

・ホームページ関連

4. 今後の目標

院内の電子カルテ端末並びに機器の保守を行うだけでなく様々なシステムを、誰もが気軽に簡単に利用できるよう、情報発信を行い日々変わっていく、最新のシステムを院内で認知されるように努めることを目標とする。院内イントラの整備などによって、現在各科での情報共有手段が不足している状況を改善し各科での利便性を高めることについても取り組んでいく。

また、セキュリティに関してもウィルス感染や個人情報の流出を防ぐため対策を講じ、安心して利用できる環境の構築を目指していく。

42）保育室

保育室係長　中村　朱美

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

1. 概要

2022 年は、コロナ禍で園児の発熱がある度に緊張感が走った一年であった。

又保育士の体調管理にも予断を許さない日々が続いたのも事実であった。モコモコ担当常勤保育士１名が、職業病と言われる腰痛の悪化により手術、入院等で約４ヶ月間の療養を余儀なくされた。重なること１ヶ月内に他の保育士１名が、行事の出し物練習中に転倒し、肩を骨折し約２ヶ月間の自宅療養の指示が出され保育士不足となった。

不足の穴を埋めるべく同じ管轄内のモコモコ保育室の人数制限をかける等の対策を練った。

幸いにも、保育士募集により１名モコモコ担当として常勤保育士が５月に入職、入れ替わりとして保育士の補充が出来た。しかしながらその後も、保育士家族内からのコロナ感染者が出るなど対応に追われる日々が続いた。そんな中、非常勤保育士１名がご家庭の事情により 11 月で退職。

又保育関係による事件が多数報道され身の引き締まる思いであった。”送迎バスによる園児の降ろし忘れ”当保育室でも年に一回遠足でバスを利用させて頂いている。

二重保育組の私立幼稚園に通う園児達のバスの送迎を支援として実施している為、その都度情報を共有し対策を練りながら対応、確認漏れがないよう私立幼稚園とも話し合い、互いにチェック表を作成するなど二重･三重の確認を怠らず実施し保育士２名対応で受け入れを実施。

又､決してあってはならない保育士による園児への虐待行為については毎朝『保育士の一日』と題し「褒めて励ます保育を実施する」等数項目を朝の引き継ぎ時に全員で唱和し、保育士一人一人が肝に銘じ保育を実施している。又、終了時の引き継ぎでは一日の振り返りを行い、反省・気付きが無かったかを公表し、明日への保育へと繋げていった。

モコモコ保育室（病児保育）では、今年度も kt =37.5 以上の熱が発生した場合、発熱外来にて検査を実施して頂き、陰性者のみ小児科の受診を経てからの受け入れを継続。予約についても、全て前日の８時より受け付けさせて頂く制度を構築していった。

2. メンバー構成

エンジェル保育室	《キリン組》	中西	永田	大岩	
	《リス組》	曽我	木下	竹田	
	《ヒヨコ組》	河野	長谷川	吉原	中村
	《フリー》	小林	小川(11月退職)		
モコモコ保育室		荻	今岡	奥村（5 月入職）	

3. 実績

《エンジェル保育室年齢別登室園児数》

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
登室数	0歳児	170	181	256	19	22	25	39	34	52	135	170	238	1,341
	1·2歳児	272	241	309	259	207	219	227	188	176	221	218	251	2,788
	3歳児	71	61	69	123	103	119	118	119	109	122	120	125	1,259
	4歳児	175	147	193	78	85	80	89	93	76	98	87	105	1306
	5歳児	67	54	85	183	135	174	174	157	176	177	182	178	1,742
	学童保育	5	6	5	24	9	4	6	14	15	8	11	12	119
	合計	760	690	917	686	561	621	653	605	604	761	788	909	8,555
	一時預かり保育	0	0	0	4	1	0	1	1	0	3	1	0	11
	半日預かり保育	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3

《病児・病後児保育室運営状況》

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
開室日数	16	17	19	18	19	21	20	21	20	20	20	19	230
利用者数	37	48	37	46	62	63	84	56	54	71	70	53	681
一日平均利用者	1.8	2.8	1.9	2.6	3.3	3	4.2	2.7	2.7	3.6	3.5	2.8	2.3
保育士数	29	40	36	38	52	53	55	43	41	53	50	40	530
一日平均保育士数	1.8	2.4	1.9	2.1	2.7	2.5	2.8	2	2.1	2.6	2.5	2.1	2.3
診察結果待ち数	2	0	0	2	5	1	4	5	2	4	1	3	29
意見書利用数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

《研　修》

3ヵ月に1回　保育士研修（勉強会）をエンジェル保育室にて実施

《行　事》

2月 3日　節分（豆まき）
3月 3日　ひなまつり
12日　お別れ会
5月 2日　子どもの日
6月10日　時の記念日
7月 7日　七夕
10日　お楽しみ会
9月 5～10 日　個人懇談
10月 7日　秋の遠足（ATC遊びマーレ）
11月 8・15日　健康診断・インフルエンザワクチンの予防接種
11月 4日　QI大会
12月18日　クリスマス会 （保育室にて）

☆毎月身体測定・避難訓練・誕生会・月2回幼児教育（英語ECC）を実施
毎月1回　保育士による感染対策指導を実施

4. 今後の目標

・保育士の研修参加を強化する
・保育士確保に努力する。

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

43）がん相談支援センター

認定がん専門相談員　三谷　勇一

1. 概要

2022 年は、新型コロナウイルス感染症の影響のため、院内のがん患者サロンは、引続き中止が続きました。しかし、2 次医療圏単位での合同サロンは、ハイブリットで開催しました。第 4 回中河内圏域合同がんサロンのテーマは、「コロナ禍でのふれあいと癒やし」とし、患者様の体験談と、マシュマロタッチを企画しました。

学会等から頂戴した研究奨励賞ならびに研究資金の助成金の活用に付随する、大阪府に存在する 65 か所のがん診療(連携)拠点病院のがんサロン参加者を対象とした大規模調査について、多変量解析を用い、PDCA サイクルを構築するための分析を進め、論文として投稿しました。また、同内容において、日本医療緩和医療学会から、優秀演題賞を頂戴し、示説発表に加え、特別講演を実施しました。

2. メンバー構成

委員長：医　師　　村上　修（外科部長）
委　員：社会福祉士　三谷　勇一（両立支援コーディネーター）
（認定がん専門相談員：国立がん研究センター）

3. 実績

（1）研修参加・部会活動

1/6　中河内がん相談支援センター部会（WEB開催）
1/16　令和3年度大阪府がん拠点病院がん相談支援センター相談員研修会（Ⅲ群研修）
2/5　市民医療公開講座　知っておきたいがんの知識（ハイブリット開催）
2/11　日本がんチーム医療研究会（大阪）
6/3　第1回中河内がん相談支援センター部会（WEB開催）
6/25　大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会（WEB開催）
7/1-2　第27回日本緩和医療学会（WEB開催）優秀演題賞受賞
7/8　第2回中河内がん相談支援センター部会（WEB開催）
8/19　第3回中河内がん相談支援センター部会（WEB開催）
11/18　第4回中河内合同がんサロン（ハイブリッド開催）

（2）がん患者サロン（やお徳サロン）の開催

開催計画：6 回程度／年　時：第 2 火曜日 14:00-15:00.　場所：当院会議室にて
全 6 回の開催計画については、新型コロナウイルス感染症の影響で中止しました。

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

（3）患者家族会（Mon ami）の開催

開催計画：3回程度／年　時：第2火曜日 14:00-15:00.　場所：当院会議室にて

全3回の開催計画については、新型コロナウイルス感染症の影響で中止しました。

（4）がん相談支援センター相談延べ件数の表

2022年相談内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
治療	0	3	4	1	6	5	5	3	4	1	2	0	34
←手術	0	3	2	1	4	4	1	2	3	2	2	0	24
←放射線	0	3	2	1	3	3	2	3	2	0	2	0	21
←薬物	0	2	3	1	1	2	4	2	3	0	2	0	20
←免疫	0	1	0	0	0	2	1	1	0	0	1	0	6
←ゲノム	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3
←その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
検査	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	4
症状	0	1	0	0	1	2	0	1	0	2	0	0	7
←妊生殖	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
←アピアランス	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
←晩期合併	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
←長期フォロ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
←その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
セカンドオピニオン（一般）	3	3	1	0	3	3	1	0	2	0	2	0	18
セカンドオピニオン（受入）	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	4
セカンドオピニオン（紹介）	3	2	0	0	0	1	1	0	2	0	1	0	10
治療実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床試験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受診・入院	1	3	1	0	0	2	2	2	0	2	0	2	15
転院	0	2	2	0	2	2	0	0	1	2	1	0	12
医療機関紹介	0	2	3	0	2	4	3	5	1	1	3	3	27
予防・検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在宅医療	4	1	4	0	6	3	5	10	0	0	3	8	44
緩和・ホスピス	1	2	3	0	4	6	6	9	1	2	2	7	43
ADL・服薬	4	3	3	0	4	4	6	9	0	0	3	5	41
介護、看護、養育	5	4	2	0	5	5	6	9	1	0	5	6	48
←介護	4	4	3	0	4	5	6	9	0	0	5	5	45
←看護	1	1	3	0	2	4	2	6	0	2	3	2	26
←養育	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
社会	0	3	2	0	2	1	1	1	5	1	0	0	16
←就労	0	2	2	0	2	0	0	2	5	1	0	0	14
←仕事と両立	0	3	0	0	2	1	0	0	4	0	0	0	10
←就学	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
←学業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
費用	2	7	4	2	6	8	6	5	5	2	2	1	50
←介護保険	2	2	3	2	1	2	4	4	0	0	1	1	22
←傷病手当	0	2	0	0	2	1	0	0	3	1	0	0	9
←その他	0	4	3	1	6	7	3	5	3	0	1	0	33
補完	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	4
生きがい	0	1	1	0	0	1	3	2	2	0	0	0	10
苦痛	0	3	4	0	2	4	4	3	3	2	0	0	25
告知	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	4
医療者とのコミュニケーション	0	4	4	1	1	3	4	0	2	1	3	1	24
患者･家族間のコミュニケーション	0	2	2	1	1	2	3	2	1	2	0	0	16
友人･知人･職場のコミュニケーション	2	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	6
患者会	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	5
グリーフケア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3

4. 今後の目標

がんサロンならびに患者家族会の開催においては、新型コロナウイルス感染症の動向に注視しながら、活動の再開を検討します。これまで、がんサロンへ継続的に参加して下さった方が円滑に参加できるため、認知行動療法を取り入れた試みを検討中です。また、図書館とのコラボによるがん情報の提供の在り方を模索します。患者家族会である一般社団法人 Mon ami との連携を強化し、定期的な患者家族会の継続開催とともに、継続的な「やお徳サロン」の運営にも尽力します。

44）医療安全管理部

医療安全管理者　糸永　美千代

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

1. 概要

各部署でインシデント・アクシデントを振り返り、再発防止が出来るよう部署責任者やセーフティーマネージャーを中心に医療安全対策カンファレンスを実施し、対策の検討をしています。更に患者影響度の高い事例に関しては、根本原因を見つけ出し具体的な対策が立案でき実行出来るように根本原因分析（RCA 分析）を行っています。

2. メンバー構成

医療安全管理部長　兼任医師	1名
医療安全管理者　専従看護師	1名
患者支援・相談窓口担当看護師	1名
総務課出向事務職員	2名
総務課所属　相談役（主業務：警察事案対応）	1名

3. 実績

①医療安全管理活動

（1）インシデント・アクシデント報告システム

報告総数は例年 2000 件前後で推移しております。エラー発生率を事例別に見ると（表 .1）例年同様薬剤、自己転倒ドレーン・チューブ抜去が多くあげられていました。次に事例件数を月別に比較してみると（表 2）6.4 ～ 9.8％であり変化はありませんでした。最後に事故レベル別に見てみると（表 3）治療や処置を必要としなかった Lv2 以下が 89.6％を占めていました。レベル 0 の報告を増やすこととし、20％以上としておりましたが 5.2％でした。研修医からの報告はレベル 0 が多く提出されていますが、他部署はアクシデント報告が主となっております。

Lv3a 以上は 189 件と前年の 195 件より減少していました。Lv3b 以上は根本原因分析を行い、カンファレンスや会議で共有することで、再発防止を意識する職員が増えてきている結果だと思っております。今後は、対策や評価を病院全体で共有することで、院内ルールの整備を図り、さらに患者影響度を下げていきたいと思っております。

表 1　事例内容 事例実件数：1,923　対象期間：2022.1.1 ～ 12.31

薬剤	自己転倒	ドレーン・チューブ	検査	療養上の世話	ベッド　転落	治療・処置	医療機器等	輸血	その他	合計
495	332	310	172	139	106	95	54	17	203	1,923
25.70%	17.20%	16.10%	8.90%	7.20%	5.50%	4.90%	2.80%	0.80%	10.60%	

表２　月別件数 事例実件数：1,923　対象期間：2022.1.1 ～ 12.31

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
176	156	145	171	156	161	169	123	138	163	179	186	1,923
9.10%	8.10%	9.80%	7.50%	8.10%	8.30%	8.70%	6.40%	7.10%	8.50%	9.30%	9.70%	

表３　事故レベル 事例実件数：1923　対象期間：2022.1.1 ～ 12.31

Lv0	Lv1	Lv2	Lv3a	Lv3b	Lv4a	Lv4b	Lv5	合計
102	756	876	155	31	1	1	1	1,923
5.20%	39.00%	45.30%	8%	1.50%	0.40%	0.40%	0.40%	

（2）医療安全管理委員会

毎月　第４月曜日に開催（1 月～ 12 月、延 12 回）

病院における高度な医療の提供に不可欠である安全管理体勢を確保するために、病院のあらゆる部門や診療科を統合し、組織横断的に安全な医療を提供することを目的としております。医療安全管理におけるリスクと現状の分析、派生した有害事象の分析、再発防止策の検討、啓発を行っております。

（3）セーフティーマネージャー会議

医療安全管理委員会に先行して、毎月１回開催（1 月～ 12 月、延 12 回）

医療安全管理委員会の下部組織として患者様の安全、安心に貢献することを目的とし、医療事故の防止、医療の質管理を組織横断的に行うため、院内ラウンドや医療安全対策カンファレンスを実施しております。RCA 分析した情報の共有や半年後の評価を実施しておりますが、同部署での警鐘事例は発生しておりません。

（4）医療安全全体研修

医療安全管理部主催で年間２回開催しております

２月は医療安全を考えることをテーマとして５つのタイトルから気になるテーマを選択して、E ラーニングで開催し延べ 739 名の聴講で参加率は 82%でした。

7 月も口頭指示による薬剤誤投与事故を防止するというテーマで E ラーニングとしました。704 名の受講で参加率は 78.2%でした。

（5）医療安全部会参加

医療安全管理部会

医療安全管理部会　全国担当者研修会

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

(6) 医療安全関連活動への参画

日本医療機能評価機構認定病院　（会員）
医療事故紛争対応研究会　（会員）
日本医療リスクマネジメント学会　（会員）
近畿厚生局　医療安全セミナー参加
大阪府看護協会府東支部　医療安全管理者交流会

②院内安全パトロールの継続実施

人的・物的トラブルなど、様々な事象をいち早く発見・確認・解決するために１日２回の院内パトロールを実施しています。

これまで、パトロール中に、スタッフから相談を持ちかけられたり、人的トラブルを発見し解決するなどしています。

不審者侵入による盗難等の被害も発生しておらず、パトロールの成果が認められるため、今後もパトロールを継続していきます。

③患者相談窓口活動と相談支援業務

(1) 患者相談窓口活動

患者相談窓口は医療に関する患者様とそのご家族様などの苦情や心配に迅速に対応し、医療の情報提供、指導などを通して、患者様との信頼関係を築いて行く窓口として設置され、体制は担当看護師の他に医事課職員が担当しています。

その業務内容は主に案内・相談・介助・その他に分類でき、詳細を下記に示します。

2022年八尾パルス(相談等)業務実績(件数27,483対象期間1／4～12／30)

案内												相談		介助				
予約診(再来機)	入院患者	再診	紹介受付	バス乗場	駐車券	職員面会	文書受付	初回	健診センター	会計(返戻等)	その他の院内施設	医療相談	苦情相談	車椅子	視・聾・聴	その他	その他	総合計
8,953	981	2,280	1,946	1,174	1,146	653	392	337	846	325	2,991	2,427	227	2,015			790	27,483
32.6%	3.6%	8.3%	7.1%	4.3%	4.2%	2.4%	1.4%	1.2%	3.1%	1.2%	10.9%	8.8%	0.8%	7.3%			2.9%	100%
80.1%												9.7%		7.3%			2.9%	100%

案内業務は全体の 80％を占め、前年より 2.5％減少しています。最も多かったのは予約診(再来機)の取扱いです。2022 年 6 月に新しい再来機が導入され､操作が簡便になったこともあり､昨年より減少しています。しかしながら新機種の操作に慣れないことや、診察券の不具合等で案内が必要かと思われます。その他の案内業務では新型コロナ感染対策のために行う入院や検査の前検査を実施する場所がわかりにくいや、紹介窓口と総合受付が離れた所にあり表示も不明瞭で分かりにくいという実態があり、今後の検討が必要かと思われます。

相談業務は全体の 9.7％であり、内容は受診科に関すること、自身の疾患や検査方法、

検査データー、治療費に関すること、転院先の相談、セカンドオピニオンの他に、検温問診外来相談など相談内容は多岐にわたっています。その都度、関係部署と連絡を取りながら対応して参りました。

介助業務は全体の 7.3％ですが、車いす患者の窓口までの移送や、筆談援助、電話をかける、タクシー呼び出しなどの介助が多くなっています。

(2) 皆様の声

「皆様の声」は 174 枚（187 件）で、それらに対する回答を 1 ヶ月毎に掲示しています。施設等への要望が 54.0％と最も多く、「病院への電話が繋がらない」という意見が多く群を抜いています。しかし、電話回線がパンクしないように病院回線へとつながる前に制限がかかるようになっているということであり、今後の検討が待たれます。

また、コンビニ前の飲食用のテーブル・椅子を増やしてほしいという声を多く頂きました。しかしコロナ禍における病院の感染予防対策に伴うものであり、感染状況が緩和され、以前のような運用が出来るようになるまでお待ちいただくことが必要になります。

病棟では清掃の不十分さを指摘され、清掃回数を増やすなどさらなる清掃の充実を申し出ているところです。

さらに検査部門では、採血に要する時間がかかりすぎるとの意見が再三見られました。現在、採血場所やシステム、人員の問題など病院全体で取り組もうとしている状況にあり、いましばらく時間を要すると思われます。

次いで接遇に関する苦情が 25.1％と昨年より 2.5％増加しています。外来部門の受付事務への意見が多く、一部の人による態度が病院全体の印象を損ねていることも事実であり、職員ひとり一人が自覚をもって対応することの必要性が示唆されています。

感謝のお言葉も 5.8％減っています。

今後も事例を職員間で共有することが大切であり、これからも、皆様の声に真摯に耳を傾け、皆様方のご要望に応えられるよう努力し、皆様に愛される病院を目指したいと思います。

認定病院患者安全推進協議会出版の患者安全推進ジャーナル 2022 年 69 号「患者の声を活用する」特集号に八尾パルスの今までの取り組みについて掲載いたしました。機会があればご一読いただければ幸いです。

皆様の声分類一覧（2022 年 1 月～ 12 月）

	①感謝	②接遇	③要望等	④内容不詳	合計
医局	5	6		5	16
看護部	17	21	26		64
医事課	1	13	17		31
栄養科	2		1		3
検査科		2	6		8
リハビリ	2				2
総務課	1	1	42		44
健診センター		1			1
放射線科			1		1
かけはし担当			2		2
オンコロジー委員会			1		1
コンビニ			3		3
宛先不明	3	3	2	3	11
合計	31	47	101	8	187
	16.6%	25.1%	54.0%	4.3%	100.0%

4. 今後の目標

今後も、皆様から頂いたご意見・お言葉を届ける橋渡しとして取り組んでいきたいと考えております。

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

45）臨床腫瘍センター

臨床腫瘍センター副センター長　南野　智志

1. 概要

近年、新たな分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などが登場し、がん治療における化学療法の果たす役割は大きくなっている。当センターでは、がん薬物療法専門医、がん化学療法看護認定看護師、がん専門薬剤師が常駐し、各科臨床医、看護師、薬剤師、管理栄養士らと協力して薬物療法を効果的かつ安全に施行できるよう心掛けている。

また、当センターでは院内全体のがん化学療法を安全・適切に行えるよう、がん化学療法看護認定看護師、がん専門薬剤師の育成に積極的に取り組み、地域の院外薬局との連携強化にも取り組んでいる。

2. メンバー構成

センター長：瓜生　恭章（呼吸器内科・腫瘍内科：日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医）
副センター長：金丸　知寛（泌尿器科）、南野　智志（薬剤部：日本医療薬学会がん専門薬剤師）
外　　科：垣本　佳士
薬　剤　部：山本　倫数（日本医療薬学会がん専門薬剤師）
看　護　部：髙橋　章恵、苗代　啓子（がん化学療法看護認定看護師）
栄　養　科：山　洋史
医　事　課：山下　あすか、原田　高輔

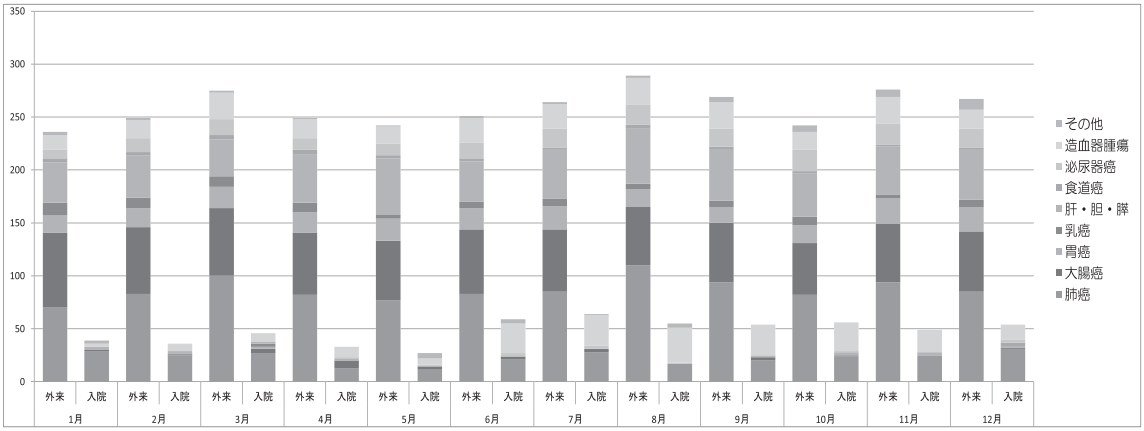
3. 実績

2022 年のがん化学療法施行件数は外来入院ともに増加となり、年間 3,824 件（外来:3146 件、入院：678 件）と、前年比 108.8% と年々増加傾向を辿っています。癌種別では前年度と同様に肺癌の化学療法が約 35％と最も多く、次いで大腸癌が約 20％、肝胆膵癌が 14％となっています。

《がん化学療法・生物学的製剤 施行件数（2022 年 1 月～ 12 月）》

2022年		1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		合 計	
		外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
がん化学療法施行件数（癌種別）	肺癌	70	29	83	25	100	27	82	13	77	12	83	21	85	28	110	17	94	20	82	24	94	25	85	31	1045	272
	大腸癌	71	1	63	1	64	4	59	7	56	2	61	3	59	3	55	0	56	3	49	1	55	0	57	1	705	26
	胃癌	16	3	18	1	20	2	19	2	21	0	20	0	22	0	17	0	15	0	17	0	24	0	23	1	232	9
	乳癌	12	0	10	0	10	3	9	0	4	0	6	0	7	0	5	0	6	1	8	0	4	0	7	0	88	4
	肝・胆・膵	38	0	40	2	35	2	46	1	53	1	38	0	46	0	52	0	48	1	41	3	45	3	47	0	529	13
	食道癌	4	0	3	0	4	0	4	0	3	0	3	0	2	0	4	0	3	0	2	0	2	0	2	4	36	4
	泌尿器癌	8	0	13	0	15	0	11	0	11	1	15	3	18	3	19	1	17	0	20	1	20	0	18	3	185	12
	造血器腫瘍	14	3	17	7	25	8	18	10	16	6	23	28	23	29	25	33	25	29	17	27	25	21	18	14	246	215
	婦人科癌	0	4	2	8	4	9	1	11	5	11	4	9	3	8	3	16	4	9	3	11	5	8	3	2	37	106
	その他	3	3	2	0	2	0	1	0	1	5	2	4	2	1	2	4	5	0	6	0	7	0	10	0	43	17
	合 計	236	43	251	44	279	55	250	44	247	38	255	68	267	72	292	71	273	63	245	67	281	57	270	56	3146	678

生物学的製剤	膠原病・リウマチ	41	0	49	0	52	0	51	0	37	0	41	0	57	0	53	0	45	0	51	0	61	0	53	0	591	0
	炎症性腸疾患	6	0	1	0	11	0	4	0	6	0	9	0	7	0	7	0	5	0	4	0	10	0	0	0	70	0
	合計	47	0	50	0	63	0	55	0	43	0	50	0	64	0	60	0	50	0	55	0	71	0	53	0	661	0



4. 今後の目標

診療科・職種の枠組みを超えて連携したチーム医療を実践し、患者様に確実・安全・効果的ながん化学療法を受けていただけるよう努めていきます。

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

46）院内感染対策委員会（ICT）

感染対策室室長　渋谷　豊克

1. 概要

【八尾徳洲会総合病院　感染管理指針】

感染管理のための基本的考え方

当院は、徳洲会の基本理念に基づき、医療関連感染を未然に防ぐことを第一として取り組み、感染症患者発生の際には拡大防止のため、原因の速やかな特定と科学的根拠に基づく対策の実施により制御、終息を図ります。職員は、この目標を達成するため、感染管理指針及び院内感染管理マニュアルにのっとった医療を患者様とそのご家族様に提供できるように取り組みます。

第 2. 感染管理体制の充実を図ります。

院内感染対策委員会を設置し、医療関連感染対策の推進を図ります。病院長直下に感染制御部を設置することで、組織的に医療関連感染対策を実施する体制を整え感染を制御し管理していきます。また、チーム医療として感染制御チーム、抗菌薬適正使用支援チームを設置し、医療関連感染防止に係る対策の推進､薬剤耐性菌対策として抗菌薬の適正使用の推進を図ります。

第 3. 職員に対して教育、研修を実施します。

医療関連感染対策のための基本的考え方及び具体的方策について、職員に周知徹底を行います。個々の職員の医療関連感染に対する意識を高め、業務を遂行する上での知識・技術の向上を図ります。病院全体に共通する医療関連感染に関する内容について、定期的に研修会を開催します。

第 4. 感染症の監視と発生時の迅速な対応を実施します。

日常的に院内における感染症の発生状況を把握するシステムを有し、医療関連感染症の発生又はその兆候を察知したときは、迅速かつ適切に対応します。

第 5. 他の医療機関等との連携体制を推進していきます。

他の医療機関と合同で、定期的に医療関連感染対策に関するカンファレンスを行います。また、河内地域のネットワークに参画し、地域における医療・介護・福祉・保育の感染制御を支援します。

第 6. 新興感染症に対応できる体制を構築します。

保健所、医師会と連携し、他の医療機関と合同で新興感染症等の発生を想定した訓練を実施します。また、新興感染症の発生時等には都道府県等の要請を受けて感染症患者を受け入れる体制を構築します。

2. メンバー構成

・院内感染対策委員会：病院長、看護部長、事務部長、薬局長、検査技師長、その他部門長
　職種：医師、看護師、事務員、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技師、
　　理学療法士、放射線技師、保育士、委託業者（清掃、リネン）

・感染対策室

専従配置：看護師 1 名（感染管理認定看護師、第一種衛生管理士）

専任配置：医師 2 名（ICD）、薬剤師 3 名（感染制御認定薬剤師）、臨床検査技師 2 名、看護師 3 名

・ICT（感染推進チーム）

職種：医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、栄養士、臨床工学技師、理学療法士、放射線技師、事務員

・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）

職種：医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師

3. 実績

項目	内容
感染管理システム 地域連携	①河内地域感染管理ネットワーク（医療、介護、福祉、保育）の開催（毎月） ②中河内感染防止対策協議会への参画（施設名：順不同） 【カンファレンス連携施設】 八尾市保健所　八尾市医師会 東朋八尾病院　貴島病院本院　八尾こころのホスピタル 松原徳洲会病院　東大阪徳洲会病院 北田内科・呼吸器内科クリニック　松田クリニック　しろばとクリニック 浅井クリニック　吉田クリニック　ほりい内科・整形外科クリニック 吉崎クリニック　中谷クリニック　あかし内科クリニック 【相互ラウンド連携施設】 八尾市立病院　医真会八尾病院　野崎徳洲会病院 【COVID-19 対策関連】 ①接触者、地域外来・検査センター、検温・問診（発熱）外来の運営 ②スクリーニング　入院時、入院後5日目、術前、検査前、転院時
感染管理教育	①院内感染対策講習会開催：年 2 回　不参加者への e-ラーニング ②新人研修開催
Surveillance	①耐性菌、監視対象菌、監視対象ウイルス ②厚生労働省（JANIS）：検査部門、手術部位部門、ICU 部門、全入院部門 ③日本環境感染学会（JHAIS）：SSI 部門 ④日本看護協会（DiNQL）：デバイス ⑤感染対策連携共通プラットホーム（J-SIPHE）：手指衛生、デバイス ⑥徳洲会感染管理部会：手指衛生、耐性菌、インフル、ノロ、COVID-19 ⑦血液・体液曝露
感染防止技術	①手指衛生キャンペーン開催 ②新興感染症訓練
職業感染対策	①入職時健診抗体価検査 HBV、HCV、麻疹、風しん、水痘、ムンプス、T-SPOT ②職員ワクチン接種 HBV、麻疹、風しん、水痘、ムンプス、インフルエンザ、COVID-19 ③血液・体液曝露対策、結核曝露対策
ファシィリティ・マネジメント	①栄養科職員のノロウイルス検査の実施 ②空調、水道管理 ③ゾーニングの見直し、工事リスク・アセスメント ④陰圧室の差圧モニタリング

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

2022 年【リスクアセスメント】

項目	発生リスク	患者・訪問者職員に対するリスク	組織的対策の必要性	準備状況	スコア
VAP	2	3	1	1	7
CAUTI	2	2	1	2	7
CABSI	2	3	1	2	8
SSI	2	3	1	2	8
MRSA	4	2	1	2	10
CD トキシン	3	2	1	2	8
B.cereus	3	3	2	2	10
インフルエンザ	2	2	1	1	6
COVID-19	4	4	4	2	15

点数表

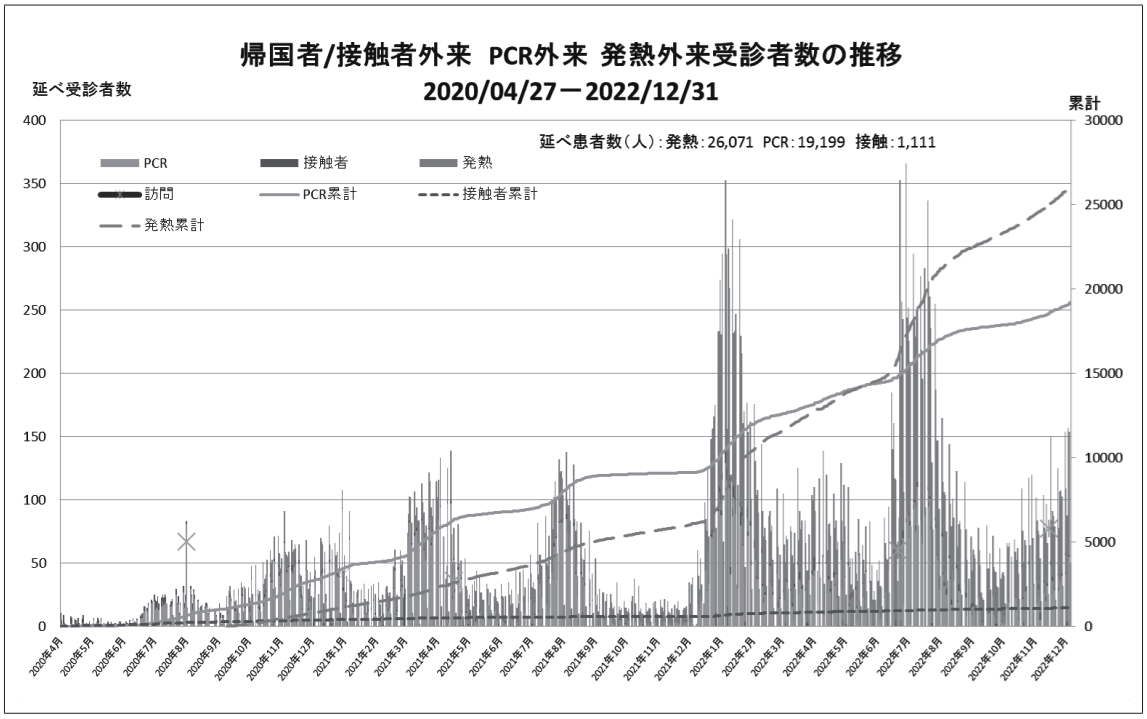
発生リスク	患者・訪問者・職員に対するリスク	組織的対策の必要性	準備状況	スコア
1. なし 2. 低い 3. 中等度 4. 高い	1. なし 2. 一時的 3. 多大・永久的 4. 致命的	1. なし 2. 低い 3. 中等度 4. 高い	1. 良好 2. 中等度 3. 不十分	最大値　15 点 最小値　4 点

【成果指標】

・2022 年に特定した課題と優先順位

順位	課題	指標	平均値	目標値	対策
1	COVID-19	クラスター（5名以上）発生件数	2020年：1	0件	入院患者スクリーニング
			2021年：1		職員スクリーニング
			2022年：2		就業前の体調確認・検温
					PPE訓練　コロナ専用病棟
2	MRSA	発生密度率	2019年：0.55	0.4‰	手洗いキャンペーン
			2020年：0.40		標準・接触予防策
			2021年：0.56		監視培養（ICU/HCU）環境培養
			2022年：0.53		感染制御支援システム　POT法
3	B.cereus	発生密度率‰	2019年：0.12	0.05‰	リネン管理、環境清掃
			2020年：0.13		手指衛生
			2021年：0.03		CABSI対策
			2022年：0.07		環境、手指培養の実施

《COVID－19 に関連した外来実績》



4. 今後の目標

2023 年度より、『感染対策室』を閉鎖し、院長直下で『感染制御部』を発足させます。

さらなる地域連携の強化、また行政との連携を密にし、感染管理指針に準拠したうえで、新興感染症を含め､グロバールなあらゆる感染症に対応できる強い医療機関の構築を目指します。

薬剤部 90
放射線科 93
臨床検査 95
リハビリ 98
臨床心理 104
臨床工学 106
栄養科 116
治験セン 119
医療福祉 121
病診連携 125
健診セン 136
情報シス 138
保育室 140
がん相談 143
医療安全 146
臨床腫瘍 151
院内感染 153

看　護　部

―― 2022年 ――

47）4階東　5階西　160

5階東　6階西　6階東　161

7階西　7階東　162

8階西　8階東　163

ＩＣＵ　ＨＣＵ　164

外来・ＥＲ　165

手術室　透析室　166

退院調整チーム　入退院支援　保健指導　167

47）看護部

看護部長　小原　真栄美

4階東 160
5階西 160
5階東 161
6階西 161
6階東 161
7階西 162
7階東 162
8階西 163
8階東 163
ICU 164
HCU 164
外来･ER 165
手術室 166
透析室 166
退院調整 167
入退支援 167
保健指導 167

1. 概要

2022 年も継続した新型コロナウイルスの対応と盤石な感染管理対策を実践しつつ、制限しない診療体制を維持するため努力して参りました。地域の医療機関の方々のご理解とご協力をいただき深く感謝しております。

看護部では、1）急性期病院の役割認識と地域医療への貢献、2）良質で安全な看護の提供を年間目標に掲げ、全体で一丸となり取り組みました。

4 階東病棟　脳神経外科／脳神経内科／眼科

当病棟は、脳神経外科、脳神経内科、眼科を主とした 44 床の病棟である。ICU・HCU を経て転床してくる患者様が半数を占め、早期リハビリテーションの介入や栄養管理･褥瘡チーム、リエゾンチーム、MSW など他職種と協働しながら、患者様の ADL の回復、社会復帰を目指している。

疾患による高次脳機能障害や、認知症、せん妄症状を呈する患者様や、栄養管理のため鼻腔チューブを挿入している患者様が多くいる。転倒転落、鼻腔チューブ抜去に至らないよう、ミトンや、抑制帯を用いての身体抑制を行うケースも少なくない。毎日のカンファレンスで、身体抑制の確認を行い、不要となった患者様は速やかに中止し、継続の必要性があるのかどうかを検討している。

長引くコロナ禍の影響もあり、面会の規制は、患者様や、そのご家族様の精神的不安にもつながる。特に看取りとなった患者様のご家族様には、その気持ちに添うように、最大限の対策を行いながら、希望されるご家族様には付き添いをして頂いる。

今年度は入院患者数 745 名、転入 757 名、退院 1172 名、平均在院日数 16.5 日、平均病床稼働率は 95％となった。昨年度に比べ、入退院件数が増加し在院日数も短縮されている。途切れることのない支援と看護の提供、患者様に関わるスタッフがそれぞれ専門性を持ち携わることが今後も必要であると考えている。

患者様やそのご家族様に対して､より良質で安全な看護の提供ができるよう努めていきたい。

5 階西病棟　一般内科／婦人科／眼科／小児領域全ての診療科

当病棟は、一般内科、眼科、婦人科、15 歳以下の小児領域の全診療科の患児男女とも）を受け入れる 40 床の混合病棟である。平均患者数：37 名 / 月、平均在院日数：10.7 日 / 月、平均手術件数：68 件 / 月。一般内科では誤嚥性肺炎や尿路感染、慢性心不全などの高齢者が半数以上を占める。入院中の ADL 低下などにより退院困難となるケースが多い。患者様やそのご家族様の気持ちに寄り添いながら在院日数短縮を目標に退院支援に取り組んでいる。

婦人科は、悪性腫瘍の外科的治療や化学療法の他に、良性腫瘍の外科的治療目的患者の受け入れを行っている。眼科では白内障、硝子体、網膜剥離などの手術の受け入れを行っており、緊急入院、手術の受け入れも行っており、手術件数は増加傾向である。15 歳以下の小児領域に相当する患児の受け入れは診療科問わず（COVID-19 を除く）当病棟で行い、小児領域の内

科、外科手術の受け入れを行っている。

診療区域での選別ではなく女性や小児という性別や年齢で受け入れを選別する、他病棟とは違う特徴を持っているため広い視野での知識や看護が求められる。優しさと暖かさを第一に、患者様を取り巻くご家族様や環境にも目が行き届く看護を目指している。

5 階東病棟　循環器／心臓血管外科

当病棟は、循環器科・心臓血管外科病棟であり、狭心症、心筋梗塞、心不全などの内科治療を行う患者様への看護や弁膜症、大動脈瘤などの周術期管理を行っている。

平均入院患者数：152.6 名／月、平均退院患者数：165.6 名／月、平均在院日数：8.54 日である。

心臓リハビリテーションや呼吸リハビリテーション、MSW などの多職種と連携をとり、早期離床・早期退院を目指して取り組んでいる。社会の超高齢化に伴い、手術を受ける患者様や入退院を繰り返す慢性循環器疾患の患者様の年齢層の上昇、高齢者の独居、認知症の患者様も増加している。循環器疾患は日常生活における自己管理を要することが多い。病状の悪化を予防し、その人らしく生活していけるよう、MSW を介して地域とも連携し、退院支援を継続して行っていく必要がある。

今後も多職種で協働し、患者様とそのご家族様が安心・安全な療養環境が提供できるよう努めていきたい。

6 階西病棟　整形外科／耳鼻咽喉科

当病棟は、整形外科、耳鼻咽喉科疾患を主に受け入れている急性期病棟である。疾患の特性として、整形外科では、転倒を契機とした骨折した患者様の緊急入院が殆どを占め、骨折整復手術、人工関節手術、脊椎手術を中心に行っている。耳鼻咽喉科では、扁桃摘出術を中心に行っている。

2022 年は、入院患者数 831 人 / 年、退院患者数 901 人 / 年、手術件数 1024 件 / 年であった。手術件数は、年間 1000 件を超えており、前年度を大幅に上回った。コロナの状況により転院ができない状況になることもあるが、地域や社会への早期復帰を目指して、医師・看護師・リハビリテーション・医療ソーシャルワーカーなど各職種が連携し、入院から退院まで継続した介入を行い、できる限り希望に添える転院先・退院先を選定できるように、患者様やそのご家族様と話しあい、日々調整している。

整形外科病棟は高齢の患者様が多く、喪失した機能の回復には一定の期間が必要になる。急性期治療後も、患者様とそのご家族様が安心して療養を継続でき社会生活を過ごせるために、病院・療養施設・地域が途切れることなく介入できるよう連携をさらに強化していく必要がある。

今後も、職種それぞれが専門性を発揮して途切れることのない介入と支援により、患者様とそのご家族様が安心や満足感の得られる急性期医療を提供していきたいと考える。

6 階東病棟　形成外科／泌尿器科／歯科・口腔外科／眼科

当病棟は、形成外科・泌尿器科・口腔外科・眼科の混合外科病棟である。手術を目的とした患者がほとんどであるが、手術以外にも、泌尿器科では化学療法や放射線治療、形成外科では

陰圧閉鎖療法などさまざまな治療を行なっている。形成外科では、既往に糖尿病や腎不全などの慢性疾患をもつ患者様も多く、幅広い知識が必要となるため、看護師の知識・技術の向上を心がけている。

コロナ禍でも徹底した感染対策のもと周手術期医療・看護の提供に努めた。安心安全な専門的医療の提供、かつ地域や社会への早期復帰を目指して、医師・看護師・リハビリテーション・医療ソーシャルワーカーなど各職種が連携し、入院から退院まで継続した介入を行い平均在院日数短縮にも繋げることができた。2022 年は、入院 1692 人 / 年、退院 1598 人 / 年であり、手術件数は 1130 件 / 年といずれも前年を上回ることができた。特に、眼科の手術件数が大幅に増え、泌尿器科ではロボット手術の導入により、周手術期の患者様の在院日数が短縮され、平均在院日数も 9 日前後で推移できた。

今後も在院日数のさらなる短縮を目指すとともに、退院まで安全な周手術期医療が提供できるよう、それぞれの専門職種と協力して取り組んでいきたい。

7 階西病棟　消化器内科

当病棟は、消化器内科を中心に受け入れている 44 床の内科病棟である。消化管出血・ポリープの内視鏡的治療をはじめ、胆嚢炎・総胆管結石の ERCP、ステント留置を行う患者様、感染性胃腸炎など感染性疾患の患者様、胃癌・肝臓癌・膵臓癌・大腸癌などの早期癌治療である ESD や EMR などの患者様を受け入れている。また癌の終末期ケア段階の患者様も受け入れている。陰圧個室があるため、結核疑いの患者様が確定診断されるまでの受け入れも行っている。未だコロナ禍の影響を受け、呼吸器系疾患など内科全般の患者様の受け入れを継続して協力している。

2022 年　新入院患者 970 名、転入患者 352 名、退院患者 1159 名、平均在院日数 14.83 日で、前年平均在院日数 16.89 日を短縮できた。

早期癌の ESD などで早期退院が可能となっている一方で、超高齢化が進み、治療経過が長引き、認知症やせん妄を発症し、在院日数の増加や転倒転落リスクが高い状況にある。2022 年は離床センサー機器を増台し、積極的に使用することで、転倒転落発生率を前年 4.2％から 2022 年は 3.8％へ減らせているもさらに減少できるよう引き続き対策に取り組んでいく。そして患者へ安心・安全な療養環境が提供できるように引き続きこころがけていきたい。また早期退院・在院日数短縮を実現できるよう MSW と連携・協働していき、ひとりでも多くの患者様を受け入れられるように目指していく。

7 階東病棟　外科／肝臓外科

当病棟は、消化器外科・肝臓外科・呼吸器外科の周手術期の患者様を中心とした 44 床の病棟である。入院から短い期間で術前の準備や不安の緩和が出来るよう、入院前支援部門との連携や病状説明への看護師同席を可能な限り行い、意思決定支援へのサポートが出来るように努めている。また、術後は早期から元の生活を想定し、MSW と連携を行っており、高齢の患者様でも患者様が望む生活に戻れるようなサポートに努めている。

2022 年は入院数 1382 件、退院数 1490 件、月平均手術件数 72 件、平均在院日数 10.6 日であった。外科、呼吸器外科でロボット支援下の手術の開始などの医療の進歩や多様化する価値観か

4階東 160
5階西 160
5階東 161
6階西 161
6階東 161
7階西 162
7階東 162
8階西 163
8階東 163
ICU 164
HCU 164
外来・ER 165
手術室 166
透析室 166
退院調整 167
入退支援 167
保健指導 167

ら質の向上が求められている現状に対応出来るよう部署内での勉強会にも力を注いできた。

今後も医師－看護師間だけでなく様々な職種との連携を図り、安全な療養環境の提供と安心した一貫性のある看護の提供を目指し、地域より信頼される病棟にしていきたい。

8階西病棟　呼吸器外科・内科

当病棟は、呼吸器内科・呼吸器外科病棟である。しかし、2020年2月からのCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）の受け入れ開始以降は、COVID-19患者の増加時はCOVID-19専用病棟として、COVID-19患者が少ない時には呼吸器･総合内科＋COVID-19の混合病棟として、地域のニードやフェーズに応じた病床運用を行っている。

当院においてのCOVID-19対応は、丸3年を迎えようとしている。2022年は、重症COVID-19患者様の看護にも対応することが急務だった2021年の第4波や第5波と比較し､様々な施設でのクラスター患者の入院が増加した。それに伴い、高齢患者がより多くなり、介護度が高く、行動制限を伴う環境の中での認知症患者への対応に苦慮した。また、その時々で目まぐるしく変化する病床運用や治療へ適応する必要があった。

我々は、患者様の意思決定を支援し、家族構成・年齢・生活の質等を考慮した様々なデバイスの酸素療法や人工呼吸など最適な呼吸サポートを心掛けている。高齢患者や長期間安静が必要になった患者様では、ADL低下が起こりやすい。リハビリテーションにおいては、COVID-19陽性の患者様に対する理学療法士によるリハビリテーションがようやく開始になり、今後もCOVID-19に限らず、患者様自身で実践できる運動プログラムを提案しながら、体位変換や清拭の中など看護師の日常ケアの中でリハビリテーション要素を含めたケアを実践し、日常生活への復帰支援を強化する。そして、近い未来に来るであろうアフターコロナにおける病棟運営にも柔軟に対応したい。

8階東病棟　呼吸器疾患／腎臓内科／糖尿病教育／腫瘍内科

当病棟は、主に腫瘍内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病教育入院の患者様を受け入れている。39床の混合内科病棟で、化学療法、放射線療法、疼痛管理など、幅広い看護の提供を行っている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により面会禁止が長期化する中、自宅退院を希望する患者様やそのご家族様が増加し、2021年度自宅に退院をされた患者様は61%、2022年度は68%と増加している。患者様やそのご家族様がどのように過ごしていきたいか意思決定支援を行い、住み慣れた場所で患者様がその人らしく生活していけるよう、ご家族様や訪問看護師、ケアマネジャーなどと退院前カンファレンスを実施し、お互いに顔を合わせる機会を設け、地域との連携強化に努めている。

当病棟は新型コロナウイルス感染症によるクラスターを経験した。院内で新型コロナウイルスに感染し、計画していた化学療法や放射線療法、リハビリなどが中止となり、患者様が今後の不安について強く訴える場面を目にし、計り知れない悔しさを感じた。患者様やご家族様につらい思いをさせないため、「自分が感染しない」「他の人に感染させない」「感染を広げない」ということを専門職として常に意識し、徹底した感染対策を行っている。

今後も新型コロナウイルス感染症が収束に向かうことを希望しつつ、私たちが最大限何をすることができるかを考え、心に届く看護を提供していきたい。

4階東 160
5階西 160
5階東 161
6階西 161
6階東 161
7階西 162
7階東 162
8階西 163
8階東 163
ICU 164
HCU 164
外来・ER 165
手術室 166
透析室 166
退院調整 167
入退支援 167
保健指導 167

ICU

ICUは、重篤な急性臓器機能不全状態にある患者様を対象とし、多職種連携のもとに高度かつ専門的なチーム医療を提供する部署である。（定床：8床） 重症な内科救急患者、侵襲度の高い術後患者を24時間体制で受け入れている。より質の高い集中治療の提供のため、特殊モニタリング装置などの新規機器の導入を毎年積極的に行っている。今年度は重症呼吸不全の患者様の管理のため、EITモニタリング機器を導入し、より高度な人工呼吸管理の提供体制を整備している。

また、1日1回多職種カンファレンスを継続しており、多職種協働を図っている。

スーパーICU加算の取得後、医療看護必要度は90%前後を維持している。 心臓血管外科・脳神経外科の術後に加え、緊急手術患者も増加しており、患者の重症度が年々高くなっている。

また、周辺地域や大阪府の要請による重症COVID-19の患者様の入院にも対応しており、人工呼吸管理のみならず、ECMO管理体制も維持している。

今後は、さらにより質の高い医療・看護の提供を行い、患者様の早期回復支援につなげられるようにしてきたいと考えている。集中治療を安全で効果的に提供するために必要な安全文化と診療ガイドライン等に基づいた医療提供体制の構築に向けた取り組みを引き続き行っていきたい。

HCU

HCU（High Care Unit：高度治療室）は、ICUと一般病棟の間に位置する20床を有する治療室である。一般病棟では全身管理が困難な重症度の高い患者様や、病状変化が予測される患者様を対象に受入れ、早期に一般病棟での療養生活が可能となるよう医師・看護師を中心に多職種がチームとなり、日々治療・看護に取り組んでいる。入室患者の診療科は、内科、脳神経外科、循環器内科、外科、呼吸器内科、整形外科など多岐にわたり、より専門的な知識と技術が求められる部門である。

2022年の年間入室件数は1880件（緊急入院：1131名、転入：749名）で、このうち全身麻酔術後や心臓・脳血管カテーテル等侵襲的処置後の受入れ患者は952名であった。今夏は、人員変動やCOVID-19第7波などの影響により病床稼動率が60%を下回る時期もあった。秋以降には病床稼動率を回復させ、昨年以上の患者数を受け入れることができた。年々重症・複雑化する病状の入室患者に対し、より低侵襲かつ早期回復を目指して、今年はHCU内での人工透析駆動や人工呼吸器離脱に向けたプロトコル導入などを行った。ケアの標準化を図ることで、安全な療養環境を提供することができた。4年目となったCOVID-19対応においても、感染防止対策の継続に加え、長く続く面会制限への対策としてWeb面会もどんどん活用し、患者様のご家族様のメンタルケアにも努めた。

次年度も、病高度治療室としての役割を果たせるよう、病床稼動率を維持し対象患者を受入れ、専門性のある医療・看護を提供していきたい。スタッフそれぞれの特性やキャリアビジョンを見据えた人材育成、患者様とその家族様の思いに寄り添った看護が提供できるよう取り組んでいきたい。

外来・ER

当院外来は『診療部門』、『検査･治療部門』、『予防医療部門』の３つの部門に分かれている。

『診療部門』

外来患者数（平日）は１日 1000 人近く来院される。午前診は特に来院患者数が多く、業務が繁忙になっている。年々重症度も高くなっており、対応が複雑になっているため、更に外来看護師の役割は重要となっている。外来看護について日々振り返る機会が少ないため、今年度は外来朝礼時に自己の外来看護を振り返り、外来看護師としての自己の役割について考えることができた。

また、外来には夕診（8：30 ～ 19：30　遅くなると 22 時になる）、翌日日勤勤務が週１～２回ある。外来は子育て中のスタッフが多いため、ワークライフバランスを考え、夕診が 21：30 に終了時は翌日午前半日勤務で調整を行った。

『検査・治療部門』

上下部内視鏡検査は前年度より４％減少、治療（ESD,ERCP,EUS,EUS-FNA）件数は５～15％増加している。緊急検査・治療も増加しており、医師、臨床工学科技師、放射線科技師と連携を図り対応している。

昨年度の下部内視鏡検査の初回の患者様に対し、個別で検査のながれの説明を行い、不安の軽減に努めた。患者様との関わる時間が少ない為、短時間で必要な情報を得て、スタッフ間で共有し、安心・安全に検査・処置が受けられるよう配慮を行っていく。患者様に「今度もこの病院で検査を受けたい」と思っていただけるよう、検査・治療部門に関わるスタッフが一丸となり接遇の向上に取り組んでいく。

中河内地区の中核病院の外来看護師としての役割は大きく、その役割を理解し全う出来るように日々努力していきたいと考える。

『予防医療部門』は「保健指導」として別に記載。

ER は、救急応需率の向上を目標に月 750 件以上、応需率 80％以上を目指し取り組んでいる。コロナ感染症の増加に伴い月々で実数は変化するが、７月８月 12 月は 750 件以上の救急受け入れを行った。しかし救急依頼件数が７月以降 1000 件を超えており、応需率は 80％達成が難しい現状となっている。中河内医療圏以外からの救急搬送依頼が前年に比べ今年は増えており、地域の救急ニーズに応えながら、それ以外の地域にも可能な限り協力していく必要がある。

また ER は血管内治療（IVR）部門も担当しており心臓カテーテル治療や脳血管治療、腹部血管治療、シャント PTA 治療を緊急対応も含めて担っている。心臓カテーテル治療は 100 件前後、脳血管治療は 20 件前後が毎月行われており緊急治療も月 10 件前後行われている。ER、IVR 共に迅速な対応とスキルが求められる中で「断らない医療」を完遂するべく、スタッフの育成と個々のスキルアップの向上に努めている。

依然終息が見えないコロナ禍の中で感染症対応の第一線を担う ER は、患者様の迅速対応とスタッフの感染対策を徹底し今後も地域の救急医療に貢献出来るよう邁進していきたい。

4階東 160
5階西 160
5階東 161
6階西 161
6階東 161
7階西 162
7階東 162
8階西 163
8階東 163
ICU 164
HCU 164
外来・ER 165
手術室 166
透析室 166
退院調整 167
入退支援 167
保健指導 167

手術室

手術室は8室で稼働しており、2022年の手術件数は6,481件（内緊急手術1,041件）で、前年対比543件増加、特に眼科の手術件数の増加が顕著であった。今年もコロナ禍であったが手術制限することなく対応し、手術件数は大幅に増加した。来年より、休日・夜間における眼科の二次後送病院として参画するため、さらに眼科症例の増加が見込まれる。また、今年2月よりダヴィンチ手術を開始し、泌尿器科で25件、呼吸器外科で6件の手術を実施した。来年より外科のダヴィンチ手術を開始する予定である。

現在、全身麻酔で手術を受けられる患者様を対象に入院前支援外来を実施しているが、2回/週の外来であり、対象の患者様全員に介入することができていない。手術を受けられる患者様も高齢化しており、安心・安全に手術を受けていただくためにも、介入する患者様を増やしていくことが課題である。また、来年は「術後疼痛管理チーム」を発足する予定である。術後疼痛管理認定看護師を育成し、チームで術後疼痛管理を実施し、患者様の苦痛軽減・離床促進を行い、早期退院へ繋げていけるよう体制構築・チーム活動を開始することが目標である。

透析室

本透析センターは一般フロア39床と個室1床があり、外来通院の患者様と近隣透析施設より当院での治療を受ける患者様を午前と午後の2クール体制で受け入れている。

2022年は登録患者数が平均86名（昨年は平均100名）になり、外来患者数の減少がよりすすんだ。患者様の高齢化に伴い、自家用車での通院が困難で送迎のある施設に行かれた方や入院を機に退院後他院に転院される方などがおられた。長年慣れ親しんで透析を受けている施設で安心して透析を受けたい患者様のニーズを満たすために日々検討を重ねている。積極的に新規導入の患者様を可能な限り受けていく方針である。

また、透析患者様の入院治療のための転入数が年間450名を超えている。緊急透析・緊急入院に対応できるよう、ベッドコントロールを行い、循環器･形成外科疾患などを持つ患者様が、より良い治療を受けられるために、これからも急性期病院の透析センターとしての役割を果たしていく。

さらに当院は血液透析だけではなく腹膜透析も選択できる。透析生活の選択の幅が大いに広がり、就労しながら透析を受ける患者様を支えていきたい。

2020年から新型コロナウイルス感染症の患者様の透析に対応していたが、2022年には2021年の4倍以上の受け入れとなった。外来の患者様と入院の患者様が1フロアで透析する状況の中、感染対策　には最も力を入れ、日々考えながら最善の透析ができるよう努めてきた。

今後も、透析患者が、安全で安心して透析を受けることができるよう、日々透析技術を磨きながら、透析患者とともに歩んでいきたい。

《透析患者数動き》　2021.1.1 ～ 2021.12.31

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
外来患者平均	28	28	27	27	27	26	25	26	27	26	27	28	322	26
入院患者平均	14	11	10	9	8	8	9	9	9	10	9	11	117	9
登録患者数平均	102	93	88	88	83	81	82	81	81	87	88	89	1,043	86
導入患者合計	4	0	3	2	1	2	1	4	4	7	4	7	39	3
死亡患者合計	4	8	8	3	5	4	3	2	2	4	1	2	46	3
転入患者合計	44	38	46	33	29	43	38	27	36	41	31	51	457	38
転出患者合計	43	36	39	24	26	35	39	21	31	32	29	42	397	27

退院調整チーム

入退院支援部門の退院支援チームは後方支援を担い、入院前支援スタッフと入院前から患者様が安心して入院生活を送り退院後の生活を支援するため病棟看護師やご家族様、地域の医療介護連携を行っています。入院時支援介入 659 件　65 才以上最高齢の平均 88 才。介護保険を有する患者様は平均 37.8%　高齢や独居、経済的理由など介護保険を予定や申請無いケースもあり退院支援は病棟看護師と MSW や他職種と協働し支援調整をしています。退院支援カンファレンスは 5181 件。退院支援リンクナース会にて病棟看護師の支援にアセスメント力や自己決定支援、看護サマリーの見直し、早期作成に着手に協力を依頼。がん終末期や医療依存度が高い患者様の退院前カンファレンス 37 件その内、医師同席 17 件、訪問看護師と情報連携 306 件。2020 年と比較し医療機関（＋ 148）老健（＋ 38）老人ホームなど（-53）障がい福祉施設など（+4）

在宅診療（＋ 35）軽快（＋ 32）の結果となり医療や介護看護の強い療養環境や在宅が増えた。

COVID-19 感染対策に面会禁止制限が続く中、患者様とそのご家族様の不安もさることながら高齢者の認知機能低下や ADL 低下が危惧され早期リハビリや介護保険申請など必要な患者様への支援を他職種連携強化し速やかな退院支援の実施に努めたい。

入退院支援

入退院支援部門の入院時支援では、病気になり入院しても、住み慣れた地域で継続して生活できることを目指して介入している。術前で全身麻酔の予定患者を対象に、入院前支援外来を週 2 回、入院時支援を行い、入院前支援外来では、医事課事務員が入院予約の案内及び手続きを行うところから連携が始まり、入院前支援外来日には、入退院支援看護師・手術室看護師・薬剤師により、患者様とそのご家族様へ安心・安全な入院療養生活を送れるよう支援し、患者満足度の向上を目指している。また、患者様の個々に対応できるように、体制を確保しメディカルソーシャルワーカー、栄養科などの多職種協働により、退院支援・退院調整が早期に介入できるよう連携している。

2021 年 10 月より、人生会議（ACP）の普及啓発活動として、入院時支援で患者様とそのご家族様への普及啓発をするとともに、意思決定の支援を開始。大阪府の人生会議のパンフレットを用いて、229 部配布。人生会議を知っている・人生会議を行っている対象は 9 名であった。今後の課題として、医療従事者含め、一般市民向けに更に、普及活動を推進していきたい。

保健指導

一次予防として、健診センターにおけるメタボリックシンドローム該当者に対する特定保健指導や小児科における予防接種のスケジューリング、二次予防として、主治医からのコンサルトに応じて慢性疾患の患者様に対する保健指導や禁煙治療を、三次予防としては心臓リハビリテーションにおける退院指導を実施している。また、糖尿病ケアチームでは他職種と共同し、外来の患者様や教育入院の患者様の生活支援やフットケア、合併症パスでは注射製剤使用者の硬結確認や末梢神経障害のスクリーニングなどを継続的に実施している。地域活動としては、世界糖尿病デーのイベント、医療講演、中学校への出張授業など、病院保健師として、疾病予防から合併症再発予防まで幅広く活動をしている。今年度の保健指導件数は、2840 件／年で、

領域では糖尿病外来が最も多く 1614 件（56.8%）、健診利用者への結果説明、特定保健指導が 863 件（30.4%）と続く。昨年度と比較して、5 月以降はスタッフの休職が重なり、指導件数は減少している。禁煙補助薬の製造中止及び在庫不足により、禁煙治療が一時期実施できなかったことから、禁煙指導件数も昨年度と比較し、大幅に減少している。（表 1：別紙）

今年度は特定保健指導の第 4 期改定に向けた体制整備と、糖尿病外来においては、より専門性の高い患者支援を目指し、透析予防指導管理料の算定開始の準備を栄養科と共に進めて行きたい。

《保健指導の領域件数》

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
外来保健指導	4	5	8	5	5	2	2	4	2	3	1	3	44
外来禁煙指導	2	4	7	8	11	11	4	3	2	3	8	6	69
C 型肝炎サーベイランス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓リハビリ	3	6	4	0	1	0	1	0	1	1	0	0	17
小児科外来	19	12	16	6	17	7	5	10	13	21	27	21	174
糖尿病外来	151	147	182	126	127	129	152	141	131	99	102	127	1,614
病棟	2	8	5	6	2	7	3	6	4	3	10	3	59
健診・人間ドック	29	46	40	40	37	54	32	49	38	54	49	30	498
特定保健指導	45	33	57	33	35	16	37	25	24	17	12	31	365
合計	255	261	319	224	235	226	236	238	215	201	209	221	2,840

2. メンバー構成

看護部副看護部長：髙橋章恵
5 階西病棟看護主任：尾崎芽紅美
6 階西病棟看護主任：乾　恵美
7 階西病棟看護師長：井本ユミ
8 階西病棟看護副主任：中嶋美也子
ICU 看護師長：村中烈子
外来看護師長：宮本千代美
手術室副看護部長：柴山智賀子
退院調整：加藤和代
4 階東病棟看護主任：毛頭悦子
5 階東病棟看護主任：坂本景子
6 階東病棟看護主任：秋田裕香里
7 階東病棟看護主任：坂田レミ
8 階東病棟看護師長：竹内裕子
HCU 看護師長：中島麻由美
ER 看護師長：山本真紀
透析室看護師長：栗田美貴
保健師主任：酒井菜穂子

4階東 160
5階西 160
5階東 161
6階西 161
6階東 161
7階西 162
7階東 162
8階西 163
8階東 163
ICU 164
HCU 164
外来･ER 165
手術室 166
透析室 166
退院調整 167
入退支援 167
保健指導 167

3. 教育実績

実習受入れ一覧

学校名	科目	期間	学生数	実習場所
小阪病院看護専門学校	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	5月30日～6月16日	6名	
	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	5月9日～5月26日	6名	
	成人看護学Ⅱ、Ⅲ	6月20日～7月7日	6名	
	基礎看護学Ⅲ	7月11日～7月28日	10名	
	小児看護学	9月26日～9月30日	2名	
	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	9月26日～10月14日	6名	
	小児看護学	9月20日～9月22日	3名	
	小児看護学	10月3日～10月7日	3名	
	小児看護学	10月17日～10月21日	3名	
	成人看護学Ⅱ、Ⅲ	10月17日～11月4日	5名	
	小児看護学	10月24日～10月28日	3名	
	統合	11月28日～12月8日	10名	
	基礎看護学Ⅰ	12月13日～12月16日	10名	
	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	1月10日～1月26日	6名	
	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	2月21日～3月10日	4名	
アナン学園高等学校	成人看護学(急性期)	6月27日～7月9日	3名	
	成人看護学(急性期)	7月19日～7月30日	3名	
	小児看護学	8月1日～8月4日	2名	
	小児看護学	8月16日～8月19日	2名	
	統合実習	9月26日～10月8日	6名	
	成人看護学Ⅰ	10月11日～10月22日	6名	
	基礎看護学Ⅱ	1月16日～1月27日	3名	
	成人看護学(慢性期)	1月30日～2月18日	6名	
錦秀会看護専門学校	小児看護学	4月18日～4月21日	3名	
	小児看護学	4月25日～4月27日	3名	
	小児看護学	5月9日～5月12日	3名	
	小児看護学	5月16日～5月19日	3名	
	小児看護学	5月23日～5月26日	3名	
	小児看護学	5月30日～6月2日	3名	
	小児看護学	6月6日～6月9日	3名	
	小児看護学	6月13日～6月16日	3名	
	小児看護学	6月20日～6月23日	3名	
	小児看護学	7月4日～7月7日	3名	
	小児看護学	7月11日～7月14日	3名	
	小児看護学	7月19日～7月21日	3名	
	小児看護学	7月25日～7月28日	3名	
	小児看護学	9月5日～9月8日	3名	
	小児看護学	9月12日～9月15日	3名	

院内研修

《レベルⅠ》

研修日	研修名
5月	メンタルヘルスケア
6月	正しい記録の書き方・看護過程
7月	RCA研修Ⅰ
	新卒新人急変時対応研修
8月	物品管理とコスト意識
9月	RCA研修Ⅱ
	卒後6ヶ月研修
10月	多重課題（リフレクション）
11月	倫理研修
12月	RCA研修Ⅲ
	終末期のケア
	看護を語る（ナラティブ）
1月	看護技術（フィジカルアセスメント）
2月	RCA研修Ⅳ
	振り返りレポート発表会
	卒後1年の振り返り

《レベルⅠ・Ⅱ》

研修日	研修名
8月	医療安全研修Ⅰ
12月	医療安全研修Ⅱ

《レベルⅡ》

研修日	研修名
5月	既卒新人対象「急変時対応」
1月	メンバーシップ研修Ⅱ
3月	チューター研修

《レベルⅡ・Ⅲ》

研修日	研修名
7月	医療安全研修I
9月	災害看護研修
2月	倫理研修

《レベルⅡ以上》

研修日	研修名
5月	ホスピタリティー研修Ⅰ①
6月	ホスピタリティー研修Ⅰ②
10月	ホスピタリティー研修Ⅱ
11月	ホスピタリティー研修Ⅱ
2月	ホスピタリティー研修Ⅲ
3月	ホスピタリティー研修Ⅲ

《レベルⅢ》

研修日	研修名
6月	リーダーシップ研修Ⅰ①
1月	リーダーシップ研修Ⅱ

《レベルⅢ・Ⅳ》

研修日	研修名
7月	RCA研修Ⅰ
12月	RCA研修Ⅱ

《レベルⅢ以上》

研修日	研修名
12月	チューター研修Ⅱ
3月	教育担当者研修

《レベルⅣ・Ⅴ》

研修日	研修名
8月	管理者災害看護
10月	医療安全研修Ⅰ
11月	看護記録
1月	医療安全研修Ⅱ

《管理者》

研修日	研修名
7月	RCA研修Ⅰ
11月	RCA研修Ⅱ

《新人管理者》

研修日	研修名
10 月	メンタルヘルスケア研修

《JCI》

研修日	研修名
7 月	中途採用者BLS研修
12 月	小児ＢＬＳ研修
	小児ＢＬＳ研修
1 月	中途採用者BLS研修
	小児ＢＬＳ研修
2 月	小児ＢＬＳ研修
	小児ＢＬＳ研修

《スキルアップ》

研修日	研修名
4 月	小児BLS研修
5 月	せん妄教育
	BLS指導者養成研修
	BLS指導者養成研修
	皮膚・排泄ケア（褥瘡）
6 月	二次救命処置研修　①
	二次救命処置研修　②
	ロジカルシンキング研修Ⅰ
	RRS
7 月	心電図
	せん妄教育　②
	入退院支援研修
8 月	入退院支援研修
	ロジカルシンキング研修Ⅱ
9 月	循環器のフィジカルアセスメント
	せん妄教育③
	呼吸のフィジカルイグザミネーション
10 月	中途採用者BLS研修
	人工呼吸器装着中の患者の病態生理と看護
	入退院支援研修
10 月	ACSの病態生理と看護
	ロジカルシンキング研修Ⅲ
11 月	せん妄教育
	二次救命処置研修
	摂食嚥下
	皮膚・排泄ケア（失禁）
	人工呼吸（NPPV）
12 月	摂食嚥下
	化学療法②
	ロジカルシンキング研修Ⅳ
	意識のフィジカルアセスメント
1 月	人工呼吸（NPPV）
2 月	皮膚・排泄ケア（失禁）
3 月	摂食嚥下
	せん妄教育

《看護補助者》

研修日	研修名
5 月	看護補助者研修 ラダーレベルⅢ
6 月	看護補助者研修 ラダーレベルⅠ
	看護補助者研修 ラダーレベルⅡ

《看護協会　短期研修》

研修日	研修コース名
4月	プロがプロに教える！カテ室ナースが知ってお得なスキンケア
5月	これからの倫理と看護管理者の影響力 ～すべての看護師に専門職としての充実感を～
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント② （講義・演習）
	危険予知トレーニング①
	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修①
	BLSプロバイダーコース（G2020）
6月	BPCを策定し、災害へ備えよう
	今日から実践できる褥瘡ケア①
	病院･入院施設から地域医療へつなぐ退院支援･退院調整看護
	臨地実習指導者①
	魅力的な研修会・勉強会の組み立て方
	新人看護職員教育担当者研修
7月	管理者に求められるストレスマネジメント ～スタッフのメンタルサポートで大切な事～
	災害看護における初期医療支援活動①
	やってみよう家族アセスメント！ ～明日から変わる！？家族のとらえ方～
	高齢者の特性を踏まえたエンド・オブ・ライフ・ケア
	臨地実習指導者②
	看護補助者のための医療安全①
	共に育つための教育の基本的知識～心理学的アプローチ～
	災害支援ナースの第一歩①～災害看護の基本的知識～
	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修
8月	一般病棟において、予兆を捉えて急変を防ぐ観察と看護のポイント①
	救急・集中治療領域におけるクリティカルケア
	がん化学療法を受ける患者の支援
	組織で取り組む感染管理
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識①
	コーチングコミュニケーション
9月	共に育つための教育の基本的知識
	災害看護における初期医療支援活動②
	みんなで考える看護倫理：基礎編
	対象の全体像把握のためのアセスメント
	実践に活かす静脈注射・輸液管理の基本知識 ～デバイスの特徴と使用頻度が高い薬剤～
	今日から実践できる褥瘡ケア②
	認知症患者のケア ～認知症患者が安心して医療を受けられるケアを考える～
	がん患者の症状緩和を図る看護
	チームで取り組む医療安全 ～やってみよう！TeamSTEPPS～
	多職種共同とコンフリクトマネジメント ～組織内のアサーティブなコミュニケーションに向けて～
	共に育つための教育の基本的知識～教育方法～
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識②
	【サードレベル公開講座】看護制度・政策の動向
10月	みんなで考える看護倫理：アドバンス
	よりよい意思決定に向けたナッジの活用 ～看護現場をよりよくする仕掛け～
	今すぐ使えるフレイル予防①

研修日	研修コース名
10月	高齢者の「食」を考える～肺炎を予防するための知識と実際～
	危険予知トレーニング②
	看護チームにおけるリーダーシップ研修①
	看護管理者のリフレクション
	地域包括ケア時代の主任・副看護師長の役割
	頑張る看護職のストレス対処法 ～アンガーマネジメントでストレス軽減～
	頑張る主任・副看護師長のストレス対処法 ～アンガーマネジメントでストレス軽減～
	災害支援ナースの第一歩②～災害看護の基本的知識～
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識③
	【セカンドレベル公開講座】多職種チームのマネジメント
	【サードレベル公開講座】社会システムと労務管理
	【サードレベル公開講座】経営と質管理
11月	あらゆる場での看取りへの援助
	睡眠に関する視野を広げよう
	ファシリテーションの基本を学ぼう
	糖尿病療養指導の実践的知識
	今すぐ使えるフレイル予防②
	精神疾患を持つ患者のとらえ方と接し方 ～精神的苦痛に寄り添う看護～
	感染管理の基礎知識
	医療安全の基本と医療事故防止行動
	認知症高齢者の看護実実践に必要な知識⑤
	大阪府看護職員認知症対応向上研修
	BLSプロバイダーコース（G2020）
12月	人工呼吸器装着患者の看護①
	人工呼吸器装着患者の看護②
	レポート（小論文）の書き方
	慢性心不全患者の療養支援
	がん放射線療法を受ける患者の看護
	組織で取り組む感染管理②
	実地指導者研修
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識⑤
	【セカンドレベル公開講座】経営分析に基づいた組織管理：SWOT,BSC作成の実例から学ぶ
	「大阪でいつおこる？自然災害!! ～その時、看護職のあなたはどうする？～Part1
	ACLSプロバイダーコース

《看護協会　長期研修》

研修日	研修コース名
5月	第1回大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会
	第2回大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会
	認定看護管理者教育課程ファーストレベル①
7月	第2回認定看護管理者研修教育課程ファーストレベル

《徳洲会グループ》

研修月	開催主催	研修コース名

《その他》

研修月	開催主催	研修コース名
7月	ヴェクソンインターナショナル	2022「重症度、医療・看護必要度」評価者および院内指導者研修会
		腎臓リハビリテーションガイドライン講習会
8月	セコム医療システム株式会社	2022 年度看護師特定行為研修指導者講習会
	公益社団法人人間ドック学会	人間ドック健診情報管理指導士ブラッシュアップ研修

2）研究発表業績

1）院外発表

年月日	学会名	病棟名	発表者名	テーマ
	日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	手術室	和泉田彩	腹臥位手術における皮膚障害の発生予防
9月3日	日本災害看護学会年次大会	HCU	鴨木沙織	A病院におけるコロナ受け入れ病棟を模した避難誘導訓練の結果と課題
202/6	わい和いNARA在宅サポート研究会研究発表会	7東	川原毅得	COVID-19による面会制限下でターミナル患者の食支援を行う意義を検討する
6月16日～6月18日	日本環境感染学会総会・学術集会	ICU	萩原美香	当院に発生した2つのCOVID-19クラスターへの介入
6月16日～6月18日	日本環境感染学会総会・学術集会	HCU	宮本幸子	手指の状態を可視化することによる手指衛生実施率の向上を目指して
6月16日～6月18日	日本環境感染学会総会・学術集会	ICU	榊原朋美	水道周囲から検出された緑膿菌事例に関する報告
11月5日	日本糖尿病学会近畿地方会	外来	酒井菜穂子	カテゴリー分類に基づいた後期高齢者糖尿病の臨床的特徴

2）雑誌投稿・著書発刊

著者名	表題	雑誌名／出版社名	発行年月
川原毅得	栄養ケアのジレンマを解決する	照林社	2022年6月

委　員　会

―― 2022年 ――

48）呼吸ケアチーム（RST）　176
49）褥瘡対策委員会　177
50）研修管理委員会　178
51）栄養サポートチーム（NST）　181
52）緩和ケアチーム　183
53）がん緩和支援委員会　185

呼吸ケア 176
褥瘡対策 177
研修管理 178
栄養サポ 181
緩和ケア 183
がん暖和 185

48）呼吸ケアチーム（RST）

リハビリテーション科　片田　理恵

1. 概要

4 月の診療報酬改訂により、HCU でも ICU 同様の早期離床リハ加算の算定が開始。多職種カンファレンスを開催することでより早期から患者様へのリハ介入が可能となり、廃用症候群の予防、早期退院に向けて取り組んでいる。

新型コロナウィルスへの対応は､隔離解除後からリハビリテーションの介入となっていたが､それでは患者様の廃用症候群の進行が大きかったため現在では隔離中からリハビリテーションを実施している。

2. メンバー構成

医　　師：　原田博雅、石原英樹、緒方嘉隆　濱口眞成、山田知樹
看　護　師：　村中烈子、鴨木沙織
臨床工学技士：　藤田和睦、藤村篤志、杉山真一、三原寿之、吉村有梨奈、本間敦久、皮智炫、西村宥哉、前田遼
理学療法士：　片田理恵、長谷川静、奥村葵、上西希

3. 実績

呼吸リハチーム対象

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	平均
患者数	386	232	368	374	373	341	229	344	224	310	200	292	306
単位数	462	287	484	434	436	411	301	491	337	426	277	356	392

4. 今後の目標

・呼吸リハスタッフの増員
・ICU・HCU での早期離床、365 日介入の充実

49）褥瘡対策委員会

形成外科部長　綾部　忍

1. 概要

当院は 2002 年より褥瘡対策委員会を発足しています。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・資材課・医事課で構成され、毎週 1 回の回診を行い、それぞれの専門的な知識や技術を出し合って効果的・効率的な褥瘡予防・治療を目指しています。

さらにきめ細かいケアを行うため、看護部各部署にリンクナースを配備しています。

2. メンバー構成

医　　師	綾部忍、森川周至、松井千明、中桐由貴、打越大登
看　護　師	柴山智賀子、坂田レミ、河畑美香
管理栄養士	齋藤朝美、佐藤友亮
薬　剤　師	森田幸男、岩政かおり
理学療法士	野村日呂美
資　材　課	柏山文成
医　事　課	宮本奈実

3. 実績

2022 年度の実質褥瘡発生率平均 1.44%　推定褥瘡発生率平均 1.85%

年間件数褥瘡院内発生数 220 件　持ち込み褥瘡数 226 件

4. 今後の目標

院内勉強会や高機能エアマットレスの整備を行い、褥瘡予防に努めるとともに褥瘡治療に対して、創傷被覆材や NPWT（陰圧閉鎖療法）などを駆使した保存療法・皮弁手術を行っています。

2023 年度の課題は、ガイドラインに沿った褥瘡体圧分散寝具の適正使用の徹底を図り、さらなる褥瘡発生率の低下を目指していく。

呼吸ケア 176
褥瘡対策 177
研修管理 178
栄養サポ 181
緩和ケア 183
がん暖和 185

50）研修管理委員会

研修管理委員長　原田　博雅（院長）
プログラム責任者　髙原　良典（総合診療部長）

1. 概要

当院は、厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院及び協力型臨床研修病院として初期臨床研修医の育成を行っています。プライマリ・ケアと救急医療を中心に、数多くの症例を経験することで総合的な臨床能力をもった医師の育成を目指しています。また、高度集中治療から在宅医療まで幅広く経験できる研修を売りにしています。気軽に意見を交わせる場として毎月研修医会議を開催しており、指導医・研修医双方が研修環境の改善に取り組めるような雰囲気作りを心がけています。

2020 年からは、イギリス人医師 Dr. ジョエル・ブランチによるケースカンファレンス・レクチャーを週 2 回開催し、研修医の基礎的な臨床スキルの向上や、プレゼンテーションの英語表現能力の向上を目指しています。さらに、来年度からは千葉西総合病院内科部長の八重樫牧人先生のレクチャーの定期開催を計画しており、他施設から医師を招いての勉強会も充実していきます。

現在、大阪公立大学医学部附属病院のたすきがけプログラム協力型施設としても初期臨床研修医を受け入れ指導にあたっていますが、本年は新潟県で新たに創設された、たすきがけプログラムにも参加することが決まり、2023 年度から村上総合病院、佐渡総合病院の 2 施設と連携して初期臨床研修医の育成にあたる体制を整えました。

専門研修プログラムに関しては、現在基幹施設として内科、外科、総合診療科、整形外科（Ⅱ型）の認定を受けていますが、さらに 2023 年度より救急科プログラムが認定を受け、5 つの領域において専門研修プログラムを揃えることが出来ました。

脳神経外科、形成外科、麻酔科、救急科、泌尿器科、放射線科、眼科、病理診断科領域については、引き続き大学病院や徳洲会グループの各施設と連携を取りつつ当院の特色を生かし、初期研修から専門研修へとシームレスな移行が出来るよう企画・運営を行っていきます。

2. メンバー構成

研修管理委員長：原田博雅（院長）　　プログラム責任者：髙原良典（総合診療部長）
事務責任者：井上雅章（事務部長）
外部委員：3 名（菊池内科 院長　菊池 博氏、医療法人幸晴会 中谷クリニック 院長 飯地 理氏
八尾市消防本部消防署 救急課長 西村 元一氏）
その他委員：51 名（内訳　院内医師 10 名、看護部・コメディカル 9 名、協力施設医師 32 名）

3. 実績

1）研修医数

《 初期臨床研修 》

1 年次：5 名（大阪公立大学医学部附属病院たすきがけ 1 名含む）　　2 年次：4 名

《 専攻医 》

内科：1 名　　外科：1 名

（以下、他 連携施設として受入れ）

大阪公立大学脳神経外科専門研修プログラム（2 名）、大阪公立大学形成外科専門研修プログラム（3 名）、大阪医科薬科大学眼科専門研修プログラム（1 名）

2）勉強会・カンファレンス等

《 医局発表 》 Grand　Round

毎週金曜日 AM8:10 から学会形式の医局発表を行っています。

初期研修医の発表練習の場として開催しています。　（※は初期研修医による発表）

発 表 内 容	開 催 日
日高徳洲会病院での研修（※）	1 月 7 日
徳之島での闘牛外傷の症例	1 月14日
下部消化管異物による急性腹症	1 月21日
3歳男児の異所性胸腺の一例（※）	2 月 4 日
肝障害をきたした摂食障害の一例（※）	2 月18日
せん妄治療について	2 月25日
歯科疾患・全身疾患～当院における周術期管理介入症例での統計～	3 月 4 日
S状結腸捻転の検討	3 月11日
若年腎不全の一例（※）	3 月18日
肺腺癌化学放射腺療法後の経過観察中に異時性肺腺癌を発生した1例（※）	4 月 8 日
研修医紹介（※）	4 月15日
令和4年　小児科	4 月22日
めまいを主訴に救急搬送された 1 例（※）	5 月 6 日
3歳男児の異所性胸腺の一例（※）	5 月20日
薬剤性せん妄・転倒の軽減を目指す『睡眠導入剤使用プロトコール』の運用	6 月 3 日
救急災害医療について －災害拠点病院－	6 月 6 日
Kartagene r 症候群の経過と病理解剖報告（※）	6 月17日
脳梗塞を契機に発見された原発性アルドステロン症（※）	7 月 1 日
血痰・呼吸苦を主訴に独歩来院した27歳男性の 1 例（※）	7 月 8 日
四肢の筋力低下に至った頚椎症性脊髄症の一例（※）	7 月15日
頭痛・左半身麻痺を主訴に救急搬送された一例（※）	7 月22日
MRI T1強調像で基底核に高信号を呈した肝性脳症の一例（※）	8 月 5 日
甲状腺乳頭癌、若年の1例	8 月19日
下腹部痛を主訴に救急搬送され膀胱直腸障害を認めた1例（※）	8 月26日
健常40代男性に発症したCampylobacter fetusによる化膿性椎体椎間板炎の一例（※）	9 月 2 日
診断に難渋した大動脈解離の一例（※）	9 月 9 日
多発骨折を契機に発見された副甲状腺機能亢進症の1例（※）	9 月16日
重症筋無力症クリーゼ疑いで搬送された単純ヘルペス脳炎の一例（※）	10月14日
胸腔内大量出血を来した自然血気胸の一例（※）	10月20日
地域研修（※）	10月28日
小児における熱性痙攣の 1 例（※）	11月11日

呼吸ケア 176
褥瘡対策 177
研修管理 178
栄養サポ 181
緩和ケア 183
がん暖和 185

RAに対してMTX投与中の患者に発症したNTM性髄膜炎の1例	11月18日
未治療高血圧により発症した高血圧脳症の1例(※)	11月25日
低Na血症を呈した典型的なレジオネラ肺炎の一例(※)	12月 9 日
繰り返す誤嚥性肺炎を契機に診断しえたALSの一例(※)	12月16日
ベーチェット病を既往に持ち肺動脈塞栓症を発症した一例(※)	12月23日
関節リウマチのメトトレキサート治療中に骨髄障害をきたした一例(※)	12月30日

《臨床病理検討会》

(※は初期研修医による発表)

演　題	開 催 日
Kartagener症候群患者の最期を経験した一例(※)	1 月28日
右下葉肺癌多発転移に対して 放射線治療後に意識障害をきたした 1 例(※)	2 月25日
慢性腎不全による透析患者の終末期(※)	5 月27日
血液透析でも改善しなかった下肢うっ滞性潰瘍の1例	6 月24日
ワクチン接種後にコロナウイルス感染症を発症し、脳梗塞に至った1例(※)	7 月22日
糖尿病歴36年、透析中の右季肋部激痛の49歳男性	8 月26日
非小細胞肺癌に対して免疫関門阻害剤が著効し、長期的な臨床的寛解中に直腸原発悪性リンパ腫を発症し呼吸不全で死亡した症例	9 月30日
難治性胸水に悩まされた肺扁平上皮癌一例	12月16日

3) 各種講習会への参加支援

ICLS、ACLS、BLS、緩和ケア研修会をはじめ、JATEC、PALS や NST 研修会など、各種講習会への参加を奨励し費用の負担などを行っています。

4) 研修医の主な卒業大学

大阪公立大学、奈良県立医科大学、京都府立医科大学、高知大学、愛媛大学、弘前大学、福井大学、大阪大学、徳島大学、鳥取大学、関西医科大学、香川大学、島根大学、兵庫医科大学、名古屋市立大学、琉球大学、金沢大学、金沢医科大学、大阪医科大学、近畿大学、秋田大学、富山大学、京都大学など、研修医の出身大学も多岐にわたっています。学閥にとらわれない開かれた医局が特徴です。

4. 今後の目標

・初期臨床研修医の募集定員増員に向けてとり組む、および専攻医採用に力を注ぐ。
・研修医のスキルアップを図るため、院内勉強会を再考・計画的に実施する。
・研修医のインシデント・アクシデント報告意識を高め、医療安全体制を確立する。
・働き方改革について、引き続き臨床研修医労働時間短縮計画の取り組みを行う。
・研修医 1 人当たり年 1 回の学会発表を必須として実践する（今年度は達成)。

51）栄養サポートチーム（NST）

NST 委員長　木村　拓也

1. 概要

栄養サポートチーム（以下、NST）は特別な栄養管理を必要とする入院患者様を対象に、通常の食事だけでなく静脈栄養、経腸栄養を含む全ての栄養療法における適切な栄養管理・評価・提案を行い、一日でも早く良好な栄養状態に改善できるように活動している。

2022 年も昨年に引き続き、入院時栄養評価の遵守率と再評価の遵守率について調査を行った。入院時栄養評価はほぼ 100％実施できているのに対し、再評価の遵守率は低値を示していた。再評価の遵守率の向上については、今後の課題としている。

NST 教育認定施設としての研修生は新型コロナウイルス感染症の影響で受け入れを中止していたが、2021 年より受け入れ再開。2022 年は、計 12 名の受け入れを実施した。

2. メンバー構成

医師	3名	臨床検査技師	2名
看護師	14名（リンクナース含む）	言語聴覚士	2名
薬剤師	4名		
管理栄養士	3名		

3. 実績

≪ NST 加算件数≫



	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
2021	100	80	108	81	92	88	106	73	114	110	97	118	1,167	97.3
2022	88	109	135	96	54	59	87	73	129	56	90	130	1,106	92.2

昨年と比較し、総件数は -61 件、月平均 -5.1 件の減少となっている。

4. 今後の目標

・教育、研修

2022 年も実施出来なかった勉強会を開催し、栄養療法に関する知識を習得できるようにする。

2023 年も研修生の受け入れを積極的に行う。現在 8 名の受け入れ予定をしている。

・研究、発表

定期的な症例検討会の実施、日本臨床栄養代謝学会や日本病態栄養学会など地方・全国学術集会へ参加し、培った知識や技術を患者様に還元できるよう日々研鑽に努める。

呼吸ケア 176
褥瘡対策 177
研修管理 178
栄養サポ 181
緩和ケア 183
がん暖和 185

52）緩和ケアチーム

緩和ケア認定看護師　西山　由希子

1. 概要

大阪府がん診療拠点病院には緩和ケアチームの設置が義務づけられている。当院においても、これまでも緩和ケアチームが設置され、患者様の症状緩和のために活動をしてきたが、2022年11月からは常勤精神科医師がメンバーに加わったことで、施設基準の全てが満たされ、正式に緩和ケアチームとして診療加算がとれるようになった。

医師（外科・内科・麻酔科・精神科・心療内科）、緩和ケア認定看護師、看護師、薬剤師、作業療法士、公認心理師、管理栄養士で構成されたチームで、それぞれの職種が専門分野での強みを生かしながら患者様の苦痛の緩和を目指してサポートしている。そして、チーム回診の日には、患者様の状態を予後予測ツールで評価し、残された時間を大切に過ごして頂くための提案や支援も行っている。

患者様やそのご家族様はもちろん、医療スタッフの中にも、いまだに緩和ケアに対して、「終末期のケア」という認識を持っている人もいる。緩和ケアは早期からの関わりがQOLの維持、向上に繋がることを伝え、そして周囲の意識改革を行いながら、患者様とそのご家族様の苦痛を少しでも和らげる様に活動している。

2. メンバー構成

医師：垣本佳士（身体）、髙原良典（身体）、池下和敏（身体）、片上徹也（精神）、
杉本貴美子（精神）
緩和ケア認定看護師：西山由希子
看護師：藤井正作
薬剤師：山田直輝、青山瑛里子、井上悠
公認心理師：朴祐希、宮坂なつ花
作業療法士：梅崎大貴、黒川湧哉
管理栄養士：小山洋史、佐藤友亮

3. 実績

《緩和ケアチーム介入件数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数	平均
4	2	4	1	2	3	7	0	5	1	2	4	35	2.9

《がん種別件数》

肺	胃	大腸	膵	肝	胆管（胆嚢含）	乳	前立腺	その他
2	1	11	6	3	1	3	1	7

《院内緩和ケア研修会》

開催日	講演 1	講演 2	参加者
6 月 9 日	がんリハにおける ADL に困難を生じた方へのアプローチ	緩和ケアのカタチ 緩和ケアが患者さんにもたらすメリット	30 名
12 月 1 日	がん相談支援センターの取り組み	共感的なコミュニケーションとは	21 名

4. 今後の目標

急性期病院としての役割を担いながら、がん診断期から急性期治療、支持療法に至るまでの全ての病期に渡って、継続的にがん患者の支援を行う。その中でも患者様とそのご家族様の気持ちを尊重し、そして寄り添う事を大切にしながら、安心と満足の中で人生の最終段階を過ごすための体制を整えることを支援していく。

呼吸ケア 176
褥瘡対策 177
研修管理 178
栄養サポ 181
緩和ケア 183
がん暖和 185

53）がん緩和支援委員会

緩和ケア認定看護師　西山　由希子

1. 概要

がん診療において、疾患別に推奨される治療方法、患者様にとってベストと考えられる密度の高い医療を提供すること、大阪府がん拠点病院としての役割を果たすことを目的とする。患者様の QOL の維持・向上や、がんと診断されたときから出現する身体的、精神的、社会的、そしてスピリチュアルな苦痛に対して積極的､継続的かつ総合的な緩和ケアを提供するために、安定した体制確保の実現を目指し、がん緩和支援委員会（以下「委員会」という）を設置している。

2. メンバー構成

委 員 長　外科医師：垣本佳士（緩和ケア研修指導者）
事務局長　苗代啓子（がん化学療法看護認定看護師）
委　　員　内科医師：高原良典（緩和ケア研修指導者）
麻酔科医：池下和敏（緩和ケア研修指導者）
精神科医師：片上徹也
心療内科医：杉本貴美子
看護部：藤井正作
：西山由希子（緩和ケア認定看護師）
薬剤部：青山瑛里子　山田直輝
公認心理師：朴祐希　宮坂なつ花
管理栄養士：小山洋史　佐藤友亮
リハビリ：梅崎大貴
医事課：西田美帆
MSW：三谷勇

3. 実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数	平均
がん指導管理料イ	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	1
がん指導管理料ロ	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	2	16	1.33
がん指導管理料ハ	45	38	36	24	18	18	0	7	22	11	9	8	236	19.67
ケモ食	109	67	186	57	27	37	53	256	217	317	174	198	1,500	125

呼吸ケア 176
褥瘡対策 177
研修管理 178
栄養サポ 181
緩和ケア 183
がん暖和 185

《スクリーニング件数》

	総数	DR/NS	MSW	サービス	なし
化学療法	3	2	0	1	1
外来	183	61	27	39	98
放射線治療	123	40	19	22	77
合計	309	103	46	62	176

《がん地域連携パス件数》

	胃がんF	胃がんケモ	大腸がんF	大腸がんケモ	乳がん	肺がん	緩和パス
適応件数	27	0	53	0	0	7	0
実施件数	21	0	42	0	0	7	0

4. 今後の目標

新型コロナ感染症の問題も長期化し、医療者の啓蒙活動の方法にも形式の変更を余儀なくされた。

一般市民に向けての講演会やセミナー、サロン等が気軽に実施できなくなり、形式も Web 方式が主流となった。

インターネットの使用に不慣れな高齢者等にとって、医療者からの発信を受け取りにくい状況が、がんの早期発見にも悪影響を及ぼす危険をはらんでいると考えると、がん予防、がん検診、がん治療が滞ることのないよう、各部門の連携を更に強化し、支援していくことが重要となる。

がんの患者様が疾患によって多くの事を諦めることなく、最期のその時まで自分らしく生きるための支援していく。

関　連　施　設

―― 2022年 ――

54）八尾徳洲会介護センター　190
55）よろこび訪問看護介護センター　194
56）よろこび訪問看護ステーション　195
57）介護老人保健施設 八尾徳洲苑　198
58）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷　205

54）八尾徳洲会介護センター

管理者　日髙　陽子

介護セン 190
よろこび 訪問看護介護 194
よろこび 訪問看護ステ 195
徳洲苑 198
特養久宝寺 愛の郷 205

1. 概要

2022 年 4 月に八尾徳洲苑介護センターと統合し、5 名体制となりました。同時に特定事業所加算Ⅱ取得と定年に伴う管理者交代、9 月には特定事業所加算Ⅰ取得と大きく変動した 1 年でした。これまで八尾徳洲会総合病院等からの介護度が比較的高い方の受け入れを多くしてきましたが、統合に伴い介護予防や総合事業の方の支援も開始しました。スタッフ全員が 10 年超の経験者の主任介護支援専門員で、医療依存度が高い方や他機関との連携が必要な方など、幅広く対応できることが当センターの強みです。現状に傲ることなく事業所内外の研修参加や新しい情報収集により日々研鑽しています。引き続き八尾徳洲会総合病院からの急性期の治療を終えた方の早期退院の協力や 2024 年のサービス付き高齢者向け住宅のオープンに向けて、介護支援専門員の人員確保が急務です。しかし、処遇が改善され続ける介護職員から介護支援専門員を目指す人が減少し人員確保には苦慮しています。国には介護支援専門員の処遇改善を、法人には働きやすい環境を期待し、私たち自身も業務を見直し、より働きやすくしたいと考えます。パワフルに地域のみなさまへ『その人らしい暮らし』を提供できるよう、日々努力して参ります。

2. メンバー構成

管理者：日髙陽子

山﨑美保、井澤瞳、野宗かおり、矢竹千津栄

3. 実績

1）業務実績

≪介護度別人数≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
要介護1	12	11	12	43	38	41	41	40	40	42	45	45	410
要介護2	12	11	12	42	46	42	40	39	38	42	41	42	407
要介護3	14	14	12	31	33	33	36	35	36	37	36	36	353
要介護4	14	12	13	25	25	30	28	27	28	29	28	28	287
要介護5	8	7	9	20	17	14	14	15	13	10	13	12	152
要支援1	0	0	0	8	8	9	9	10	10	8	11	8	81
要支援2	0	0	0	17	17	16	17	16	14	14	12	12	135
利用者合計	60	55	58	186	184	185	185	182	179	182	186	183	1,825

《加算》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初回加算	3	1	2	100	3	10	6	2	7	5	5	6	150
入院時情報連携加算（Ⅰ）	6	2	2	4	3	2	8	8	3	2	6	9	55
入院時情報連携加算（Ⅱ）	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	3
退院・退所加算（Ⅰ1）	0	0	4	5	4	2	1	2	1	3	2	3	27
退院・退所加算（Ⅱ1）	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	6
退院・退所加算（Ⅰ2）	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
退院・退所加算（Ⅱ2）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
退院・退所加算（Ⅲ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通院時情報連携加算	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	4
ターミナルケアマネジメント加算	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
予防支援初回加算	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	4
予防支援委託連携加算	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
加算合計	9	4	9	111	11	15	18	14	14	12	15	22	254

《業務量》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
モニタリング訪問	59	57	59	181	184	185	180	179	179	170	177	183	1,793
サービス担当者会議	12	6	14	131	28	26	32	28	27	38	35	27	404
新規	2	2	5	104	5	7	3	2	5	5	7	5	152
終了	5	2	4	4	4	3	5	8	3	2	6	5	51

2）研修

・法定研修

主任介護支援専門員更新研修　:2/18（矢竹）

（web研修）、8/8、8/29、9/17、10/6、10/25、11/11、12/6　主任介護支援専門員更新研修 :7/23（日髙）

・大阪府各市町村主催の研修・連絡会

八尾市認知症啓発講演会　認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会web研修：2/21、24（矢竹、井澤）

2021年度　大阪府地域生活定着支援センター　研修会　:2/28（矢竹、井澤）

「ちょっと困った高齢者を＜犯罪者＞にしてしまわないために」 web研修

八尾市介護給付適正化研修会　1回目　web研修　:3/1（矢竹、井澤）

2021年度　八尾市人権研修　あなたの周りにこのようなことでお困りの方はいませんか?　書面研修：3/3（矢竹、井澤）

八尾市介護給付適正化研修会　2回目 「居宅サービス計画と訪問介護計画とのつながり」：3/23（井澤）

～居宅介護支援・訪問介護事業者ヒアリングを通じた振り返り～　web研修

八尾市認知症地域支援推進　八尾市チームオレンジ活動　おれんじルーム　認知症介護者交流会：5/24（井澤）

介護セン 190
よろこび 訪問看護介護 194
よろこび 訪問看護ステ 195
徳洲苑 198
特養久宝寺 愛の郷 205

「認知症対応力向上研修」 動画研修 ：9/15（全職員参加）
「意思決定支援」研修　認知症があっても障がいがあっても自分らしく暮らしたいを支えるために：10/14（日髙）
主催：八尾市社会福祉協議会　権利擁護センター（通称　ほっとネット）
介護予防ケアマネジメント業務に関する研修会 「知って、感じて、考えて～工程分析」 web研修：11/18（井澤）
人権研修　主催：一般社団法人　大阪府人権協会　動画研修 ：12/8（全職員参加）
八尾市がめざす重層的支援体制整備事業について　～誰ひとり取り残さない相談支援体制の構築のために～ ：12/21（井澤）

・八尾市介護保険事業者連絡協議会
2021年度　第2回　居宅介護支援事業者部会　定例会　動画研修　権利擁護センター：1/14（井澤）
「ほっとネット」について、八尾リハビリテーション関連識連絡協議会　通所編・訪問編
令和4年度　第1回地区別研修 「当事者理解を深める事例検討会」～地域包括支援センターとの合同開催～ ：6/29（日髙）
多職種連携研修会「顔の見える関係づくり」の和を広げよう　地域の多職種を知ろう　web研修：8/17（山﨑）
2022年度　第1回　居宅介護支援事業者部会　定例会　ケアマネジメントに関すること：9/16（井澤）
「居宅サービス計画書作成の再確認」
設立20周年記念式典、講演会『介護のつながり』～誇りと魅力の人づくり　：10/27（日髙、矢竹）

・大阪介護支援専門員協会
「地域共生社会づくりに向けた八尾市の取り組みについて～おせっかい日本一をめざして～」web研修：6/24（野宗）
八尾支部主催の事例検討会　テーマ：「認知症のある独居高齢者の施設入居の判断について」：10/11（山﨑）

・法人内
e－ラーニング　治験委員会　GCP／指針研修会　医学系指針の改定について：1/8（井澤）
e―ラーニング　治験委員会　GCP／指針研修会　医学系指針の改定について：1/11（矢竹）
e―ラーニング　感染委員会勉強会 ：7月（各自全職員参加）
e―ラーニング　接遇勉強会 ：10月（各自全職員参加）

・事業内
［疾患別研修］2/3
［症例検討］3/17、4/1、4/7、4/8、4/12、4/22、4/28、5/6、5/12、6/2、6/8、6/22、7/7、
7/21、8/4、8/18、9/1、10/6、10/20、11/17、11/24、12/1、12/15
［伝達研修・情報提供等］5/1、8/8、10/6、11/1、11/10、12/22
［BCP］4/14、5/12、5/19、6/16、7/14、9/8、10/13、11/10

・その他
苑介護センターと4月合併に向けての話し合い ：1/20（矢竹、井澤）
厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課 「適切なケアマネジメント手法の策定、：2/10（矢竹、井澤）
普及推進に向けた調査研究事業」委員インタビュー動画（第3弾） 動画研修
2/21の八尾市認知症啓発講演会の振り返り　他法人との会議 ：3/10（井澤）
2021年度　第2回定例会　中河内圏域高次脳機能障がい支援連絡会　障害福祉サービスについての勉強会：3/11（井澤）

2021年度　多職種連携研修会　松本クリニック主催「コロナ禍における多職種連携について」 web研修	：3/23（矢竹、井澤）
しきの会　コロナで困っていること、BCPについて　web研修	：5/17（日髙）
いちごいちえケアプランセンターとZoomの勉強会	：5/31（日髙、山﨑）
大阪府介護支援専門員実務研修「見学・観察実習」 実習生1名受入れ	：5/31（井澤、野宗、矢竹）
大阪府介護支援専門員実務研修「見学・観察実習」 実習生受入れ	：6/10（日髙、山﨑）
薬局と服薬支援ロボによる服薬支援サービスについて　開催：ファーマライズグループ	：7/1（矢竹、井澤）
しきの会　web研修	：8/23（日髙）
第5回けあぽす研修会　データー連携システムについて	：11/25（日髙）

4. 今後の目標

増員による事業拡大を目指す。

55）よろこび訪問看護介護センター

管理者　宮崎　美子

介護セン 190
よろこび 訪問看護介護 194
よろこび 訪問看護ステ 195
徳洲苑 198
特養久宝寺 愛の郷 205

1. 概要

2022 年は職員家族がコロナ感染し職員が出勤停止になることが 2 度ありました。

時間調整、日にち変更で現場対応し訪問しましたが、利用者に大変迷惑をかけてしまいました。幸い職員、社員家族にはコロナ感染なく何とか日々を乗り切りましたが、今後、こういった事態が起きた時の対応をどうしていくか？を考えていかないといけないと思っています。

またコロナ禍でサービス担当者会議の機会がなくなり、他職種との意見交換をする場が減り認識のずれが生じたことがありました。今後は他職種との連携を図り利用者が理解、納得していただけるサービス提供をしていけるよう努めます。

来年度は研修も積極的に参加し、介護の質向上に努力していきます。

2. メンバー構成

管理者　　：（介護福祉士、認知症実践者研修終了者）
サービス責任者：（介護福祉士）

訪問介護職員

常　勤：宮崎　美子（兼務）　三島　麻美（兼務）
非常勤：徳永　秀美（常勤パート）
　　：星川　順華（登録）　中西　順子（登録）

3. 実績

《訪問介護》

項目＼月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
売り上げ	641,424	652,117	787,163	826,498	849,666	864,572	943,099	951,387	907,591	872,284	754,543	694,807	9,745,151	8,120,960
利用登録数	21	20	27	28	28	28	27	27	26	25	22	21	302	25.2
訪問件数	153	152	186	190	198	221	213	228	228	205	185	169	2,328	194.0
新規	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0.3
終了者	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	3	1	8	0.7

4. 今後の目標

職員の質の向上の為の研修に積極的に参加します。
より良いかごサービスを実施します。

56）よろこび訪問看護ステーション

管理者　須賀　明美

1. 概要

4 月から管理者が変更となり、新体制となった。大阪府の新型コロナウィルス感染症に発症した患者様の健康観察事業にも参入したが、保健所からの要請はなかった。12 月から新型コロナウィルス感染症を発症した患者様も受け入れる体制をはかり、1 件介入することができた。

慢性期の患者様で長期間介入していた患者様が終了するケースが非常に多く、訪問件数が減少することとなった。新規患者様の受け入れは断ることなく、去年とほぼ同数介入することができたが、癌末期の方が入院するケースが多く、長期に関わる患者は少なかった。

居宅介護支援事業所との連携を図り、12 月から機能強化型訪問看護管理療養費 1 を取得することができた。

本所と支所で連携を図るため、1 ヶ月に一度のミーティングは、定期的に行い、各事業所の問題点などを話し合うことができた。若草支所は訪問診療の事業も行っていたが、今年から、八尾徳州会総合病院の職員に業務を移行し、訪問看護業務単独となった。訪問診療の業務負担が減少することで、去年より残業時間を減らすことができた。

本所も支所も新型コロナウィルス感染症に罹患するスタッフもいたが、少ない人数の中、お互い訪問調整をして、業務を行うことができた。また、待機の負担を軽減するため、本所のスタッフも支所の待機を取るなど､スタッフのライフワークバランスが担保できるよう連携した。

八尾徳州会総合病院主催の市民医療講座にも参加し、地域住民に訪問看護や在宅サービスの認知を広めようと努めた。

ズームでの参加ではあるが、感染管理や災害、BCP 作成の研修は、スタッフ担当制で参加することができた。

2. メンバー構成

管理者：須賀　明美

看護師〈常勤〉　：須賀　明美（兼務）・吉村　利恵・長谷川　由紀子・佐藤　晶代・
吉田　宝・見崎　加奈・中澤　陽子（3月から入職）
廣瀬　賀洋子（8月より育児休暇明け復帰　時短勤務中）
阿部　純奈（4月から産休）

看護師〈非常勤〉：辻本　由加里

理学療法士〈常勤〉：松本　龍也

3. 実績

《訪問看護》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
利用者	130	132	131	125	121	128	128	128	125	126	130	319	1,723
訪問件数	734	697	799	758	769	821	827	810	729	726	692	2,028	10,390
新規導入者	8	9	14	11	10	15	14	7	8	11	13	24	144
終了者(その他)	15	7	15	14	13	7	14	10	7	11	9	25	147

介護セン 190
よろこび 訪問看護介護 194
よろこび 訪問看護ステ 195
徳洲苑 198
特養久宝寺 愛の郷 205

《研修及び行事》

1月 7日	八尾市介護保険者連絡協議会（森）
1月 14日	八尾市在宅医療・介護連携推進会議（森）
1月 18日	八尾市介護保険連絡協議会役員会（森）
2月 18日	八尾市看看連携会議・研修（森）
3月 10日	大阪府看護協会訪問看護師支援委員会（森）
3月 17日	中河内医療圏緩和ケア多職種連携会議（森）
3月 18日	令和4年診療報酬改定（須賀、吉村、松本）
3月 22日	大阪府ステーション協会中河内ブロック管理者会（須賀）
3月 25日	徳州会グループ看護分科会（森、須賀）
5月 18日	徳洲会グループ管理者研修（須賀）
5月 25日	徳洲会グループ管理者研修（吉村）
5月 25日	大阪府ステーション協会中河内ブロック管理者会（須賀）
6月 13日	災害対策、感染対策のBCP作成について（須賀）
6月 18日	フィリプス主催呼吸器勉強会（須賀、吉村、佐藤）
6月 17日	職場における新型コロナウィルス感染症対策について（須賀）
6月 29日	新型コロナウィルス感染症への理学療法士の実際（松本）
7月 21日	徳洲会グループ管理者研修（須賀）
8月 20日	緩和ケア研修会（吉村、吉田）
9月 15日	徳洲会グループ管理者研修（須賀）
10月 22・23日	呼吸リハビリテーション研修（松本）
11月 16日	災害対策、感染対策のBCP作成研修（須賀）
11月 10日	日本地域理学療法士学術大会（松本）
11月 18日	BCP阪府訪問看護実践研修教育ステーション事業（須賀）
11月 24日	徳州会グループ介護部門研修会
12月 3・4日	呼吸器リハビリ研修（松本）
12月 10日	在宅コロナ陽性患者の対応についての症例検討会（須賀）
12月 14日	知ろう！学ぼう！分ろう！訪問看護請求業務マスター編（須賀）
12月 16日	KISA2隊中河内在宅支援説明会（須賀）
12月 17日	中河内医療圏における在宅医療推進のための多職種連携を考える研修会
12月 18日	地域ケア会議推進リーダー導入研修（須賀）

《医療講座》

7月	訪問看護師の役割　その人らしく生活が送れるよう支える	（須賀）
8月	自分らしい生活を送るには　～在宅サービスを知ろう～	（須賀）
9月	訪問リハビリテーションについて	（松本）

《看護実習受け入れ》

太成学院大学　計９名

10 月 5 日間、11 月 4 日間、12 月 4 日間

日本医療学園附属東亜看護学院　計３名

9 月 4 日間

4. 今後の目標

今後も、親病院や地域事業所との連携を図る。また、ホームページを充実させ、新規患者様獲得を目指していく。親病院の医療講座は来年も参加し、地域住民へ在宅サービスの認識を高める。在宅療養中のコロナ患者様の受け入れも行い、地域に根ざす訪問看護ステーションを目指す。研修にも参加し、サービスの質向上を図り、理念である誰もが喜んでいただける看護サービスをおこなう。在宅における感染対策、災害対策に取り組み、安全、安心な在宅看護を提供できるように努める。

57）介護老人保健施設　八尾徳洲苑

施設長　岩井　敦志

介護セン 190
よろこび 訪問看護介護 194
よろこび 訪問看護ステ 195
徳洲苑 198
特養久宝寺 愛の郷 205

《利用者数実績》

1）入所療養介護（長期入所）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	103	109	105	105	105	99	108	97	99	99	108	102	1,239	103	100.3%
延べ人数	2,840	2,696	3,038	2,955	2,962	2,672	2,649	2,716	2,621	2,695	2,743	2,816	33,403	2783	－25%

2）短期入所療養介護（ショートステイ）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	9	9	8	6	7	6	7	1	0	4	9	7	73	6	130%
延べ人数	29	29	24	21	41	20	36	3	0	12	34	21	270	22.5	135%

3）通所リハビリテーション（デイケア）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	67	62	65	65	66	64	60	48	52	54	55	56	714	59.5	－12%
延べ人数	577	505	629	599	605	610	343	373	492	524	496	516	6,269	522	－15%

《入所経路と在宅復帰》（長期入所）

1）入所前場所

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	2	4	1	0	0	2	2	3	2	1	3	0	20	125%
八尾徳洲会	7	6	6	2	7	8	15	10	8	12	9	10	110	127%
他病院	0	3	2	4	2	2	0	3	3	2	3	3	27	108%
介護施設	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	－
他施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－
合計人数	9	13	9	6	9	12	18	16	13	13	15	13	158	122%

2）退所先

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	1	1	5	0	0	2	2	3	2	1	3	0	20	－42%
八尾徳洲会	2	4	2	1	6	2	23	5	2	3	3	2	55	161%
他病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	1	120%
特養	2	2	0	2	1	2	1	0	2	0	0	1	13	－8%
老健	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－%
死亡(看取り)	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	1	2	7	－37%
その他施設	0	1	1	1	4	6	1	3	5	6	3	2	33	143%
合計人数	5	10	8	4	11	13	27	11	11	11	10	8	129	106%
在宅復帰率	20.0%	25.0%	75.0%	60%	62.5%	58.8%	63.8%	11.1%	54.5%	69.2%	63.6%	66.7%	57.2%	－%

一年間の在宅復帰率は、57.2%（前年64.3%）である。

《医療依存度》

1）重症度症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平均要介護度	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3	3.4	－	3.4
経管栄養	65	78	96	63	65	62	45	57	74	71	60	69	805	67
インシュリン	22	4	7	4	7	18	31	31	29	31	30	31	245	20.4
褥瘡処置	0	21	62	49	98	44	5	20	47	8	0	5	359	29.9
酸素吸引	58	69	32	30	31	30	12	3	30	13	5	31	344	28.6
頻回吸引	156	173	145	127	132	125	120	166	120	138	122	120	1,644	137
点滴注射	146	80	39	40	54	26	28	153	36	40	33	60	735	61.2

稼働床に対する割合

2）看取り件数（過去 13 年）

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計	平均	前比
9件	7件	10件	12件	2件	5件	3件	5件	3件	4件	1件	11件	7件	79件	6.07件	－37%

3）重症者搬送件数

八尾徳洲会総合病院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1	7	0.58	－64%

介護セン 190
よろこび 訪問看護介護 194
よろこび 訪問看護ステ 195
徳洲苑 198
特養久宝寺 愛の郷 205

【機能訓練室】　　理学療法士副室長　水島　知絵

1. 概要

2022 年は新型コロナウイルス感染症の施設内クラスターを経験し、利用者様への個別リハが中止になるなど、業務量に大きく影響が出ました。個別リハが実施できない中、リハ専門職ができることを見出し、介護業務や感染対策に係る雑務への介入を試みました。クラスター終息後、廃用症候群を呈し、機能低下を認める利用者様を、若干名経験しました。その後幸いクラスターは発生していませんが、スタッフの家庭内感染による出勤停止により、実働人員数が減少し、通所業務への応援や個々の業務量を調整するなど、感染関連による業務の見直しを迫られた１年でもありました。

部署内の大きな変化として、チームの価値や方向性を位置付ける部署理念『みんなのニーズに応えたい』を掲げ、５つの行動指針を定めました。理念達成に向け、行動指針に沿った取り組みを個人目標として挙げてもらい、目標達成に向け、活動や自己研鑽に努めるようにしました。

例年通り、認知症介護指導者や全老健リスクマネジャーとしても各々活動でき、地域社会にも目を向け、情報等を発信し、施設外への活動も積極的に行いました。

2. メンバー構成

理学療法士　５名
作業療法士　１名
言語聴覚士　１名（非常勤）

3. 実績

1）通所・入所　個別リハビリテーション実施件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
実施延べ数	1,271	1,125	1,442	1,394	1,378	1,325	750	982	1,169	1,235	1,329	1,233	14,633	1,219
内、加算算定数	333	304	394	393	379	373	239	267	265	340	444	441	4,172	348

2）講演活動

ＰＴ水島：・大阪府認知症介護実践研修（実践者・実践リーダー）
ＰＴ土井：・大阪府認知症介護実践研修（実践者・実践リーダー）
・大阪介護福祉士会「介護職として理解しておきたい身体拘束・権利擁護」
・大阪介護福祉士会ファーストステップ研修「認知症の人とのコミュニケーション」
・大阪府社会福祉協議会「事例に学ぶ認知症の方への支援とリスクマネジメント」
・野田福祉会 「認知症と身体拘束」
・奈良リハビリテーション専門学校 「失行・失認に対する理学療法」

3）大阪府理学療法士会活動

ＰＴ土井：第34回大阪府理学療法学術大会運営局　会場・進行部部長

4. 今後の目標

感引き続き感染拡大予防策を徹底し、施設内・外で活動していきます。クラスター発生に備え、リハ専門職の業務や介入について、BCP に則り、整理が必要と感じます。また、部署理念が絵に描いた餅にならないよう、メンバーに深く浸透するよう働きかけ、目標をもって業務や諸活動を行います。

【栄養科】　管理栄養士主任　樋口　晶代

1. 概要

新型コロナウイルス感染症の影響で今年も年間行事は制限されましたが、栄養科では毎月行事食と月２回の選択食を実施し、季節を感じていただける食事の工夫をしました。通所ではフロア職員と協力して新たなランチイベント食を試み、利用者様には普段と違った雰囲気を味わっていただけたと思います。嚥下調整食に関しても厨房職員の理解をより深め、形状や味の統一ができるよう取り組みを行いました。

また、個々の利用者様の栄養管理である「栄養マネジメント」では、感染拡大防止対策により、これまで以上に職種連携の必要性を感じる年でした。経口維持加算算定としては昨年より減少しましたが、低栄養リスクの利用者様は増加しており、個々に応じた栄養管理の必要性が求められています。今年の低栄養リスク者の割合は、月平均で低栄養状態が低リスク者 21％、中リスク者 63％、高リスク者 16％で、約８割が低栄養（Alb 値 3.5 未満）となっています。

2. メンバー構成

管理栄養士　樋口　晶代

3. 実績

1）療養食加算　算定件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	８月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
算定件数	1,301	1,323	1,271	1,213	1,274	1,471	1,611	1,546	1,328	1,359	1,331	1,366	16,394	1,366

2）経口維持加算（Ⅰ）（Ⅱ）　件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
（Ⅰ）	13	13	11	11	12	12	10	9	10	9	9	9	128	11
（Ⅱ）	9	9	7	8	7	5	5	5	5	4	3	2	69	6

介護セン 190
よろこび 訪問看護介護 194
よろこび 訪問看護ステ 195
徳洲苑 198
特養久宝寺 愛の郷 205

3）行事食・イベント食

1月　正月「おせち料理」、新年会「祝い弁当」、（通所）おでんバイキング
2月　節分「巻き寿司」、（通所）サンドイッチ・パンバイキング
3月　握り寿司バイキング、（通所）焼きたて餃子
4月　春の花見弁当、（通所）おばんざいバイキング
5月　端午の節句　弁当、（通所）揚げたて天ぷら
6月　お楽しみ寿司ランチ、（通所）おでんバイキング
7月　七夕「ちらし寿司と七夕そうめん」、土用の丑「うなぎ丼」、（通所）サンドイッチ・パンバイキング
8月　納涼「ちらし寿司とはもの湯引き」、（通所）中華バイキング
9月　敬老の日「祝い弁当」、（通所）揚げたて天ぷら
10月　お楽しみ寿司ランチ、ハロウィンランチ、（通所）焼きたて餃子
11月　秋の行楽弁当、（通所）総菜バイキング
12月　クリスマス「彩りちらし寿司」、（通所）ハンバーガーランチ

4）実習生受け入れ

・関西福祉科学大学健康福祉部福祉栄養学科　　臨床栄養臨地実習　実習生1名

4. 今後の目標

感染拡大防止対策により大きなイベント食は困難ではありますが、今後とも多職種との連携を行いながら、利用者様の状態に見合った栄養管理と、安全で美味しい食事の提供を行えるように努めていきます。

【支援相談員】　　支援相談員副主任　北出　眞和

1. 概要

長期入所・短期入所・通所リハビリテーションを希望される方の窓口となり、ご利用にあたっての相談対応支援を中心に活動を行っています。

入所は100床あるベッドを運用し、入退所調整を行っています。新型コロナウィルス感染症の感染の影響は引き続き続いており、短期入所の利用を希望される方は今だに減少傾向です。当施設内でも感染対策に関しては各部署と連携をとり安心した利用の提供と、長期入所者への対応も検討しベットの利用を調整しています。

入所サービスは基本的に要介護認定を受けられ、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、在宅への復帰を目指すために、各職種との協働の下、リハビリテーション・栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供するサービスとして、相談対応させていただいております。在宅復帰が困難な方にも長期間入所できる施設等の情報提供は実施しており、安心して生活できる環境の提供を心がけ対応しています。

通所リハビリテーションに関しても感染対策に留意し、対応を行ないました。体験デイケアの再開を実施し、利用に必要な診療情報提供書も簡素化し、スムーズにご利用いただけれる環境整備を行いました。

老健施設基準でもある「在宅復帰超強化型」は維持できていますが、7月に起こったクラス

ター後、入所者数の維持が難しい年になりました。今後も新たな取り組みを検討・構築し、各医療機関や地域でお困りの方に対して積極的に情報発信していき、医療機関の後方支援先・地域の相談窓口としての協力体制を整えていきたいと考えています。

2. メンバー構成

北出　眞和　　小茂田　加奈　　今野　あきの

3. 実績

150 名の方が退所されました。内在宅復帰 39 名（26%）病院搬送 57 名（38%）特養入所者 14 名（9.3%）有料老人ホーム入所者（有料･サービス付き高齢者向け住宅など含む）33 名（22%）となっております。新型コロナウィルス感染症による施設内クラスターの影響で、入院加療された方が例年より多くおられました。そんな中でも、年間在宅復帰率は 50.3%と、50%を上回りました。

4. 今後の目標

長期入所に関しては在宅復帰超強化型を可能な限り維持し、安定した入所者数の確保を目標にしていきたいと思います。

昨年からの継続目標としてあげている相談から対応までのスピードを迅速にしていきたいと思います。医療機関や地域からの相談に対して、地域の窓口として開けた対応を実践していくと共に、施設運営の向上に繋がる支援体制を今後も構築していけるように努力していきたいと思います。

【介護・看護部】　　総看護師長　武田　郁子

1. 概要

2022 年 7 月に新型コロナウィルス感染症のクラスターを経験いたしました。利用者様 28 名職員 17 名の計 45 名感染者が発生しました。終息までの 1 ヶ月あまりは利用者様、ご家族様に大変ご迷惑とご心配をおかけしました。全国的にもコロナウィルス感染者が増加していた頃であり病院も満床の状況の中、八尾徳洲会総合病院の協力により乗り越えることができました。今回のクラスターの影響は全くないとは言えず ADL の低下が見られた利用者様もおられます。少しずつですが、以前の状態に戻りつつあります。その後はクラスターも起きることなく経過しています。まだまだコロナウィルス感染症との戦いは続きますが安心してご利用いただけるように看護介護職員一同頑張ってまいります。

《年間行事》

施設全体での行事開催はせず、フロアごとの行事を行った。

介護セン 190
よろこび 訪問看護介護 194
よろこび 訪問看護ステ 195
徳洲苑 198
特養久宝寺 愛の郷 205

2. 実績

1）看護介護目標と成果

目　　標	成　　果
デイケア：担当制で整理整頓し環境整備に努める	・定期的に環境整備を行い、感染対策にいかせた
1階：業務マニュアルの見直しを継続し業務分担の明確化ができるようにする	・定期的にフロア会議を実施し業務の見直しをしてきたがすべての業務まではできなかった
2階：安心して生活できるよう細やかで丁寧な声かけを行い相手を尊重する	・事前の声かけをし相手の意思を確認する努力はしてきた ・利用者に尊敬の気持ちを持って対応するよう努めた

2）教育人材育成

・実務者研修受講　2名

・介護福祉士受験　4名

3）身体拘束委員会　身体拘束ゼロの継続が実行出来ている、委員会でセンサーマット利用の評価分析を実施

4）事故防止委員会　毎月の事故報告書を分析し、重要事例などは臨時の会議を行い検討している

5）感染対策委員会　新型コロナ感染対策を徹底し、施設での感染発生を防止している
コロナ陽性者発生時は臨時感染対策会議を開催し感染防止対策を検討

6）内部研修

今年も集合型の研修は取りやめ、web 研修と資料配付・レポート提出形式にした
一部実技を取り入れた研修も実施した

5月　介護職の医行為について
　　介護保険サービスと倫理及び法令遵守
6月　感染対策（実技）
9月　褥瘡予防、看取り
10月　プライバシー保護、嘔吐対
11月　褥瘡予防について
12月　摂食嚥下

7）実習受け入れ

・大精協看護専門学校　准看護師実習生 76 名　成人老年看護（7/27 ～ 12/2）
　准看護師実習生 35 名　追実習（補習及び再実習）
　（2023 年 1/17 ～ 3/27）

58）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷

理事長　酒井　　敬
理事　木口　良章

1. 概要

新型コロナウイルスがオミクロン株になり、第６波がピークを迎えようとしていた２月初旬に、短期入所利用者の方が陽性とわかり、同じフロアにある特養にも波及し９名の方が感染、職員も２名が感染しクラスターとなった。一時的に短期入所の受け入れを中止し、10 床を感染ユニットとして運用、感染した利用者の方に移動してもらい当施設職員で介護させていただいた。八尾徳洲会総合病院には、適切な指示や治療をしていただいた。結果、入院は１名のみで２週間という最短期間で感染を克服することができた。８月（第７波）にも短期入所の方を発生源に職員３名が感染した。２度の経験を通して、感染に対する職員のスキルはアップし、今後の感染管理に大きく役に立つと思う。家族との面会は、６波、７波の落ち着いた時期に直接面会を実施した。それ以外は窓越しや Web 面会となってしまった。2020 年に掲げた大きな目標、利用者の方には「施設でのありふれた日常を大切に」、職員に対しては「エンゲージメント思考の定着」については継続した。ありふれた日常を送っていただくため、職員の創意工夫による行事を定期的に実施した。その様子は月１回発行の「愛の郷新聞」に掲載し、ご家族のもとにお送りすることができた。職員のエンゲージメント思考の定着については、継続の結果として職員満足度調査の結果が、各項目で前回調査を上回っていた。

経営環境は厳しく、収益は確保しているが、人件費の高騰や物価高による経費増もあり、利益は計画を下回った。地域支援活動は、地域がん検診や献血などに協力させていただいた。また、八尾市地域包括支援センターを通して、高齢者や社会的弱者といわれる方々に対し、地域資源を活用しながら丁寧に対応できた。

2. メンバー構成

常勤介護士の２名が育休取得するなか退職者もあり、10 月から初めて特定技能のインドネシア人２名を採用した。評価するのはまだ難しいが､一所懸命まじめに働く姿が新鮮であった。高齢者施設の職員確保は今後も苦戦することが考えられ､多チャンネルでの求人が重要である。

・資格取得

社会福祉士、公認心理士　各１名合格

介護セン 190
よろこび 訪問看護介護 194
よろこび 訪問看護ステ 195
徳洲苑 198
特養久宝寺 愛の郷 205

職員の配置状況と人員数

部門	職種	常勤	非常勤		人数計	換算計
			人数	換算		
管理部	管理者	2			2	2.0
特養	事務	2	0		2	2.0
	生活相談員	1			1	1.0
	介護支援専門員	1			1	1.0
	医師		2	0.2	2	0.2
	看護部	3	2	1.0	5	4.0
	栄養部	5	4	1.4	9	6.4
	介護職	20	8	6.3	28	26.3
ショート	生活相談員				0	0.0
	介護職員	5	2	1.5	7	6.5
デイ	生活相談員	1			1	1.0
	看護部		3	1.8	3	1.8
	機能訓練	1			1	1
	介護職員	3	4	2.8	7	5.8
	運転手		2	1.8	2	1.8
地域包括	ケアマネ・保健師	2			2	2.0
合計		46	27	16.8	73	62.8

3. 実績

・特別養護老人ホーム（50 床）

常に満床の状況であり、1 ヶ月に一度入居選考委員会を開催し、必要度の高い方から入居いただいている。稼働率は平均 99.3%、要介護度は平均 4.5 であった。10 名の方がお亡くなりになったが、その内 8 名が看取りだった。外出行事はほとんどできなかったが、4 月のお花見は昨年と同様、ユニット単位で近くの公園まで外出した。月に 1 回開催の「喫茶とまり木」は継続、フロア単位で敬老祝賀会やレクリエーションなどの行事は、工夫を凝らして実施した。

・短期入所（10 床）

新型コロナ感染症による 2 度のサービス中止が影響し、平均稼働率は前年を 10%下回った。利用者の平均要介護度は 3.0 で前年より 0.1 落ちた。現在､新規入居者は全員定性検査を実施し、感染対策に万全を期している。

・通所介護（定員 35 名）

平均の稼働率は 84.6%で従来の目標を達成できた。9 月～ 12 月は 90%を超え、登録数も 90 人を超えた。要介護度は 1.7 で機能訓練に力を入れた。通常規模型の維持と要介護度のバランスが今後の課題である。新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で、なんとか大きな問題とならずに運営できた。

事業別運営状況

	特養（50床）				短期入所（10床）				通所介護（定員：35）			
	入所数	入所率	退所数	要介護度	利用者数	利用日数	稼働率	要介護度	利用者数	利用日数	稼働率	要介護度
1月	49.9	99.9%	1	4.5	36	301	97.1%	3.2	85	635	79.1%	1.8
2月	49.6	99.1%	0	4.5	21	160	57.1%	3.3	82	610	79.4%	1.8
3月	49.6	99.2%	1	4.5	27	276	89.0%	3.0	75	615	73.9%	1.7
4月	50.0	100.0%	0	4.4	31	289	96.3%	2.9	75	643	77.3%	1.7
5月	49.5	98.9%	2	4.4	29	272	87.7%	2.9	77	645	77.5%	1.7
6月	49.2	98.4%	0	4.4	35	281	93.7%	3.0	78	663	77.5%	1.7
7月	49.7	99.4%	0	4.5	31	268	86.5%	2.9	87	744	79.7%	1.7
8月	49.6	99.2%	1	4.5	23	221	71.3%	2.8	85	742	89.4%	1.7
9月	49.3	98.7%	0	4.5	35	269	89.7%	2.8	89	757	85.9%	1.6
10月	49.9	99.9%	2	4.5	35	264	85.2%	2.8	92	806	90.5%	1.6
11月	49.6	99.2%	0	4.5	40	231	78.6%	3.0	93	787	96.9%	1.6
12月	49.9	99.8%	3	4.5	39	271	87.4%	2.9	93	789	94.7%	1.7
平均	49.7	99.3%	0.8	4.5	31.8	258.6	85.0%	3.0	84.0	703.0	84.6%	1.7

・八尾市地域包括支援センター（公益事業）

昨年同様、新型コロナウイルス感染症防止のため、久宝寺・美園小学校区での地域活動が縮小されるなか、高齢者あんしんセンターとして周知活動を可能な範囲で行った。相談受付は、前年度より大幅に増加しており、内容が困難で継続的に関わりを持っているケースが増えている。加えて、地域からの相談事に電話対応や訪問活動を実施し、総合相談窓口としての機能を果たしている。要支援1・2の介護保険利用者を地域の介護支援専門員と協力して支援する原案委託業務を継続的に実施している。支援内容の適正化とともに、支援困難である内容を一緒に考える包括的業務を実施している。

介護予防教室は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1月から2月、5月から6月が実施できなかった。地域行事も殆ど中止される中、センターの周知活動の困難さを実感したと共に、改めて地域と共にあるセンターであることを確認した。教室開催の代替として、訪問や電話による個別訪問を実施して、介護予防の取り組みを実施している。地域行事に関しては、感染対策を行った上で少しずつ活動再開をしている。高齢者の食事会や自主的な集まりに参加し、啓発活動とともに介護相談等を実施している。地域の防災訓練にも参加し、地域との繋がりを意識しつつセンター運営を行っている。

介護セン 190
よろこび 訪問看護介護 194
よろこび 訪問看護ステ 195
徳洲苑 198
特養久宝寺 愛の郷 205

内容	年月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	前年比較
相談受付	2021年	322	282	359	282	273	283	336	269	258	372	323	351	3,710	
	2022年	317	524	425	295	363	376	335	402	377	413	374	406	4,607	897
介護予防支援費 マネジメント費	2021年	244	243	250	251	246	256	256	248	250	257	255	256	3,012	
	2022年	246	247	247	253	262	255	256	260	259	256	254	255	3,050	38
介護予防教室 家族介護教室	2021年	1	0	2	2	0	0	1	0	2	2	2	1	13	
	2022年	1	0	1	2	2	1	2	2	1	2	2	2	18	5
地域行事	2021年	0	0	2	2	0	1	0	1	2	3	4	4	19	
	2022年	2	1	0	2	2	3	3	1	1	3	7	5	30	11
実態把握	2021年	25	27	13	17	18	21	36	19	18	26	26	16	262	
	2022年	23	23	2	20	25	25	20	18	29	30	14	18	247	−15

4. 今後の目標

社社会福祉法人として求められる役割をしっかりと認識し、地域への公益的な取り組みを果たしていく。

利用者やその家族方に安心していただけるよう日常に寄り添う介護を実践する。そのためには職員の質を向上させると共に、職員全員でのチーム介護が出来るようにする必要がある。

経営的には、職員の生産性向上を目的に見守りシステムや勤怠管理システムに投資した。このシステムの運用を確認しながら、十分に使いこなすと共に業務プロセスの見直しを実施し生産性を向上させる。また、今まで利用者の出来事としてきた、ベッドからのずり落ちや転倒などの事故原因をシステムで追究し、少しでも利用者の方の安全に配慮した介護を実施する。

新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同じ分類に移行していくことが決まった。しかし、第８波の死者数のほとんどが高齢者であることを考えると、感染対策の継続は今後も必要である。３年間の経験を活かしながら、新型コロナウイルス感染症蔓延前の日常を取り戻す努力をする。

学　術　業　績

―― 2022年 ――

59）学会発表　212
60）学術論文　216

59）学会発表

【糖尿病代謝内科】

・2022.5.12～14　第65回　日本糖尿病学会年次学術集会（神戸国際会議場）　服部玄徳　奥村葵　酒井菜穂子　藤井安希子　坂野千賀　森田亜記　栗野大輔　高津美乃里　髙原良典　植田秀樹　石橋里江子　中年期の肥満2型糖尿病患者における身体活動量と下肢骨格筋量の関連

・2022.6.9　第31回　八尾地区糖尿病連携会（八尾商工会議所）　服部玄徳　世界糖尿病デーにおける当院の啓発活動　～アンケートによる現状と課題の分析～

・2022.9.10　第237回日本内科学会近畿地方会（千里ライフサイエンスセンター・Web）　吉田圭佑　石橋里江子　薦岡成年　中桐由貴　髙原良典　原田博雅　糖尿病性ケトアシドーシスにて入院管理中に急性発症1型糖尿病, Leriche症候群と診断した一例

・2022.11.5　第59回　日本糖尿病学会近畿地方会（神戸国際会議場）　酒井菜穂子　大谷 康仁　牧田 美奈　藤井安希子　西村 千恵　髙原 良典　吉田 圭佑　植田 秀樹　石橋里江子 カテゴリー分類に基づいた後期高齢者糖尿病の臨床的特徴

【膠原病リウマチ内科】

・2022.10.13　第50回日本臨床免疫学会総会（東京）　吉崎和幸、菊繁吉謙、宇野賀津子、新納宏昭、赤司浩一　キャッスルマン病（iMCD）モデルマウスを用いた免疫異常病態の解明

・2022.10.14　第50回日本臨床免疫学会総会（東京）　吉崎和幸　Interleukin6（IL-6）異常症の発見からIL-6阻害療法を超えた展開への臨床免疫研究

・2022.12.8　The 51st Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology（Kumamoto）
Kazuyuki Yoshizaki, YoshikaneKikushige, Takuya Harada, Kazuko Uno, Mitsuhuro Kaneko, Hiromasa Harada, Hiroaki Niiro, Kouichi Akashi
Pathogenic analysis of the idiotypic multicentric Castleman disease (iMCD)
― Aberrant immunoregulatory disorder revealed by the iMCD model mice which was transplanted with patient's lymph mode cells ―

・2022.12.9　SAB meeting on CDCN (New Orleans)
Kazuyuki Yoshizaki, YoshikaneKikushige, Takuya Harada, Kazuko Uno, Mitsuhuro Kaneko, Hiromasa Harada, Hiroaki Niiro, Kouichi Akashi
Pathogenic analysis of the idiotypic multicentric Castleman disease (iMCD)
― Aberrant immunoregulatory disorder revealed by the iMCD model mice which was transplanted with patient's lymph mode cells ―

【心臓血管外科】

・2022.3.3-5　第52回日本心臓血管外科学会学術集会（横浜）一般口演　小島三郎、内田直里、薦岡成年　下肢のacute on chronicに対するハイブリッド手術の検討

・2022.3.3-5　第52回日本心臓血管外科学会学術集会（横浜）ポスター　小島三郎、内田直里、薦岡成年　EVARにおける経皮的アプローチの有用性の検討

・2022.5.25-27　第50回日本血管外科学会学術集会（小倉）ポスター　小島三郎、内田直里、薦岡成年、春日健介　慢性大動脈解離に対し多段階的に治療を行った一症例

・2022.5.25-27　第50回日本血管外科学会学術集会（小倉）一般演題　春日健介、内田直里、薦岡成年、小島三郎　意識障害を伴う急性A型大動脈解離に対する緊急手術における神経学的予後の検討

・2022.10.6-8　第75回日本胸部外科学会学術集会（横浜）ワークショップ「急性A型大動脈解離に対するNon-TAR術後の遠位側再手術」　春日健介、内田直里、薦岡成年、小島三郎　A型大動脈

解離non-TAR術後に対する血管内治療
・2022.10.5-8　36th EACTS(Milano)　一般演題　薦岡成年、内田直里、小島三郎、春日健介　The procedures inducing complete false lumen thrombosis and consequent aortic remodeling after PETTICOAT technique for aortic dissection
・2022.6.17-18　第65回関西胸部外科学会学術集会（浜松）会長要望演題　胸部大動脈　座長：内田直里
・2022.6.24-25　第28回日本血管内治療学会学術集会(名古屋)　企業セミナー　薦岡成年　講演　Relay Proの実力はいかに
・2022.9.10　COOK JAPAN開催セミナー Z conference in Osaka　講演　薦岡成年　Zenithって実際どーなの？
・2022.10.15　COOK JAPAN開催セミナー Z conference in Tokyo　講演　薦岡成年　Aortic Bare StentはCOOKだけ！

【形成外科】
・4/20-22　第65回日本形成外科学会総会・学術集会（大阪）　森川周至　形成外科におけるincisional NPWTの有用性
・7/14-15　第14回日本創傷外科学会（神戸）　綾部忍　急性期と慢性期のハイブリッド医療を目指して
・7/14-15　第14回日本創傷外科学会（神戸）　森川周至　重度褥瘡の皮弁縫合創に対してincisional NPWTとペンローズドレーンを併用した1例
・7/28-29　第48回日本熱傷学会（東京）　森川周至　意識消失に伴う熱傷3例の治療　経験
・8/27-28　第24回日本褥瘡学会学術集会（横浜）　綾部忍　褥瘡ポケットは切る？切らない？　ポケットの治療（外科的切開）
・9/14-16　8th International Association of Diabetic foot Surgeons（Blatislava）ShinobuAyabe Surgical Offloading for Charcot Foot in Japan
・11/17-18　第40回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会（愛知）　森川周至　頬骨骨折手術における周術期抗生剤の選択

【呼吸器外科】
・2022.5/20　第39回日本呼吸器外科学会学術集会　市橋良夫　胸壁再建を要した胸壁原発悪性末梢神経鞘腫の1手術例

【病理診断科】
・2022.6/11～12　第63回日本臨床細胞学会春期大会（品川）　松尾優希、室木魁人、西川裕子、岩﨑由恵　穿刺細胞診にて大腸癌の転移と診断し得た転移性甲状腺癌の一例.
・2022.6/11～12　第63回日本臨床細胞学会春期大会（品川）　室木魁人、松尾優希、西川裕子、岩﨑由恵　多発肝転移、門脈浸潤を認めたSolid pseudopapillary neoplasmの一例.
・2022.11/5～6　第61回日本臨床細胞学会秋期大会（仙台）　櫻井愛梨、松尾優希、室木魁人、西川裕子、岩﨑由恵　RET融合遺伝子を認めた肺腺癌の一例.
・2022.11/5～6　第61回日本臨床細胞学会秋期大会（仙台）　西川裕子、櫻井愛梨、松尾優希、室木魁人、岩﨑由恵　栄養膜細胞への分化を伴う高異型度尿路上皮癌の一例.
・2022.11.17～18　第68回日本病理学会秋期特別総会（盛岡）　久保勇記、大城規和、南部尚子、中塚伸一　僧帽弁、左房および左室を巻き込んで発生した心内膜肉腫の1例.

【臨床工学科】
・2022.5.14　15第32回日本臨床工学技士学術大会　中西副技士長　演題『気管支鏡検査時に起きたガイドシース通過不良における内視鏡鉗子口内観察用スコープを用いた観察の有用事例について』
・2022.10.29　第89回日本消化器内視鏡技師学術大会　中西副技士長　演題『スコープチャンネル内

観察用スコープを用いた教育資料作成の有用性』
　演題『手技介助動画を用いた手技介助者の育成をおこなって』
・2022.10.9　第28回近畿臨床工学技士学術大会　中西副技士長　演題『スコープ鉗子口チャンネルな観察用スコープを使用するスコープ内部観察』
・2022.8.7　第79回近畿消化器内視鏡技師会　中西副技士長　座談テーマ『ERCPの準備と介助の心得』
・2022.12.18　大阪大学心臓血管外科関連施設定例会　（現地参加）藤田技士長、今堀技士、市場技士、木元技士（WEB）　杉本主任、長谷川副主任、岡本技士、西村技士
演題発表者・内容　今堀技士　『全弓部大動脈置換術において左右の橈骨動脈圧モニタリングが左鎖骨下動脈偽腔吻合の発見に有用であった症例』

【臨床検査科】
・2022.1.28～1.30　第33回日本臨床微生物学会総会・学術集会　仙台国際センター　徳山優花
Campylobacter fetus subsp fetusによる化膿性腰椎椎間板炎，硬膜外膿瘍
・2022.6.11～6.12　第63回日本臨床細胞学会春季大会　ホテルプリンス新高輪　室木魁人　多発肝転移、門脈浸潤を認めたSolid pseudopapillary neoplasmの一例
・2022.6.11～6.12　第63回日本臨床細胞学会春季大会　ホテルプリンス新高輪　松尾優希
穿刺細胞診にて大腸癌の転移と診断し得た転移性甲状腺癌の一例
・2022.11.5～11.6　第61回日本臨床細胞学会秋期大会　仙台サンプラザホテル・ホール　西川裕子
栄養膜細胞への分化を伴う高異型度尿路上皮癌の一例
・2022.11.5～11.6　第61回日本臨床細胞学会秋期大会　仙台サンプラザホテル・ホール　櫻井愛梨
RET融合遺伝子を認めた肺腺癌の一例

【臨床心理科】
・第40回日本小児心身医学会学術集会　朴祐希
『便通異常を主訴に来院した女子に対して心身相関への気づきを促す心理療法を行った一例』　宮坂なつ花　『SNSでの交流を通して不登校から踏み出した1例』

【MSW】
・2022.2.5　中河内がん診療ネットワーク協議会シンポジウム（大阪）三谷勇一　中河内地区のがん相談支援センターの動向（シンポジスト）
・2022.2.11　第29回日本がんチーム医療研究会（WEB開催）　三谷勇一　がんサロンにおけるアクセプタンス＆コミットメントセラピー導入の意義：ユニバーサル介入の視点の必要性
・2022.2.11　第29回日本がんチーム医療研究会（WEB開催）　門田翔太、三谷勇一　がん患者の相談を受ける際の五感対話法を活用したセルフスーパービジョン：マインドフルネス、カリブレーションの実践
・2022.2.11　第29回日本がんチーム医療研究会（WEB開催）　岩尾涼、三谷勇一　認知症を抱えたがん患者を対象としたスピリチュアル介入の試み：アフターコロナを支えるバリデーションを活用したソーシャルワーク
・2022.6.24-26　第69回日本医療社会福祉協会（第41回日本医療社会事業学会）（WEB）三谷勇一
　急性期病院における平均在院日数の短縮を阻害する要因：組織として取り組む国際的医療機能評価機関（JCI）認証過程におけるWide Indicator
・2022.7.1-2　第27回日本緩和医療学会（神戸）三谷勇一　大阪府におけるがん患者サロンの運営候補者の特性：3次医療圏単位での65か所のがん診療（連携）拠点病院における大規模調査（示説発表）
・2022.7.1-2　第27回日本緩和医療学会（神戸）三谷勇一　大阪府におけるがん患者サロンの運営候補者の特性：3次医療圏単位での65か所のがん診

療（連携）拠点病院における大規模調査（優秀演題賞受賞者特別口演）

【ICT 及び感染制御部】

・2022.6.16～18　第37回日本環境感染学会総会・学術集会　宮本幸子　澁谷豊克　前野舞　鬼束美紗絵　手指の状態を可視化することによる手指衛生実施率向上を目指して
・2022.6.16～18　第37回日本環境感染学会総会・学術集会　萩原美香　澁谷豊克　前野舞　鬼束美紗絵　当院に発生した2つのCOVID-19クラスター介入
・2022.6.16～18　第37回日本環境感染学会総会・学術集会　榊原朋美　澁谷豊克　前野舞　鬼束美紗絵　水道周囲から検出された緑膿菌事例に関する報告

【栄養サポートチーム（NST）】

・2022.5.31～6.1　第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会（横浜）　小山洋史　篠田歩実　大里恭章　木村拓也　早期栄養介入加算～グループ病院統一書式を用いた栄養管理について
・2022.5.31～6.1　第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会（横浜）　佐藤友亮　八木楓子粘度変形型栄養剤導入後の状態変化の調査

60）学術論文

【心臓血管外科】

・慢性大動脈解離に対し偽腔血栓化目的に段階的治療を行った1例。小島三郎、内田直里、薦岡成年、春日健介。胸部外科　2022; 75(9):696-699.

・左冠状動脈入口部狭窄を伴う梅毒性大動脈瘤切迫破裂に対し緊急手術を施行した1例。春日健介、内田直里、薦岡成年、小島三郎。胸部外科　2022; 75(9):683-687.

【形成外科】

・褥瘡における皮弁縫合創でのincisional negative pressure wound therapyの有用性
森川周至　雑誌形成外科　第65巻8号974-981
2022年

【膠原病リウマチ内科】

・Anti-nucleocapsid antibodies enhance the production of IL-6 induced by SARS-CoV-2 N protein.
Emi E. Nakayama, Ritsuko Kubota-Koketsu, Tadahiro Sasaki, Keita Suzuki, Kazuko Uno, Jun Shimizu, Toru Okamoto, Hisatake Matsumoto, Hiroshi Matsuura, Shoji Hashimoto, Toshio Tanaka, Hiromasa Harada, Masafumi Tomita, Mitsunori Kaneko, Kazuyuki Yoshizaki, and Tatsuo Shioda.
Scientific Reports. 2022; 12: 8108

・CXCL13 from peripheral helper T cells plays a crucial role in the pathogenesis of idiopathic multicentric Castleman disease.
Takuya Harada1, YoshikaneKikushige,Toshihiro Miyamoto, Kazuko Uno, Hiroaki Niiro, Atsushi Kawakami, Tomohiro Koga, Koichi Akashi, and Kazuyuki Yoshizaki.
submit

総説（2022）

・キャッスルマン病,TAFRO症候群　吉崎和幸、川上純　フジメディカル出版　2022-03-10

・キャッスルマン病は希少難病といえどもバイオ製剤発展の礎となり、またその病態から多くの免疫異常疾患の克服に寄与する　吉崎和幸　先端医学社『炎症と免疫』　2023-01; vol.31 no.1 (85-86)

【MSW】

・大阪府におけるがん患者サロンの参加者の特性と，サロンへの貢献意欲に関連する要因～サロンの均てん化の促進を目指したPDCAサイクルの構築のための基礎調査報告書：三谷勇一．日本医療ソーシャルワーク学会　査読付論文2022

八尾徳洲会総合病院年報

発行日：令和五年五月

発　行：八尾徳洲会総合病院　病院長　原田　博雅
〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
ＴＥＬ（072）９９３－８５０１（代）
ＦＡＸ（072）９９３－８５６７
http://www.yao.tokushukai.or.jp/

印　刷：寝屋川市高宮栄町２２番１８号
イセン印刷㈱
ＴＥＬ（072）８２４－０８０５
ＦＡＸ（072）８２５－０６５４

医療法人
徳洲会八尾徳洲会総合病院

〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
TEL（072）993-8501（代）
FAX（072）993-8567
http://www.yao.tokushukai.or.jp/